佐賀県文化財調査報告書第173集

吉野ヶ里遺跡

－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書２－

2007年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第173集

吉野ヶ里遺跡

－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書２－

2007年3月

佐賀県教育委員会

田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区 SJ0100甕棺墓

SJ0100甕棺墓出土銅剣

田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区SD0025溝跡土師器・ベトナム産白磁出土状況

ベトナム産白磁擂座鉢

序

吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、工業団地計画に伴い昭和61年５月から開始しましたが、国内最大規模の弥生時代環壕集落跡や墳丘墓の発掘などにより、平成元年2月以来大いに注目されてきました。その後、吉野ヶ里遺跡を取り巻く状況は、元年3月の工業団地計画中止と遺跡保存の決定、翌２年・３年の史跡・特別史跡としての指定、４年の国営公園化の閣議決定、７年11月からの整備工事着手、13年４月23日の第１期開園と急速な展開を遂げ、現在は多くの来園者で賑わっています。整備工事は現在も着々と進められ、集落全体のたたずまいが復元されつつあります。

このような状況の中で、当委員会としては平成元年度から文化庁の補助を受け、遺跡の範囲確認や内容解明のための確認調査を継続して実施する一方、国営歴史公園整備に直接関わる文化財発掘調査を、国土交通省九州地方整備局国営吉野ヶ里歴史公園事務所（旧 建設省九州地方建設局国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所）からの委託を受けて実施しています。

この事業の平成９年度の成果については、平成12年度に『杉籠遺跡―国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書１―』（佐賀県文化財調査報告書第146集）として公にしていますが、本書は平成10年度から15年度にかけての調査についてその調査結果を記したものです。本書を学術資料としてお役立ていただき、吉野ヶ里遺跡の今後の調査研究あるいは保存活用に関して、適切なご指導、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、調査にあたり適切なご指導をいただいた文化庁はじめ諸先生方、ならびに調査員を派遣して調査に協力いただいた三田川町はじめ地元町村教育委員会のほか、国土交通省九州地方整備局国営吉野ヶ里歴史公園事務所の方々、調査について指導いただいた先生方、発掘や資料整理に従事いただいた作業員の方々には衷心から感謝申し上げます。

平成19年３月

佐賀県教育委員会

教育長　吉　野　健　二

例　言

1．本書は、佐賀県教育委員会が国土交通省九州地方整備局国営吉野ヶ里歴史公園事務所からの委託事業として平成９年度から実施している国営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業のうち、平成10年度～15年度に実施した発掘調査の報告書である。

2．発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、三田川町教育委員会の協力を得て実施した。調査にあたっては、文化庁をはじめ、大学、佐賀県文化財保護審議委員、その他各種機関の専門家の指導を得た。

3．出土遺構の実測図作成は業者に委託したほか、調査員、調査補助員、作業員が行った。また、出土遺物の実測図作成は調査員、調査補助員・作業員が行った。調査記録の作成及び整理作業の分担は下記のとおりである。

遺構実測：石松澄子・中島茂子・平野三枝子・青山奈緒、調査員

遺物実測：秋吉京子・伊東直子・緒方恭子・野口孝子・原口晴美・御厨瑞枝・横枕栄子・吉江博子、渡部芳久・上滝光子（石器）、戸塚洋輔（青銅器・鋳型）、調査員

遺物復元：井節子・江口啓子・大柿珠美・坂口サチ子・佐藤春子・竹下浩子・羽田すま子・平石明子・横枕栄子

遺構実測図整理・写真資料整理：石松澄子・伊東直子・大柿珠美・中島茂子・平石明子・平野三枝子

トレース：御厨瑞枝・緒方恭子、デジタルトレース：馬場里美・皆越弘子・村里育子

4．出土した遺構と一部の遺物の写真撮影は調査員が行ったが、空中写真と遺物写真の大半については業者に委託した。

5．出土遺物の整理や調査記録類の整理は、吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で行った。

6．第２章の遺跡の位置と 環境で用いたFig.1 吉野ヶ里遺跡周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の50,000分の1の地形図（『佐賀』『広滝』）を使用した。

7．本書の執筆は七田忠昭と渋谷格、渡部芳久（第３章 ３．(1) 石器・石製品）が行った。編集は廣瀬雄一・長崎浩・渋谷の協力を得て七田が行った。

出土陶磁器については、文化課文化財調査担当の徳永貞紹氏から多くの教示を得た。

8．出土遺物と調査記録類は、主に佐賀県教育委員会文化課吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所（〒842-0035 神埼郡吉野ヶ里町田手2721番地　TEL 0952-52-9735）に保管している。

凡　例

1．平成10年度から15年度にかけて調査を実施した地区とその略号は以下のとおりである。

田手一本黒木地区(TDI) Ⅰ区第304・325・326・344調査区、吉野ヶ里地区(YNG) Ⅱ区第330～337調査区、吉野ヶ里丘陵地区(YGK) Ⅲ区第319・Ⅴ区第305・Ⅶ区第309・312～315・320～322調査区、田手二本黒木地区(TDN) Ⅲ区第323・327・328・343・345・347・354～357調査区

2．遺構については、調査地区ごとに一連の番号を付し、その前に遺構の種別を示すアルファベット２文字の略号を記した。遺構の種別は以下のとおりである。

ＳＢ…掘立柱建物跡、ＳＤ…環壕跡・溝跡、ＳＥ…井戸跡、ＳＨ…竪穴住居（建物）跡、ＳＪ…甕棺墓、ＳＫ…土坑、ＳＸ…不明遺構

3．遺構の法量はｍ単位、遺物の法量はcm単位を原則として用いた。

4．遺構分布図や遺構実測図の北方位や座標値は、国土座標（第Ⅱ系）を用いた。

5．土器・石器などの遺物一覧表で示した遺物には８桁の「遺物登録番号」を１点毎付し、挿図中には各図毎の通し番号を付した。また、計測値は、長さはセンチメートル、重量はグラムとし、残存値には+、復元値には＊を付した。

本 文 目 次

第１章　はじめに ……1
　１．調査に至る経過 ……1
　２．調査の体制と方法、経過 ……1
　　(1) 調査体制 ……1
　　(2) 調査の方法 ……2
　　(3) 調査の経過 ……5
第２章　遺跡の位置と環境 ……8
　１．位置と地理的環境 ……8
　２．歴史的環境 ……9
第３章　調査の内容……13
　１．主な調査……13
　　(1) 田手一本黒木地区Ⅰ区　第304調査区の調査 ……13
　　(2) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区　第305調査区の調査 ……17
　　(3) 吉野ヶ里地区Ⅴ区　第308調査区の調査 ……20
　　(4) 田手一本黒木地区Ⅰ区　第324調査区の調査 ……37
　　(5) 吉野ヶ里地区Ⅱ区　第330～337調査区の調査 ……45
　２．その他の調査……47
　　(1) 吉野ヶ里丘陵地区の調査 ……47
　　①Ⅲ区　第319調査区……47
　　②Ⅶ区　第309調査区……47
　　③Ⅶ区　第312～315・320調査区 ……53
　　④Ⅶ区　第321・322調査区 ……57
　　(2) 田手二本黒木地区の調査 ……60
　　①Ⅲ区　第323・343・354～357調査区 ……60
　　②Ⅲ区　第345・347調査区 ……68
　　③Ⅲ区　第327・328調査区 ……75
　　(3) 田手一本黒木地区の調査 ……75
　　①Ⅰ区　第325・344調査区 ……75
　　②Ⅰ区　第326調査区 ……78
　３．石器・石製品、土製品……78
　　(1) 石器・石製品 ……78
　　(2) 土製品 ……86
第４章　まとめ……87
　１．弥生時代に関する成果について……87
　２．中世に関する成果について……88

巻頭グラビア目次

１．田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区 SJ0100甕棺墓、SJ0100甕棺墓出土銅剣
２．田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区SD0025溝跡土師器・ベトナム産白磁出土状況、ベトナム産白磁擂座鉢

挿図目次

Fig. 1　吉野ヶ里遺跡調査区位置図 ……4
Fig. 2　平成10年度～15年度 吉野ヶ里遺跡発掘調査箇所位置図 ……6
Fig. 3　吉野ヶ里遺跡周辺地形図・遺跡分布図……10
Fig. 4　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 遺構分布図・溝跡断面地層図 ……14
Fig.5　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 出土土器実測図 (1) ……15
Fig.6　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 出土土器実測図 (2) ……16
Fig.7　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 第305調査区 遺構分布図・環壕跡断面地層図 ……18
Fig.8　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 第305調査区 出土土器実測図 ……19
Fig.9　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡調査箇所位置図 ……21
Fig.10　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡断面地層図・遺物出土状況実測図 (6・7・8畦)……22
Fig.11　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡断面地層図・遺物出土状況実測図 (9・10畦) ……23
Fig.12　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (1) (6畦上層)……24
Fig.13　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (2) (6畦上層下部・中上層)……25
Fig.14　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (3) (6畦下層・7畦上層)……26
Fig.15　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (4) (7畦中上層)……27
Fig.16　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (5) (7畦中下層下部・下層)……28
Fig.17　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (6) (8畦上層・中下層)……29
Fig.18　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (7) (8畦中下層下部)……30
Fig.19　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (8) (9畦上層・中上層)……31
Fig.20　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (9) (9畦中下層・下層)……32
Fig.21　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (10) (10畦上・中上層)……33
Fig.22　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (11) (10畦中上層下部・中下層) ……34
Fig.23　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (12) (南部上層) ……35
Fig.24　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土巴形銅器鋳型・鉄製斧実測図 ……36
Fig.25　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 周辺調査区 遺構分布図……38
Fig.26　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 遺構分布図 ……39
Fig.27　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SJ0100甕棺墓実測図・同甕棺墓出土細形銅剣実測図 ……40
Fig.28　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SJ0100甕棺実測図 ……41
Fig.29　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 溝跡断面地層図・SD0025溝跡遺物出土状況実測図 ……42
Fig.30　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SD0025溝跡出土遺物実測図 ……43
Fig.31　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区出土遺物実測図 ……44
Fig.32　吉野ヶ里地区Ⅱ区 第330～337調査区位置図・第330・331・333調査区 遺構分布図 ……46
Fig.33　吉野ヶ里地区Ⅱ区334・337調査区 遺構分布図、第330調査区掘立柱建物・土坑・土坑墓跡、第331調査区竪穴住居跡実測図……48
Fig.34　吉野ヶ里地区Ⅱ区 第331調査区 SH1417竪穴住居跡出土遺物実測図 ……49
Fig.35　吉野ヶ里地区Ⅱ区 第330・331・333・337調査区出土遺物実測図……50
Fig.36　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 遺構分布図 ……52
Fig.37　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 出土遺物実測図 (1) ……54
Fig.38　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 出土遺物実測図 (2) ……55
Fig.39　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第312・314・315・320調査区 遺構分布図、第312調査区SJ2087甕棺墓実測図……56
Fig.40　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第315調査区出土遺物実測図 ……57
Fig.41　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第320調査区出土遺物実測図 (1) ……58
Fig.42　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第320調査区出土遺物実測図 (2) ……59
Fig.43　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第321・322調査区 遺構分布図、溝跡断面地層図 ……60
Fig.44　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第321・322調査区出土遺物実測図 ……61

Fig.45　田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区遺構分布図、溝跡断面地層図 ……62
Fig.46　田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（1） ……63
Fig.47　田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（2） ……64
Fig.48　田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（3） ……65
Fig.49　田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（4） ……66
Fig.50　田手二本黒木地区Ⅲ区 第343・345・347調査区遺構分布図、溝跡断面地層図……69
Fig.51　田手二本黒木地区Ⅲ区 第345・347調査区出土遺物実測図 ……70
Fig.52　田手二本黒木地区Ⅲ区 第343・354調査区出土遺物実測図 ……71
Fig.53　田手二本黒木地区Ⅲ区 第354～357調査区位置図、遺構分布図 ……72
Fig.54　田手二本黒木地区Ⅲ区 第354・355調査区出土遺物実測図 ……73
Fig.55　田手二本黒木地区Ⅲ区 第355・356・357・345調査区出土遺物実測図……74
Fig.56　田手二本黒木地区Ⅲ区 第327・328調査区遺構分布図、出土遺物実測図 ……76
Fig.57　田手一本黒木地区Ⅰ区 第325・344・326調査区遺構分布図、遺構実測図……77
Fig.58　田手一本黒木地区Ⅰ区 第325調査区出土遺物実測図 ……79
Fig.59　田手一本黒木地区Ⅰ区 第344調査区出土遺物実測図 ……80
Fig.60　田手一本黒木地区Ⅰ区 第326調査区出土遺物実測図 ……81
Fig.61　各地区出土石器実測図（1） ……83
Fig.62　各地区出土石器実測図（2） ……85
Fig.63　各地区出土土製品実測図……86
Fig.64　吉野ヶ里遺跡南部の各調査区位置図……89

表目次

Tab.1　出土遺物（土器）一覧表……91
Tab.2　出土遺物（石器・石製品、土製品）一覧表 ……106

図版目次

PL.1　田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区全景、SD0245地層、SK0248土坑、Aトレンチ P-1
PL.2　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区全景、SD1013環壕跡東壕東壁地層、西壕遺物出土状況
PL.3　吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡６畦～８畦遺物出土状況、７畦巴形銅器鋳型片出土状況
PL.4　吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区９畦・10畦遺物出土状況、９畦鉄斧出土状況、10畦鉄器出土状況、南部環壕跡検出状況・遺物出土状況
PL.5　田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区全景、SJ0100甕棺墓、銅剣出土状況、SD0025溝跡土師器出土状況、銅銭出土状況
PL.6　吉野ヶ里地区Ⅱ区第330調査区全景、SK1412土坑・SP1411土坑墓、SB1421・1422掘立柱建物跡、第331調査区全景、SH1417竪穴住居跡、遺物出土状況、第332調査区全景、第333調査区全景
PL.7　吉野ヶ里地区Ⅱ区第334調査区全景、第336調査区全景、第337調査区全景、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区全景
PL.8　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区全景、南部、北部、SK2151土坑、Dトレンチ土器出土状況
PL.9　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第312調査区SH2088竪穴住居跡、SJ2087甕棺墓、第313調査区、第314調査区全景、SX2091遺構土師器出土状況、第315調査区全景、SH2099竪穴住居跡土器出土状況、SH2100竪穴住居跡
PL.10　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区全景、東部、SH2161・2162・2164竪穴住居跡、SH2165竪穴住居跡、SH2168・2169・2170竪穴住居跡
PL.11　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区SX2173遺構、第321調査区全景、SD2176溝跡断面、第322調査区全景、田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SH0466竪穴住居跡、SH0470竪穴住居跡、SH0480竪穴住居跡、SH0491竪穴住居跡

PL.12　田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SK0484土坑周辺、SK0471・0472・0473土坑、SD0465溝跡断面、SD0481溝跡須恵器大甕出土状況、田手二本黒木地区Ⅲ区第343調査区全景、田手二本黒木地区Ⅲ区第343調査区全景、SK1610・1611土坑、SK1612土坑
PL.13　田手二本黒木地区Ⅲ区第354～357調査区全景
PL.14　田手二本黒木地区Ⅲ区第354調査区SH1510竪穴住居跡、同土器出土状況、SH1526竪穴住居跡、SK1519土坑、第355調査区SD1501溝跡、SJ1534甕棺墓、第356調査区SX1508不明遺構遺物出土状況、第357調査区SK1511土坑
PL.15　田手二本黒木地区Ⅲ区第345・347調査区全景、第345調査区西部、東部、SH0808竪穴住居跡、SD0784溝跡
PL.16　田手二本黒木地区Ⅲ区第347調査区、SK0809土坑遺物出土状況、田手二本黒木地区Ⅲ区第327調査区、第328調査区、田手一本黒木地区Ⅰ区第325調査区全景
PL.17　田手一本黒木地区Ⅰ区第325調査区SD0131溝跡、SD0131溝跡遺物出土状況、第344調査区全景、SK0294土坑、SK0296土坑、第326調査区SJ0138・0139・0141甕棺墓、SJ0137甕棺墓、SJ0143甕棺墓
PL.18　田手一本黒木地区Ⅰ区第326調査区SJ0145甕棺墓、SJ0146甕棺墓、SJ0151・0152甕棺墓、SJ0153甕棺墓、SJ0155甕棺墓、SJ0156甕棺墓、SJ0157甕棺墓、SJ0161甕棺墓
PL.19　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区SD0245溝跡出土土器、第304調査区出土陶磁器
PL.20　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区SD1013環壕跡出土土器、吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡７畦出土土器
PL.21　吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡８畦出土土器、同10畦出土土器
PL.22　吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡６畦出土土器、同９畦出土土器、同南部出土土器、同９畦・10畦出土鉄鏃、同７畦出土巴形銅器鋳型片
PL.23　吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡９畦出土鉄斧、田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区SJ0100甕棺墓甕棺、同甕棺墓出土細形銅剣に付着した布片
PL.24　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区SD0025溝跡出土の中国銅銭、同溝跡出土土師器とベトナム産白磁
PL.25　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区SD0025溝跡出土ベトナム産白磁の見込と底部、同溝跡出土陶磁器、同調査区出土陶磁器、同P-15小穴出土土器、田手二本黒木地区Ⅲ区第345調査区出土磁器
PL.26　吉野ヶ里地区Ⅱ区第331調査区SH1417竪穴住居跡出土土器、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区遺構出土陶磁器、同トレンチ・検出面出土陶磁器、同第315調査区出土弥生土器、同陶磁器
PL.27　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区出土陶磁器、田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SD0465溝跡出土土器
PL.28　田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SD0481溝跡出土須恵器大甕、同調査区出土陶磁器、第354調査区SH1510竪穴住居跡出土土師器・第356調査区出土弥生土器、第354調査区出土越州窯青磁椀、第355調査区出土陶磁器、田手一本黒木地区Ⅰ区第325調査区SD0131出土弥生土器
PL.29　石包丁、石鏃、砥石・石斧、石製紡錘車・片刃石斧類・石剣
PL.30　吉野ヶ里地区Ⅱ区第330調査区SP1411土坑墓出土石鏃・石剣片、同調査区SK1412土坑出土片刃石斧、土弾、土製紡錘車・舌状土製品・土錘、土鈴

第１章 はじめに

１．調査に至る経過

佐賀県神埼市と神埼郡吉野ヶ里町にまたがる吉野ヶ里遺跡は、昭和61年（1986）５月からの神埼工業団地造成計画に伴う発掘調査において弥生時代最大級の環壕集落跡や、多数の銅剣やガラス製管玉などを出土した大規模墳丘墓などが発掘されるなど、遺跡の重要性が認められ、遺跡の中心部がほぼ全面的に保存されることとなった。その後の発掘調査の成果も踏まえ、稲作農業の開始以来、日本列島の社会に古代国家成立の前提となる原始的国家が形成される過程と、その空間的な広がりを遺跡の変遷から見事にとらえることのできる極めて学術的価値の高い弥生時代遺跡として、平成２年（1990）５月に史跡、翌３年５月に特別史跡に指定された。

県教育委員会による遺跡の保存活用計画が進む一方で、弥生時代遺跡を核とした国営公園構想が浮上し、日本考古学協会をはじめとする各種団体からの要望もあって、佐賀県として様々な活動を講じてその実現に取り組み、平成４年（1992）10月に「我が国固有のすぐれた文化的遺産の保存と活用を図るため、閣議の決定を経て国が設置する公園（ロ号公園）」として広さ54haの「国営吉野ヶ里歴史公園」の整備が閣議決定された。県営区域63haを合わせた117haの「吉野ヶ里歴史公園」の整備については、平成５年（1993）に基本計画、翌６年には基本設計が策定され、平成７年（1995）11月に造成工事が起工され、個々の空間の復元基本設計・実施設計を進め、復元された北内郭を中心として、平成13年（2001）に第１期開園の運びとなった。

吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、昭和61年度から平成３年度までの神埼工業団地造成計画に伴う佐賀県土地開発公社からの委託事業、平成元年度からの遺跡の全容解明（後に公園整備根拠の情報収集）のための国庫補助事業、平成８年度から18年度までの佐賀県土木部（現 県土づくり本部）からの「県営吉野ヶ里歴史公園区域内発掘調査」再配当事業、平成９年度からの建設省 九州地方建設局 国営吉野ヶ里歴史公園事務所（現 国土交通省 九州地方整備局 国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所）からの「国営吉野ヶ里歴史公園区域内発掘調査」委託事業など、調査の原因・目的、調査箇所の位置・種別など、の違いによって費用負担が異なっている。

遺跡の全体像を把握するための、吉野ヶ里遺跡全域を対象とした発掘調査（公園事業区分・文化財指定の有無を問わない）や教育委員会の責任で公園整備に対し遺跡情報を与えるための調査、公園整備に関わらない緊急的な発掘調査などは補助事業として、国営公園区域内（特別史跡・県史跡）において、恒久的な施設（トイレ・園路）や極端な盛土を施す区域の発掘調査や整備の実施設計策定前に地下遺構状況を緊急に把握する必要がある区域かつ、補助事業で当面調査計画がない区域の発掘調査などは国土交通省からの委託事業として、県営公園区域内（文化財無指定地区）において、恒久的な施設（トイレ・園路）や極端な盛土を施す区域の発掘調査や整備の実施設計策定前に地下遺構状況を緊急に把握する必要がある区域かつ、補助事業で当面調査計画がない区域の発掘調査は県からの再配当事業として、佐賀県教育委員会が調査を実施している。

なお、調査の成果については、当年度中に素整理を行い、遺構の内容や性格、深さなどの埋蔵状況などをまとめ、歴史公園の設計あるいは変更設計の基本的な資料とし、それらを設計（設計変更を含む）や整備工事に生かしてもらった。このようにして、平成13年（2001）４月に「北内郭」区域を中心とした第１期開園を果たし、平成16年（2004）４月に「倉と市」（南内郭西方の倉庫群）、翌17年４月に「南内郭」と相次いで開園した。現在、南内郭南方では「南のムラ」と呼ぶ一般人が住んだと推定される集落の復元工事が進んでおり、平成19年秋には開園する見込みである。

２．調査の体制と方法、経過

（１） 調査体制

吉野ケ里遺跡の発掘調査については、昭和61年度の神埼工業団地計画に伴う発掘調査の開始時から、神埼郡神埼町（現 神埼市）と三田川町・東脊振村（現 吉野ヶ里町）の３町村にまたがる大規模な遺跡であることなどから、町村の協力を得ながら、佐賀県教育委員会が主体となり、現在に至っている。調査体制については、平成13年度の機構改革により、文化財課が文化課へと組織換えが行われたが、吉野ヶ里遺跡の調査、整備、管理・企画

を担当する吉野ヶ里遺跡班は継続したので、調査は吉野ヶ里遺跡班が担当して実施した。

平成10～12年度

【文化財課 吉野ヶ里遺跡班】調査担当

課長	佛坂	勝男（11・12）
参事	大橋	康二（12）
副課長	大橋	康二（10・11）
	東中川	忠美（10～12）
企画調整主査	納富	敏雄（11・12）
	小池	清一郎（11・12）
	七田	忠昭（10～12）
主査	大隈	政博（11・12）
指導主事	長崎	浩（11・12）
文化財保護主事	細川	金也（10～12）
	渋谷	格（10～12）

【三田川町教育委員会】

主査	草野	誠司（11）
主任主事	鷹見	昌尚（10）

平成13～15年度　（ ）内の数字は担当年度

【文化課 吉野ヶ里遺跡班】

課長	佛坂	勝男（13・14）
	香月	博子（15）
副課長	天本	洋一（13～15）
専門員	七田	忠昭（13～15）
	西村	和昭（15）
企画調整主査	江副	一也（13・14）
主査	松尾	法博（13）
	細川	金也（14・15）
指導主事	山口	良弥（14・15）
	長崎	浩（14）
	久富	貴史（15）
文化財保護主事	細川	金也（13）

平成18年度（報告書作成）

【文化課】

課長	松永	光生
参事	東中川	忠美
副課長	松本	誠一
	中村	信
総務担当主幹	佐伯	勇次
主査	平尾	和子
	黒木	文好
副主査	山口	徹也
主事	吉田	顕徳

【文化課吉野ヶ里遺跡担当】調査担当

参事	東中川	忠美（担当業務総括）
主幹	七田	忠昭（発掘調査総括・執筆）
	樋口	洋（管理・企画総括）
主査	廣瀬	雄一（発掘調査）
指導主事	長崎	浩（発掘調査）
	平川	宣明（管理・企画）
嘱託	田平	秋（展示室）
調査補助員	渡部	芳久（執筆）

【文化課文化財調査担当】

主査	渋谷	格（執筆）

（2） 調査の方法

吉野ヶ里遺跡は、100haを越すと考えられる大規模な遺跡であるが、遺跡中心部の約22haは平成２年５月19日に史跡、翌３年５月28日に特別史跡に指定され、また、その周囲約28haは県史跡に指定されている。これら指定地内の埋蔵文化財は恒久的に保護されるものであり、現段階で無指定の地域にも特別史跡・県史跡と勝るとも劣らない内容の埋蔵文化財が包蔵されていることを確認しつつある。

平成元年の遺跡保存決定以来の文化庁補助事業としての「吉野ヶ里遺跡発掘調査事業」、平成９年度以降の国土交通省（旧建設省）委託の国営公園区域を対象とした「国営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業」、平成８年度以降の佐賀県県土づくり本部（旧土木部）再配当の県営公園区域を対象とした「県営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業」などの発掘調査を実施している。

これら３事業の住み分けとしては、補助事業が、遺跡の全体像を把握するための吉野ヶ里遺跡全域を対象とし、

公園整備に対し遺跡情報を与えるとともに、公園整備に関わらない緊急的な発掘調査をおこなっている。委託事業と再配当事業は、それぞれ国営公園区域（特別史跡・県史跡）、県営公園区域（無指定）内を対象とし、恒久的な施設（トイレ・園路）や極端な盛土を施す区域を発掘調査の対象とし、整備の実施設計策定前に地下遺構状況を緊急に把握し遺跡保護の観点で設計協議を行っている。いずれの調査においても、発掘による遺構への損害を最小限に止め、かつ多くの情報を得るべき方法を模索しながら実施している。将来の遺構の再検証や、進歩した調査方法や分析技術を駆使した調査のための遺構保存という観点から、現時点の調査によって、遺構内埋土を完全に除去することは避けなければならないと考えている。従って、現在は遺構発掘について、基本的に次のような方法を取っている。

なお、調査区の設定や調査の方法、成果の分析などに関しては、文化庁記念物課はじめ佐賀県文化財保護審議委員会、各分野の研究者など埋蔵文化財に造詣の深い専門家の指導を得ている。

調査区の設定

前年度までの調査成果を検討し、遺跡の全体像の解明に必要な地区に調査区を設定する。また、過去に調査を全く実施していない区域についても確認調査の対象にする。過去の調査区に近接して新たな調査区を設定する場合は、調査区付近の地層堆積の状態が将来にわたって観察できるように、調査区と調査区の間に畦となる未発掘区域を数m確保する。

表土除去と調査の手順

遺構を覆っている耕作土や表土の除去は、過去の確認調査の成果などによって推定した地下遺構の種別や深さなどによって、基本的には重機（ドラグ・ショベル）によるか人力によるかを判断する。遺構面が極端に浅い位置に存在する場合や甕棺墓などその保存に支障をきたす恐れのある場合については人力でおこなう。表土除去後、遺構検出を実施する過程で座標杭を設置し、遺構分布図を平板測量（基本的に縮尺100分の1）にて作成する。その後、下記のような発掘を行いながら、性格が判明したものについて遺構番号を付す。発掘を進めながら遺構の個別写真を撮影し、全域の発掘が完了すれば、空中写真や高所からの全景写真を撮影する。遺構の写真撮影は、主に35mm版とブローニー版（6cm×7cm版）のカメラを用い、モノクロームネガフィルムとカラーポジフィルムに記録している。さらに特別な場合については4inch×5inch版を使用することもある。空中写真はバルーン式のものでフィルムは6cm×6cm版のモノクロームとカラーポジフィルムを使用している。また、メモ的な記録についてはデジタルカメラも用いている。なお、遺構の実測は、全域を20分の1縮尺でおこない、細かな図面が必要な遺構や断面地層については10分の1やさらに小縮尺で実測をおこなう。状況に応じては地形測量もおこなっている。

竪穴住居跡・貯蔵穴跡・土坑など遺構種類別の調査法については、平面プランを確認後、基本的には中軸線より片側を完全に発掘し、深さや埋土の堆積状況、柱穴などの内部遺構を確認する。ただし、遺構の残存度合いが著しく悪く全体プランが把握できなかった場合には、周囲または中央畦を残し全体の埋土を除去する場合もある。掘立柱建物跡については、柱穴跡の平面プランを確認後、中軸線より片側を完全に発掘し、深さや埋土の堆積状況、柱や礎板・枕木の有無や痕跡・法量などを確認する。この場合、幾つかの柱穴跡を選択して発掘し、幾つかの柱穴跡には手をつけない場合もある。環濠跡・溝跡については、規模の大小を問わず、平面プランを確認後、他の遺構との切り合いがほとんどない部分にトレンチ状の調査区を設け完全に発掘し、断面形状や深さ、埋土の堆積状況などを確認する。近年では、たとえば100m区間にわたって環壕・溝跡の平面プランを検出した場合、5%～10%に満たない区間を発掘し、他は完全に保存する。

調査中の遺構の養生と遺構の埋め戻し

遺構の発掘作業開始後は、日光による地割れや降雨・降雪・霜による遺構の崩壊を防ぐため、遺構の上をコンクリートパネルや竹で編んだ網などを置き、ビニールシートで全体を覆い養生している。発掘作業は、その日に作業をおこなう範囲のみシートなどを開き実施している。見学者への公開は、遺構の損傷に影響が少ないように配慮しながらおこなっている。

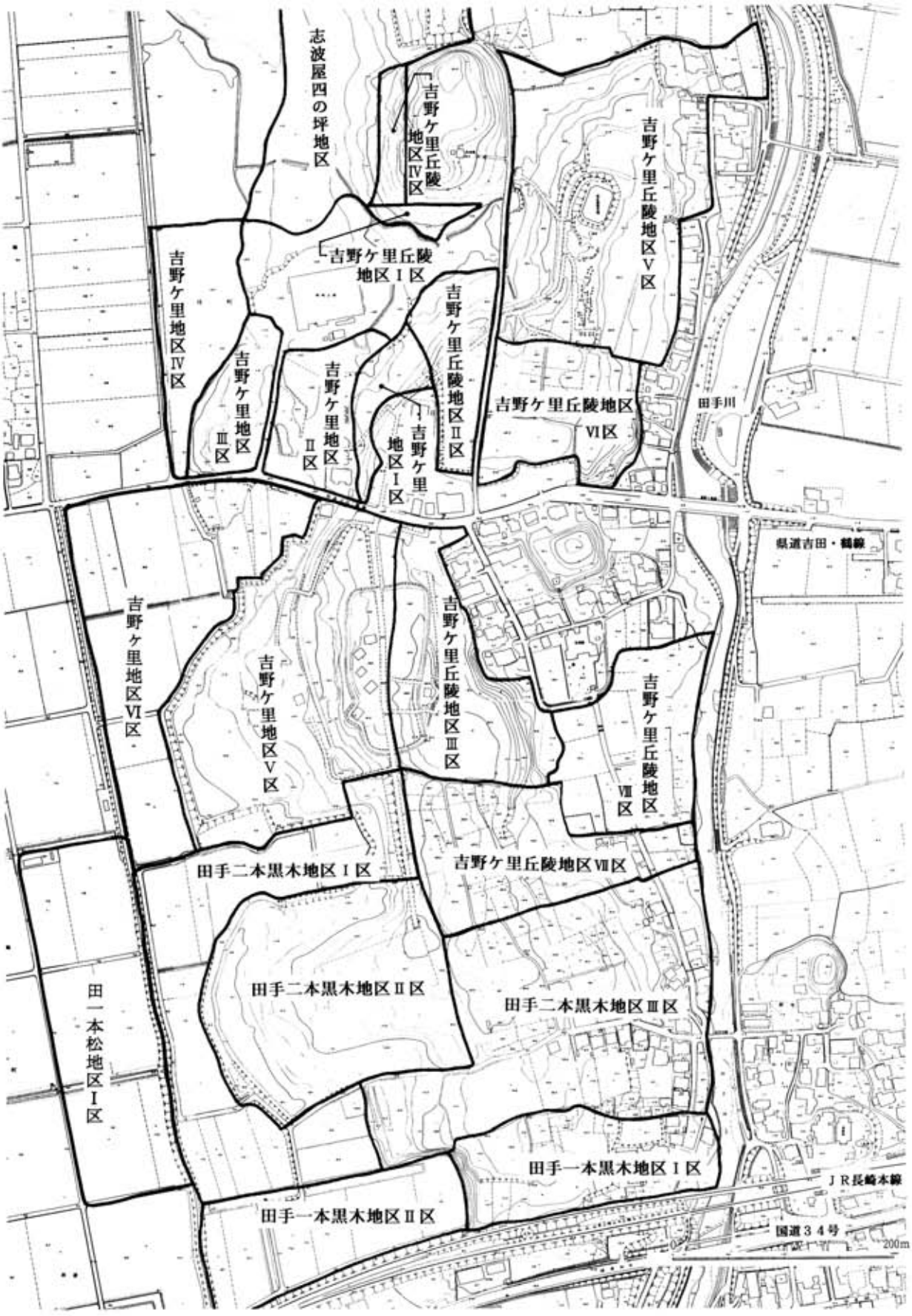


Fig. 1　吉野ヶ里遺跡調査区位置図

調査終了後は、調査前に除去しておいた耕作土や表土、遺構から除去した土で埋め戻して保護している。埋め戻しは、予め検出・発掘された遺構を人力によって覆ったのち、重機を用いて埋め戻しをおこなっている。その後、国営吉野ヶ里歴史公園整備の準備として国土交通省国営吉野ヶ里歴史公園事務所の手によって真砂土による盛土が施される。

見学者への公開

仮整備後の遺跡公開区域内及び公開区域に隣接した区域の発掘調査現場は、原則公開とし、発掘作業の状況や発掘されつつある遺構の見学ができるようにしている。その場合、見学者の便宜を図るため、調査区の周囲と調査区内部に幅１ｍ～２ｍの見学路を設け、順路表示や調査の概要、個々の遺構についての説明版を設置するなどして、遺跡の理解に供している。

また、重要な遺跡や遺物が出土した場合や調査がある程度終了したときなどには、成果を公開するために発掘現場において現地説明会を、遺跡内の展示室において発掘状況パネルや遺物の特別展示会などを開催している。発掘された竪穴建物跡や高床建物跡、環壕跡と、仮整備された施設との対比ができるということで見学者から好評を得ている。なお、平成13年４月の国営吉野ヶ里歴史公園開園以降も、同様な方法で、発掘現場の公開を積極的におこなっている。

（3） 調査の経過

国営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業は、平成９年度の「歴史公園センター」建設予定地の発掘調査を皮切りに、平成10年度には丘陵最南端のJR長崎本線北（園路予定地）と北墳丘墓西方（環壕復元・園路予定地）、11年度には、南内郭跡と高床倉庫群の間の外環壕跡（環壕復元）、12年度には丘陵南部の未発掘地域（園路）、13年度には、北内郭跡西方の(株)神埼工業工場跡地（整備）、14年度には丘陵南部の未発掘地域（園路）、15年度には丘陵南東部の国営事務所倉庫周辺（整備）などの調査を実施した。

平成10年度

遺跡最南端に田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区を、北内郭跡の北西約90ｍの位置に吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区を、南内郭跡東側に吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区第319調査区を設けて調査を実施した。第304調査区は歴史公園周回道路建設の設計のため、第305調査区は環壕（外環壕）復元の資料を得るため、第319調査区は国営歴史公園と民有地境の擁壁設計のための事前調査であった。

第304調査区は９月４日から表土を除去し、９月９日から12月下旬まで発掘作業や写真撮影、実測図作成などを行った。第305調査区は９月21日から表土を除去し、10月１日から10月27日まで発掘作業や写真撮影・実測図作成などを行った。第319調査区は12月２日から12月４日の三日間５箇所に小規模なトレンチを設けて確認調査を実施した。

第304調査区では縄文時代から弥生時代にかけての溝跡や竪穴住居跡土坑などの遺構、中世の溝跡や掘立柱建物跡・土坑などが確認され、第305調査区では弥生時代の大規模環壕跡の出入口部分が確認され、第319調査区では弥生時代の甕棺墓や貯蔵穴、中世の溝跡などが確認された。

平成11年度

南内郭跡西に位置する外環壕跡は、昭和63年度の工業団地計画に伴う調査で地層観察用の畦と南端部を残してほぼ発掘を終了していたが、外環壕の復元に際し畦部分の撤去が必要となったため吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区を設け、畦内の遺物を層位的に取り上げた。南部については平面的な調査を行い、将来的に遺構・遺物をそのままの状態で残すこととしたため、本来Ｖ字形の断面である環壕の復元は底が平らな浅いものとした。

南内郭跡の南東約130ｍの位置に吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区を、さらにその南東に吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第312調査区～第315調査区の４箇所のトレンチを設けて調査を実施した。これらの調査は国営歴史公園の盛土や主要な園路工事に伴うものであった。

第308調査区は５月31日から８月４日、第309調査区・第312調査区～第315調査区は11月29日から翌年２月

Fig.2　平成10年度～15年度 吉野ヶ里遺跡発掘調査箇所位置図

10日にかけて発掘作業や写真撮影・実測図作成を実施した。

第308調査区では環壕畦部分から弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての多数の土器、鉄器等が出土したが、昭和63年度の調査で発見された巴形銅器鋳型と接合する小破片が出土したことは注目された。第309調査区・第312調査区～第315調査区では弥生時代と奈良時代、さらには中近世の遺構が確認された。特に第309調査区では中世の掘立柱建物跡多数が集中して確認され、同時代の輸入陶磁器や国産陶器などが出土した。

平成12年度

南内郭跡の南東約200m～250mの位置に吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320～322調査区を、南内郭跡の南約300mの位置に田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区を、さらにその南約100mの位置に田手一本黒木地区324～326調査区を、南内郭の南東約270mの位置に田手二本黒木地区第327・328調査区を設けて調査を実施した。第320調査区は歴史公園環壕入口広場のトイレ設置工事に、第321・322、327・328調査区は歴史公園の盛土工事に、第323～326調査区は道路付け替え（外周道路）工事と盛土工事に伴う事前調査であった。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区は、9月26日から表土を除去し、10月4日から11月6日にかけて発掘作業や写真撮影・実測図作成を実施した。田手二本黒木地区Ⅲ区は、11月13日から表土を除去し、11月14日から翌年1月31日にかけて発掘作業や写真撮影・実測図作成を実施した。田手一本黒木地区Ⅰ区は、11月17日から表土を除去し、12月4日から翌年3月21日にかけて発掘作業や写真撮影・実測図作成を終えた。

その他、北内郭跡北のトイレ設置予定地（吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区）の確認調査を6月5日に、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区南内郭跡周辺の盛土工事で遺構面が確認されたため応急調査を2月5日に実施した。いずれも時期不明の小穴が検出されたが、遺構に影響がないように設計変更するなどして埋め戻した。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区（第320・321・322調査区）では弥生時代の竪穴住居跡や溝跡、中世の掘立柱建物跡群などが、田手二本黒木地区Ⅲ区（第323・327・328調査区）では弥生時代の竪穴住居跡や貯蔵穴、古墳時代や中世の溝跡などが、田手一本黒木地区Ⅰ区（第324・325・326調査区）では弥生時代の甕棺墓群や溝跡や中世の溝跡なの遺構が確認された。特筆される成果として、田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区の弥生時代中期初頭の甕棺墓から細形銅剣が出土したことと、同調査区の中世（14世紀）の溝跡から多数の土師器の杯や小皿とともにベトナム産の白磁擂座鉢の完品が出土したことなどが挙げられる。

平成13年度

北内郭跡の西北西約200mの工場跡地に吉野ヶ里地区Ⅱ区第330～337調査区を、南内郭跡の南南西約280mから南約400mにかけての範囲に田手二本黒木地区Ⅲ区第345調査区、同区第343調査区（南の一部が田手一本黒木地区にかかる）、田手一本黒木地区Ⅰ区第344調査区を設けて調査を実施した。第330～337調査区、第343・345調査区は歴史公園園路計画を、第344調査区は祭壇と目される盛土遺構の将来の復元計画を立案するための事前調査であった。

第330～337調査区は8月16日から表土を除去し、8月24日から9月20日まで発掘作業や写真撮影、実測図作成などを行った。第343・344調査区は1月17日から1月31日にかけて発掘作業や写真撮影、実測図作成などを行った。第345調査区は歴史公園園内乗物用園路整備路線で、次年度早期に調査を実施する必要があったため表土の除去のみを行った。

第330～337調査区では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物跡・貯蔵穴・土坑墓などが確認されたが、第330調査区で弥生時代の掘立柱建物跡や貯蔵穴とともに確認された土坑墓は、内部から石剣の先端部や石鏃が7点出土したことから、戦闘などによって犠牲となった者の墳墓と考えられた。第331調査区では弥生時代後期前半の竪穴住居跡のほぼ全体が確認された。第343・344調査区では弥生時代を主体とした竪穴住居跡や土坑、中世の溝跡や土坑が確認された。第345調査区の確認調査では丘陵南部の尾根を囲む弥生時代前期の環壕跡の延長部分が検出された。

平成14年度

南内郭跡の南南西約280mに位置する田手二本黒木地区Ⅲ区第345調査区の調査を実施した。4月18日から調

査を開始したが、北隣の第346調査区の調査（補助事業）で検出中の各種遺構との関係をつかむため、長い期間をかけて調査を行い、7月31日に写真撮影・実測図作成を一旦終了し、その東方延長部分に第347調査区を設けての追加調査も8月末日に終了した。

第345調査区では弥生時代前期の大規模な環壕跡や弥生時代の竪穴住居跡・土坑、古墳時代から中世にかけての溝跡や土坑が確認され、第347調査区では弥生時代の掘立柱建物跡や土坑などが確認された。

この年度には、南内郭跡西方の高床倉庫跡群の復元整備工事が急ピッチで進んでいたため、掘削工事に伴う立会調査の件数が多かった。10数件の立会調査を実施した結果、大半は工事による遺構面への影響はないと判断されたが、工事深度が極端に遺構面に近い場合は、遺構面を確認した後に軽微な設計変更をするなどして遺構の保護に当たった。

平成15年度

南内郭跡の南南東約350mの位置に田手二本黒木地区Ⅲ区第354～357調査区を設けて調査を実施した。一帯に国営吉野ヶ里歴史公園事務所の仮倉庫設置が予定されたため、その設置場所と建築方法を決定するために4箇所のトレンチを設けて事前調査を実施した。前年度中に表土を除去していたが、5月9日から6月30日にかけて発掘作業・写真撮影・実測図作成などをおこなって終了した。

弥生時代の環壕らしい溝跡や竪穴住居跡・土坑、古墳時代の竪穴住居跡や土坑、中世の溝跡などが確認された。

なお、各年度とも当年度調査によって出土した遺物の基礎的な整理（水洗・注記・接合・復元作業内）や、記録した写真資料や図面資料の基礎的整理を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

1．位置と地理的環境

吉野ヶ里遺跡は、佐賀県の有明海沿岸に広がる佐賀平野の東部、神埼市神埼町（旧神埼郡神埼町）と神埼郡吉野ヶ里町（旧三田川町・東脊振村）にまたがる通称吉野ヶ里丘陵（「志波屋・吉野ヶ里段丘」）の南部に位置する。吉野ヶ里丘陵南部の吉野ヶ里遺跡が立地する丘陵は、標高約26m～10mで、周囲の水田面からの比高は約10mである。遺跡は現行の行政区分では、神埼市神埼町志波屋（竹原地区）・同鶴（馬郡地区）、吉野ヶ里町田手（吉野ヶ里・田手地区）、大曲（辛上地区）に位置する。今回報告する吉野ヶ里遺跡の各地区は大半が吉野ヶ里町田手（吉野ヶ里地区・田手地区）と一部神埼市神埼町鶴（馬郡地区）に位置する。

佐賀平野は、有明海の潮汐と大小河川の流入による堆積作用によって形成された肥沃な平野である。山麓部や河岸段丘、自然堤防、平野部の微高地は住居や集落の立地に適しており、広大な扇状地や谷底平野・三角州は、豊富な水と温暖な気候（近年の佐賀市の気象は、最高気温33.4℃～38℃、最低気温－4.7℃～－3.1℃、年間降水量1300mm～2600mm、平均湿度70%～74%、年間日照時間2000時間前後）と相俟って卓越した農業生産基地として利用された。

現在、有明海は玄界灘沿岸に比べ、波の高さが格段に小さく穏やかで、反時計回りの方向に毎時10kmの潮流がある。黄海から玄海灘の荒波を乗り越え、有明海に入れば容易で安全な航海が約束されたのである。また、有明海は約6mという国内最大の干満の差があり、満潮時には平野の奥深く潮が上り、船舶の航行に適していたものと考えられる。防禦といった視点で佐賀平野の地形をみると、背後に標高1000m級の脊振山地、東西両側に低山塊と丘陵、南前面に海（港津）が存在する軍事的に要害の地でもあった。

佐賀平野の東部にあたる三養基郡みやき町（旧中原町）から佐賀市にかけての脊振山地南麓には、多くの洪積世段丘が発達して、大小の段丘が山麓部から南部の肥沃な沖積平野へ舌状に延びており、このような自然環境が佐賀平野東部地域の特徴となっている。この地域は、県内でも遺跡が密集するところとして知られており、旧石器時代から中・近世までの遺跡が多数存在している。以下、三養基郡西部のみやき町・上峰町以西、佐賀市大和町以東の地域について記す。

2．歴史的環境

旧石器時代の遺跡は、山麓部や段丘上にその存在が確認されているが、本格的な調査が実施された例は少なく、表面採集か後世の遺構などに混在したものが発見される例が多い。みやき町姫方遺跡からは礫器やナイフ形石器が、同町町南遺跡〔佐賀県教育委員会1983『町南遺跡』佐賀県文化財調査報告書第68集〕や吉野ヶ里町山古賀遺跡〔佐賀県教育委員会1990「山古賀遺跡」『西石動遺跡』佐賀県文化財調査報告書第97集〕などからナイフ形石器が、吉野ヶ里遺跡でもナイフ形石器を主体とする石器群が多く出土している。また、数少ない本格的な調査例である神埼市神埼町船塚遺跡〔神埼町教育委員会1984『船塚遺跡』神埼町文化財調査報告書第10集〕からは、２層にわたる文化層から礫群が確認され、ナイフ形石器や台形石器・剥片尖頭器などが出土している。特に、瀬戸内系石器群の出土は興味深く、当地域における旧石器文化の様相を窺うことができる。

縄文時代は、旧石器時代と同様に山麓部や段丘上に遺跡が確認されており、その数も増加している。押型文土器の出土で学史的に著名な吉野ヶ里町戦場ケ谷遺跡〔七田忠志1934「佐賀県戦場ヶ谷出土弥生式有紋土器について」『史前学雑誌』６—２〕をはじめ、みやき町香田遺跡〔佐賀県教育委員会1981「香田遺跡」『香田遺跡』佐賀県文化財調査報告書第57集〕（早期・晩期）、神埼市船塚遺跡（早・前期、晩期）・同志波屋六本松遺跡〔神埼町教育委員会1983『志波屋六本松遺跡』神埼町文化財調査報告書第９集〕（早期、後期）・同志波屋一の坪遺跡〔八尋実1990「志波屋一の坪遺跡」『佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財調査報告書８』佐賀県文化財調査報告書第98集〕（早期）、吉野ヶ里町タヶ里遺跡〔久保伸洋1983「夕ヶ里遺跡」『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財報告書』１，佐賀県文化財調査報告書第69集〕（後期）、佐賀市金立開拓遺跡〔佐賀県教育委員会1984『金立開拓遺跡』佐賀県文化財調査報告書第77集〕（早・前期、後期）・同久保泉丸山遺跡〔佐賀県教育委員会1986『久保泉丸山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第84集〕（早期～晩期）・同鈴熊遺跡〔佐賀県教育委員会1981「鈴熊遺跡」『九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第４集』〕（晩期）など多くの遺跡で確認されている。これらの内、晩期に存在する久保泉丸山遺跡や香田遺跡では支石墓群が検出され、吉野ヶ里遺跡周辺では晩期の集落跡と考えられる神埼市神埼町馬郡遺跡〔神埼町教育委員会1981『馬郡遺跡』神埼町文化財調査報告書第７集〕、吉野ヶ里町田手二本松遺跡・浦田遺跡〔佐賀県教育委員会1983「浦田遺跡」『西原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第66集〕など平野に面した遺跡で多数の土器片が発掘されており、この地域における弥生文化生成の実態が明らかになる日も近いと考えられる。

弥生時代になると遺跡の数は急増し、その分布も南部の沖積平野まで広がるようになる。近年の農業基盤整備事業などの開発に伴い平野部の調査が増加した結果、段丘上のみならず平野部の状況が明らかになった。前期の遺跡はみやき町町南遺跡、吉野ヶ里町西石動遺跡〔佐賀県教育委員会1990「西石動遺跡」『西石動遺跡』佐賀県文化財調査報告書第97集〕・同松原遺跡〔東脊振村教育委員会1998『松原遺跡10区』東脊振村文化財調査報告書第22集〕、神埼市神埼町切畑遺跡〔佐賀県教育委員会1993「切畑遺跡」『切畑遺跡』佐賀県文化財調査報告書第116集〕、吉野ヶ里遺跡など段丘上や山麓部に立地するものの他、前期に南部三角州地帯の神埼市千代田町黒井遺跡群〔千代田町教育委員会1986『黒井八本松遺跡』千代田町文化財調査報告書、同1987『黒井遺跡』千代田町文化財調査報告書〕・同詫田西分遺跡〔千代田町教育委員会1983『詫田西分貝塚』千代田町文化財調査報告書第２集、同1996『詫田西分遺跡』千代田町文化財調査報告書第20集〕などの貝塚を含む集落群が形成されたことが明らかになっている。中でも吉野ヶ里遺跡や松原遺跡、町南遺跡では環壕集落が形成されるなど、地域の拠点的な集落も同時に生成されたものと考えられる。

中期以降、集落の範囲はさらに拡大し数も著しく増加する。上峰町切通遺跡〔金関丈夫・金関恕・原口昌三1961「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』〕や吉野ヶ里町三津永田遺跡〔金関丈夫・坪井清足・金関恕1961「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』〕・同横田松原遺跡〔木下之治「1967考古学〈弥生時代〉—神埼郡東脊振村横田遺跡」『新郷土』20－１〕など副葬品をもった弥生時代墓地が従来から知られていたが、近年の大型開発に伴う調査の増加により、山麓部や段丘上のみやき町姫方原遺跡〔多々良友博1981『姫方原遺跡Ｆ地区』中野建設・中野ハウジング〕・同町南遺跡・同原古賀三本谷遺跡〔中原町教育委員会1990『原古賀遺跡

1	金立開拓遺跡	18	尾崎利田遺跡	35	鳥の隈遺跡	52	目達原古墳群	69	横武城跡
2	久保泉丸山遺跡	19	利田柳遺跡	36	横田遺跡	53	塔の塚廃寺	70	姉川城跡
3	鈴熊遺跡	20	川寄吉原遺跡	37	松原遺跡	54	下中杖遺跡	71	本告城跡
4	琵琶原遺跡	21	川寄若宮遺跡	38	タケ里遺跡	55	宝満宮前方後円墳	72	上黒井貝塚
5	篠木野遺跡	22	的五本黒木遺跡	39	西石動銅戈鎔笵出土地点	56	町南遺跡	73	姉遺跡
6	村徳永遺跡	23	花浦古墳群	40	西石動古墳群	57	原古賀三本谷遺跡	74	直鳥城跡
7	泉三本栗遺跡	24	志波屋六本松遺跡	41	下石動遺跡	58	ドンドン落遺跡	75	貴別当神社遺跡
8	樫の木遺跡	25	船塚遺跡	42	雲仙寺跡	59	姫方原遺跡	76	栄尾貝塚
9	熊本山古墳	26	戦場ヶ谷遺跡	43	鎮西山南麓古墳群	60	姫方前方後円墳	77	詫田西分遺跡
10	関行丸古墳	27	三津永田遺跡	44	屋形原古墳群	61	姫方遺跡	78	森ノ木貝塚
11	帯隈山神籠石	28	伊勢塚前方後円墳	45	谷渡古墳群	62	八幡社遺跡	79	荒堅目遺跡
12	天神尾古墳群	29	下三津前方後円墳	46	堤土塁跡	63	山田古墳群	80	南里ヶ里貝塚
13	狼嶽古墳群	30	**吉野ヶ里遺跡群**	47	二塚山遺跡	64	検見谷遺跡	81	蓑ノ江遺跡
14	勢福寺城跡	31	辛上廃寺	48	船石遺跡	65	東尾銅剣出土地	82	本文貝塚
15	朝日遺跡	32	馬郡・竹原遺跡群	49	船石南遺跡	66	東尾銅矛出土地	83	石井北方貝塚
16	日の隈山烽跡	33	馬郡遺跡	50	切通遺跡	67	西尾遺跡（銅矛）	84	天建寺南島遺跡
17	尾崎土生遺跡	34	杉龍遺跡	51	一本谷遺跡	68	北尾遺跡（銅戈）	85	持丸貝塚

Fig. 3　吉野ヶ里遺跡周辺地形図・遺跡分布図

群（1）』中原町文化財調査報告書第９集〕、上峰町船石南遺跡 ・同一本谷遺跡〔上峰村教育委員会1983『一本谷遺跡』上峰村文化財調査報告書〕、吉野ヶ里町下石動遺跡〔佐賀県教育委員会1987「下石動遺跡」『下石動遺跡』佐賀県文化財調査報告書第86集〕 ・同タヶ里遺跡、吉野ヶ里遺跡、神埼市神埼町的五本黒木遺跡〔神埼町教育委員会1985『的五本黒木遺跡』神埼町文化財調査報告書第11集〕 ・同川寄遺跡群〔佐賀県教育委員会1981『川寄吉原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第61集〕、佐賀市琵琶原遺跡〔佐賀市教育委員会1981『琵琶原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第13集　他〕 ・同村徳永遺跡〔佐賀市教育委員会1990『村徳永遺跡―Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ地区の調査』佐賀市文化財調査報告書第32集〕などの集落跡が、みやき町姫方遺跡、船石遺跡・船石南遺跡〔上峰村教育委員会1983『船石遺跡』上峰村文化財調査報告書〕、上峰町と吉野ヶ里町にまたがる二塚山遺跡〔佐賀県教育委員会1979「二塚山遺跡」『二塚山』佐賀県文化財調査報告書第46集〕、吉野ヶ里町西石動遺跡・石動四本松遺跡〔東脊振村教育委員会1995『石動四本松遺跡』東脊振村文化財調査報告書第19集〕、吉野ヶ里遺跡、神埼市神埼町花浦遺跡 ・同志波屋六本松遺跡〔神埼町教育委員会1983『志波屋六本松遺跡』神埼町文化財調査報告書第９集〕 ・同朝日北遺跡〔佐賀県教育委員会1992「朝日北遺跡」『朝日北遺跡』佐賀県文化財調査報告書第110集〕などから墓地跡が調査されている。また、平野部においても神埼市神埼町利田柳遺跡〔神埼町教育委員会1980『利田柳遺跡Ⅲ区』神埼町文化財調査報告書〕 ・同荒堅目遺跡〔神埼町教育委員会1985『荒堅目遺跡』神埼町文化財調査報告書第12集〕、神埼市千代田町詫田西分遺跡・同姉遺跡〔千代田町教育委員会1985『姉遺跡Ⅰ』千代田町文化財調査報告書第３集〕、みやき町本分遺跡〔藤口健二他1984『本分貝塚』佐賀県立博物館調査研究書第７集〕、さらには弥生時代終末期を中心とした佐賀市諸富町村中角遺跡〔諸富町教育委員会1985『村中角遺跡』諸富町文化財調査報告書第２集〕 ・同徳富権現堂遺跡などの調査により、弥生時代集落立地の南下を示した。

このような多数の遺跡の中には、先に挙げた切通遺跡や五本谷遺跡・二塚山遺跡・横田遺跡・三津永田遺跡、吉野ヶ里町石動四本松遺跡・目達原桜馬場遺跡〔七田忠昭1976「文様ある銅矛について―佐賀県目達原出土銅矛の紹介を兼ねて」『九州考古学』52〕 ・神埼市千代田町高志神社遺跡〔千代田町教育委員会2000『高志神社遺跡』神埼市千代田町文化財調査報告書第27集〕、吉野ヶ里町吉野ヶ里遺跡北墳丘墓などから漢式鏡、青銅製や鉄製の武器・武器形祭器、装身具などの重要な遺物が出土している。これに加えて西石動遺跡や姉遺跡、佐賀市櫟の木遺跡・同鍋島本村南遺跡〔佐賀市教育委員会1991『鍋島本村南遺跡―１・２区の調査』佐賀市文化財調査報告書第35集〕、佐賀市大和町惣座遺跡〔佐賀県教育委員会1990「惣座遺跡」『惣座遺跡』佐賀県文化財調査報告書第96集〕、吉野ヶ里遺跡からは初期のものを含む銅剣・銅矛・銅戈の鋳型などが出土している。これらは当地域が国内において青銅器製作が開始されたことを示し、弥生時代の青銅器生産に重要な資料を提供した。豊かな農業生産を背景に先進的な金属器文化が花開いていたことを示している。

これら弥生時代の数多くの集落や墓地跡の調査成果は、水稲稲作を基盤として各種の手工業的生産をおこない人口密集地として発展したこの地域の特徴を示したが、一つの地域をめぐる集落群や墓地群の構造や格差、あるいは相互の有機的な関係を窺い知る資料として重要である。

古墳時代では、集落遺跡としては吉野ヶ里町下中杖遺跡〔佐賀県教育委員会1980「下中杖遺跡」『佐賀県文化財調査報告書第54集〕 ・タヶ里遺跡・同浦田遺跡・同瀬ノ尾遺跡〔久保伸洋「瀬ノ尾遺跡」『佐賀県文化財年報』１　1996〕、神埼市神埼町志波屋六本松遺跡・同馬郡遺跡などで確認されており、墳墓としては吉野ヶ里町西一本杉遺跡の墳墓〔佐賀県教育委員会1982「西一本杉遺跡」『西原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第66集〕、上峰町五本谷遺跡の方形周溝墓群〔佐賀県教育委員会1979「五本谷遺跡」『二塚山』佐賀県文化財調査報告書第46集〕、吉野ヶ里遺跡の前方後方形墳墓や方形周溝墓群、佐賀市銚子塚前方後円墳〔佐賀市教育委員会1976『佐賀市金立町銚子塚』〕、吉野ヶ里町と上峰町にまたがる目達原古墳群〔松尾禎作1950「目達原古墳群調査報告書」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告書第９輯〕（前方後円墳７基・円墳４基以上）、神埼市神埼町伊勢塚前方後円墳や二子山前方後円墳、吉野ヶ里町下三津西前方後円墳〔東脊振村教育委員会1997「下三津西古墳」『平成６・７年度東脊振村内文化財調査報告書』東脊振村文化財調査報告書第21集〕、みやき町姫方前方後円墳などの古墳が築造される。山麓部ではみやき町山口、上峰町谷渡・同屋形原・同鎮西山南麓、神埼市神埼町猿嶽〔佐賀県教育委員会

1993「猿嶽A遺跡」「猿嶽C・D遺跡」『切畑遺跡』佐賀県文化財調査報告書第116集〕・天神尾古墳群〔神埼町教育委員会1997『早稲隈山』神埼町文化財調査報告書第59集〕などの古墳群が形成される。『古事記』や『続日本紀』『国造本紀』にみえる目達原古墳群を営んだと考えられる筑紫米多国造、『日本書紀』にみえる嶺県主、『続日本紀』にみえる佐嘉君などの豪族や有力農民層の動向が窺い知れる。

奈良時代には律令国家の成立に伴い、この地域のうち、みやき町・上峰町は三根郡（律令時代初期には神埼町に属する）、現神埼市・神埼郡と佐賀市南部の一部は神埼郡、佐賀市の大半は佐嘉郡の範囲に含まれた。佐賀市大和町には国庁跡〔佐賀県教育委員会1981『肥前国府跡II』佐賀県文化財調査報告書第58集、同1985『肥前国府跡III』佐賀県文化財調査報告書第78集〕、国分寺〔大和町教育委員会1976『肥前国分寺跡』〕・国分尼寺跡などが存在し、その南には東西方向の駅路跡が存在する。この駅路跡は佐賀市大和町から吉野ヶ里遺跡を経てみやき町までの約17km区間に痕跡をとどめており〔木下良1976「空中写真に認められる想定駅路」『びぞん』64〕、数ヶ所で発掘調査が実施され道路側溝や切通しなどが確認されている〔七田忠昭1988「肥前神埼郡における駅路と周辺の官衙的建物群の調査」『条里制研究』4、佐賀県教育委員会1995『古代官道・西海道肥前跡』〕。吉野ヶ里遺跡や西に接する神埼市神埼町中園遺跡・同志波屋二の坪遺跡などの調査で、企画的に配置された多数の掘立柱建物跡群や井戸跡群が発掘され、木簡や墨書土器や篦描き土器（「神埼厨」）などの文字資料、帯金具が出土〔八尋実1997「馬郡・竹原遺跡群の調査」『佐賀県における古代官衙遺跡の調査』〕するなど、神埼郡家や神埼駅家関連遺構の存在が想起される。この時代の集落跡も幾つか確認されているが、上峰町塔の塚廃寺〔松尾禎作1940「塔の塚廃寺址」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告書第7輯〕、吉野ヶ里町辛上廃寺〔七田忠志1935「肥前風土記神埼郡の條に於ける寺院に関する一考察」『上代文化』13〕などの寺院跡は著名である。なお、ここ数年調査を継続している辛上廃寺では、方一町弱の寺域と、その内部に門跡や金堂と目される四面庇建物跡、塔の基壇などの遺構が確認され〔佐賀県教育委員会2002『吉野ヶ里銅鐸―吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区発掘調査概要報告書―』佐賀県文化財調査報告書第152集〕、平成15年度の調査では推定金堂跡の北方約25mの位置で、僧坊と考えられる新旧2時期の掘立柱建物跡群が確認された。また、近年辛上廃寺の北方約600mに位置する大曲一の坪遺跡で方約1町の方形区画と内部で掘立柱建物跡群が確認〔吉野ヶ里町教育委員会2007,.12『大曲一の坪遺跡現地説明会資料』〕されている。

平安時代には690町の勅旨田から発展した「神埼荘」と呼ばれる院領荘園が神埼郡域の大部分を占めるようになったと推定される。多数の中国の越州窯青磁や白磁・緑釉陶器・新羅の青銅箸・木製馬鞍などを出土した吉野ヶ里町下中杖遺跡、木簡や緑釉陶器などを出土した神埼市神埼町荒堅目遺跡などが知られているが、他にも吉野ヶ里遺跡など平安時代から中世にかけての輸入陶磁器を出土する遺跡が数多く存在しており、対中国貿易拠点の一つとしての神埼荘の性格を窺わせている。

中世になると武士階級が実質的支配権を確立したと考えられ、小山塊上の山城跡や山城麓の館跡、平野部には環濠館跡などが多数存在しており、勢福寺城麓の神埼市神埼町城原二本谷西遺跡〔八尋実1994「城原二本谷西遺跡」『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』12, 佐賀県文化財調査報告書第122集〕や同町姉川城跡〔神埼町教育委員会1996『姉川城跡』神埼町文化財調査報告書第50集、同1998『姉川城跡―7次の発掘調査報告書』神埼町文化財調査報告書第63集〕、杉籠遺跡〔佐賀県教育委員会2001『杉籠遺跡―国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書1―』佐賀県文化財調査報告書第146集〕などのように発掘調査によってその内容が明らかになったものも存在する。また、吉野ヶ里遺跡内には建治4・弘安元（1278）年、元寇の際に勅願祈祷寺として創建されたとされる田手川左岸の東妙寺より20年前の正嘉2（1258）年創建とされる妙法寺（尼寺）跡が存在している。

以上のように、この地域は縄文時代晩期（弥生時代早期）以降、農業と金属器などの先進文化をいち早く摂取し発展させたものと考えられる。吉野ヶ里遺跡が立地する佐賀平野東部地域が長期間にわたり政治的・軍事的に重要な位置を占めた背景には、水稲耕作に適した気候と広大な肥沃な土地や、南に国内外に開かれた有明海をもつなどの有利な地理的条件が少なからず影響しているものと考えられる。

第３章 調査の内容

１．主な調査

（１） 田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区の調査

国営吉野ヶ里歴史公園の周回道路及び園内乗り物用園路予定地に当たる丘陵南端に、調査区を設け確認調査を実施した。平成元年度の確認調査で、墳丘墓の可能性が指摘されていた人工的な盛土遺構の南に接する位置であったため、それと関連する遺構の確認も期待された。

①遺構（Fig.４、PL.１）

弥生時代前期初頭から中世にかけての遺構が確認された。平面的な遺構の分布と時期の確認に主眼を置いたため、大半の遺構の詳細な内容は不明である。弥生時代の遺構としては、溝跡５条、竪穴住居跡と考えられる遺構２基、甕棺墓４基、土坑約20基などが確認された。

溝跡のうち、調査区南端で丘陵を横断するように東西方向で確認されたSD0245溝跡は、弥生時代の初頭に掘削されたものと考えられる。直線状に延びる約35m区間を調査区内で確認した。幅約1.8m、深さ約0.8mの断面逆台形のものであった。なお、この溝跡は平成12年度に実施した西に隣接する第326調査区でも西への延長が確認されたが、中期初頭から中期前半期の甕棺墓群によってこの溝跡は破壊されていた。

SD0242溝跡は、弥生時代後期後半～終末期に属する。幅約2.0m、深さ約0.7mの断面逆台形で、東西方向の約26mを確認したが、調査区西端では北方向に緩やかに屈曲していくようである。この溝跡の北方には中期前半に北墳丘墓とともに築造された祭壇と目される盛土遺構が存在しており、盛土遺構北側の田手二本黒木地区Ⅲ区第268調査区（平成９・10年度実施）では、盛土遺構の北から西にかけて屈曲した同様な溝跡が確認されており、SD0242溝跡も盛土遺構を囲む溝であった可能性が高い。中期前半に築造された盛土を後期後半以降に新たに溝によって取り囲む行為がなされたとすれば、盛土の性格、ひいては集落内部の各施設の性格を考えていく上で重要である。

弥生時代の土坑は中期前半のものが多く、多くが竪穴住居群に伴う貯蔵穴であった可能性が高いが、中期中頃と思われる土坑には埋土に炭化物や焼土を含んだものも存在している。調査区北東部に位置するSK0248土坑は、平面円形のいわゆる袋状貯蔵穴で、径1.50m～1.72m、深さは0.58m残存していた。埋土を半裁して調査したが、内部には特に下層に中期中頃の甕を主体とする土器群が存在していた。平面長方形や円形基調の土坑の多くは弥生時代中期前半前後の貯蔵穴であった可能性が高い。調査区のほぼ中央に位置するSJ0261甕棺墓は、弥生時代中期中頃の小型の甕と甕を用いた小児用甕棺墓である。検出のみを行ったので詳細は不明であるが、小型の墓坑に傾斜して甕棺が埋置されていた。

中世の遺構としては、溝跡１条と掘立柱建物跡２基、土坑１基などが確認された。SD0241溝跡は盛土遺構の南裾部に沿って東西方向に延びている。断面がV字形で、幅が0.5m～1.0mと狭い。30.5m区間を確認したが、さらに西方向に延びるものと見られる。SD0243・0249・0250溝跡も中世に属するものと考えられる。掘立柱建物跡は２基確認された。調査区南部に位置するSB0263建物跡は梁行２間×桁行５間（4.80m×10.50m）規模で、柱掘方は平面円形であった。調査区北東部に位置するSB0264建物跡は梁行１間×桁行３間（3.00m×5.40m）規模で、柱掘方は平面円形であった。土坑も数基確認したが、大半は確認のみで調査を終了した。

②遺物（Fig.５・６・61・63、PL.19・29・30）

遺物としては、縄文土器や弥生土器（Fig.５）、中世の土師器（Fig.５）、弥生時代の土弾や紡錘車・舌状土製品、時期不明な鞴羽口（Fig.63）、石器（Fig.61）などがある。

SD0245溝跡出土遺物（Fig.５）として、縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての深鉢や甕（１・２・４～13）、壺（14～16）、三角形石包丁（Fig.61-13、PL.29）がある。SD0245溝跡近くで出土した甕（３）もこの溝跡に伴うものと考えられる。甕は、１・２のように胴部上半でく字形に内側へ屈曲する貝殻条痕が残るなど夜臼式土器の特徴をもつものと、７のように屈曲しないナデで仕上げたものがある。底部は外に張出す分厚い円盤状となっている。壺は頸部が内傾し（15・16）、体部の境に沈線を１条巡らせており、口縁（14）はわずかに外

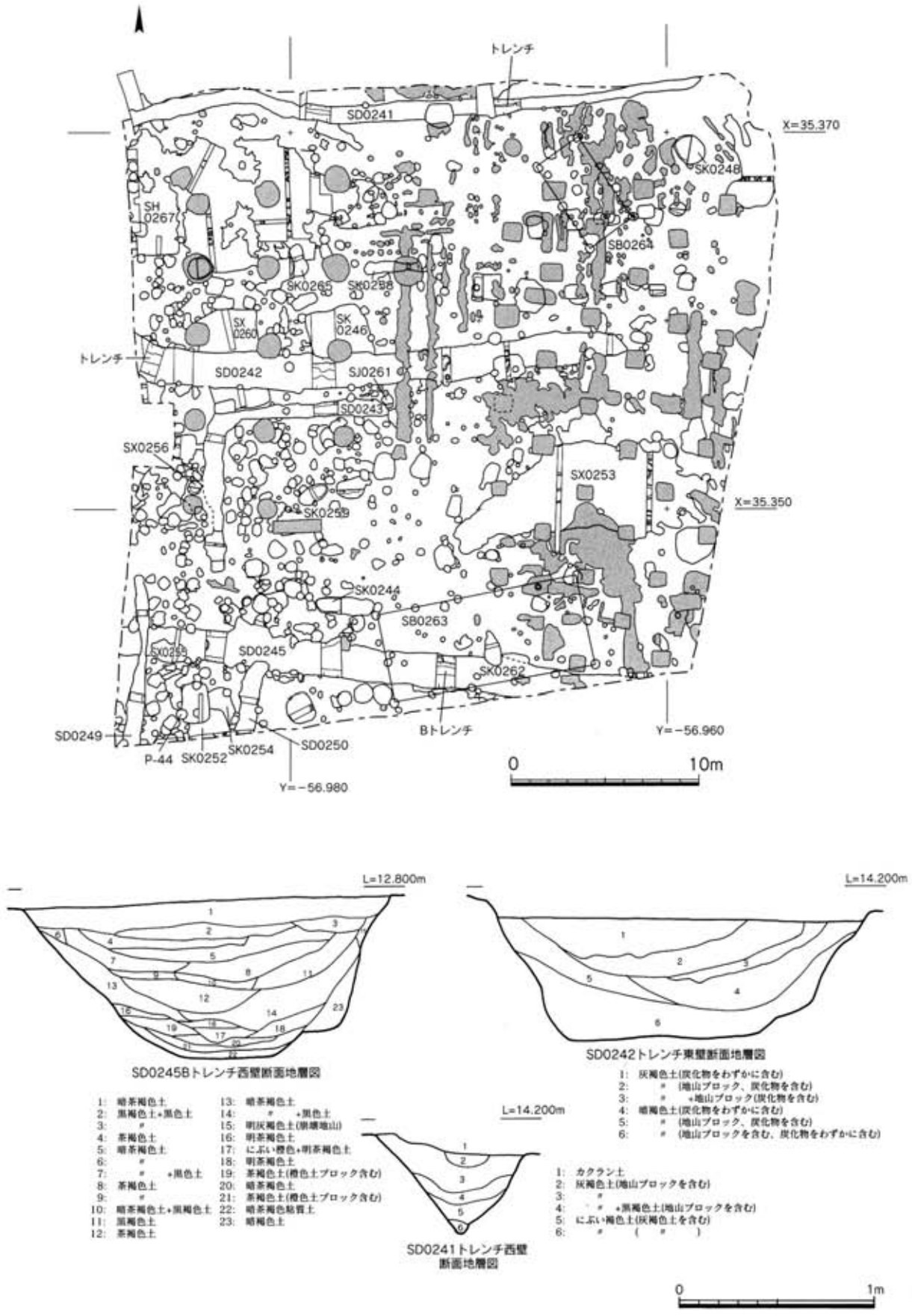


Fig. 4　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 遺構分布図・溝跡断面地層図

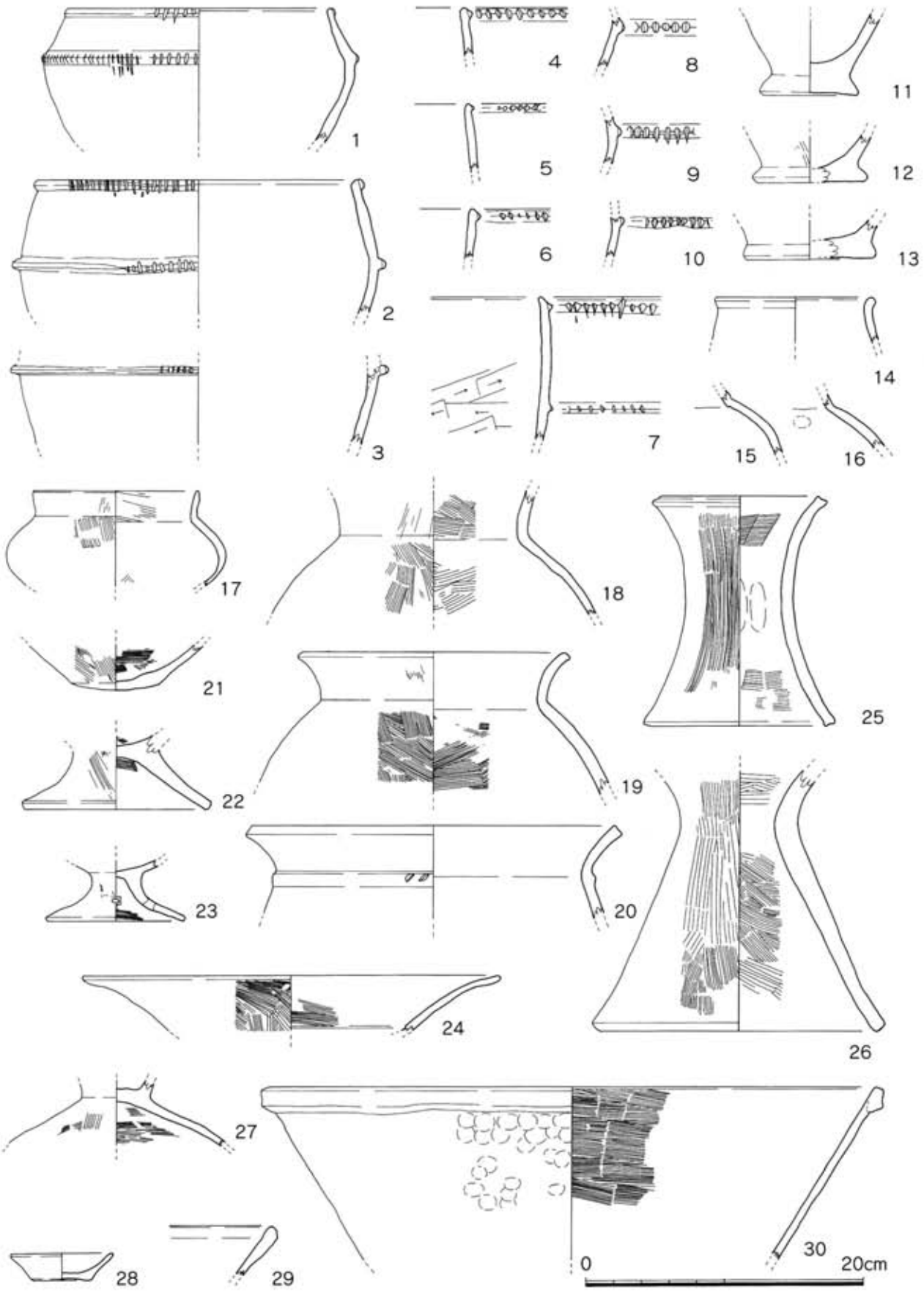


Fig.5　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 出土土器実測図（1）

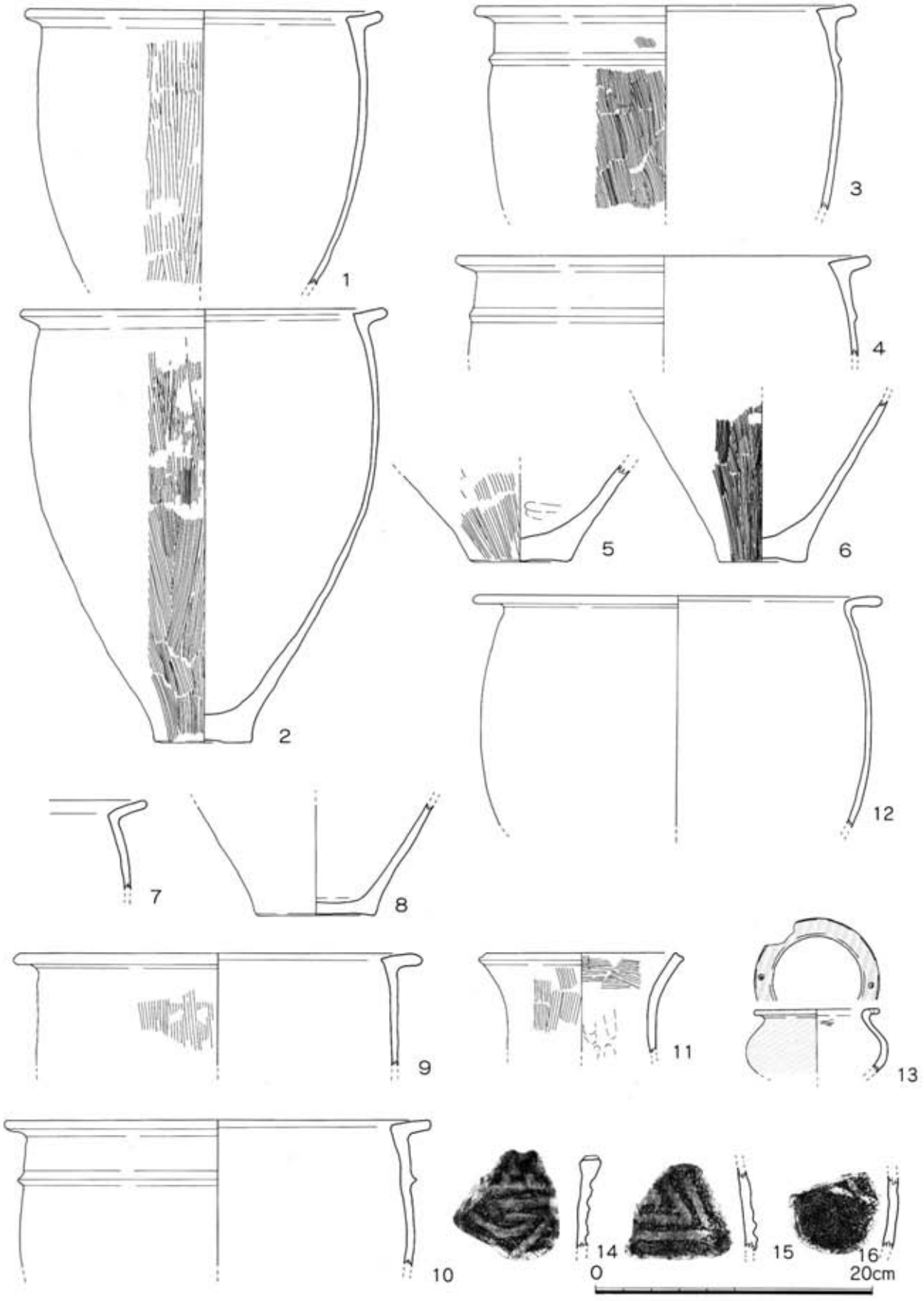


Fig.6　田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区 出土土器実測図（2）

反する。

SD0242溝跡出土遺物として弥生時代後期終末期の甕（20～22）、壺（17～19）、高坏（23・24）、蓋（27）、器台（25・26）、紡錘車（Fig.63-15）がある。SD0241溝跡出土遺物として、中世の土師器の小皿（28）と鍋（30）、須恵器捏鉢（29）、流れ込みと考えられる弥生時代の土弾１点（Fig.63-１）がある。小皿は糸切離しで、径7.6cm、器高1.9cm。

SK0248土坑出土遺物（Fig.６）として弥生時代中期の甕（１～６）が、SK0252土坑出土遺物として弥生時代後期前半の甕（７・８）、流れ込みと考えられる土弾（Fig.63-２）が、SK0259土坑出土遺物として弥生時代中期の甕（９）が、SJ0261甕棺墓出土遺物として弥生時代中期の甕（10）が、SX0255土坑出土遺物として弥生時代後期の器台（11）が、SX0260土坑出土遺物として弥生時代中期後半の甕（12）と壺（13）がある。また、P-44小穴出土遺物として鐸形土製品の舌と考えられる土製品（Fig.63-14）がある。

その他、図示しなかったが、検出面出土の遺物（PL.19）として朝鮮半島系無文土器壺の牛角把手片、中国産の白磁椀・龍泉窯系青磁椀・景徳鎮窯染付や常滑産甕、肥前陶器椀などがある。また、SD0245溝跡検出の際に出土した阿高式に属する縄文時代中期の深鉢（Fig.6-14～16）もある。

（２） 吉野ヶ里丘陵地区 Ｖ区 第305調査区の調査

平成４～５年度の調査によってその存在が明らかになった北内郭跡の北西方向を巡る外環壕跡の発掘調査は、共用されていた町道部分を除き昭和62・63年度に終了していたが、外環壕の復元整備に伴って、この復元外環壕下部が環壕跡に切り込むため、情報収集の目的も含めて、地層観察用畦を除去しながら調査を実施した。なお、第305調査区で調査を行ったSD1013環壕跡は、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区（SD0054）、吉野ヶ里地区Ⅰ区（SD0002）、から吉野ヶ里地区Ⅴ区（SD0952）、田手二本黒木地区Ⅱ区（SD0002・SD0003）、田手二本黒木地区Ⅰ区、田手一本黒木地区Ⅱ区（SD0105）へと延びる広い範囲を囲む環壕跡の一部である。

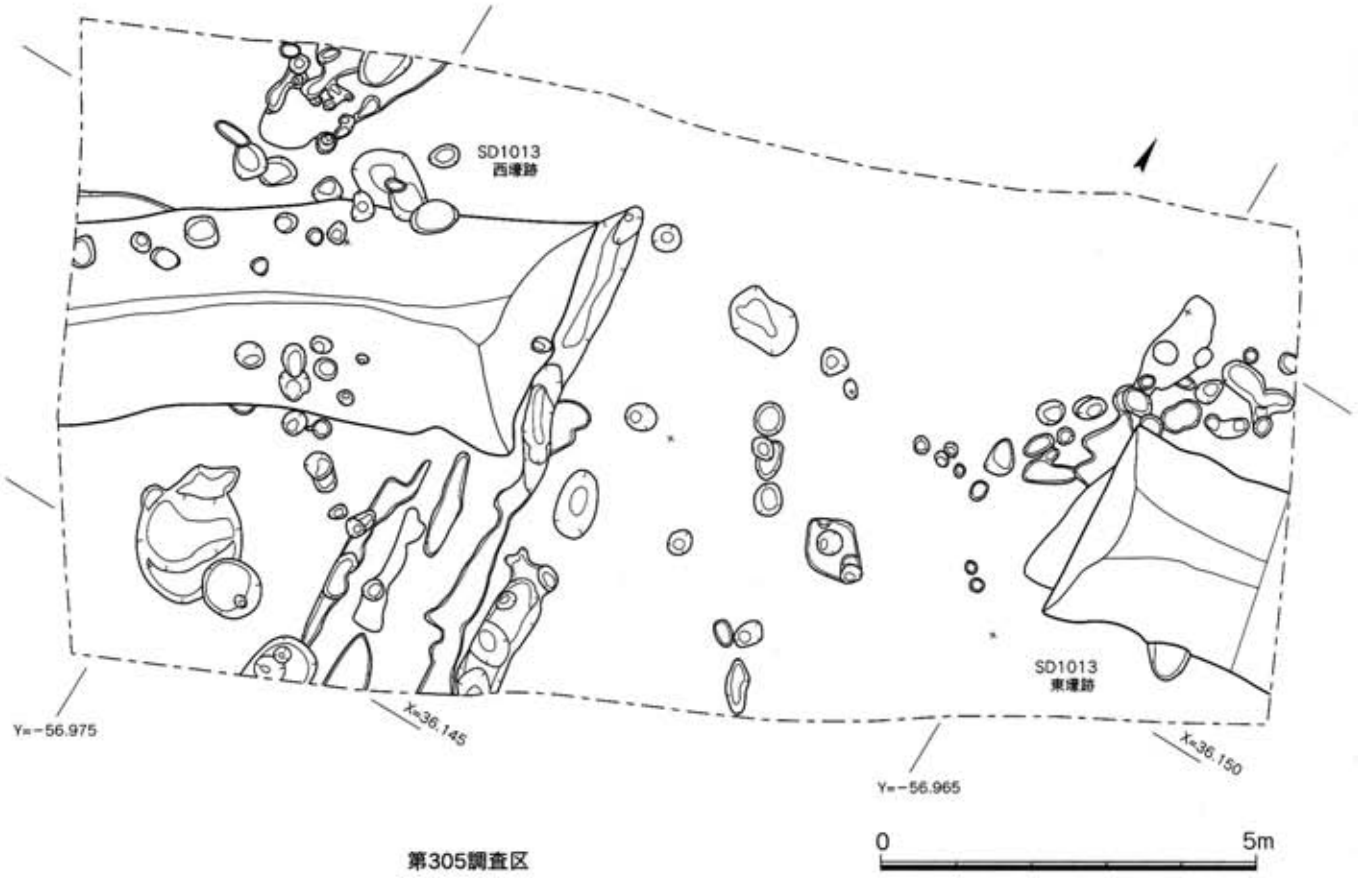
① 遺構（Fig.７、PL.２）

弥生時代後期前半から終末期にかけての環壕跡と、掘り残したままの出入口（土橋）跡、中世の道路状遺構などが確認された。地表は畑地造成によって破壊をうけていたが、環壕跡は、上面幅7.0m規模の出入口の西側で幅3.3m・深さ1.9m、東側で幅2.8m、深さ1.5m残っており、断面形態はＶ字形であった。周辺の遺構の残存状況から推定すると、当時の環壕規模は幅6m～7m、深さ4m前後、出入口（土橋）は幅約6mであったものと考えられる。東壕での12層より上層、遺存していた環壕の中層以上の位置で弥生土器が出土したが、出土数が極端に少なく完品に近いものが多いことなどから、廃棄または流れ込みではなく意図的に置かれたものと考えられる。完品に近い土器群が出土したことについては、平成７年度に調査を実施した田手二本黒木地区第Ⅱ区第221調査区の外環壕跡出入口付近の状況と共通している。

外環壕跡の出入口は、６箇所目が確認されたことになるが、明確なものの中では第305調査区のものが最大規模であり、出入口を含めた広範囲の環壕全体が外側に向かって緩やかにかつ大きく突出するという特徴を持っている。なお、この出入口の南方約140mの位置には、吉野ヶ里集落の弥生時代後期終末期の中枢と考えられる北内郭の唯一の出入口が存在するが、この二つの出入口を結ぶ直線的な部分にはこれらと同時期の遺構がほとんど存在せず、中世の道路遺構の痕跡と考えられる側溝状の溝跡が存在することなどから、この部分に弥生時代終末期の道路が存在した可能性もある。

② 遺物（Fig.８、PL.20）

遺物としては、SD1013環壕跡から出土した弥生土器がある。陸橋部の西側からの出土遺物として弥生時代後期後半～終末期の甕（５～７）、壺（１・２）、高杯（４）が、東側からの出土遺物として弥生時代後期後半の壺（３）、甕（８・９）がある。２は後期後半に属する袋状口縁壺で、４は終末期の在地系の高杯で、図上で復元した。９は上半部の破片のみが出土した大型の甕である。



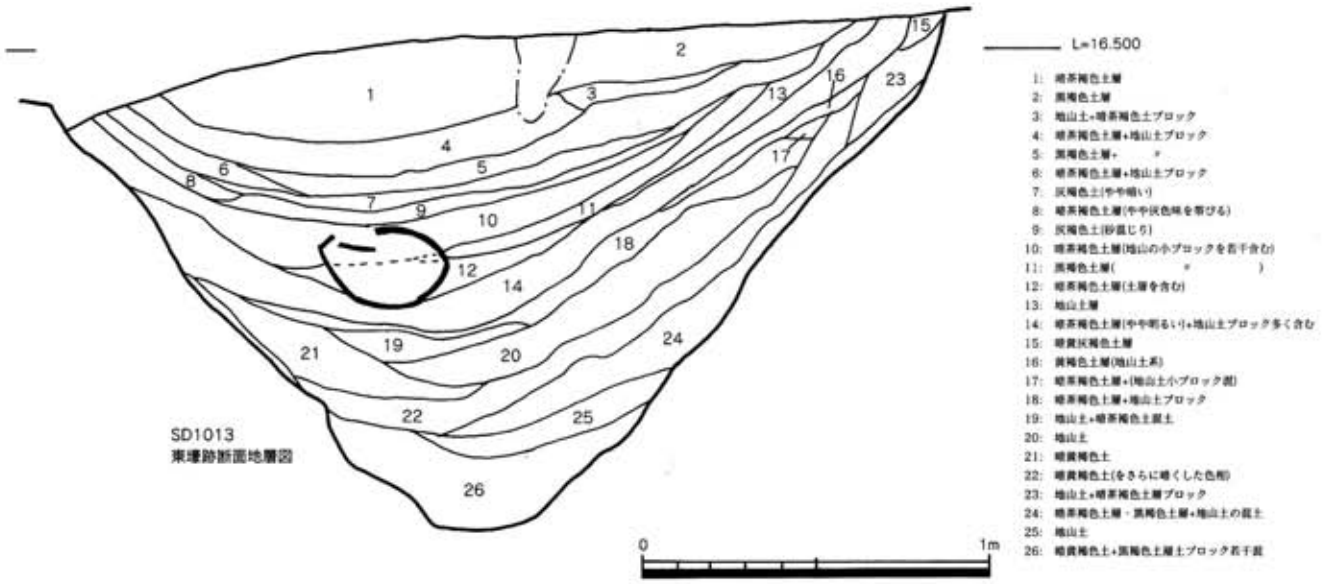


Fig. 7　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 第305調査区 遺構分布図・環壕跡断面地層図

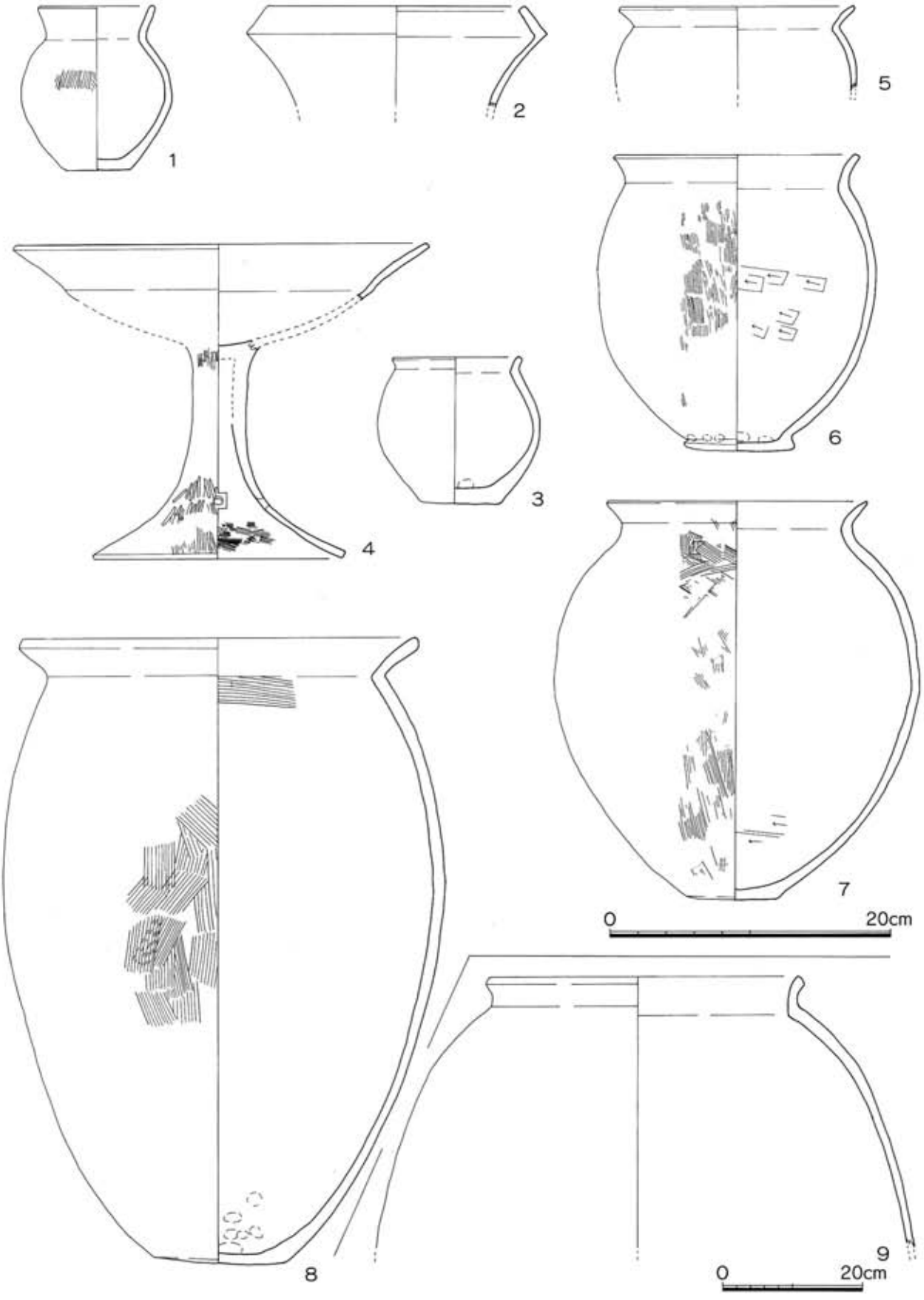


Fig. 8　吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区 第305調査区 出土土器実測図

（3） 吉野ヶ里地区 V区 第308調査区の調査

外環壕跡の復元整備に当たっては、発掘された大規模な環壕跡の深さと同等の高さを盛土しその上に環壕を復元すれば、多量の盛土が必要となり、弥生時代の地形を復元するといった観点からもそぐわないことになるため、環壕跡の内部に復元環壕を切り込むかたちで整備することとなった。昭和63年度の発掘調査の際に残しておいた地層観察用の畦を撤去することになり、層位毎の土器の取り上げを中心とした調査を行った。また、南部では以前の調査で環壕の位置を確認していなかったため、その確認調査も実施した。

① 遺構（Fig.9～11、PL.3・4）

第308調査区の環壕跡（SD0925）は、北は吉野ヶ里丘陵地区V区の墳丘墓の北及び西側（SD1013）から、吉野ヶ里丘陵地区II区（SD0054）、吉野ヶ里地区I区（SD0002）、から本調査区を経て南の田手二本黒木地区II区（SD0002・SD0003）、田手二本黒木地区I区、田手一本黒木地区II区（SD0105）へと延びる広い範囲を囲む環壕跡である。昭和63年度の調査の結果を踏まえ、層位別の土器の埋没状況や、環壕跡の掘り直し（溝浚え）の状況、環壕南部の位置などを確認するための調査を行った。昭和63年度に実施した吉野ヶ里地区V区でのこの環壕跡の調査では、190m区間を調査した結果、開墾などによる遺存状況の違いにより、幅は2.60m～4.50mあり、深さは最大2.36mであった。環壕跡は断面V字形で、最深部は垂直に掘り込まれていた。環壕の埋没状態は、その堆積地層から、環壕掘削時に掘り上げられたと考えられる地山のローム層が両側から流れ込んだ部分が認められる。環壕設置位置が丘陵の斜面ということを考えれば、外側に土塁状の土手を設けていた可能性がある。

環壕の埋土からは、主に弥生時代後期前半から後期終末期にかけての土器多数のほか、深樋式銅剣片や漢式鏡（後漢鏡）片、小形仿製鏡、巴形銅器鋳型片、不明青銅器鋳型、斧・鉋・刀子・鋤先・鎌などの鉄製品が出土していた。

掘削当初は断面V字形であったこの環壕は、遺存した部分で3回程度断面逆台形に掘り直されていることが確認され、最終的な埋没時期が弥生時代後期終末期、部分的には古墳時代初頭であることが改めて判明した。昭和63年度の調査記録と今回の成果との整合性を取っていない現状なので、以下、上層・中層（中上層・中下層）・下層と大別した地層によって出土遺物の状況を述べてみる。6畦は環壕跡を切り込んで横断する中世の溝跡が確認されていたため長さ約6m区間を、7畦は約1.1m、8畦は約1.0m、9畦は約1.1m、10畦は約1.2m区間を残していたが、本調査ではこの畦を除去しながら調査を進めた。

6畦では、弥生土器を主体とする遺物は北部と南部から集中して出土した。上層からの出土数が多く、下層にゆくに従って数が減少する。7畦では、上層と中上層・中下層下部から土器の出土数が多い。また、7畦からは新たに巴形銅器鋳型片が、2層（中上層上部）から出土した。本資料の北約7.0m（高低差0.44m）では、昭和63年度の調査で巴形銅器鋳型の大片が出土していたが、これらは同一個体で、接合することが判明した。片側の鋳型の約半分が明らかとなり、これまでの推定どおり脚は7脚であったことが確実となった。なお、本資料の南約2.5m（高低差0.33m）と北約3.9m（高低差0.7m）の位置では、昭和63年度の調査で、円を二つ並べたような鋳型片が出土している。

8畦では、中下層と中下層下部からの土器の出土数が多い。9畦では、中上層と中下層・下層からの土器の出土数が多い。上層からは鍛造鉄斧1点、鉄鎌1点も出土した。10畦では、上層・上層下部・中上層からの土器の出土数が多く、中下層からの出土数も多かった。また、10畦からは鉄鎌と考えられる破片1点も出土した。

10畦より南については、環壕の南への路線のみを確認するための調査を行った。約22m区間を確認したが、南内郭跡が存在する丘陵尾根に沿って湾曲していた環壕跡が、南端でわずかに右（西）へ湾曲折し直線的に延びるらしいことが判明した。環壕内埋土の掘り下げは、環壕跡の両肩が検出できる程度に留めたため、深い部分でも0.3mに満たない。従って、至近の10畦の地層堆積状況からみたら、主に上層に当たる部分を掘り下げたことになり、遺物は南部上層として取り上げた。なお、10畦より南は、本来断面V字形の環壕を断面逆台形に復元整備し、地下の遺構・遺物をそのままの状態で保存している。

② 遺物（Fig.10～24、PL.21～23）

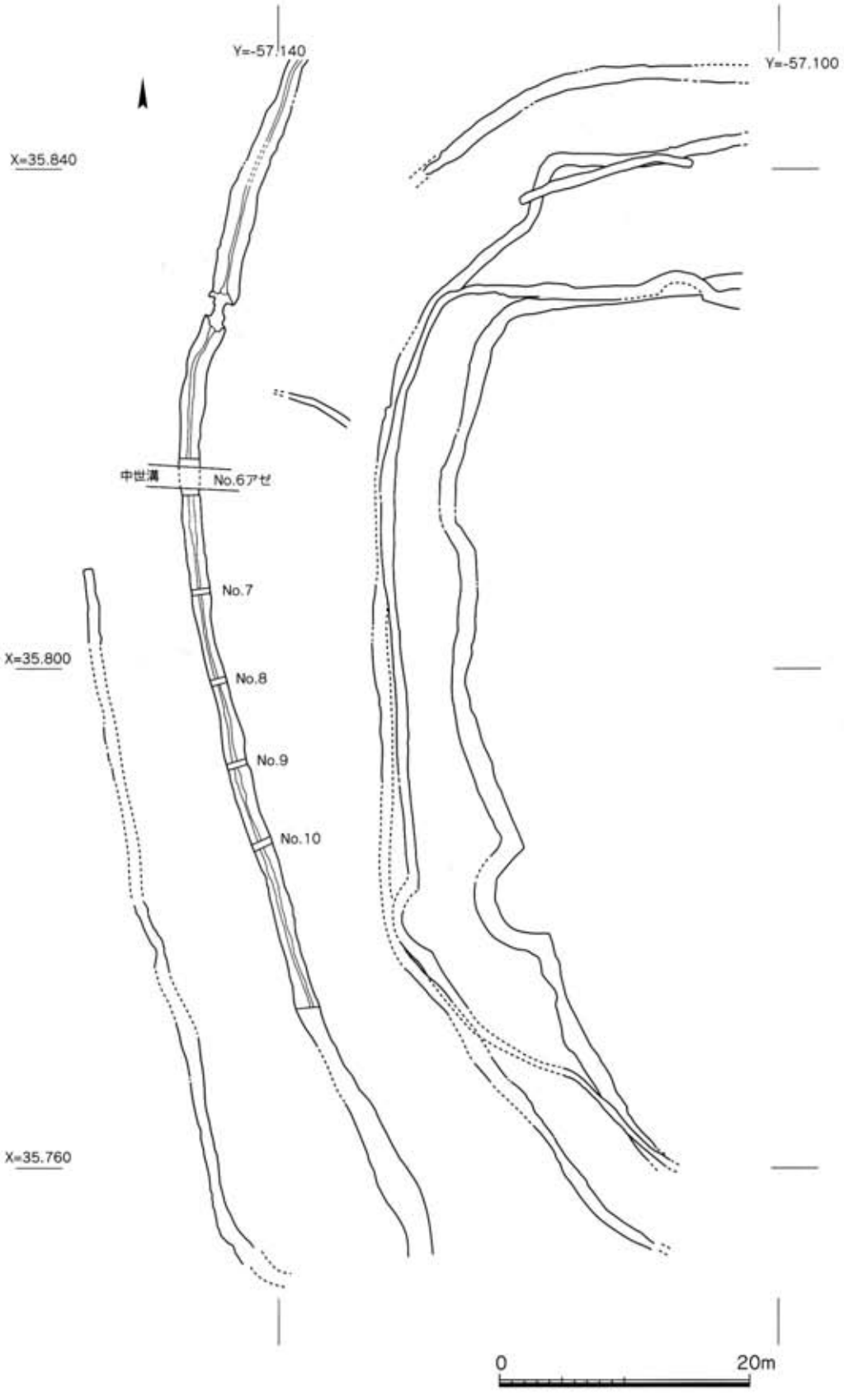


Fig.9　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡調査箇所位置図

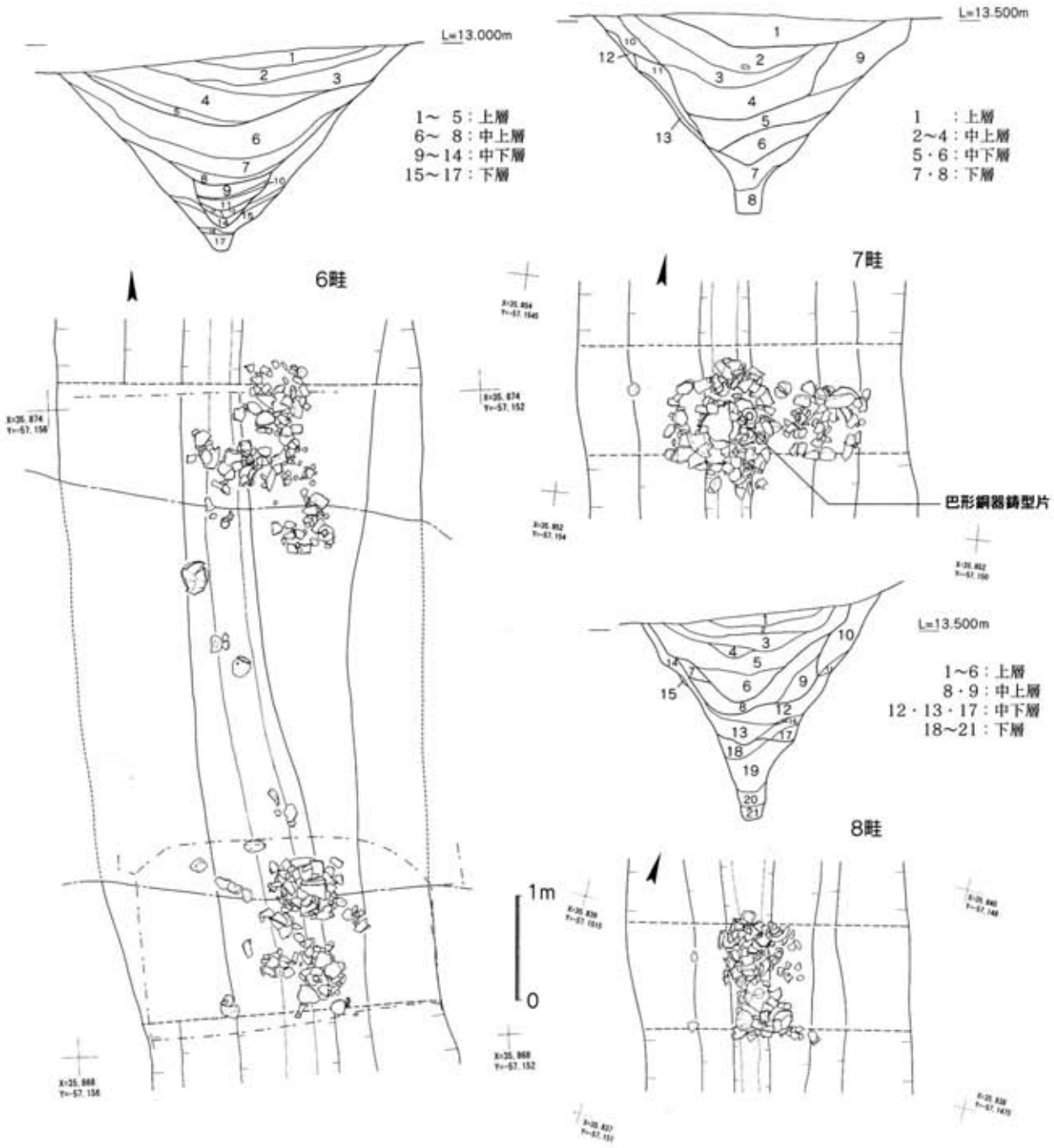


Fig.10　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡断面地層図・遺物出土状況実測図（6・7・8畦）

遺物としては、多数の弥生土器と少数の土師器、巴形銅器鋳型片、鉄斧などがある。

6畦上層出土遺物（Fig.12）には甕（9～15）、壺（16～19）、鉢（1～4）、高杯（5・6）、器台（7）、支脚（8）などがある。壺（16・17）は広口壺で、17の胴部上端にはヘラ条の列線文が2条巡る。古墳時代に下るものと考えられる。6畦上層下部出土遺物（Fig.13）には甕（1～4）、壺（6・7）、高杯（8～10）、鉢形手捏土器（5）などが、6畦中上層出土遺物（Fig.13）には甕（18・19）、壺（11～15）、器台（16）、鉢形手捏土器（17）などが、6畦下層出土遺物（Fig.14）には甕（4～6）、壺（1）、鉢（2・3）などがある。中上層出土土器には後期前半から後期後半の土器も含まれており、下層出土の大半は後期前半のものである。

7畦上層出土遺物出土遺物（Fig.14）には甕（14～17）・壺（9・10）・高杯（11）・支脚（12・13）・鉢形手捏土器（7・8）、巴形銅器鋳型片（Fig.24-1）などが、7畦中上層出土遺物（Fig.15）には甕（5～

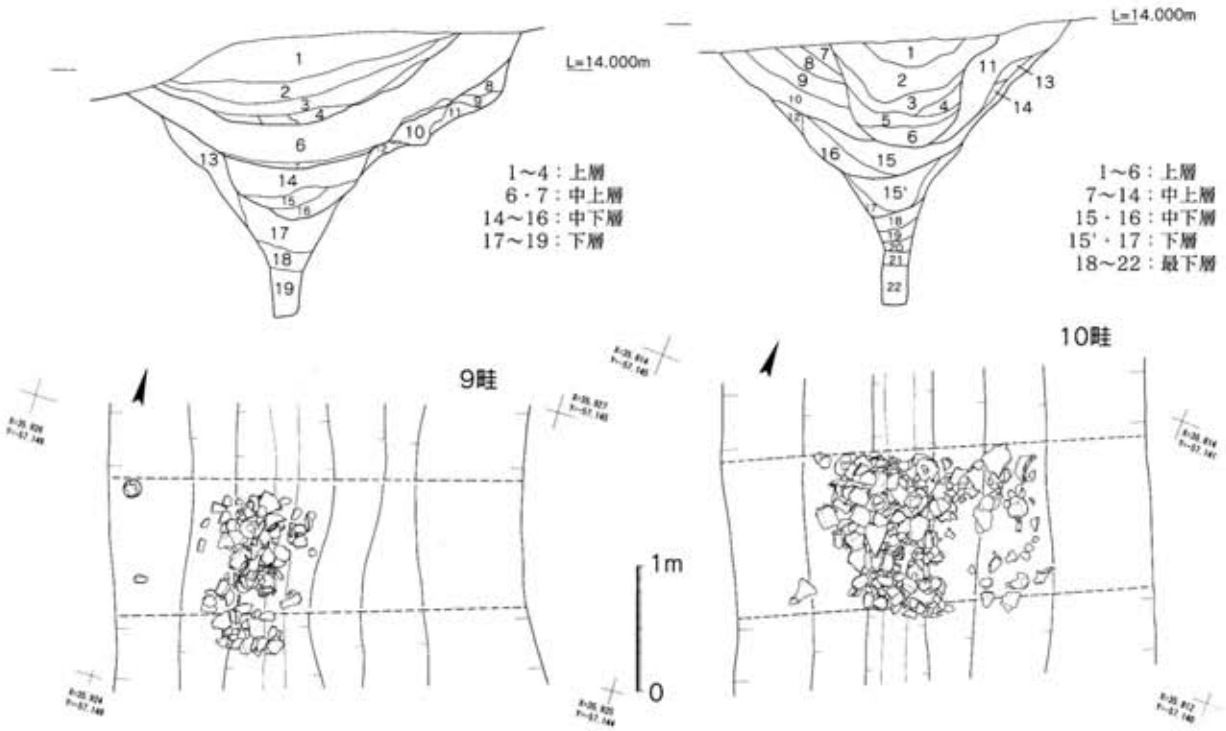


Fig.11　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡断面地層図・遺物出土状況実測図（9・10畦）

9）・壺（1～3）・器台（10）・支脚（11・12）・鉢形手捏土器（4）などが、7畦中下層下部出土遺物（Fig.16）には甕（1～4）・壺（5～8）・器台（11・12）・支脚（9・10）などが、7畦下層出土遺物（Fig.16）には甕（13）がある。上層出土のものには畿内系と考えられる甕（Fig.14-14）や山陰系の甕（Fig.14-16）などが含まれる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけてのものと考えられる。中下層下部から出土した壺（8）は後期初頭に属するものと考えられる。

巴形銅器の鋳型片は、6.0cm×8.0cm、厚さ5.8cmの破片で、段のつく截頭半球形の座の一部と脚2枚分の一部の型が残っている。昭和63年に出土したものと同一個体で、接合することが判明した。片側の鋳型の約半分が明らかとなり、これまでの推定どおり製品は7脚の巴形銅器であったことが確実となった。

8畦上層出土遺物（Fig.17）には甕（3～6）・壺（1・2）などが、8畦中下層出土遺物（Fig.17）には甕（15・16）・壺（7～12）・鉢（13）・鉢形手捏土器（14）等が、8畦中下層下部出土遺物（Fig.18）には甕（6～11）・壺（1・2）・器台（4・5）・支脚（3）などがある。中下層から出土したものの中には後期前半から後半にかけての甕や袋状口縁壺などがみられる。

9畦上層出土遺物（Fig.19）には甕（1～3）・壺（4・5）・高杯（6・7）などがあり、9畦中上層出土遺物（Fig.19）には甕（8～12）・壺（13～15）・高杯（16）などが、9畦中下層出土遺物（Fig.20）には甕（8～10）・壺（5～7）・鉢（2）・高杯（3）・支脚（4）・鉢形手捏土器（1）などが、9畦下層出土遺物（Fig.20）には甕（16～18）・壺（11・12）・鉢（13～15）などがある。上層出土の甕（1）や高杯（7）、中上層出土の二重口縁壺と考えられるもの（15）などは畿内系土器と考えられ、古墳時代に下る可能性がある。中下層出土土器の大半は後期後半のもので、下層出土土器は後期前半に遡るものが多い。

また、土器のほかに鉄製斧（Fig.24-2、PL.23）と鉄鎌（PL.22）がある。斧は袋部が断面長方形に角ばっており、袋部と刃部との境に肩が張る形態のもので、朝鮮半島製と考えられる。長さ11.72cm、刃部幅5.36cm、肩部幅5.02cm（厚さ2.00cm）、袋部基部の幅4.48cm、厚さ2.95cm、重量420gである。

10畦上層・中上層出土遺物（Fig.21）には甕（1～4・8～11）・壺（12～15）・高杯（6・7）・小型器台（5）、鉄鎌と考えられる鉄器破片（PL.22）などが、10畦中上層下部出土遺物（Fig.22）には甕（7・

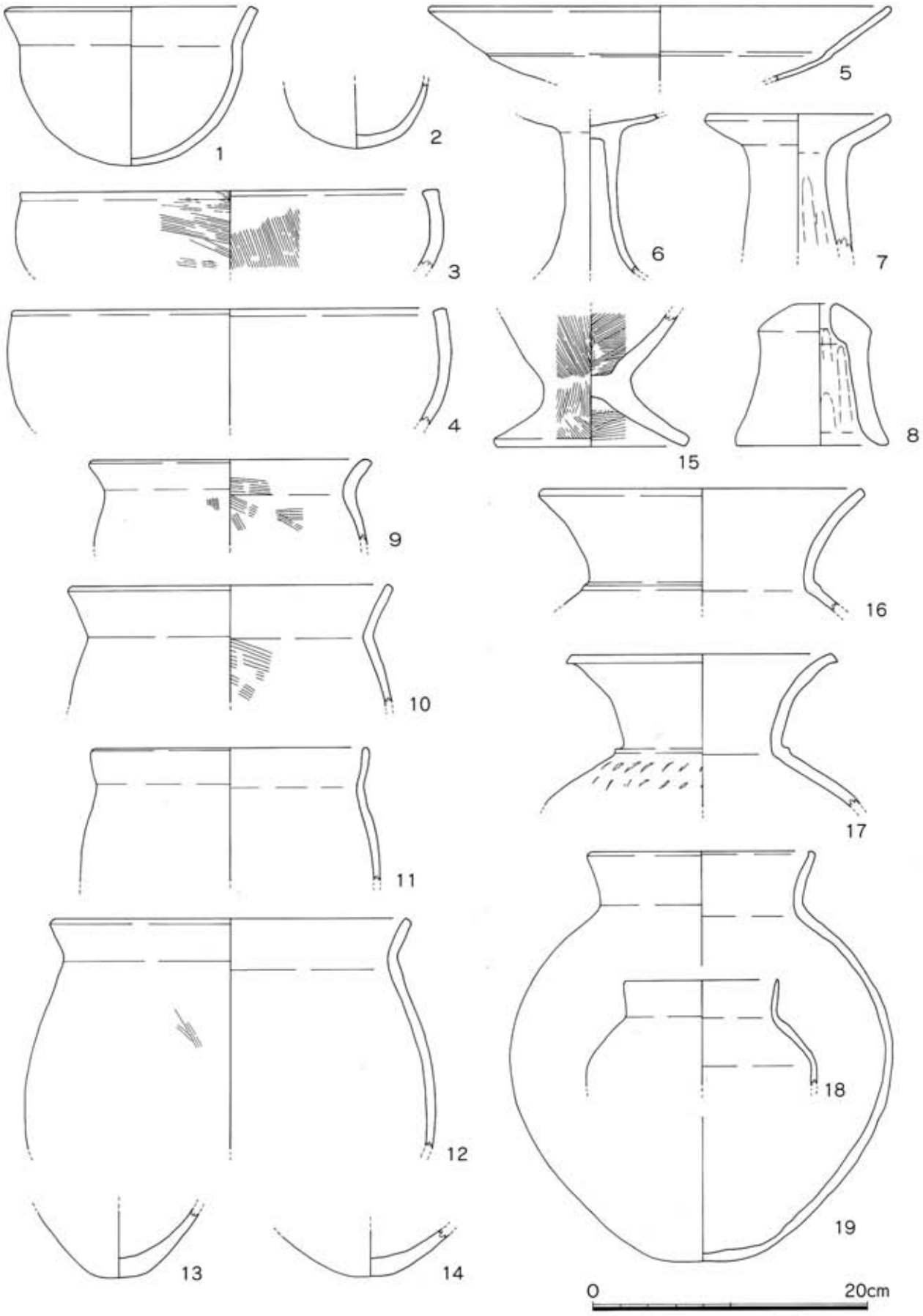


Fig.12　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（1）　（6畦上層）

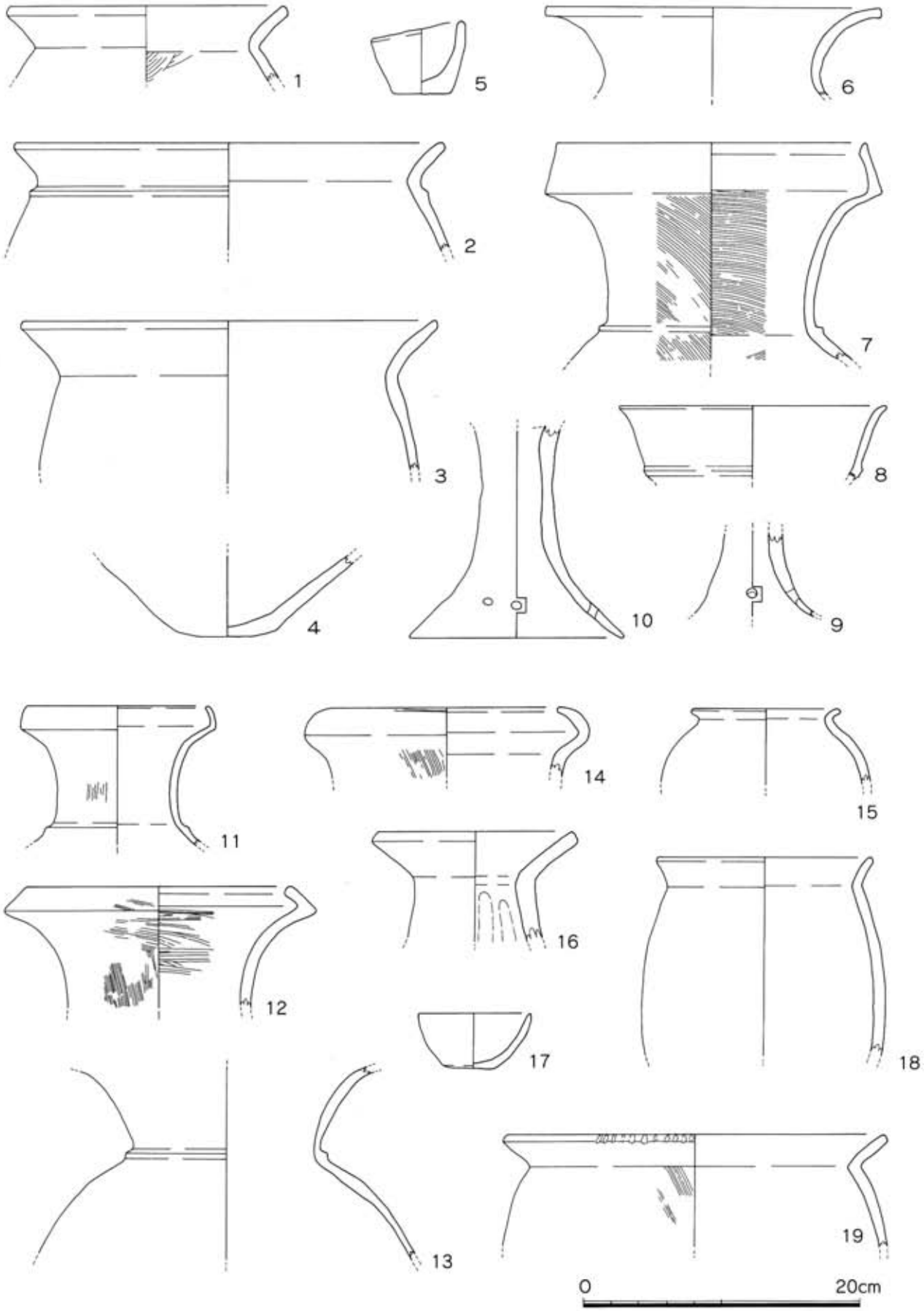


Fig.13 吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（2） （6畦上層下部・中上層）

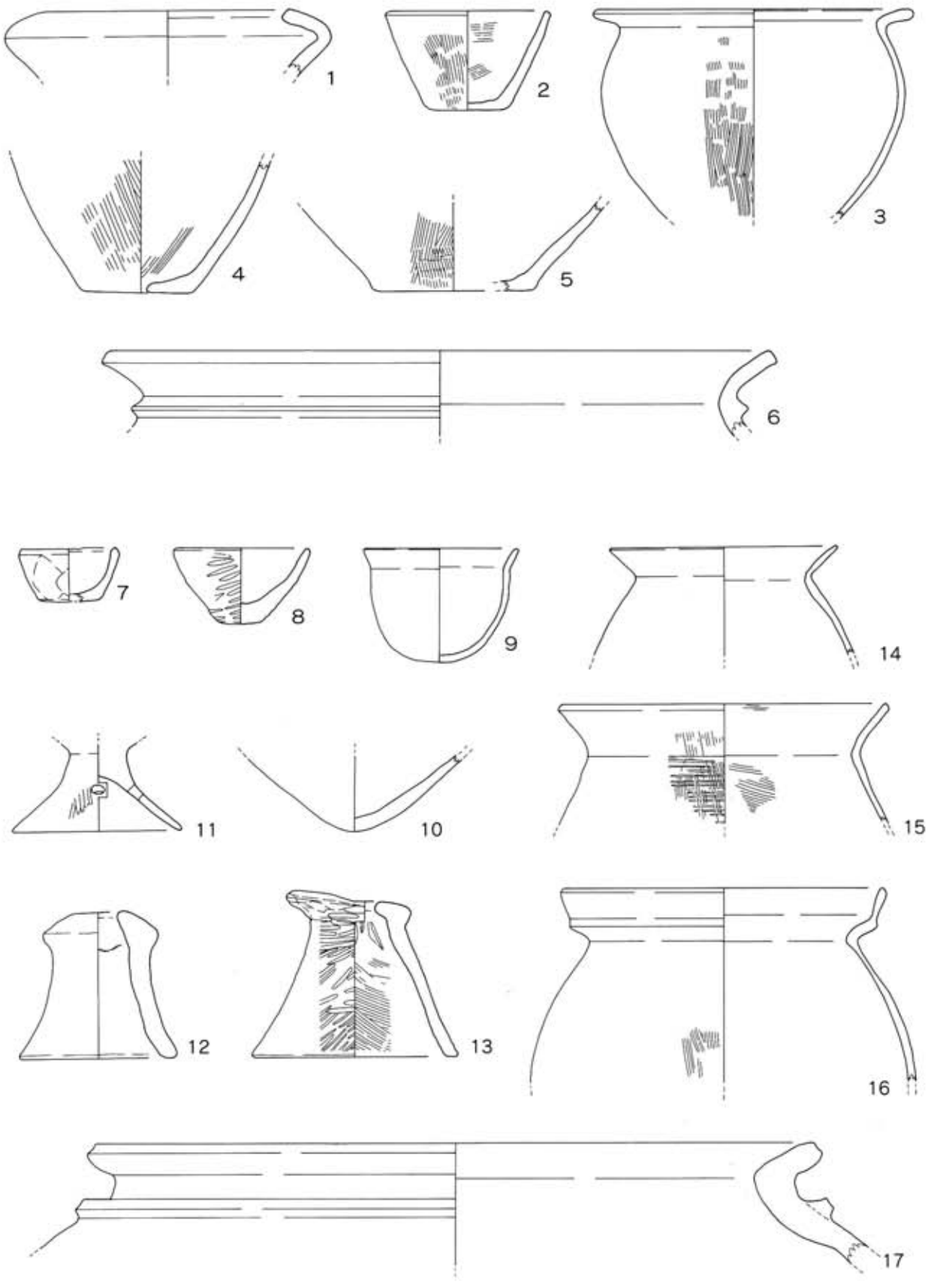


Fig.14　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（3）　（6畦下層・7畦上層）

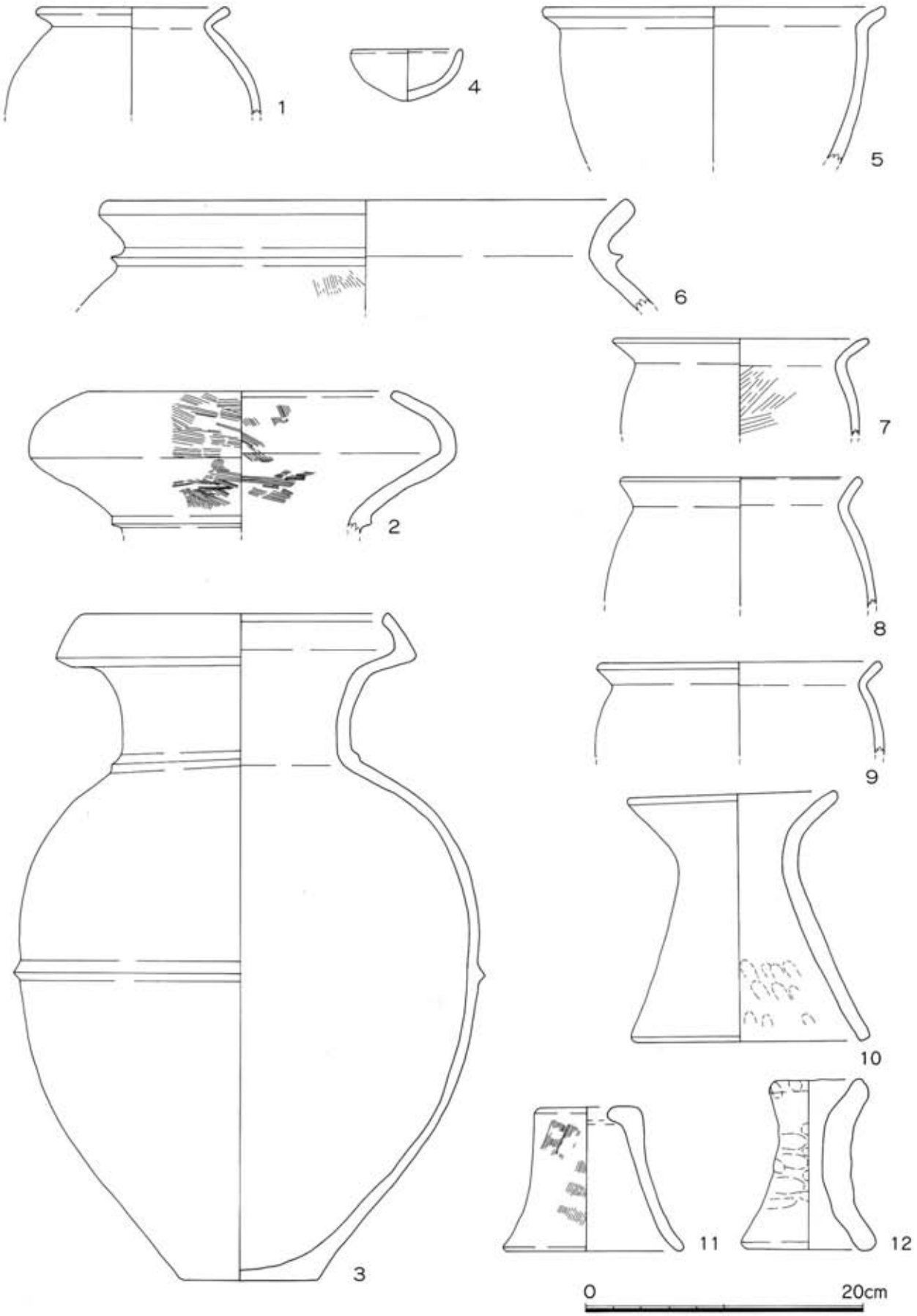


Fig.15　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（4）　（7畦中上層）

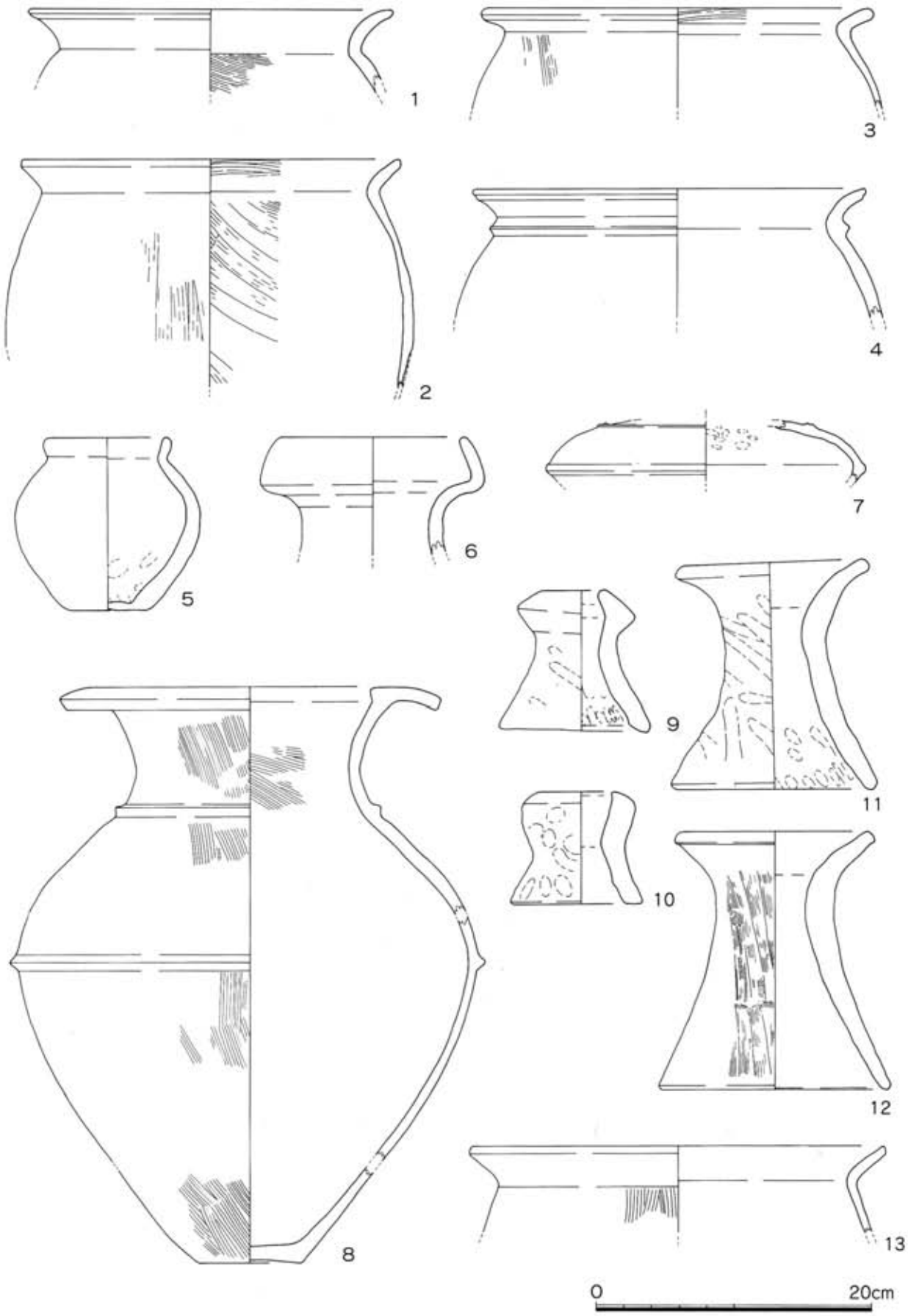


Fig.16 吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（5） （7畦中下層下部・下層）

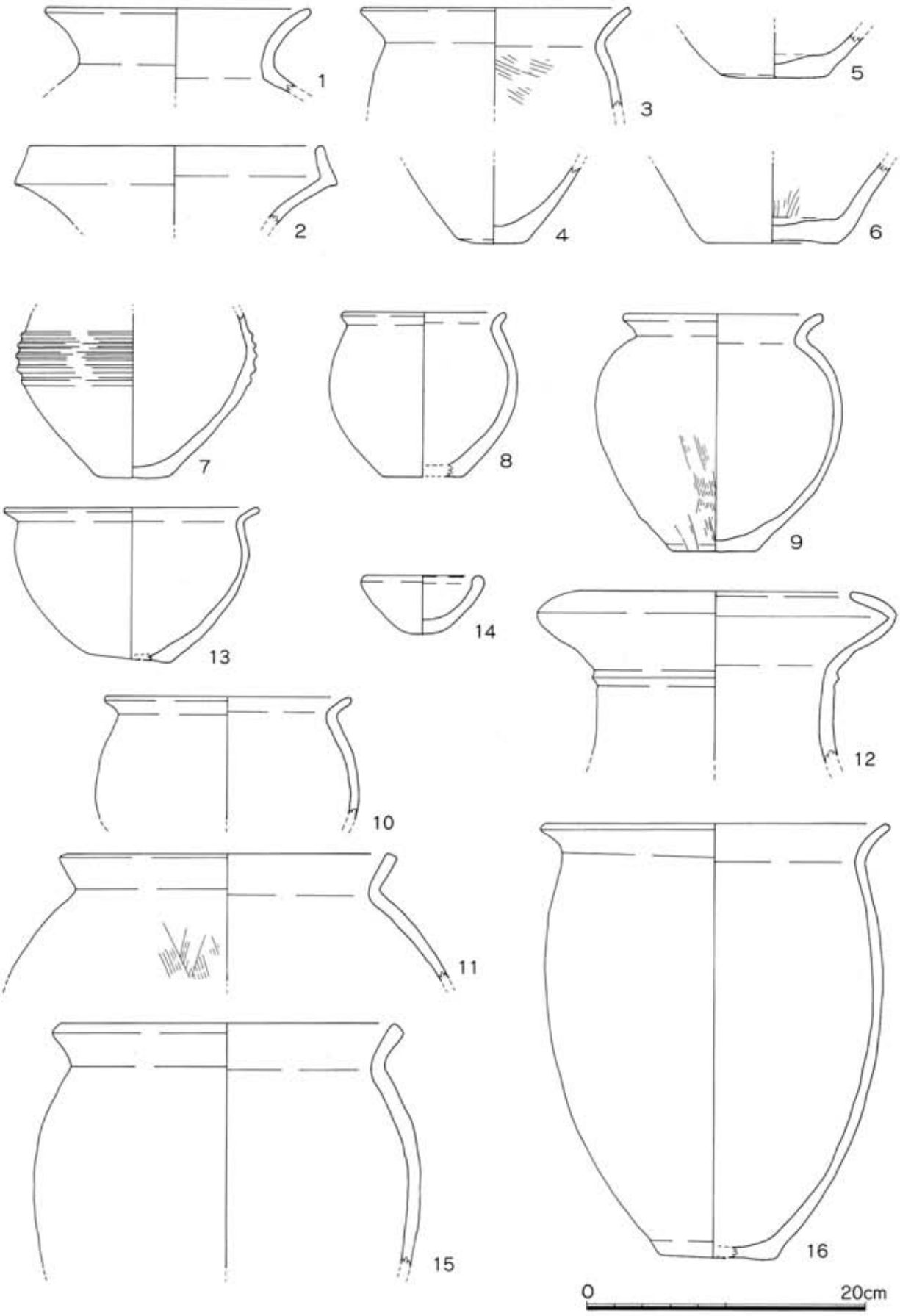


Fig.17　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（6）　（8畦上層・中下層）

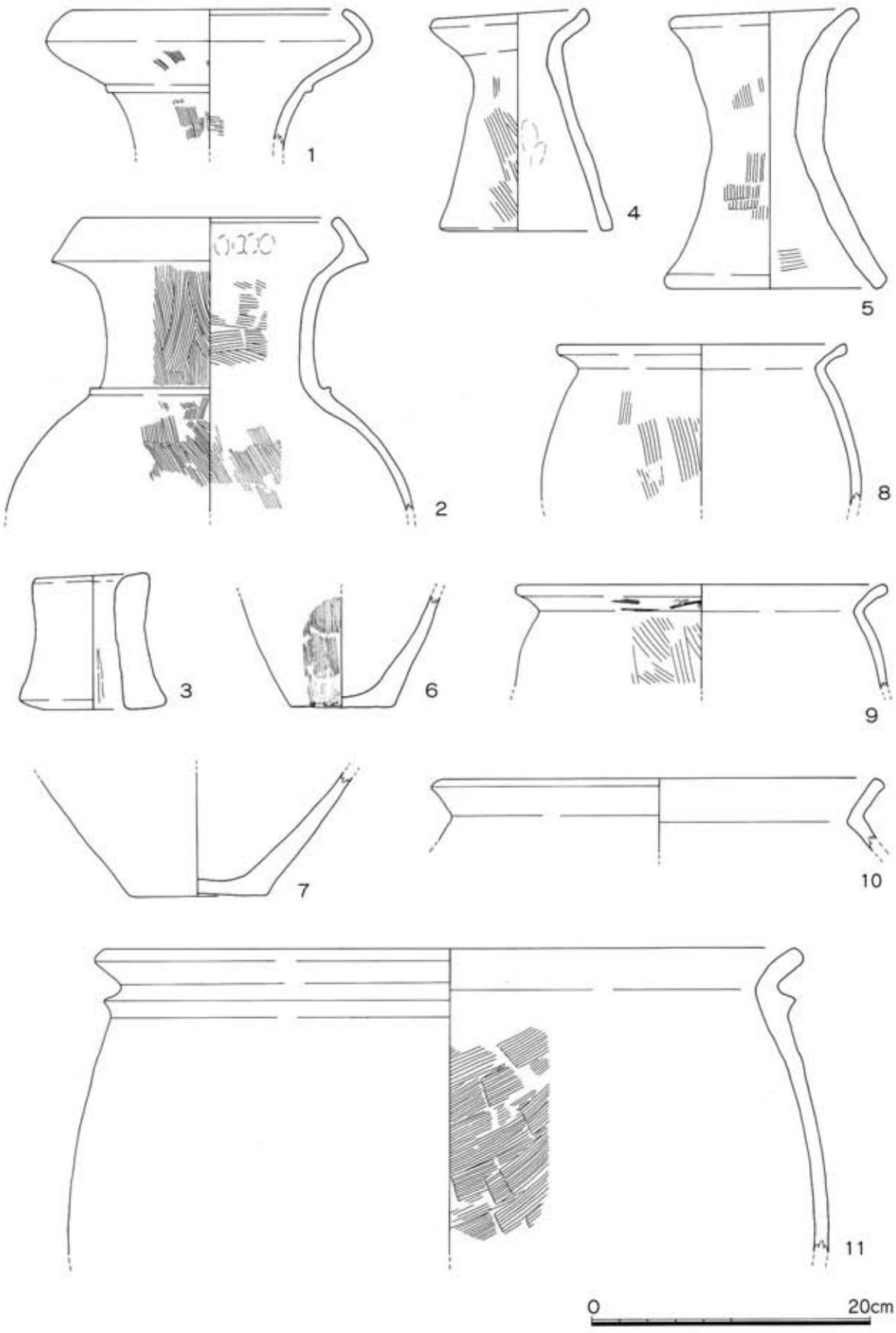


Fig.18　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（7）　（8畦中下層下部）

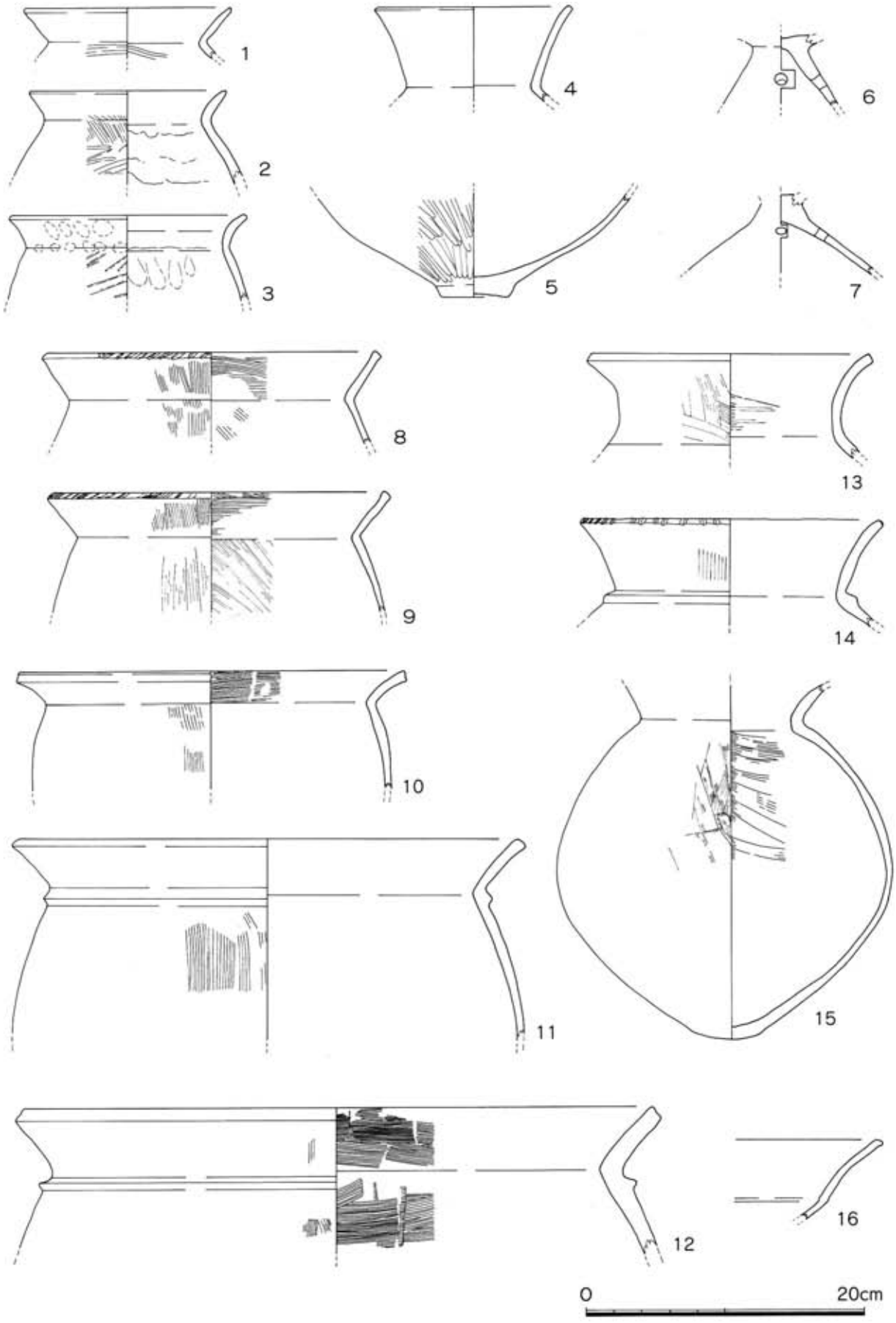


Fig.19　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（8）　（9畦上層・中上層）

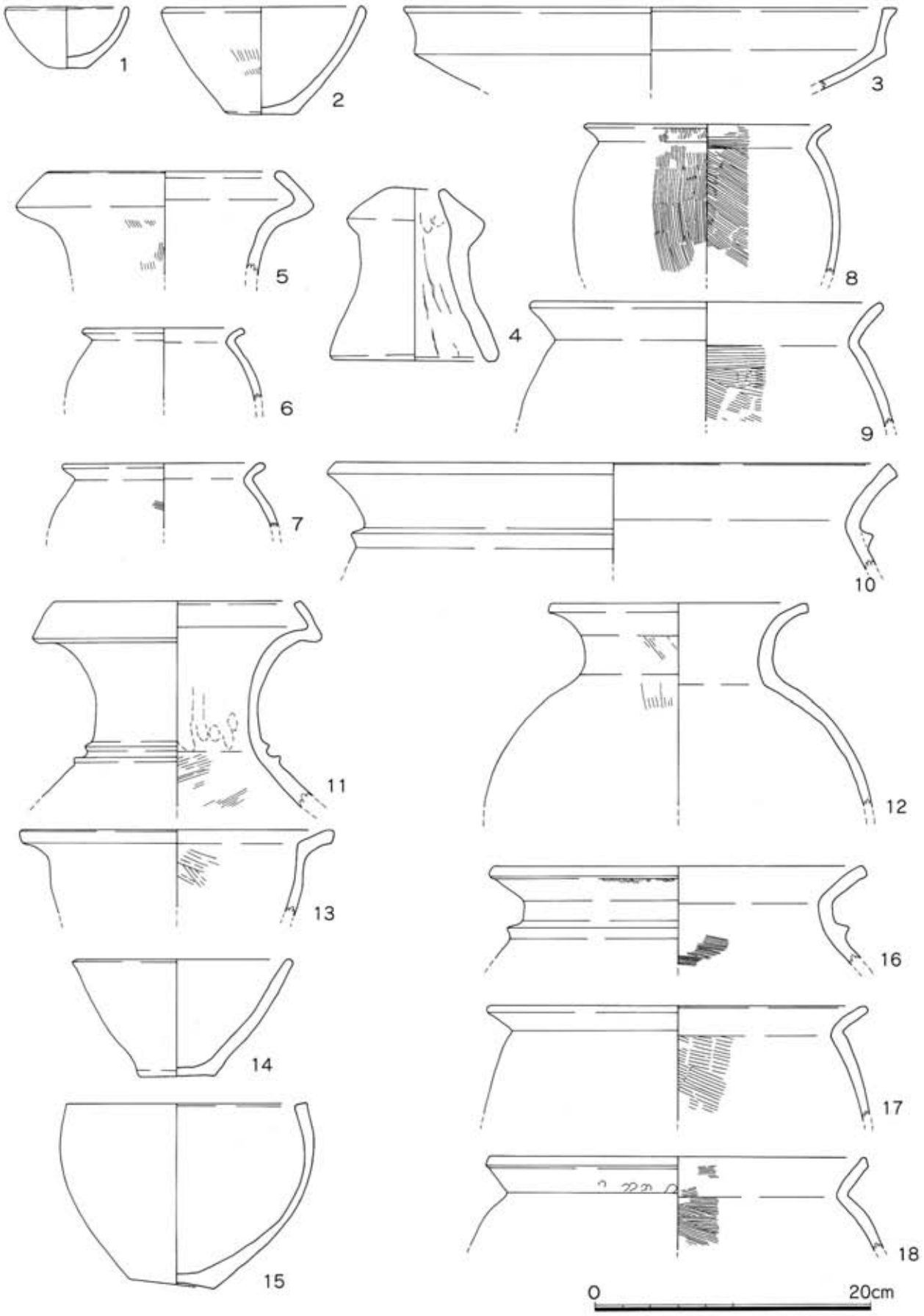


Fig.20　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（9）　（9畦中下層・下層）

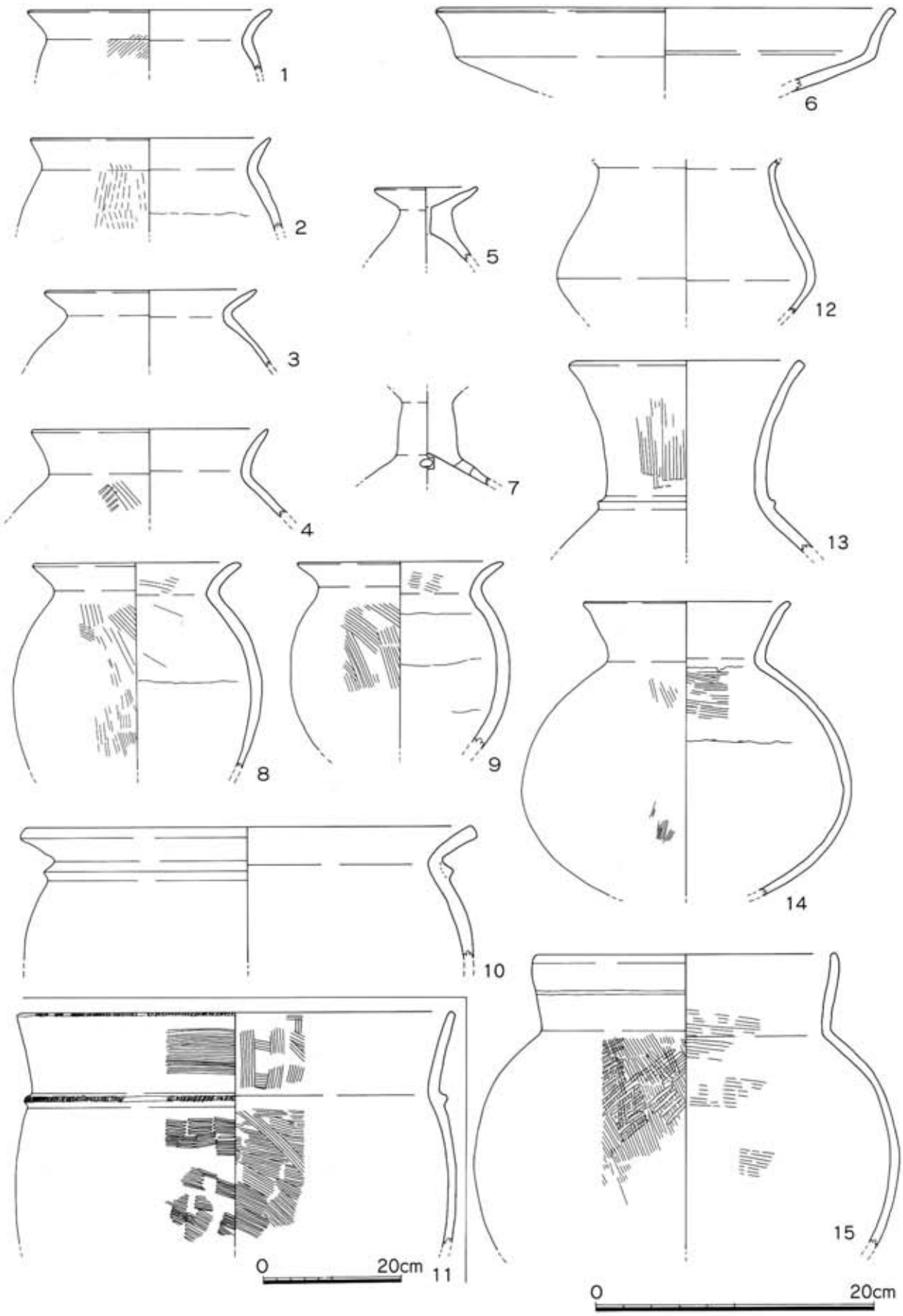


Fig.21　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（10）　（10畦上・中上層）

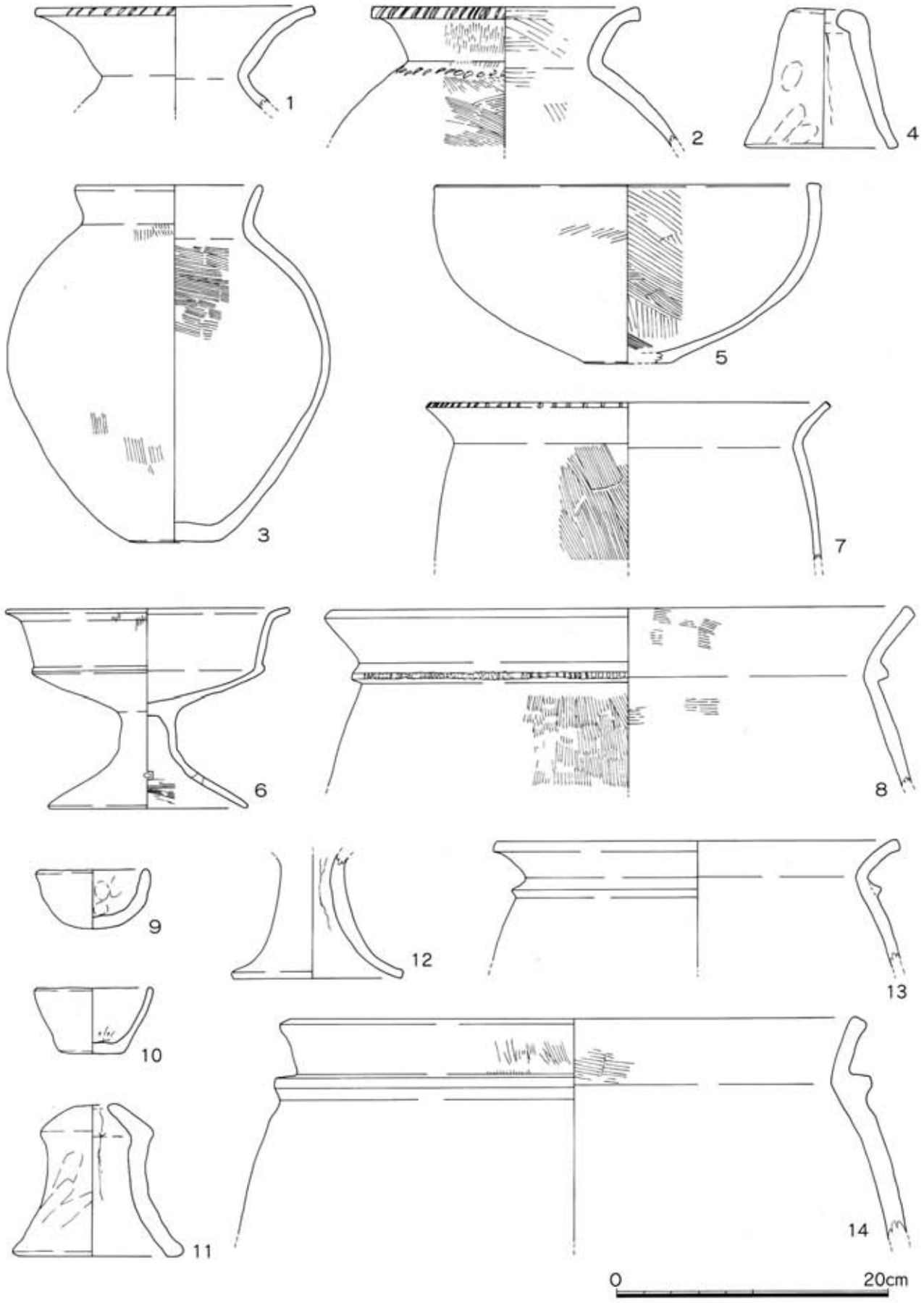


Fig.22　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図（11）　（10畦中上層下部・中下層）

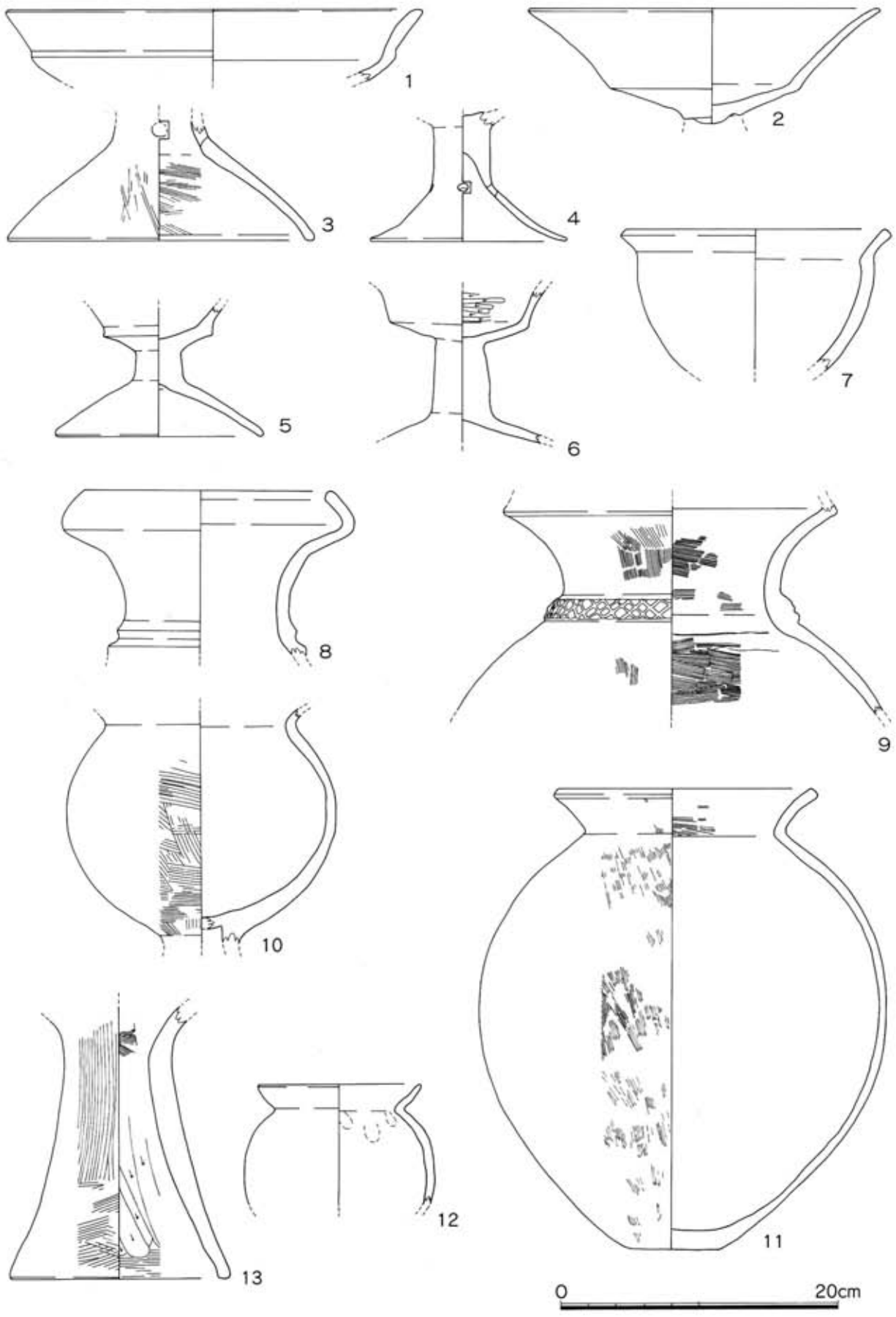


Fig.23 吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土遺物実測図 (12) (南部上層)

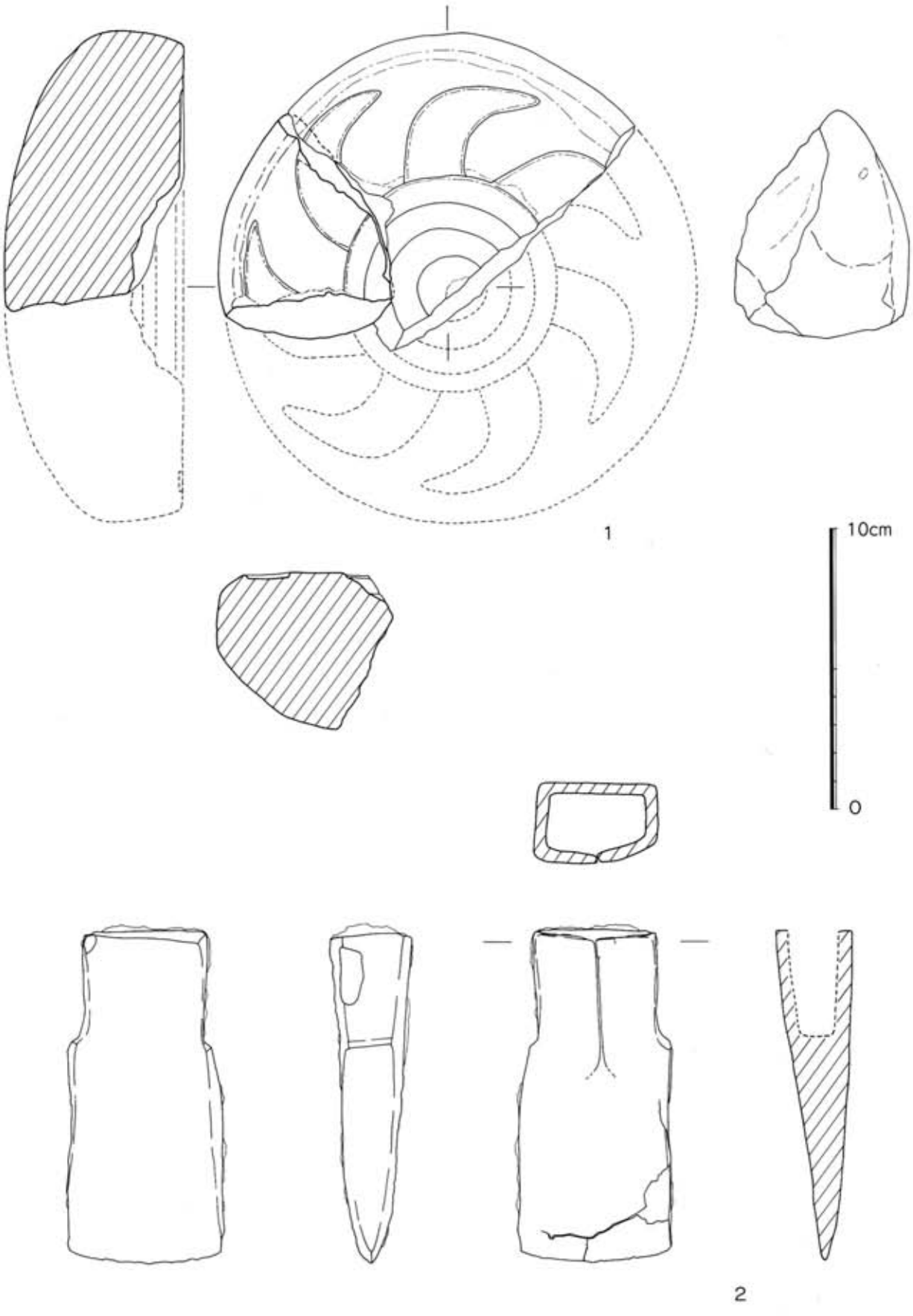


Fig.24　吉野ヶ里地区Ⅴ区 第308調査区 SD0925環壕跡出土巴形銅器鋳型・鉄製斧実測図

8）・壺（1～3）・鉢（5）・高杯（6）・支脚（4）などが、10畦中下層出土遺物（Fig.22）には甕（13・14）・高杯（12）・支脚（11）・鉢形手捏土器（9・10）などがある。上層や中上層出土土器の中には小型器台（Fig.21-5）や高杯（Fig.21-7）など、畿内系で古墳時代に下るものもある。中上層下部・中上層出土土器は終末期のものが多い。土器のほかに鉄鏃と考えられる破片がある。

遺構確認調査のみを実施した10畦より南（南部上層）の出土遺物（Fig.23）には、壺（8～12）・鉢（7）・高杯（1～6）・器台（13）などがある。畿内系と考えられる高杯（5・6）や在地系の高杯（2）などは古墳時代に下るものと考えられる。

（4） 田手一本黒木地区 I 区 第324調査区の調査

丘陵の南端部に近いＪＲ長崎本線のすぐ北に位置する部分で、盛土工事計画と外周道路設計の資料を得るために事前調査を実施した。

①遺構（Fig.25～27・29、巻頭図版1・2、PL.5）

昭和７年度に文化庁補助事業として実施した田手一本黒木地区Ｉ区第220調査区の南に位置する調査区で、北の一部は過去の調査区と重複している。弥生時代の遺構として中期初頭の甕棺墓２基と小穴が、中世の遺構として溝跡７条、井戸跡１基、土坑４基（うち１基は井戸跡の可能性が大）、小穴などが確認された。

調査区の南端に位置するSJ0100甕棺墓は、幅2.60m、長さ2.25m以上（実際は３m以上になる可能性大）の大型の墓坑に、甕と甕とからなる接口式の甕棺２個がほぼ水平に埋置されていたが、接口部には目張り用粘土が用いられていた。後世の開墾などにより棺の上位２分の１以上が削平されたと考えられ、破壊された甕棺の破片が棺内に落ち込んでいた。北西に位置する下甕の底部に近い棺底に径15cm程度の範囲に水銀朱が付着していたが、おそらく被葬者の頭の位置であったと考えられる。その西側で、先端を南に向けた細形銅剣が二つに折れた状態で発見された。A面を上に、B面を下にした状態であったが、B面には絹と考えられる多数の布片が付着していた。

その他の弥生時代の遺構として小穴があるが、大型のP-15からは弥生時代中期前半から中頃の弥生土器片を出土しており、集落に伴う貯蔵穴であった可能性もある。

中世の遺構は、溝跡が主体となっている。溝跡はSD0095溝跡を除き、すべてが北の第220調査区から連続して検出されたものである。SD0003溝跡とSD0033溝跡は、並行する溝跡で南北方向から東へ屈曲する。SD0003溝跡は断面U字形で、幅0.32m～0.84m、深さ0.56m（トレンチ部分での最深部分、以下同じ）である。調査区北端では西へ湾曲するようである。SD0033溝跡は断面逆台形で幅1.36m～2.45m、深さ0.64mである。SD0003溝跡はSD0095溝跡により古く、SD0033溝跡はSD0025溝跡・SD0028溝跡より新しい。SD0095溝跡は断面逆台形で、幅1.00m～1.92m、深さ0.63mである。SD0025溝跡は断面U字形の大規模なもので、幅3.63m～4.48m、深さ1.17mである。SD0028溝跡は断面逆台形で、幅2.13m～2.60m、深さ1.07mである。

SD0025溝跡の南部では、0.50m×1.60mの範囲から土師器の杯・小皿が多数と中国唐・北宋代の銅銭20点・獣骨片などが出土した。土師器群のほぼ中央最上部にはベトナム産の白磁鉢が存在していた。

その他の遺構として土坑や井戸跡、小穴などがある。調査区の南西部に位置するSE0092井戸跡は、径1.44m～1.51mの平面円形である。0.9m掘り下げたが、壁が垂直になっている。また、SK0096土坑は径1.48m～1.77mの平面楕円形に近い円形であるが、平面形態や埋土の土質などから井戸跡の可能性が高い。

②遺物（Fig.27・28・30・31、巻頭図版1・2、PL.23～25）

遺物としては、弥生土器や石器、中世の土師器、須恵器、瓦器などの土器、陶磁器、瓦、銅剣や銅銭などの青銅器がある。

弥生時代の遺物として、甕棺墓や小穴などから出土した弥生土器や石器、細形銅剣がある。弥生土器には生活用土器（Fig.31）と埋葬用土器である甕棺（Fig.28、PL.23）がある。SJ0100甕棺墓下甕は残存高64.0cm（推定高87.5cm）で、口外径65.6cm（口内径54.4cm）、上甕は残存高73.3cm（現地での計測高82.0cm）で、口外

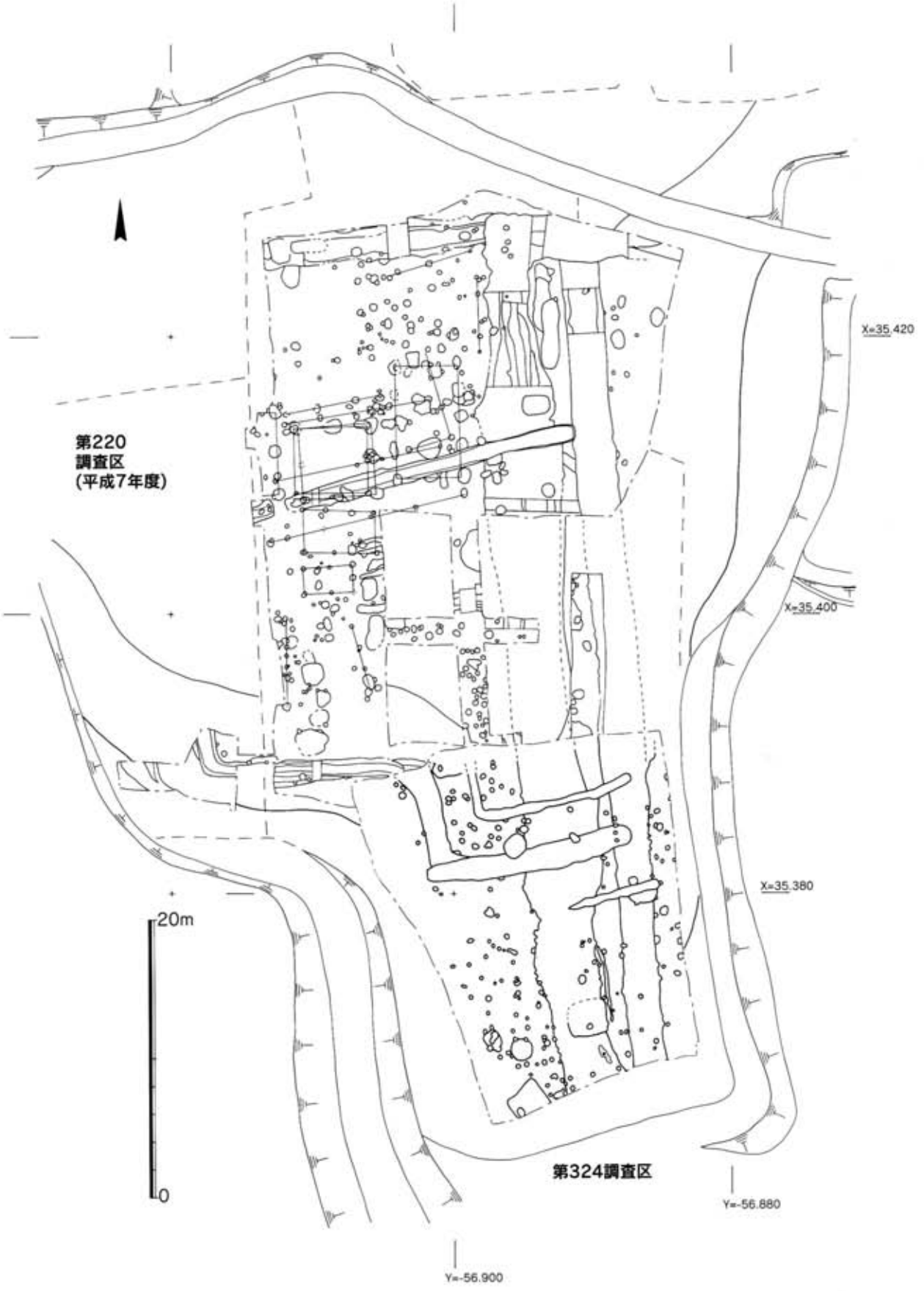


Fig.25 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 周辺調査区 遺構分布図

径64.2cm（口内径55.6cm）である。いずれの器体も胴部中央やや下位に最大径をもち、外反した端部の内側を粘土帯で補強した口縁がつく。下甕には口縁下と胴部にそれぞれ3条の沈線がめぐる。SJ0100甕棺墓を切って営まれたSJ0099甕棺墓の甕棺も二個の甕を合わせたものであるが、SJ0100甕棺墓と同じく弥生時代中期初頭のものと考えられる。

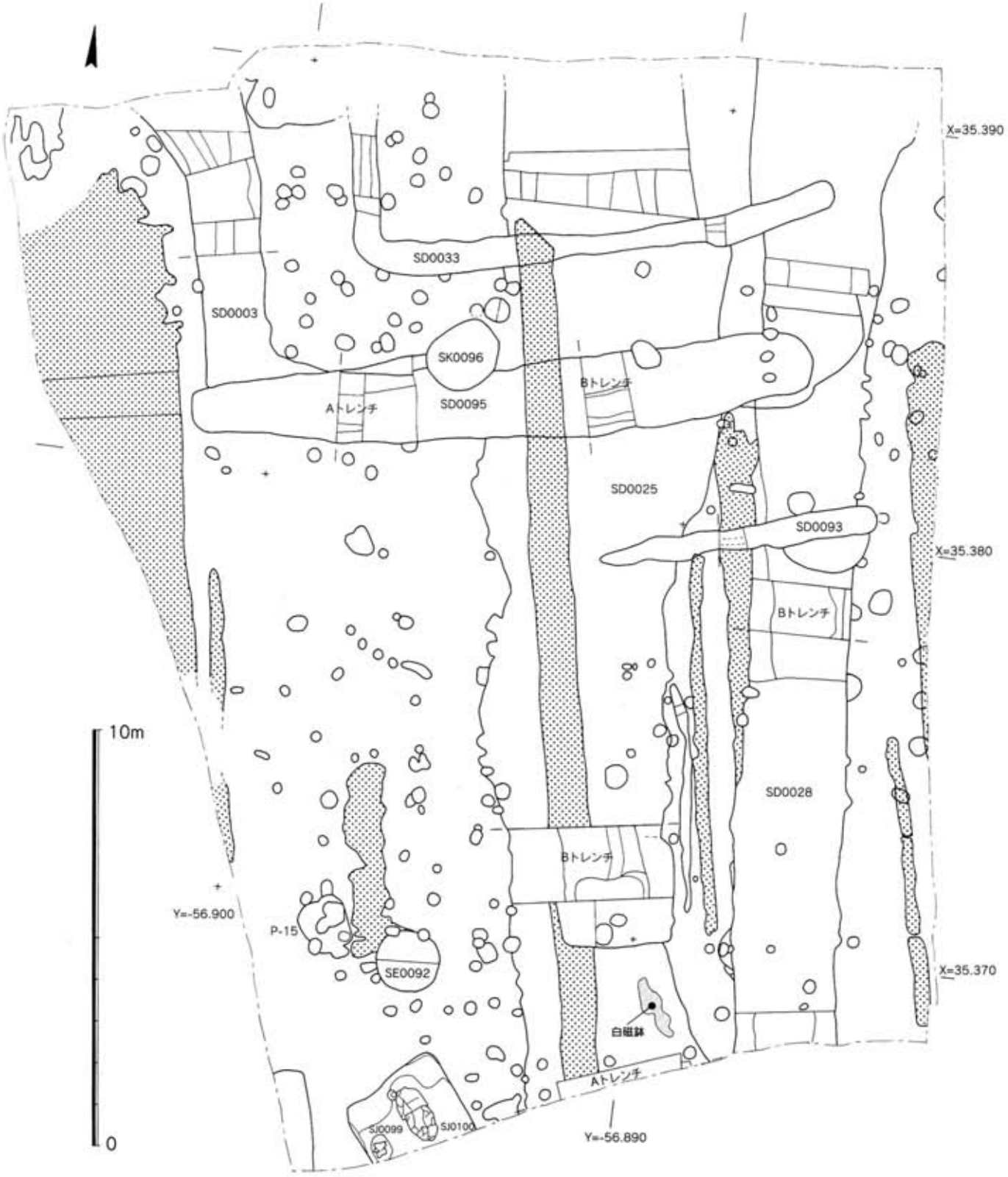


Fig.26 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 遺構分布図

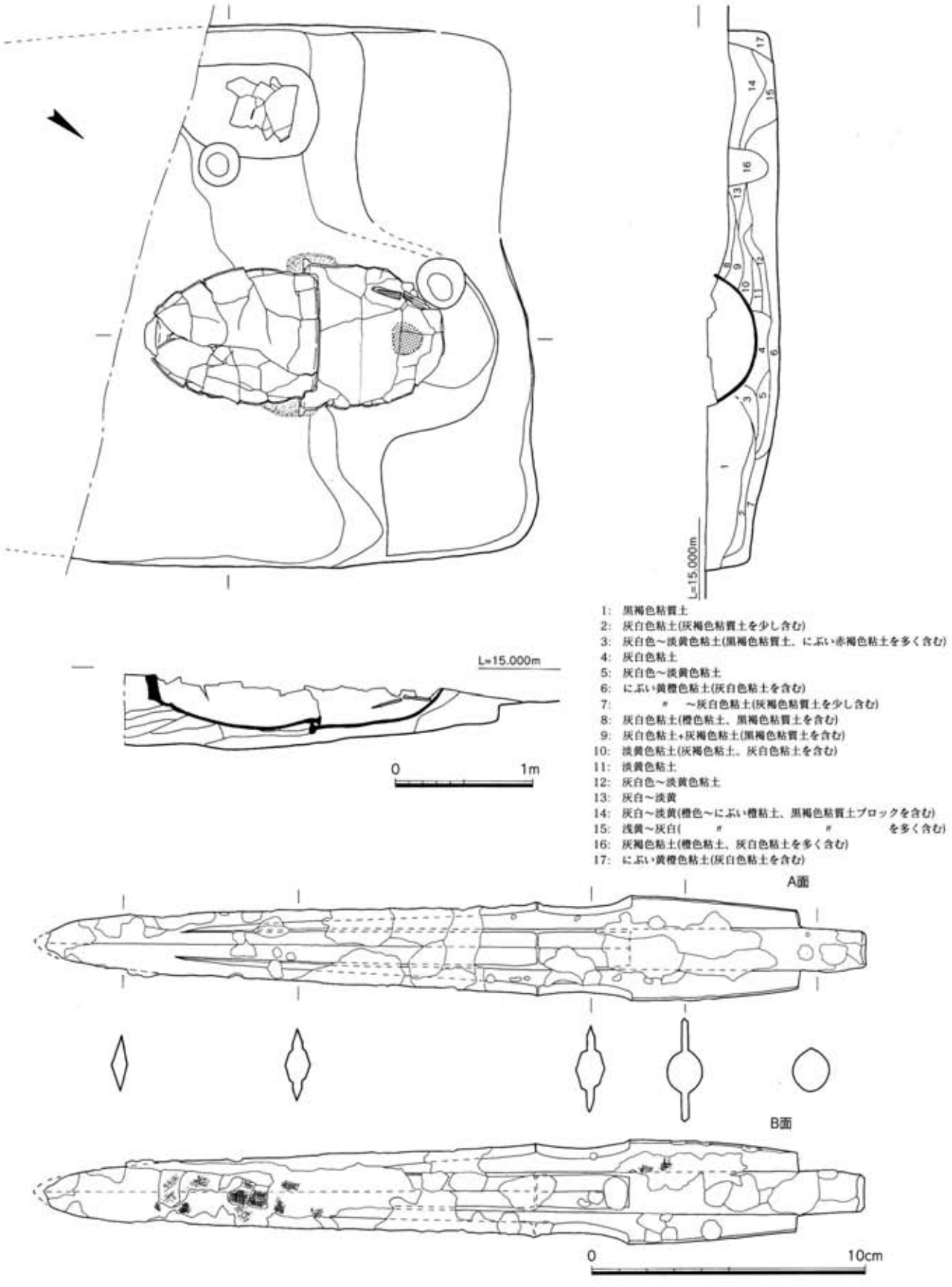


Fig.27 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SJ0100甕棺墓実測図・同甕棺墓出土細形銅剣実測図

SJ0100甕棺墓出土の細形銅剣（Fig.27、巻頭図版１）は二つに折れていた。切先先端をわずかに欠き、刃部も数箇所で欠損し刃毀れの状態となっているが、ほとんど完品である。A面は、切先から約10cm部分は暗緑色となっているが、そこから茎部までと錆膨れした部分と、B面のほとんどは灰色を帯びた薄い緑色となっている。B面の背部や関部には絹布と考えられる繊維片が付着（PL.23）していた。残存長29.7cm（推定30.0cm）、先端から2.8cm部分で幅1.92cm、９cm部分で幅2.57cm（厚さ0.78cm）、剣方先端部で幅3.36cm（厚さ1.12cm）、剣方下端部で幅3.75cm、関部で幅3.75cm、茎部基部で幅1.51cm（厚さ1.36cm）、重量は228gである。

ほかに小穴P-15出土の甕（21～25）・壺（26）がある。

中世の遺物としては、土師器や須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、銅銭・骨片などがある。SD0025溝跡（Fig.30）からは、多数の土師器の小皿（１～34・51・55～59）と杯（35～50・52・53・60・61）、土師器土鍋（62・63）、青磁の碗（65～66）・壺（64）・鉢（67）、白磁鉢（54）、陶器甕（68）や陶器壺（69）、銅銭（PL.24）などが出土した。青磁椀は龍泉窯産で12～13世紀、陶器甕は常滑産で13～14世紀のものと考えられる。

遺物集中部の遺物には小皿が69点、杯が31点、白磁が１点、銅銭が20点ある。小皿は計測可能なものが30点あまりあり、法量の平均値は、口径8.96cm、底径6.70cm、器高1.82cmで、杯は計測可能なものが70点あまりあり、法量の平均値は、口径14.21cm、底径8.89cm、器高3.63cmであった。これらの土師器の杯・小皿の中には、伏せて置かれた白磁の内側にあった杯２点（復元口径14.3cm器高2.7cmと復元口径13.8cm、器高3.8cm）と小皿１点（復元口径9.2cm、器高1.8cm）が含まれる。

白磁はベトナム産の鉢である。口径16.0cm、体部最大径17.3cm、器高6.2cm、底径7.4cmで、口縁部は内湾し、外の側面に列点状に擂座を貼り付けている。底部には鉄泥が塗られており、見込には目跡が５箇所みられる。色調は全体的には灰白色だが、釉が溜まった部分は緑色を帯びている。国内において完品として出土した初例である。

銅銭は、唐銭である「開元通寶」（始鋳618年：１点）、北宋銭である「至道元寶」（995年：１点）、「咸平元寶」

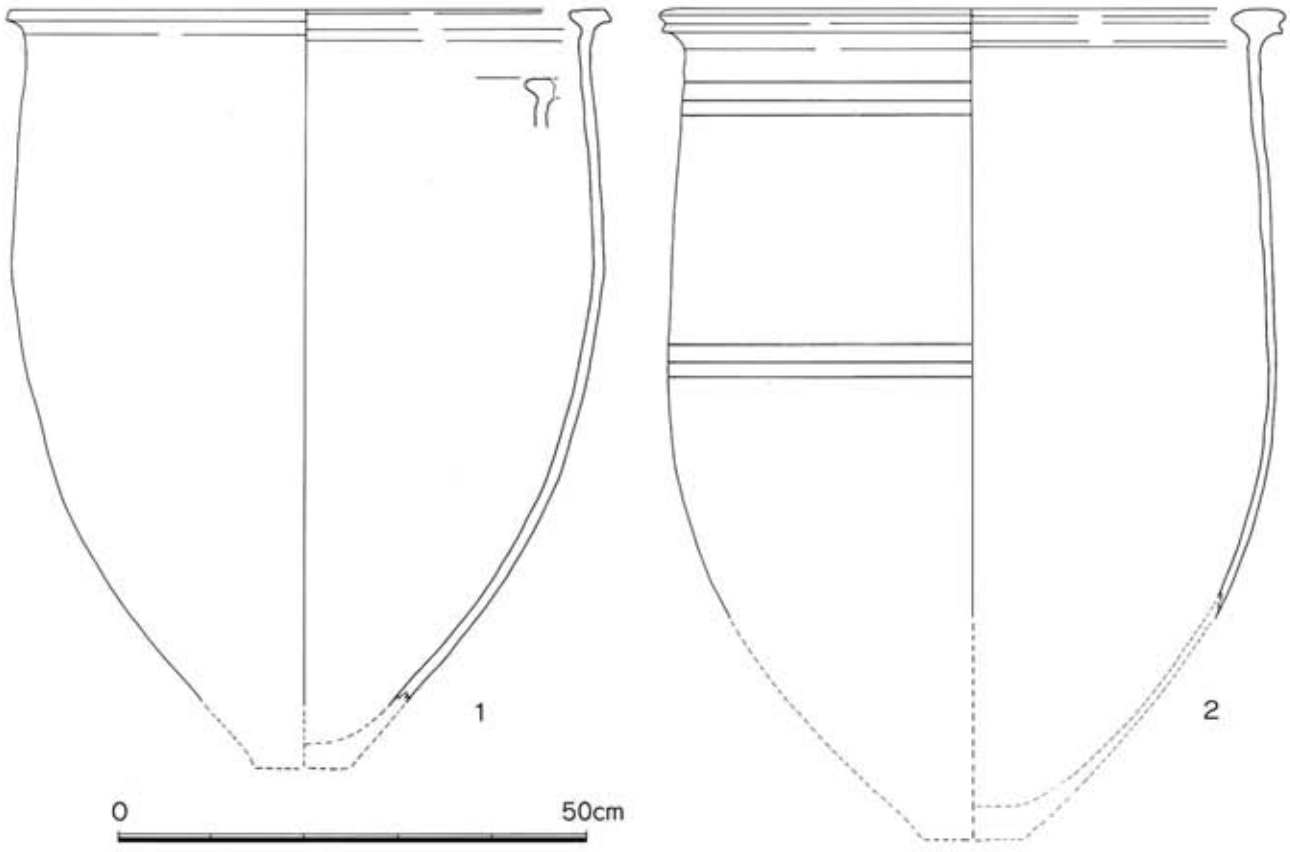


Fig.28 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SJ0100甕棺実測図

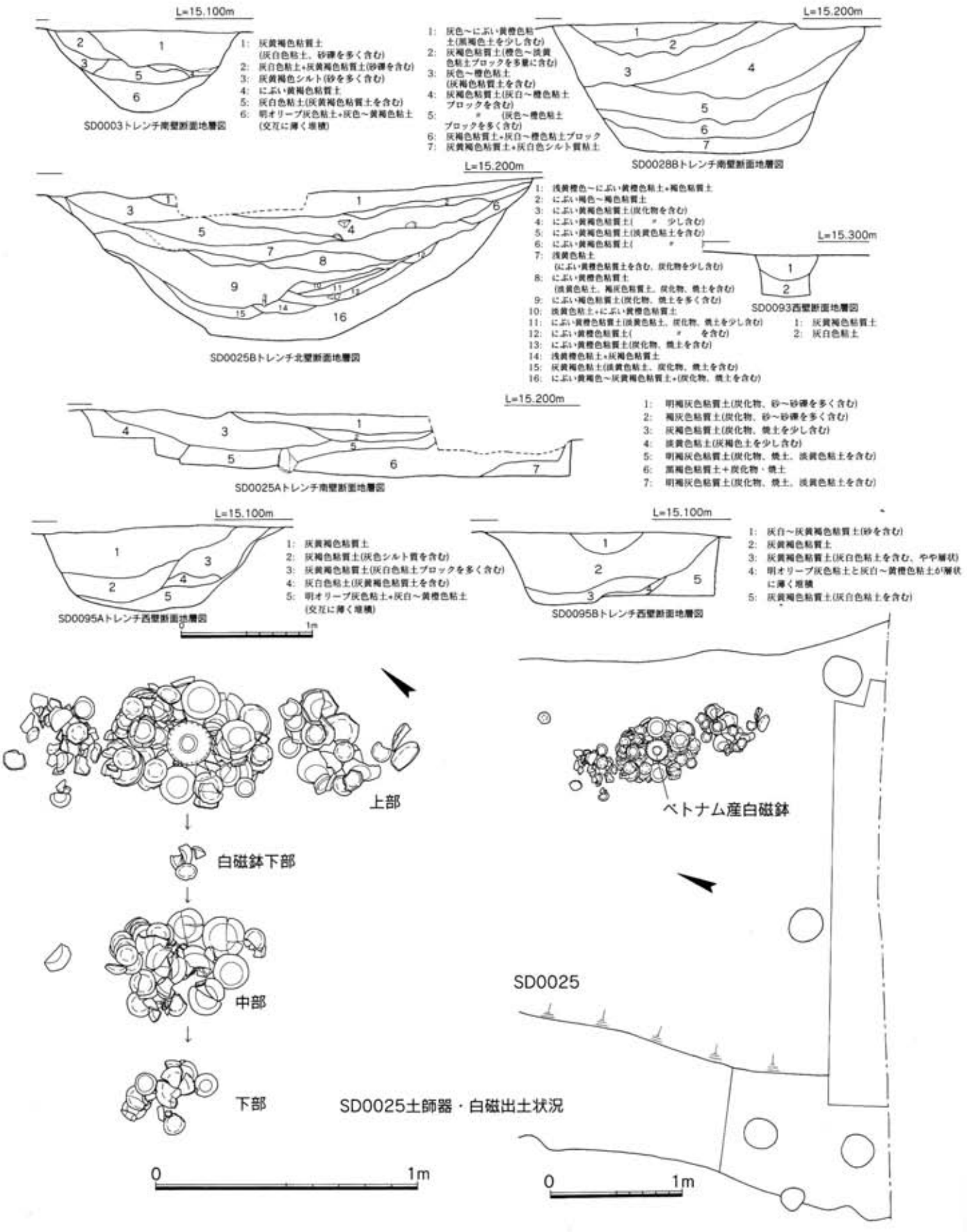


Fig.29 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 溝跡断面地層図・SD0025溝跡遺物出土状況実測図

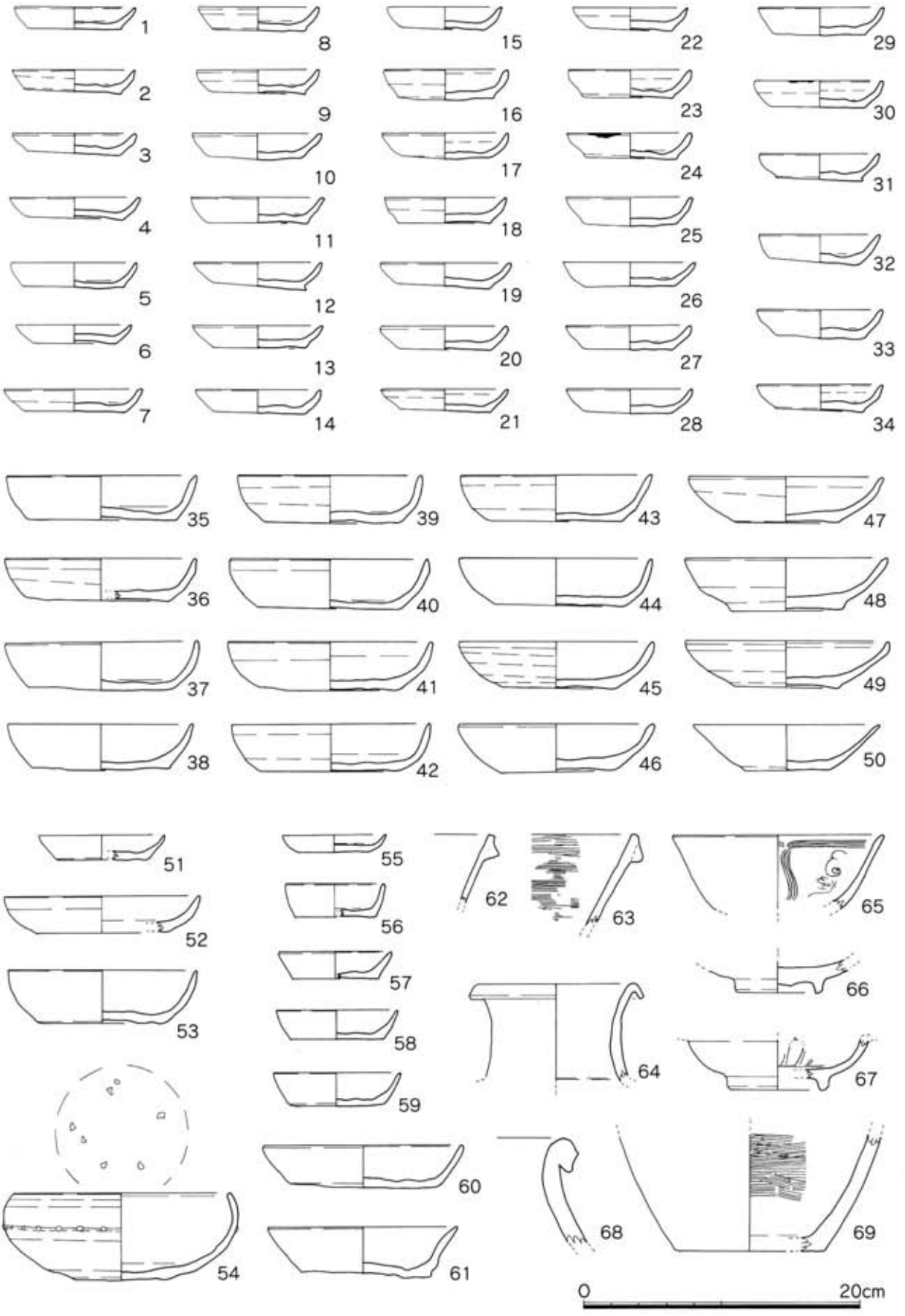


Fig.30 田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区 SD0025溝跡出土遺物実測図

(998年：1点)、「祥符通寶」(1008年：1点)、「天聖元寶」(1023年：2点)、「景祐元寶」(1034年：1点)、「皇宋通寶」(1039年：1点)、「熙寧元寶」(1068年：1点)、「元豊通寶」(1078年：5点)、「元祐通寶」(1086年：1点)、「紹聖元寶」(1094年：2点)、「政和通寶」(1111年：2点)、不明1点の計20点である。

その他の遺構から出土した遺物（Fig.31）として、SD0003溝跡出土の須恵器系捏鉢（1）と朝鮮陶器灰釉椀（2）、SD0028溝跡出土の土師器小皿（3～5）と瓦器椀（6）、須恵器系捏鉢（9・10）、中国産白磁の椀（7）・皿（8）、SE0092井戸跡出土の常滑産陶器甕（11）、SD0093溝跡出土の土師器の杯（12）や鍋（13・14）、瓦器椀（15）、中国越州窯系青磁椀（16）、朝鮮陶器皿（17）、平瓦（18）、SD0095溝跡出土の土師器鍋（19）や瓦質の鍋（20）などがある。また、小穴P-15からの出土遺物として弥生時代中期前半～中頃の甕（21～25）がある。25の小型甕には底部のすぐ上の体部に内から外に穿った孔がある。また、検出面から出土した遺物として、石包丁片3点、柱状片刃石斧1点がある。

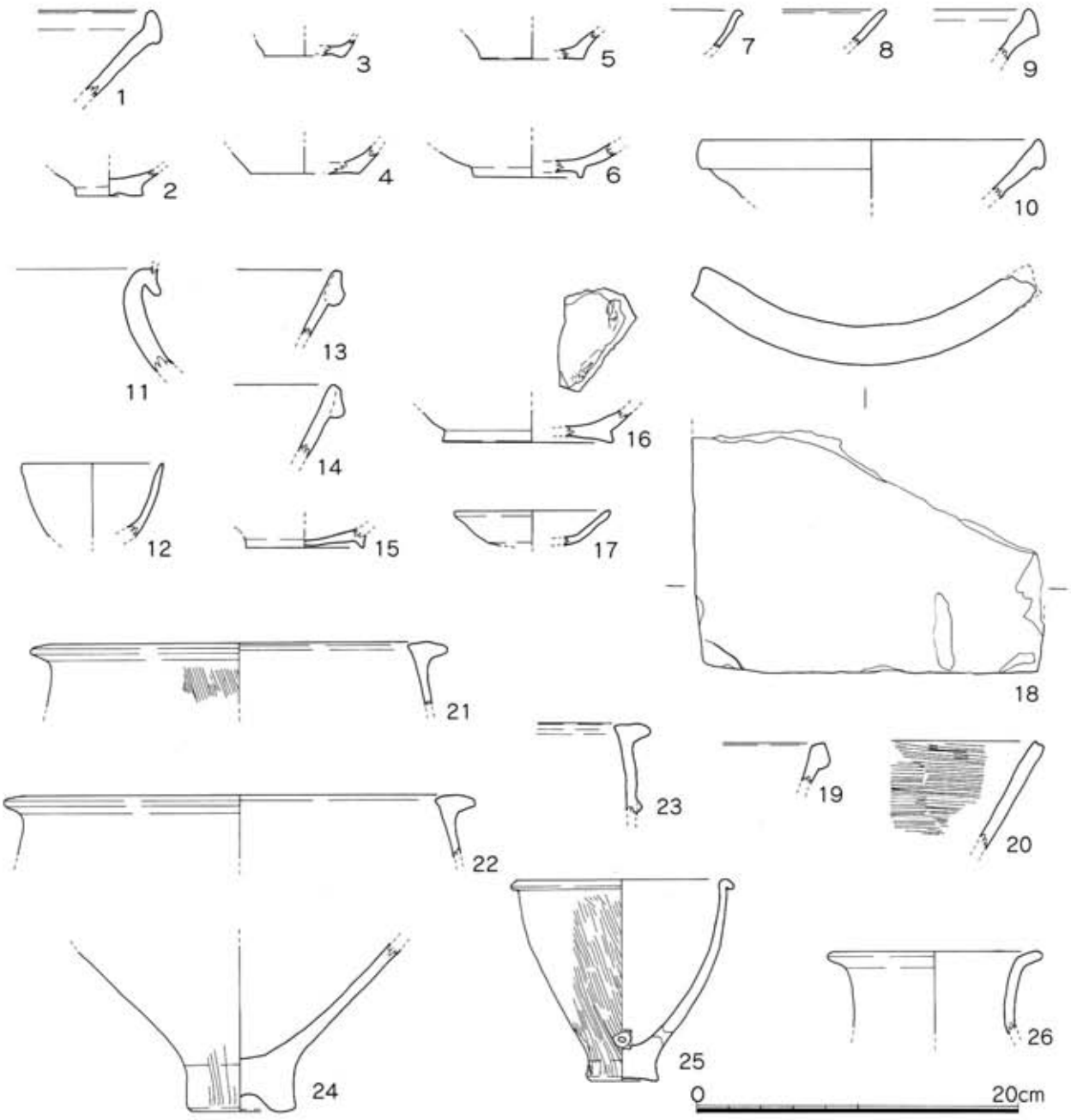


Fig.31　田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区出土遺物実測図

（5） 吉野ヶ里地区 II区 第330～337調査区の調査

国営歴史公園整備で盛土が計画されていたため、事前調査として旧神埼工業の工場敷地一帯に８箇所の調査区を設け確認調査を実施した。このうち第332・335・336調査区では極端な削平のためか遺構の存在は確認できなかった。

①遺構（Fig.32～34、PL.６・７）

第330調査区では、弥生時代中期初頭の貯蔵穴跡１基、中期と考えられる土坑墓２基と掘立柱建物跡３基、土坑数基が確認された。調査区南西部に位置するSK1412貯蔵穴跡は1.91m以上（推定1.94m）×1.46mの平面隅丸長方形で、深さ0.21mであった。内部からは柱状片刃石斧と扁平片刃石斧各１点が甕形土器や壺形土器の破片とともに出土した。SP1411土坑墓はSK1412貯蔵穴跡を切って存在している。長辺1.93m、短辺は西が0.80m、東が0.67mの長方形で、深さ0.16mであった。内部から石剣の先端部２点と石鏃５点が出土した。棺坑の小口幅が広い西側を被葬者の頭位と考えれば、被葬者の頭部南に石鏃１点（Fig.62-8）、左胸部に石剣切先片１点（9）、右胸部に石鏃１点（15）、腹部から腰部あたりに石剣切先付近１点（10）と石鏃３点（12～14）が出土したことになる。なお、石剣刃部片１点（11）は出土位置が不明である。剣や弓などの武器によって死に至った犠牲者の墳墓であったものと推定される。石器とともに弥生時代前期の壺形土器片や中期初頭の甕形土器片などが出土した。調査区南西部でSB1422掘立柱建物跡の南西隅の柱穴を切って存在する遺構も土坑墓と考えられる（SP1416）。長さ1.36m、幅は北で0.30m、南で0.25mの平面長方形で、深さは0.29m残存していた。小児の遺体を北頭位で埋葬したものと考えられる。中期初頭の甕形土器片が出土した。

掘立柱建物跡は、梁行１間×桁行２間のもの２基（SB1421・SB1422）と、梁行１間で桁行不明のもの１基（SB1468）がある。SB1421掘立柱建物跡は4.20m×5.08m規模で、柱掘方は平面方形と長方形のものがあるが、長方形のものの中には２段掘りのものもあり、深さが最大0.2mしか残存していないことから、正方形のものも元来段掘りの柱穴最下部であった可能性もある。３つの柱穴に柱痕跡が残るが、その径は0.17m～0.24mである。SB1422掘立柱建物跡は3.73m×5.05m規模で、柱掘方は正方形に近い長方形で、深さは最大0.20mしか残存していない。２つの柱穴で確認された柱痕跡の径は0.19mと0.20mであった。SB1468掘立柱建物跡は梁行3.76m規模で、柱掘方は平面正方形に近い長方形で、深さは0.18m残存していた。３基の掘立柱建物跡を構成する柱穴から出土した遺物は小破片であったが、７箇所の柱穴から前期末から中期初頭の甕形土器片が出土しており、その時期の建物跡であったと考えられる。

調査区東部には土坑が３基存在する。平面台形のSK1413土坑（1.41m×2.10m、深さ0.22m）、方形基調のSK1414土坑（1.40m×1.45m以上、深さ0.28m）、円形基調のSK1415土坑（1.72m×1.08m以上、深さ0.30m）である。SK1413土坑からは弥生時代中期初頭の甕形土器の口縁部と底部の破片が、SK1415土坑からは、奈良時代の須恵器の杯や蓋などが出土した。

第331調査区では、弥生時代後期前半の竪穴住居跡１基、奈良時代の土坑１基、弥生時代から奈良時代にかけての小穴群などが確認された。SH1417竪穴住居跡は、短辺5.00m、長辺7.50mの平面長方形で、深さは最も残っていた部分で0.52mであった。屋内の中央には0.58m×0.54mの隅丸方形の炉跡、南北の壁のすぐ内側には２個の柱穴が存在する。また東壁の中央には土坑があり、これに向かって壁溝が設けられているが、この壁溝は東壁で顕著であった。壁際土坑からは土器が一括して出土したが、南壁東寄りの位置から土製杓子が、南東隅に近い位置から小型の鉢形土器が出土した。奈良時代のSK1418土坑は、径1.2m程度の円形に近い平面形で、深さ0.48mの深い土坑である。奈良時代の須恵器などを出土した。

第333調査区では、古墳時代の竪穴住居跡１基、時期不明の土坑１基、小穴多数が確認された。平面方形と考えられるSH1419竪穴住居跡は、側壁の南東部分のみが遺存していただけで、詳細は不明である。SK1420土坑は、1.22m×1.00mの平面楕円形で、遺物は出土しなかった。小穴からは古墳時代から奈良時代にかけての須恵器片が出土した。第334調査区では、後世の削平が著しいため、少数の小穴が確認されたのみであった。小穴の一つから弥生土器か土師器と考えられる小破片が出土したのみである。第337調査区では、旧工場に付属した住

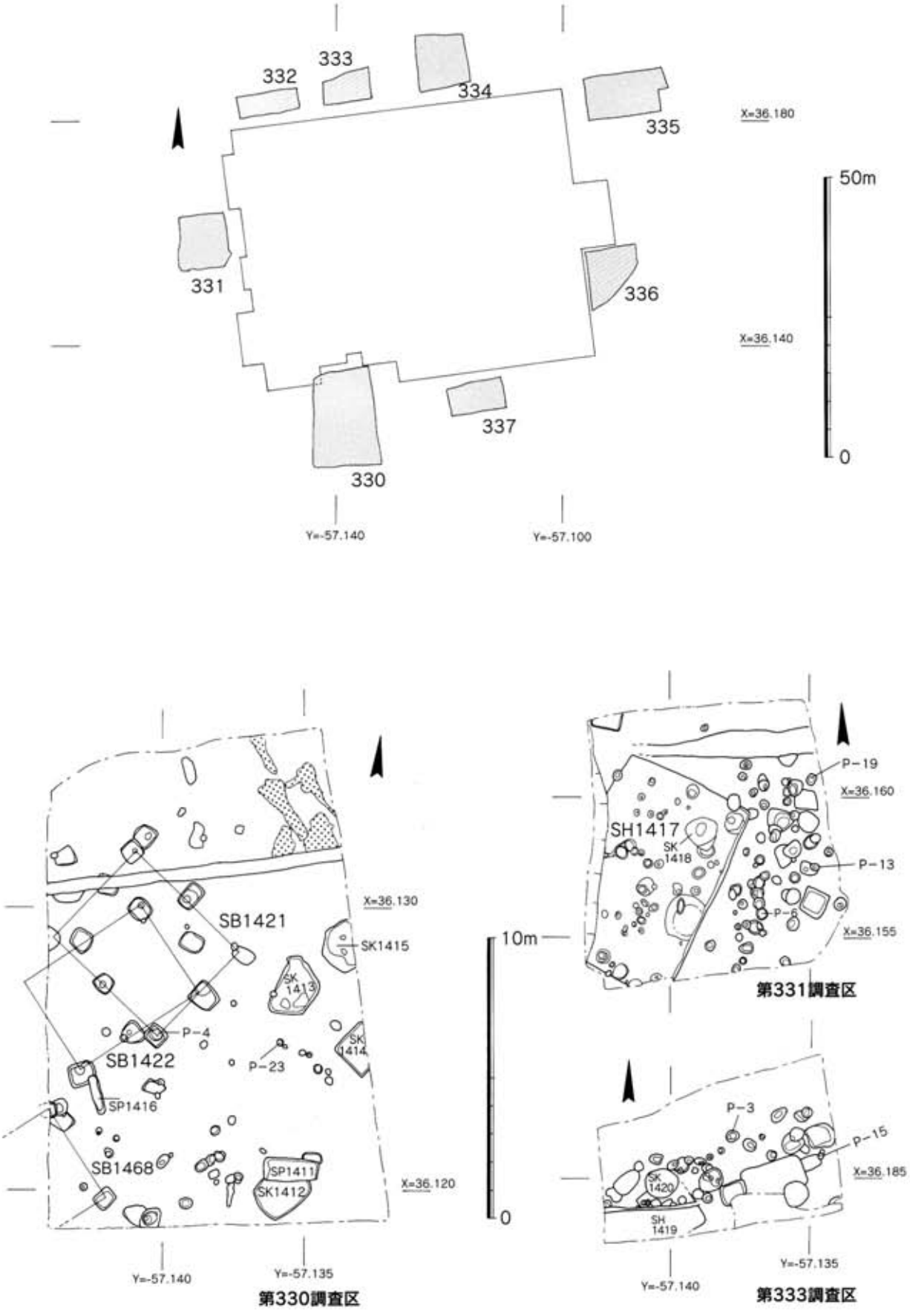


Fig.32 吉野ヶ里地区II区 第330～337調査区位置図・第330・331・333調査区 遺構分布図

居跡の基礎部分の間で、弥生時代の竪穴住居と考えられる遺構１基、弥生時代の土坑３基、弥生時代から平安時代にかけての小穴などが確認された。弥生時代の竪穴住居と考えられるSH1424住居跡は、平面方形基調で東西幅３m前後の規模である。内部からは弥生時代前期または中期初頭の土器片と黒曜石フレイク10点・サヌカイトフレイク６点などが出土した。土坑は全体が確認されたものはないが、すべて平面は楕円形基調と考えられ、長さ1.0m～1.5m程度の規模であったと考えられる。SH1424竪穴住居跡の北に重複するSK1469土坑は、0.7m×0.4m程度の平面楕円形の土坑で、平安時代の須恵器を出土した。

② 遺物（Fig.34・35・62・63、PL.26・30）

遺物としては、弥生土器や土師器、須恵器、土製品、石器がある。第330調査区出土の遺物（Fig.35）には、弥生土器や奈良時代の須恵器などがある。弥生土器としては、SP1411土坑墓出土の甕（１・２）・壺（３）SP1416出土の甕（９～11）、SK1412土坑出土の甕（４・５）・壺（６）、SK1413出土の甕（７・８）、小穴P-４出土の甕（12）、P-23出土の壺（13）がある。すべて磨耗がひどいが、前期末から中期初頭のものと考えられる。古墳時代末の遺物としては、SK1415土坑出土の蓋（14～16）・杯（17）などがある。また、石器としてはSK1412土坑出土の柱状片刃石斧（Fig.62-１）や扁平片刃石斧（Fig.62-２）、SP1416出土の石剣（Fig.62-９～11）や石鏃（Fig.62-８・12～15）がある。

第331調査区出土の遺物（Fig.35）には、弥生土器や古墳時代から奈良時代にかけての土師器・須恵器などがある。弥生時代の遺物としてSH1417竪穴住居跡（Fig.34）出土の弥生土器一括がある。甕（９～14）・壺（６・７）・鉢（２・３）・高杯（８）・器台（５）・鉢形手捏土器（１）・杓子（４）などがある。後期前半の良好な一括資料である。古墳時代末から奈良時代にかけての遺物としては、SK1418土坑出土の須恵器がある。杯蓋（18・19）・杯（20）・高杯脚部と考えられるもの（21）である。ほかに小穴P-６から土師器甕（22）が、P-13から須恵器杯蓋（23）が、P-19から須恵器の杯（25）と蓋（24）が、検出面からは須恵器の杯（29）や蓋（26・27）・皿（28）などが出土した。

第333調査区出土の遺物（Fig.35）には、古墳時代と奈良時代の須恵器や土師器がある。古墳時代の遺物としてSH1419竪穴住居跡出土の６世紀後半代の須恵器杯（32～34）・須恵器蓋（30・31）・土師器甕（35）がある。奈良時代の遺物としては、小穴P-３出土の須恵器杯（38）と小穴P-15出土の須恵器杯（36・37）がある。

第337調査区出土の遺物（Fig.35）には、弥生土器としてSH1424竪穴住居跡出土の前期末から中期初頭と考えられる甕（42）と壺（43）があり、SK1469土坑出土の平安時代前期と考えられる須恵器杯（39・40）と土師器甕（41）がある。

２．その他の調査

（１） 吉野ヶ里丘陵地区の調査

①Ⅲ区 第319調査区

擁壁工事のための確認調査であったため、当初５箇所のトレンチを設定して調査を行ったが、のちに全体を第319調査区とした。北から順にNo.１・No.２・No.３・No.４・No.５トレンチを設け調査したが、すべてのトレンチで遺構が確認された。No.１トレンチで弥生時代中期前半と考えられる貯蔵穴、No.２トレンチで弥生時代中期中頃の甕棺墓や中世の溝跡などが確認された。その他のトレンチでは、時期不明の小穴が数個確認されたのみであった。

No.１トレンチでは弥生時代前期の貯蔵穴跡１基と土坑が検出されたが、貯蔵穴跡は1.1m×1.6mの平面長方形で、深さは0.35m遺存していた。内部から甕形土器などが出土した。No.２トレンチからは弥生時代中期の甕棺墓と中世の大規模な溝跡１条を確認した。甕棺墓は小児用の小形の甕棺を用いたもので、中世の溝跡によって破壊されていた。中世の溝跡は断面逆台形で、幅約3.0mで深さは0.7m遺存していた。北東―南西方向を向いており、中世の土師器や陶磁器片などが出土した。

②Ⅶ区 第309調査区

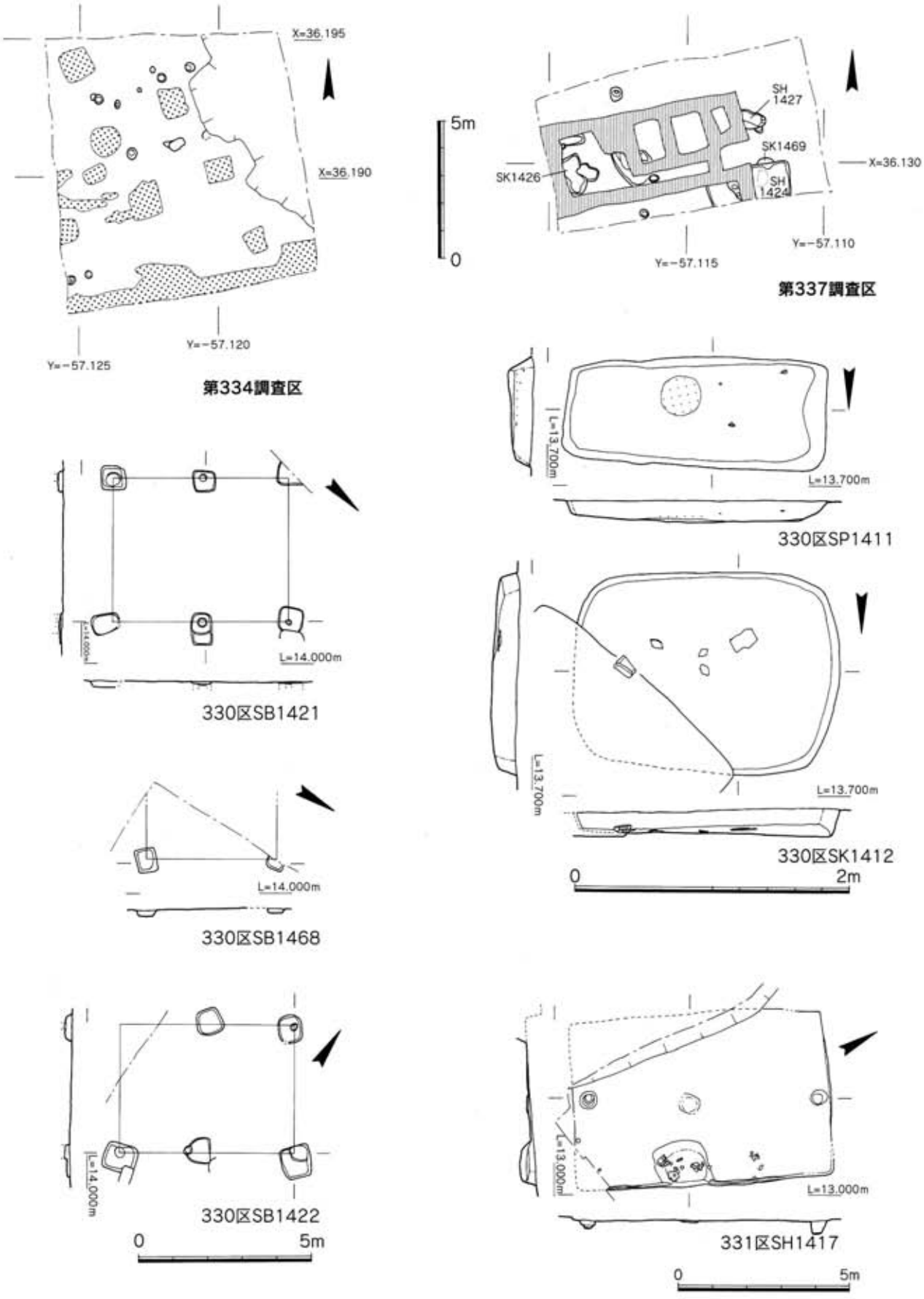


Fig.33 吉野ヶ里地区II区334・337調査区 遺構分布図、第330調査区掘立柱建物・土坑・土坑墓跡、第331調査区竪穴住居跡実測図

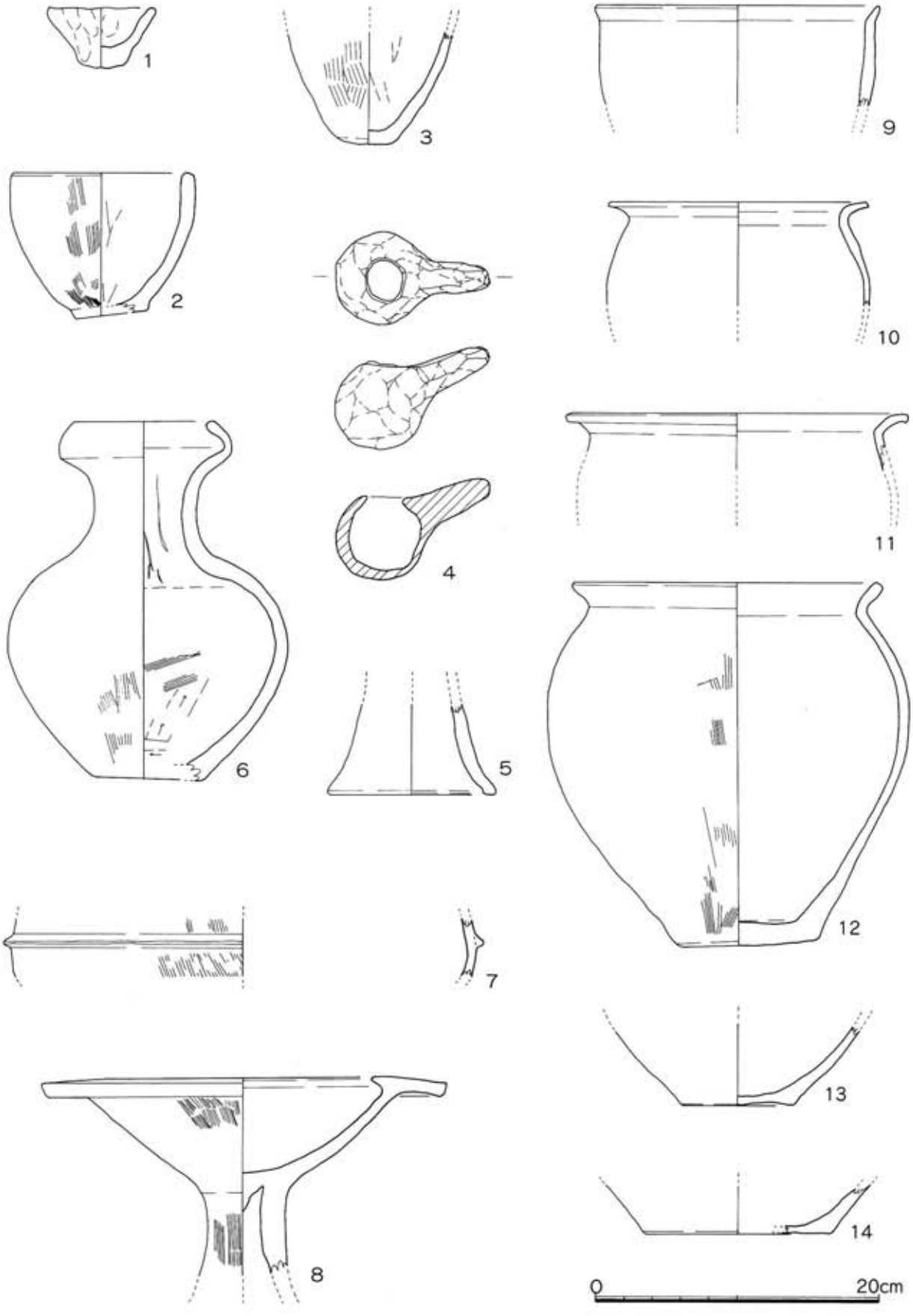


Fig.34　吉野ヶ里地区II区 第331調査区 SH1417竪穴住居跡出土遺物実測図

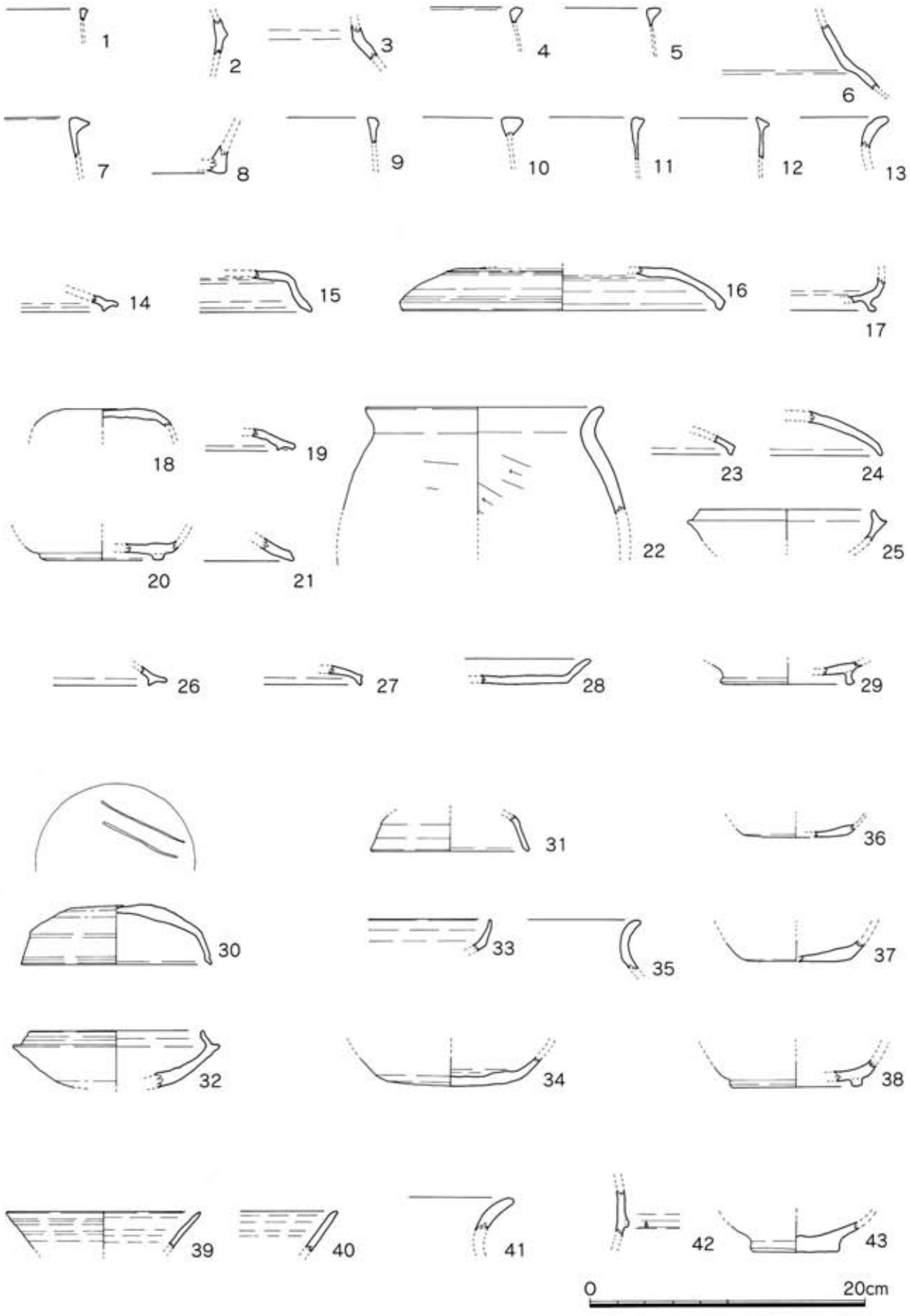


Fig.35 吉野ヶ里地区II区 第330・331・333・337調査区出土遺物実測図

遺構（Fig.36、PL.7・8）

弥生時代の谷地形、奈良時代の土坑、中世（戦国期）の掘立柱建物跡などが確認された。田手川右岸から丘陵に向かって谷状に入込む地形の第309調査区周辺では、以前の確認調査において弥生時代の人為的な掘削の可能性がある谷地形や「乱杭」状の柱穴群が確認されていた。これらの遺構についてより詳細な調査を行う予定であったが、上層に奈良時代や中世の遺構面が存在することが明らかになったため、これらについてはトレンチ調査しか行うことができなかった。

谷地形についてのトレンチ調査では、谷地形及びその周辺がほぼ同じような埋没状況であることが地層の検討から明らかになった。また、不明確ではあるが、谷地形の上部に沿うような溝跡が存在する可能性があり、弥生時代にある程度旧地形が改変され、掘削などの土木工事が行われたことが推定された。以前の確認調査や本調査においても、谷地形が埋没した地層から出土した土器は大部分が弥生時代中期ものであり、埋没時期を弥生時代中期と考えてきたが、古墳時代初頭の山陰系土器の出土などから、谷の埋没時期について再検討する必要がある。

奈良時代の遺構としては土坑１基がある。埋土には炭化物が多く含まれており、以前の周辺の確認調査や本調査において鉄滓が出土したことなどから、また、調査区北西部で焼けた面が平面半円上になると推定される遺構が存在しているなどから、奈良時代以降に製鉄関連の工房が存在していた可能性もある。

中世の遺構としては、掘立柱建物跡14基以上、土坑３基、井戸跡１基、溝状遺構１基が確認された。調査区周辺では中世のある時期に地形改変が行われており、調査区西側と南側に本来あったと考えられる丘陵を削り、周辺の低い部分を埋め立てて平坦に造成している。

掘立柱建物跡は調査区北東部へ入込む谷頭に沿うように分布しているが、特に南西部に集中している。建物跡群は建物方向によってN—38°—W方向（第１群）と、N—30°—W方向（第２群）、それ以外（N—5°—W・N—22°—W・N—34°—W方向）の３群に大別できる。第１群は、南西側に桁を揃えた２間×６間規模のSB2158建物跡（4.8m×11.4m）とSB2178建物跡（4.2m×11.0m）の２棟が並んで存在し、SB2158建物跡の北東方に２間×４間規模のSB2159建物跡（5.1m×8.8m）、SB2178建物跡の北東方に２間以上×４間規模のSB2179建物跡（推定4.2m×7.2m）が存在する。第２群は、調査区南西部に３間×８間（１間庇付き）規模の大型のSB2148建物跡（6.3m×15.7m、北東庇2.1m）が存在し、その南西側に２間×４間規模のSB2155建物跡（4.2m×7.2m）とSB2154建物跡（3.6m×7.2m）が、北東側に１間×３間規模のSB2157建物跡（4.2m×5.4m）と３間×４間（平面方形）規模のSB2128建物跡（6.3m×7.2m）の２基が存在する。また、大型のSB2148建物跡の北西至近に存在する３間×６間規模のSB2149建物跡（6.3m×12.6m）は、やや西に傾くものの、この第２群に属する可能性がある。第１群、第２群ともこれらの建物跡と重複したものを除き同時に存在していた可能性がある。そのほか，２間×４間規模のSB2143建物跡（3.6m×8.1m）・2144建物跡（3.6m×7.2m）や、３間×４間規模のSB2146建物跡（6.3m×8.4m）などは、造成された谷頭に沿うように分布している。

掘立柱建物跡の時期については、柱掘方が未発掘のため不明であるが、掘方同士の重複関係、土坑との重複関係、柱掘方確認時の出土遺物などから、掘方の平面が方形基調のものが16世紀後半から17世紀初頭、掘方が円形基調のものが16世紀後半以前にさかのぼる可能性が高い。

遺物（Fig.37・38・63、PL.26・30）

遺物には、弥生土器や朝鮮半島系無文土器、陶磁器などがある。溝跡や土坑・柱穴などの遺構に伴うもの（Fig.37）としては、SD2150溝跡出土の土師器（１～７）や瓦器（８）、SK2151土坑出土の土師器（９・13～15）や須恵器（10～12）、SK2152土坑出土の土師器（20）や陶磁器（16～19）、柱穴出土の土師器（22～24、26～37、40・41）や須恵器（25・42）、瓦器（38・39）、磁器（21・43）などがある。SD2150溝跡出土の土師器小皿は口径6.4cm・器高1.7cm前後、杯は口径11.3cm・器高3.2cm前後で、体部が大きく開く16世紀前半の特徴をもつ。SK2152土坑出土の陶器（16）は初期唐津の皿で、胎土目積み段階のものである。柱穴出土の土師器の小皿や杯は９世紀から16世紀にかけてのもので、中国景徳鎮窯の染付皿（43）も存在する。また、小穴のひとつ（P-70）出土の土鈴（Fig.63-23）がある。

Fig.36 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 遺構分布図

遺構に伴わないもの（Fig.38）としては、地層観察のために設置したB・C・E・D・J・Kトレンチから出土した弥生土器（4～7、9～12）や土師器（3・8・13・16・17）、須恵器（1・2・18・19）、陶磁器（14・15）や、遺構検出時に出土した朝鮮半島系無文土器（20）や土師器（21～35）、陶磁器（36～38）、などがある。二重口縁壺（8）は中国地方系統のもので肩部に櫛描き波状文を巡らせる。青磁椀（14）は中国龍泉窯、陶器甕（15）は備前窯産である。土師器の小皿と杯は16世紀の形態をもつものが多い。白磁小皿（36・37）は近世の肥前磁器で、磁器（38）は福建窯系と考えられる染付である。その他、土弾や紡錘車、土錘、土鈴などがある（Fig.63）。

③Ⅶ区 第312～315・320調査区

遺構（Fig.39、PL.9・10）

第312～315調査区は、第309調査区で地形の改変と中世の掘立柱建物跡群が確認されたため、これらと関連する中世の曲輪と推定される部分にトレンチ4箇所を設けて調査したが、第312調査区からは弥生時代中期前半の甕棺墓1基と弥生時代後期と推定される竪穴住居跡1基が、第315調査区からは弥生時代中期の平面円形の竪穴住居跡2基以上が確認されたほか、すべての調査区から小穴などが確認された。なお、第313・314調査区を設けて調査した部分は造成面と考えられ、中世以前の遺構は確認できなかった。

第312調査区の北部に位置するSJ2087甕棺墓は弥生時代中期前半の墳墓で、上部を大きく破壊されていたが、幅1.2m前後の墓坑に2個の甕がほぼ水平に埋置されていた。弥生時代後期に属すると考えられるSH2088竪穴住居跡は遺存状態が悪いため規模は不明であるが、平面長方形であったものと考えられる。

第315調査区北端に位置するSH2100竪穴住居跡は、中期前半から中頃のものと考えられる。推定径3.90mの平面円形で、中央に両側に小穴が付属する平面楕円形の土坑と、壁際に沿って柱穴が巡っている。調査区南端に位置するSH2099竪穴住居跡は隅丸方形に近い平面円形で、おそらく中期に属するものと考えられる。調査区の中央やや南寄りに位置するSK2092土坑は、推定長1.65m、推定幅1.18mの断面隅丸長方形の土坑で、一帯の竪穴住居跡と同時期の貯蔵穴と考えられる。他にSK2093・2094・2095・2097土坑など、長さ1.0～1.5m程度の平面長方形の土坑や、調査区北部の西側隅で東肩のみが確認されたSD2098溝跡などが存在するが、いずれも中世に属する土坑である。

第320調査区では、弥生時代中期前半の平面円形の竪穴住居跡2基、弥生時代中期後半から後期のものと考えられる平面長方形の竪穴住居跡7基、中期前半の貯蔵穴跡2基などがある。竪穴住居跡は中世や現代など後世の破壊によって遺存状態が悪い。調査区北東部に位置するSH2100竪穴住居跡は第315調査区北端の竪穴住居跡と同一のものである。北東隅に位置するSH2165竪穴住居跡は径4.5m前後の平面円形で、その南に位置するSH2162竪穴住居跡も平面円形であったものと考えられる。平面円形住居跡からは弥生時代中期前半から中頃にかけての土器片が出土した。平面方形基調の7基のうちSH2164・2168・2169竪穴住居跡は、幅がそれぞれ3.40m・3.03m・2.90mである。平面方形基調の竪穴住居跡は出土土器から後期後半を中心とした時期のものと考えられる。本調査の結果とこれまでの様々な調査成果を総合すると、現在の田手川に近い丘陵東斜面にも、丘陵上と同じく弥生時代中期の集落と弥生時代後期の集落が存在したことが明らかになった。

中世の遺構としては、掘立柱建物跡2基（いずれも梁行1間と考えられる）のものと考えられる柱穴、土坑1基、階段状遺構1基、道路状遺構1基が確認された。階段状遺構は廃棄された状態ではあったが、ステップになると思われる部分に礎石が集中していた。SX2098道路状遺構は不定形な溝状遺構が数条重複して確認されたもので、側溝であった可能性がある。これら中世の遺構からは国産の土師器・瓦器とともに、唐津の陶器、中国産陶磁器などが出土している。また、鋳造に用いる取瓶状の土製容器なども出土した。特に一帯からの肥前陶器と中国産磁器の出土数が多いことは注目される。一帯に中世後期の屋敷地が存在していたことが推定される。

遺物（Fig.40～42、PL.27）

第314調査区出土の遺物には、SK2090土坑出土の壺（Fig.40-9）がある。

第315調査区出土の遺物（Fig.40）には、弥生土器や土師器・瓦器・陶磁器などがある。SH2100竪穴住居跡とSK2092土坑出土の弥生土器甕・壺・鉢・蓋（1～8・10・11）、SK2093土坑出土の瓦器火鉢

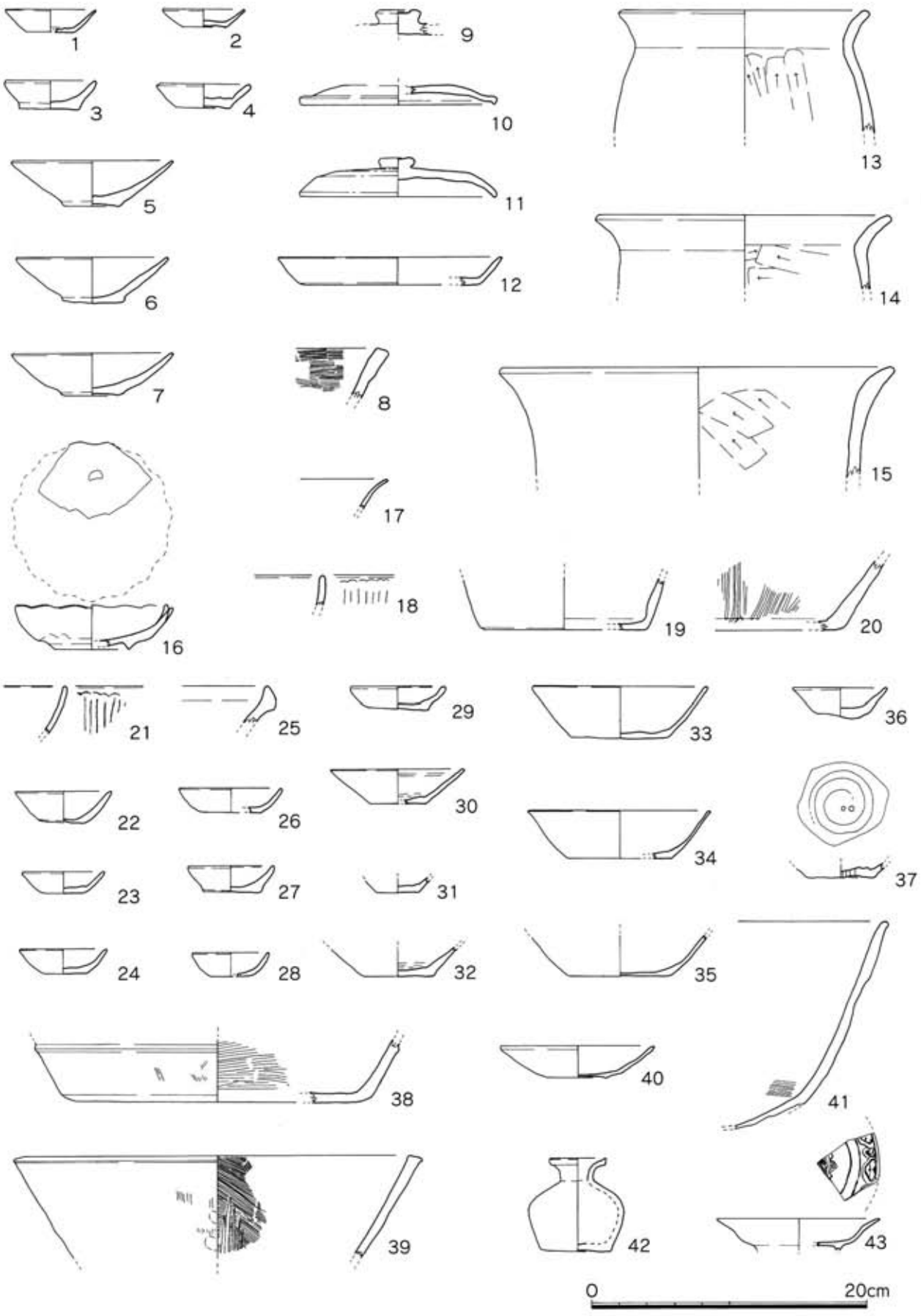


Fig.37 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 出土遺物実測図（1）

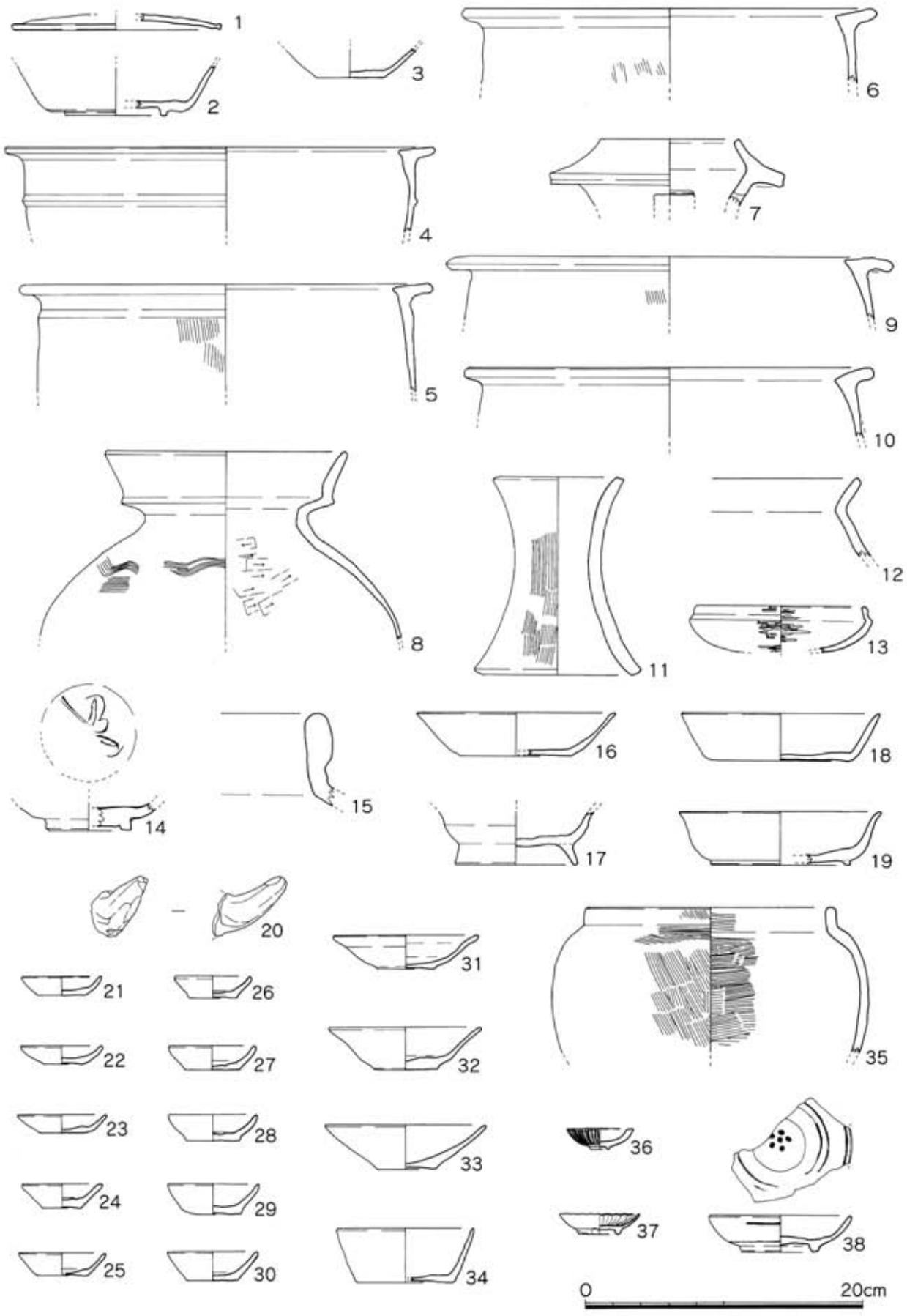


Fig.38 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第309調査区 出土遺物実測図（2）

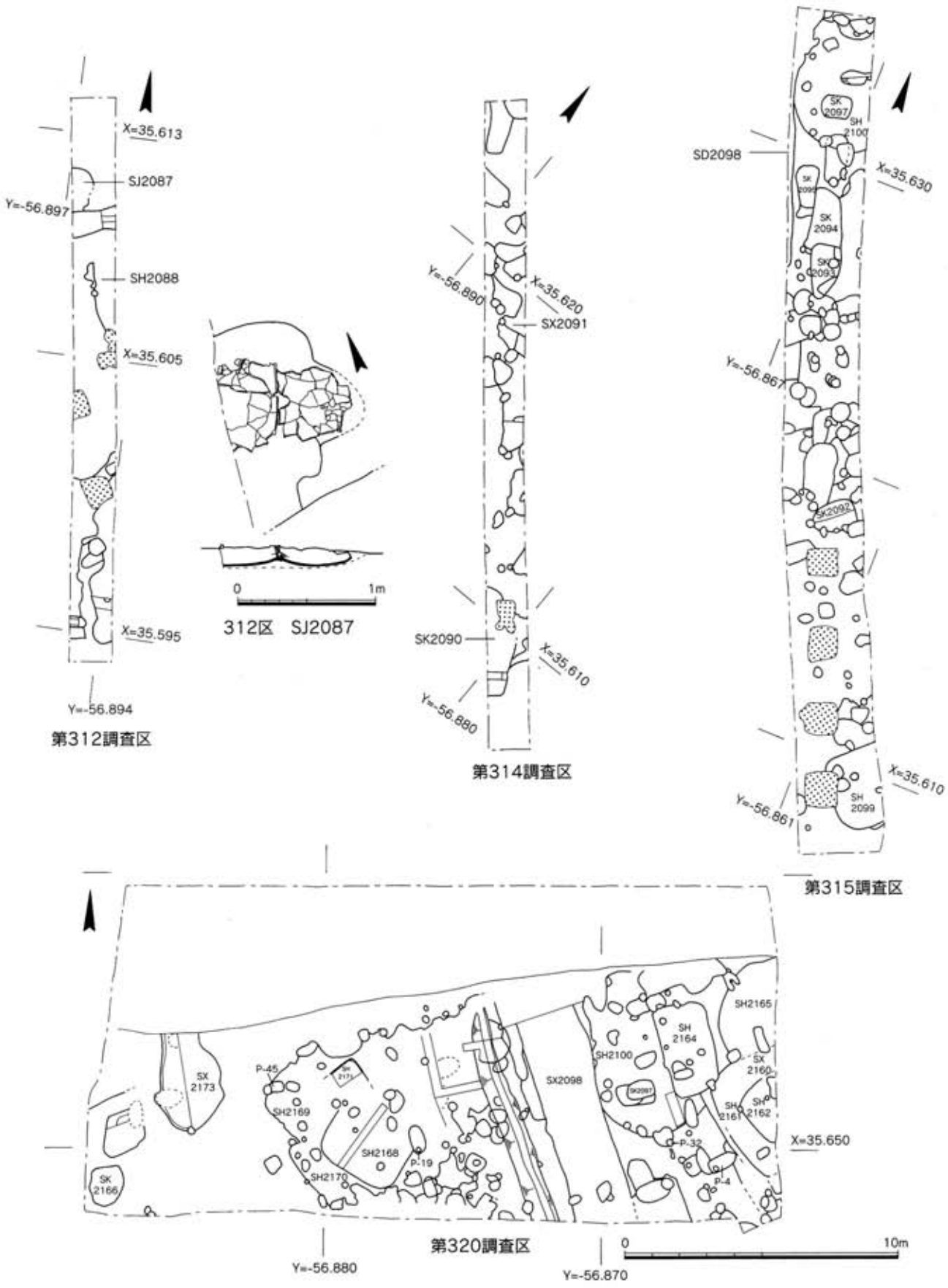


Fig.39 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第312・314・315・320調査区 遺構分布図、第312調査区SJ2087甕棺墓実測図

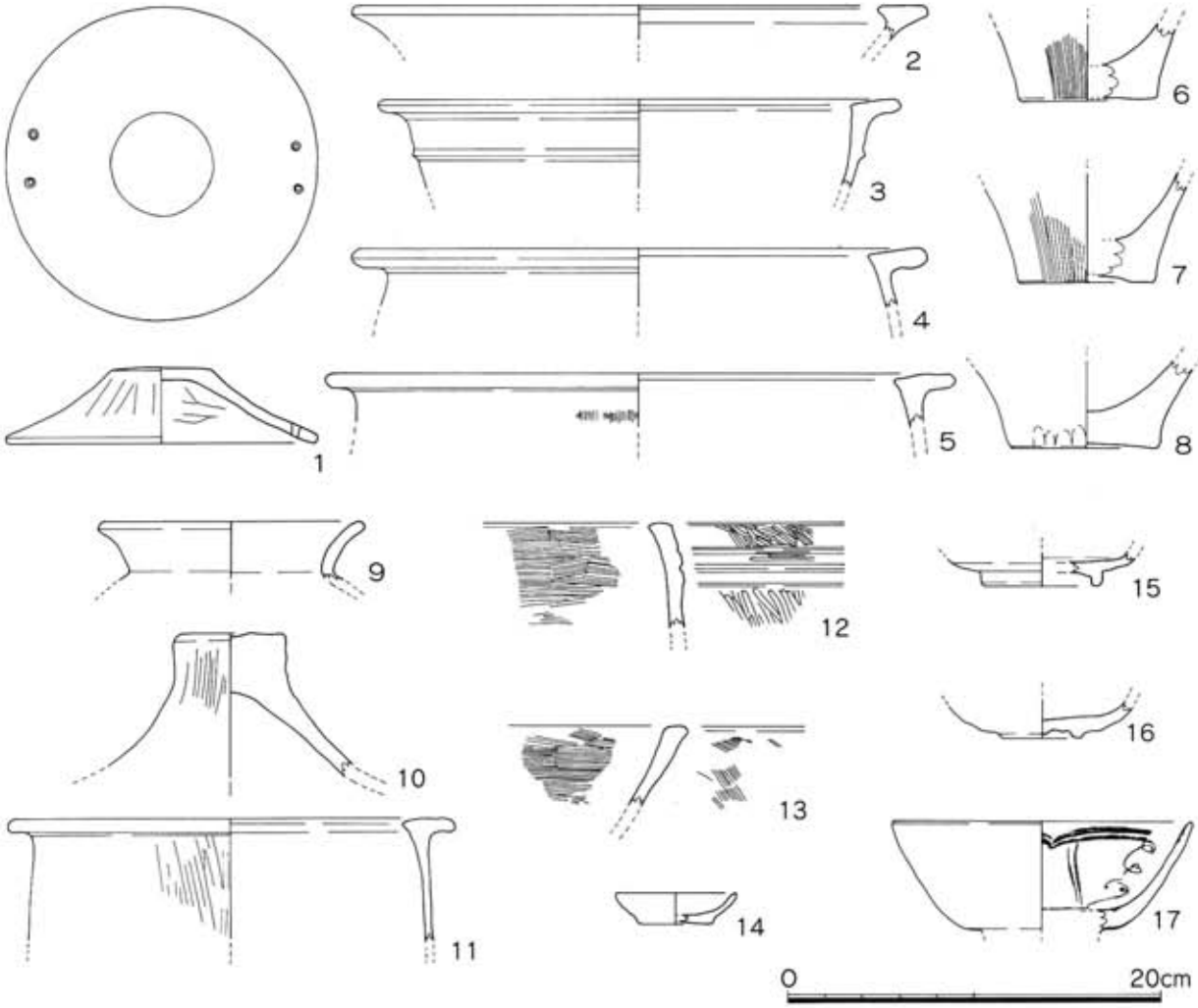


Fig.40 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第315調査区出土遺物実測図

(12)、SK2094土坑出土の中国産青磁稜花皿 (15) ・肥前陶器椀 (16)、SK2095土坑出土の瓦器鉢 (13)、SK2097土坑出土の土師器小皿 (14)、SD2098溝跡出土の中国龍泉窯系青磁椀 (17) などがある。

第320調査区出土遺物 (Fig.41・42) には、弥生土器や土師器、瓦器、陶磁器などがある。SH2162竪穴住居跡出土 (Fig.41) の弥生土器甕・壺 (10・12～14)、SH2165竪穴住居跡出土の弥生土器甕 (1)、SH2168竪穴住居跡出土の弥生土器甕・壺・鉢・蓋 (2・3・5～9)、SH2171竪穴住居跡出土の弥生土器甕・鉢 (21～25)、SX2173遺構出土の弥生土器甕 (26～28)、SK2166土坑出土の土師器小皿 (15) ・瓦器鍋 (18・19) や擂鉢 (20) ・肥前陶器皿 (16)、SX2098遺構出土の土師器小皿 (29～31)、土師器や瓦器の鍋 (32～37) ・須恵器杯 (42) ・瓦器擂鉢 (40・41) ・肥前陶器の皿 (16、44～47)、肥前陶器椀 (43) ・中国産白磁皿 (48) や椀 (49) ・龍泉窯系青磁椀 (51) ・中国明代の景徳鎮窯と考えられる染付皿 (50) などがある。44の肥前陶器は胎土目積み段階の初期唐津である。

土坑上の不明遺構出土遺物として、SX2160不明遺構出土 (Fig.42) の弥生土器甕 (1) ・壺 (2) ・鉢 (3)、SX2173不明遺構出土の土師器小皿 (4～6) ・土師器や瓦器の鍋 (10～12) ・擂鉢 (13～15) ・火鉢 (16・17) ・羽釜 (7～9) ・取瓶状土製品 (18・19) ・肥前陶器の椀 (22) や皿 (24) ・中国産染付皿 (20・21・23) などがある。その他、小穴P-4出土の肥前陶器椀 (25) や手捏土器 (26)、小穴P-19出土の土師器小皿 (28)、小穴P-45出土の中国産白磁皿 (29)、小穴P-32出土の中国景徳鎮窯の染付皿 (30) などがある。また遺構検出中に出土した遺物として、土師器の杯・小皿 (31～34)、取瓶状土製品 (35～37)、肥前陶器皿 (38・41) や、中国産白磁の椀 (39・40) や水注 (46) ・景徳鎮窯と考えられる染付皿 (42～45) などがある。

④Ⅶ区 第321・322調査区

遺構 (Fig.43、PL.11)

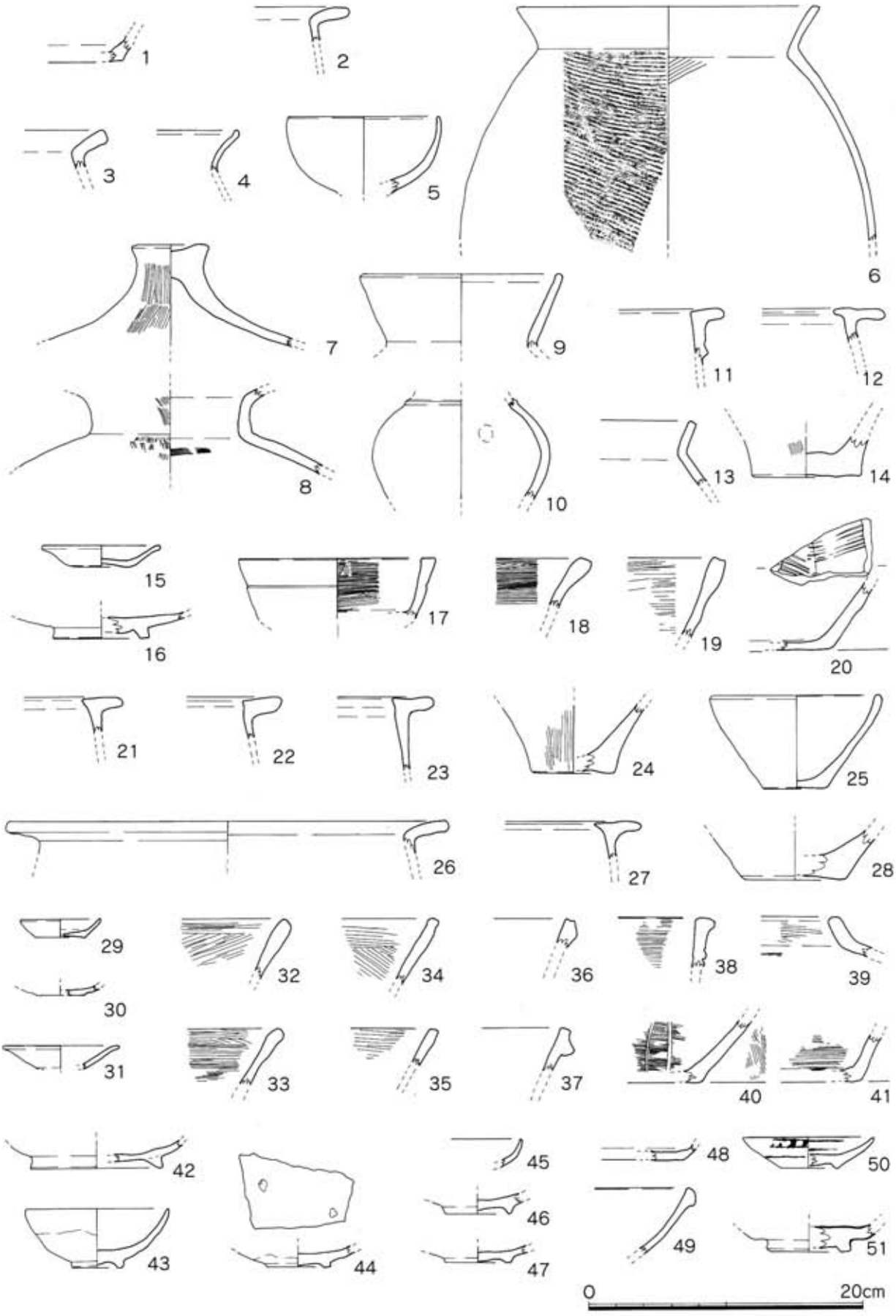


Fig.41　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第320調査区出土遺物実測図（1）

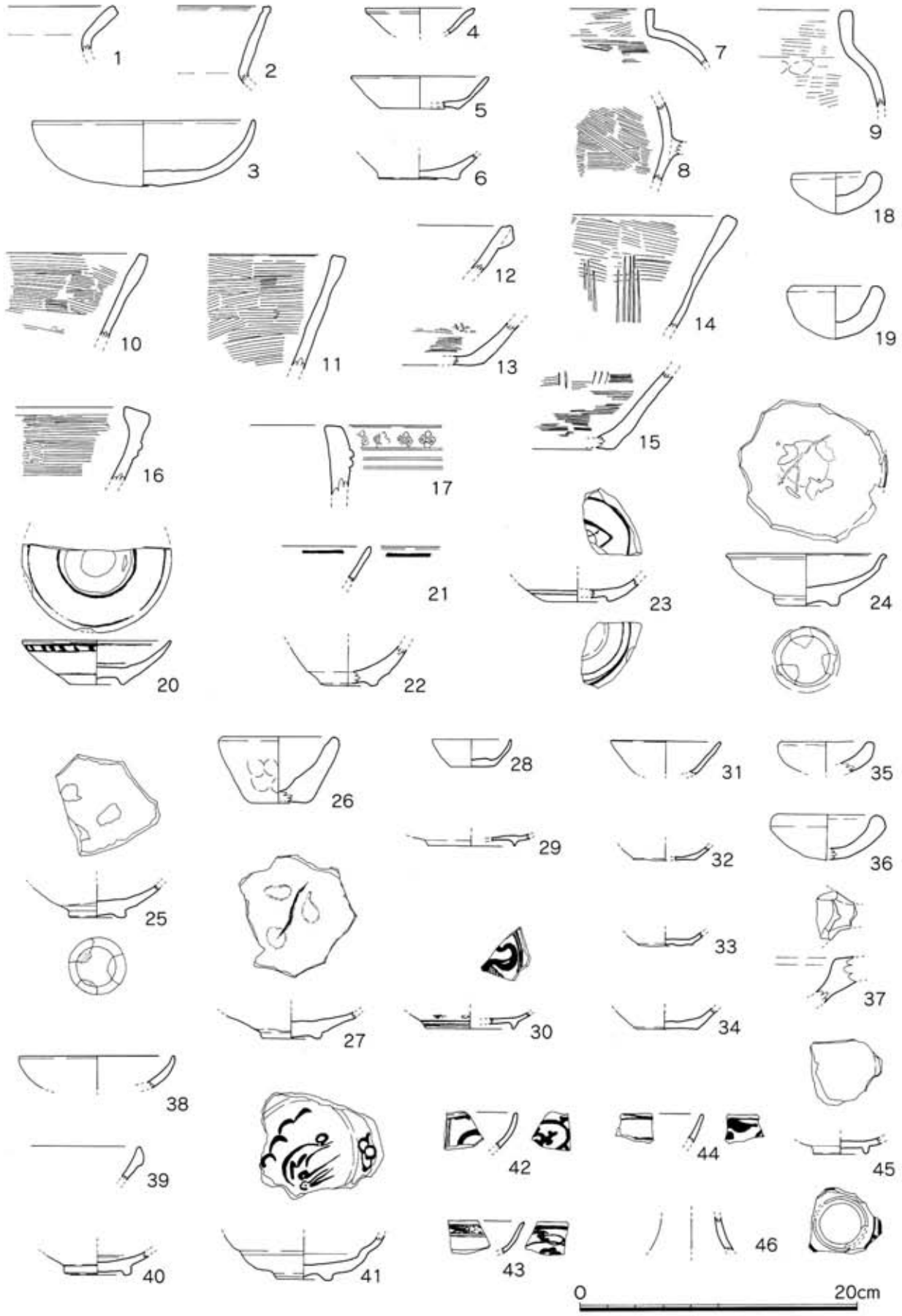


Fig.42　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第320調査区出土遺物実測図（2）

弥生時代の遺構としては、第321調査区から第322調査区へ連続する溝跡１条が確認された。SD2176溝跡は最大幅2.7m、深さ0.9mの断面U字形で、丘陵裾部に沿って存在している。埋土上層から弥生時代後期前半～後期後半に属する土器が出土したことから、後期後半には埋没した可能性がある。中世に属すると考えられる遺構としては、第321調査区で掘立柱建物を構成する可能性のある平面長方形や方形の柱穴が確認されたのみである。

遺物（Fig.44・61・63、PL.27）

遺物には、SD2176溝跡出土の弥生土器（Fig.44）や石器、土弾（Fig.63-6）などがある。第321調査区SD2176溝跡のAトレンチ出土の弥生土器には甕（1～4・6・7）、壺（5）、Bトレンチ上層出土土器には甕（8・9）・壺（10・11）が、中層出土土器・土製品には甕（12～14・19・20）・鉢（15・16）・器台（17）・支脚（18）が、下層出土土器には、甕（25～28）、壺（22～24）、鉢（21）がある。また、第322調査区SD2176溝跡出土の土器には、Bトレンチ出土の甕（30・31）と鉢（29）がある。下層の土器群は、弥生時代後期前半のものが大半であり、この溝の掘削時期を知る手がかりとなる。

（2） 田手二本黒木地区の調査

①Ⅲ区 第323・343・354～357調査区

遺構（Fig.45・50・53、PL.12～14）

第323調査区（Fig.45）では、弥生時代の遺構として溝跡１条、竪穴住居跡８基、土坑20基以上などが確認された。SD0465溝跡は弥生時代前期前半代のもので、断面逆台形で、幅約1.6m、深さ約1.0mであった。溝跡の規模や断面形態、出土土器の様相などは、南南西約150mに位置する先に述べた田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区南端のSD0245溝跡や、平成17年度に補助事業として実施した北西約150mの位置（第375調査区）で確認されたものと類似しており、一連のものであった可能性もあるが、それらの間での確認作業を今後行う必要がある。竪穴住居跡は全体的に残存状態が悪く、床部分しか残っていないものもあった。中期前半から後期にかけてのもので、ほとんどの住居跡で主柱穴や炉跡が確認できていない。後期終末期と考えられるSH0480竪穴住居跡は、一

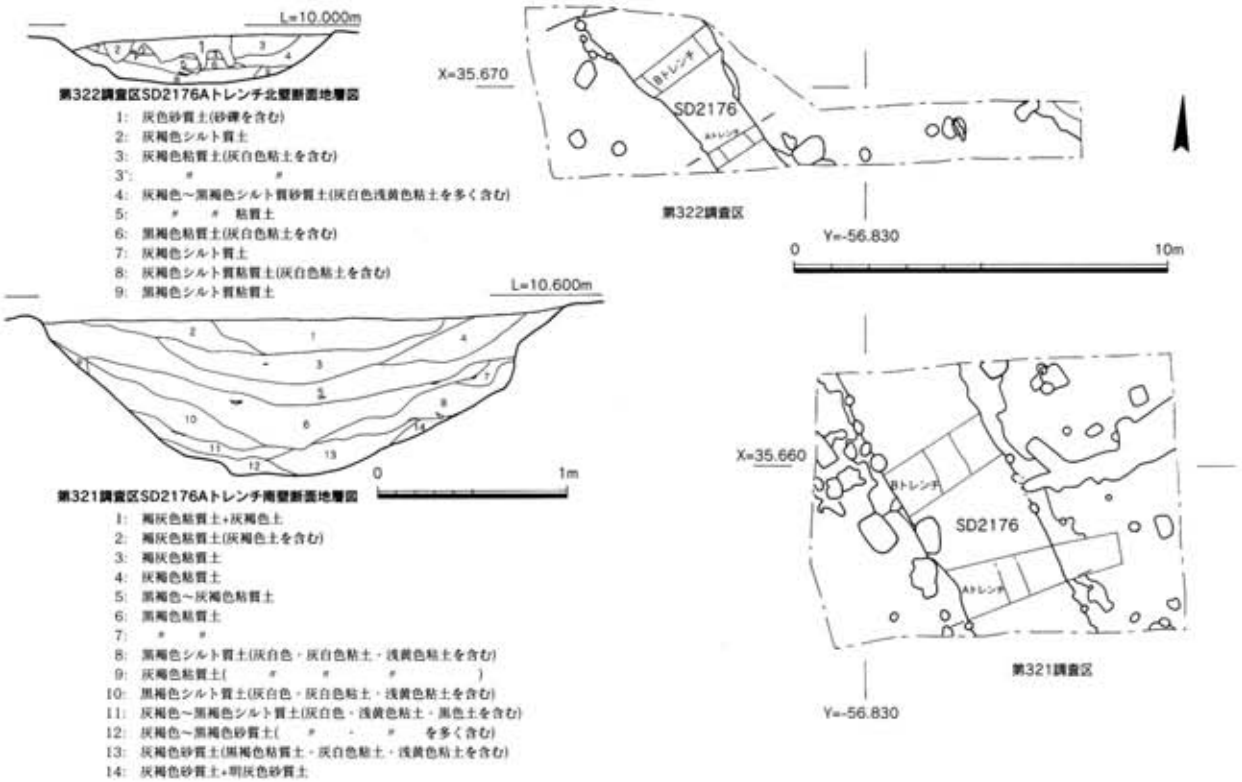


Fig.43 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第321・322調査区 遺構分布図、溝跡断面地層図

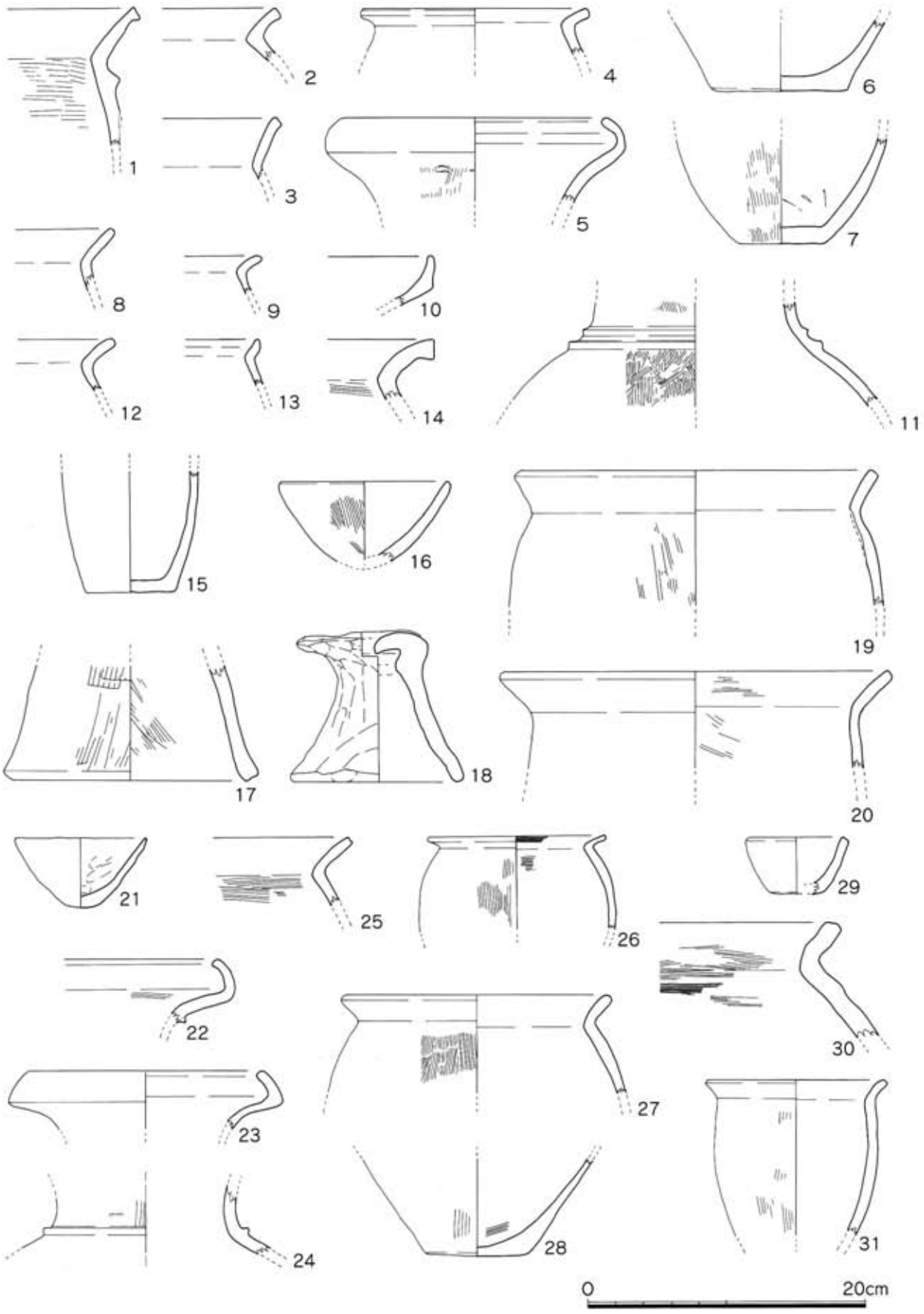


Fig.44　吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 第321・322調査区出土遺物実測図

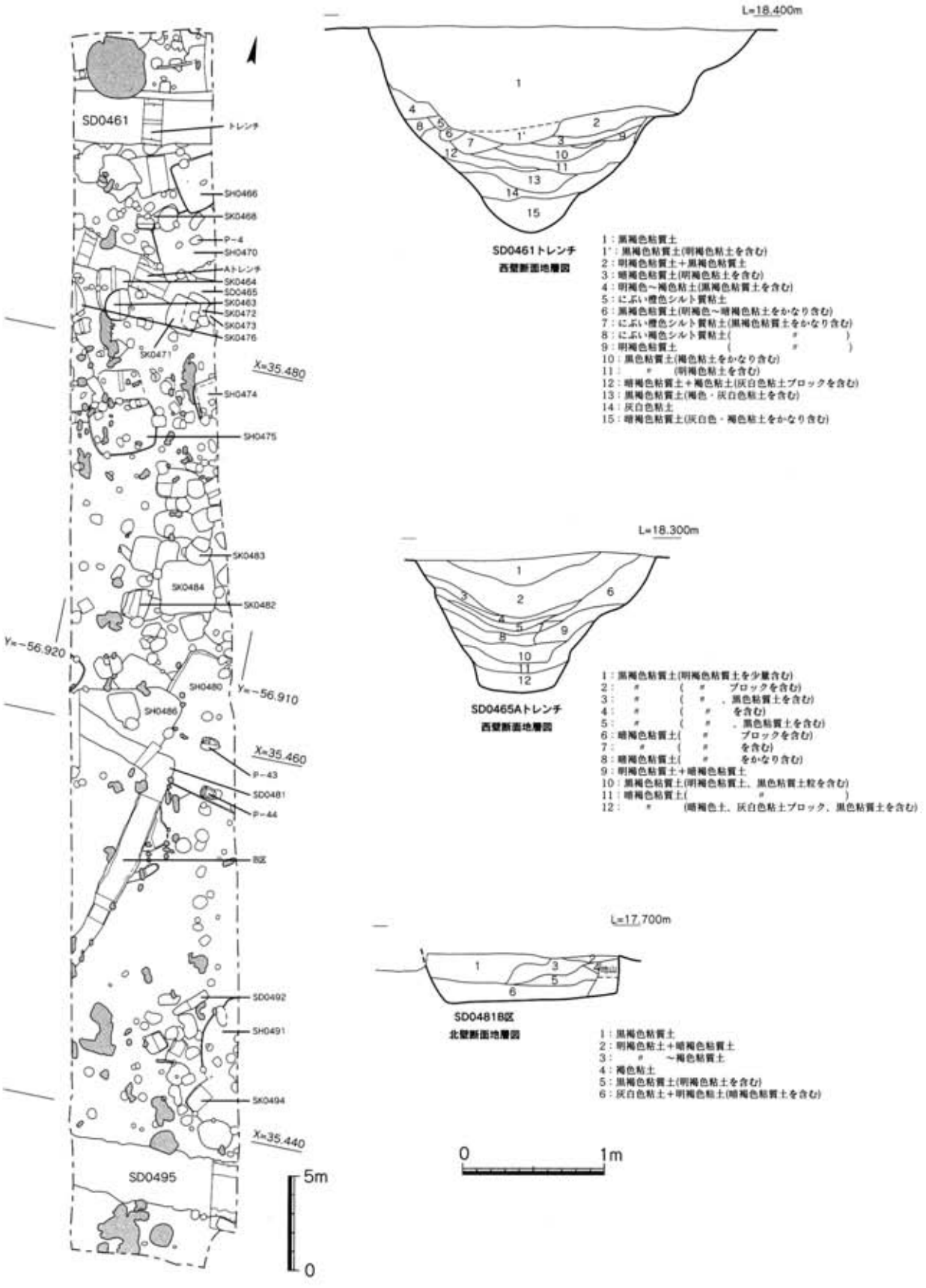


Fig.45 田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区遺構分布図、溝跡断面地層図

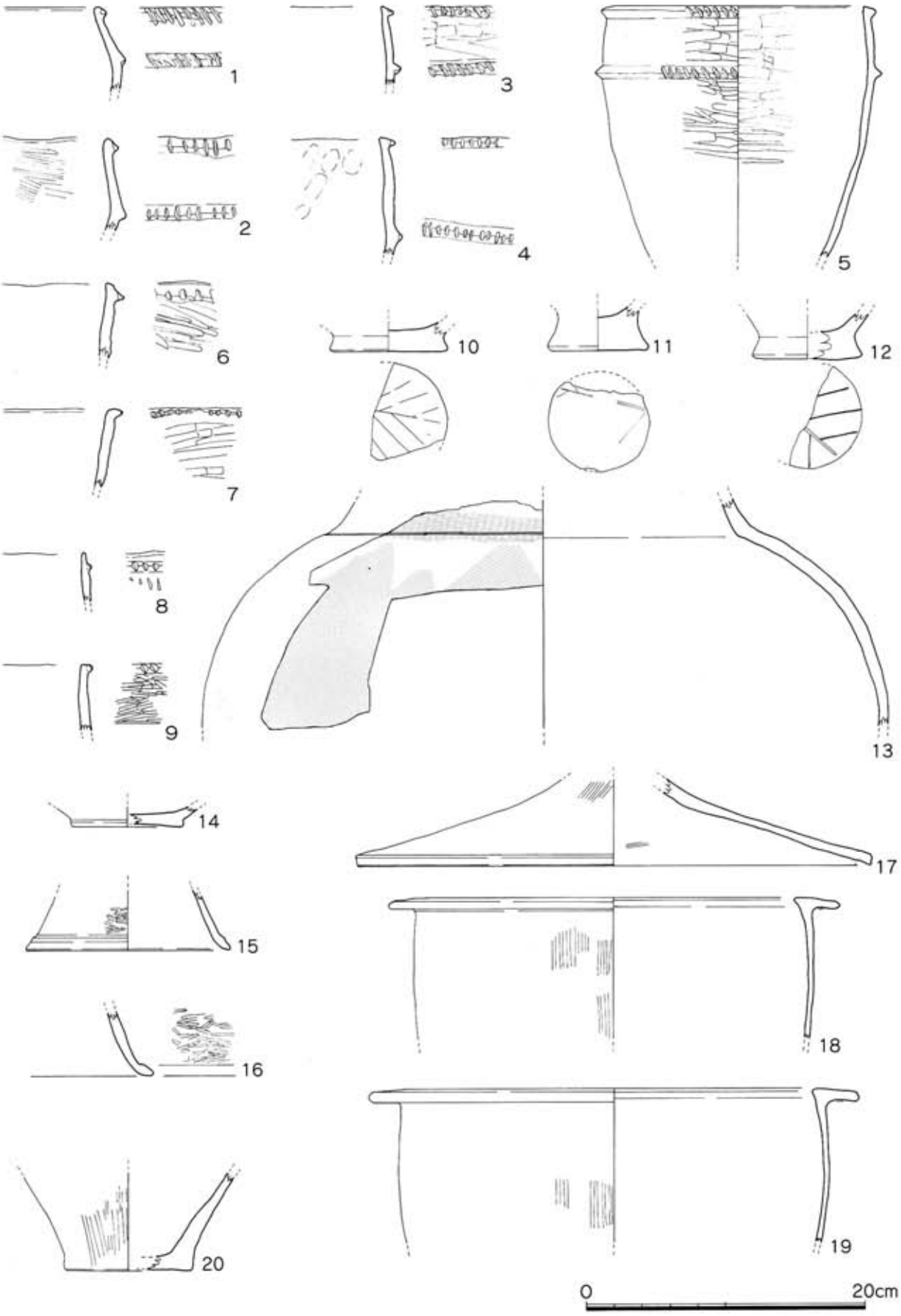


Fig.46 田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（1）

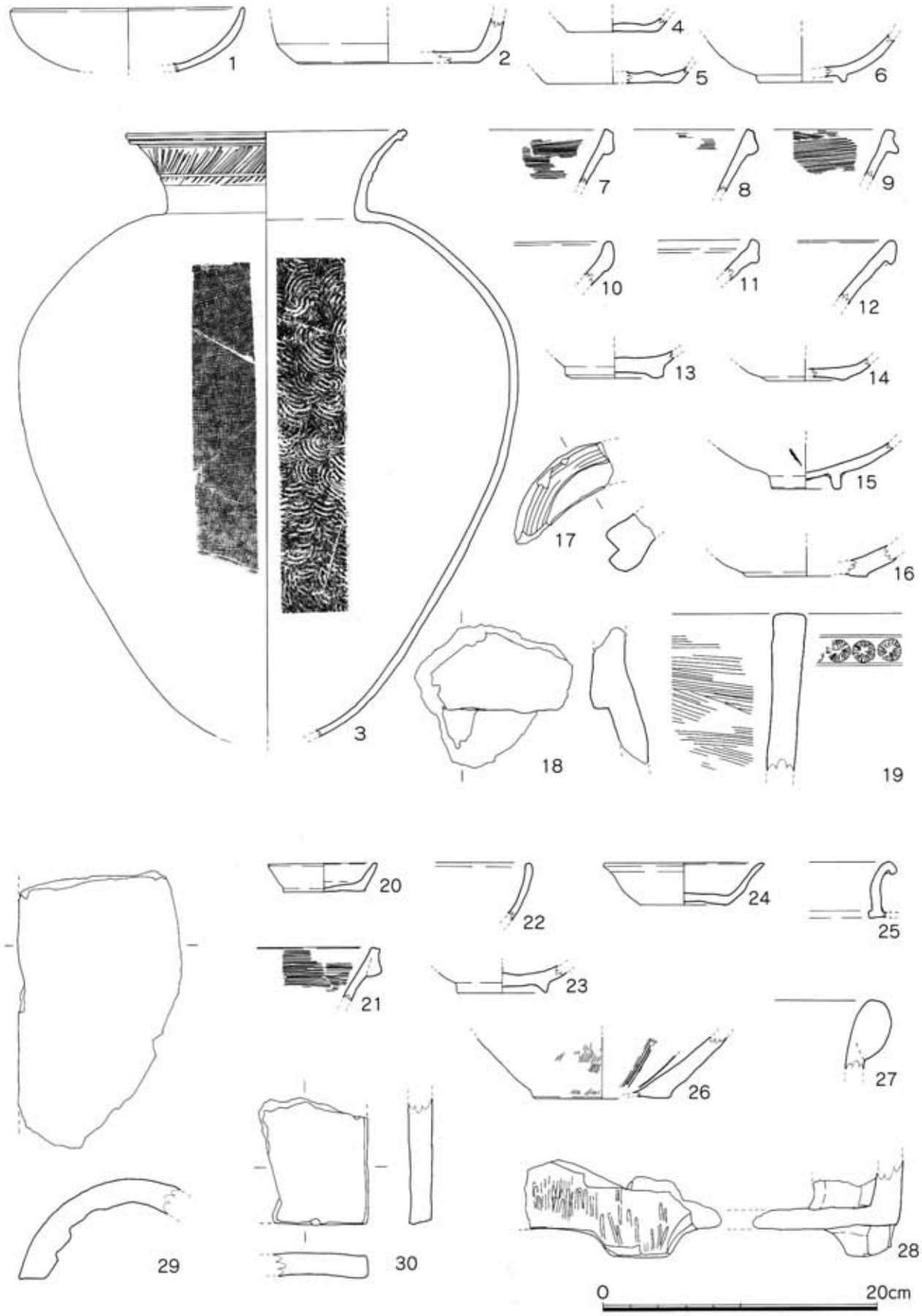


Fig.47 田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（2）

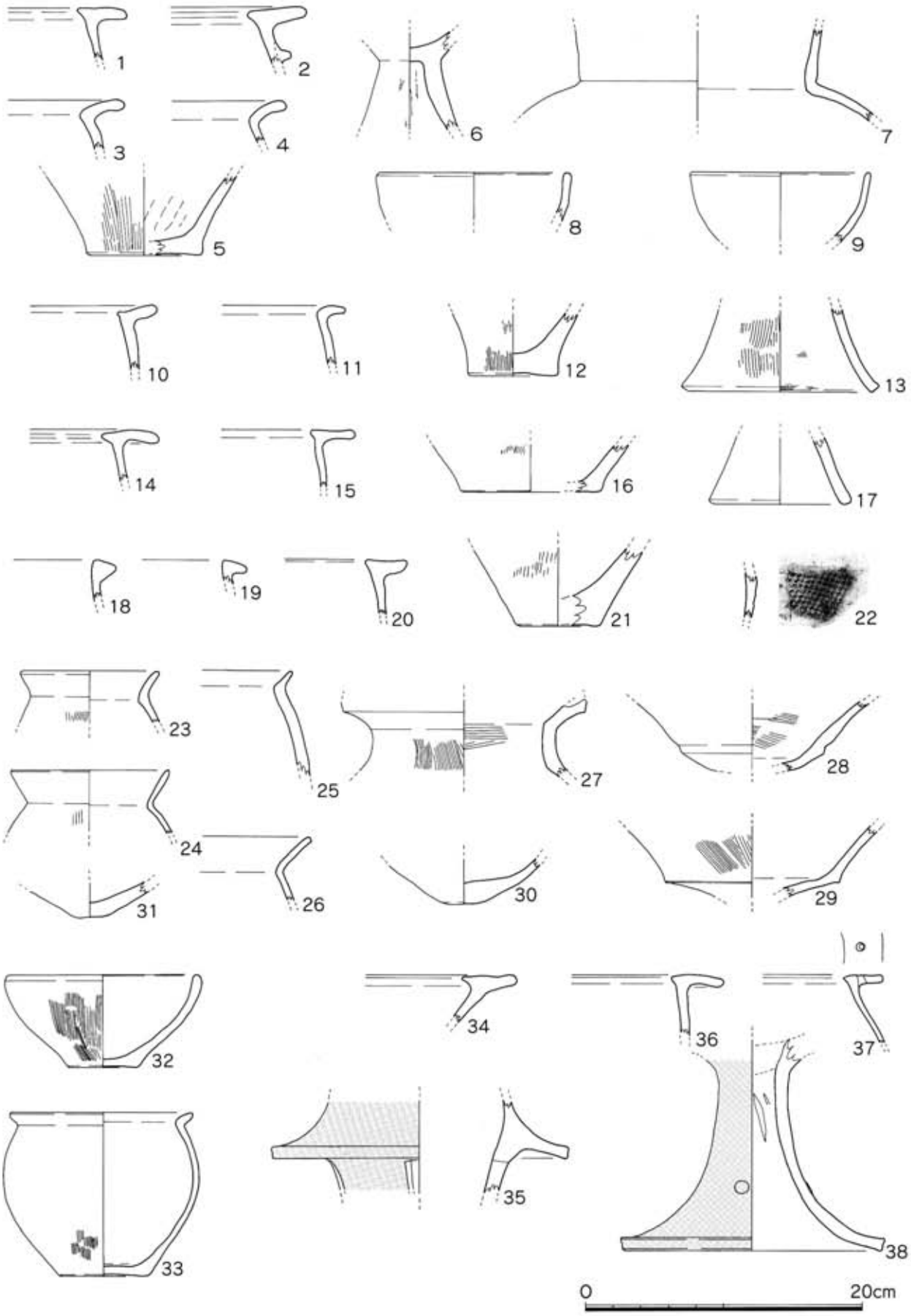


Fig.48 田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（3）

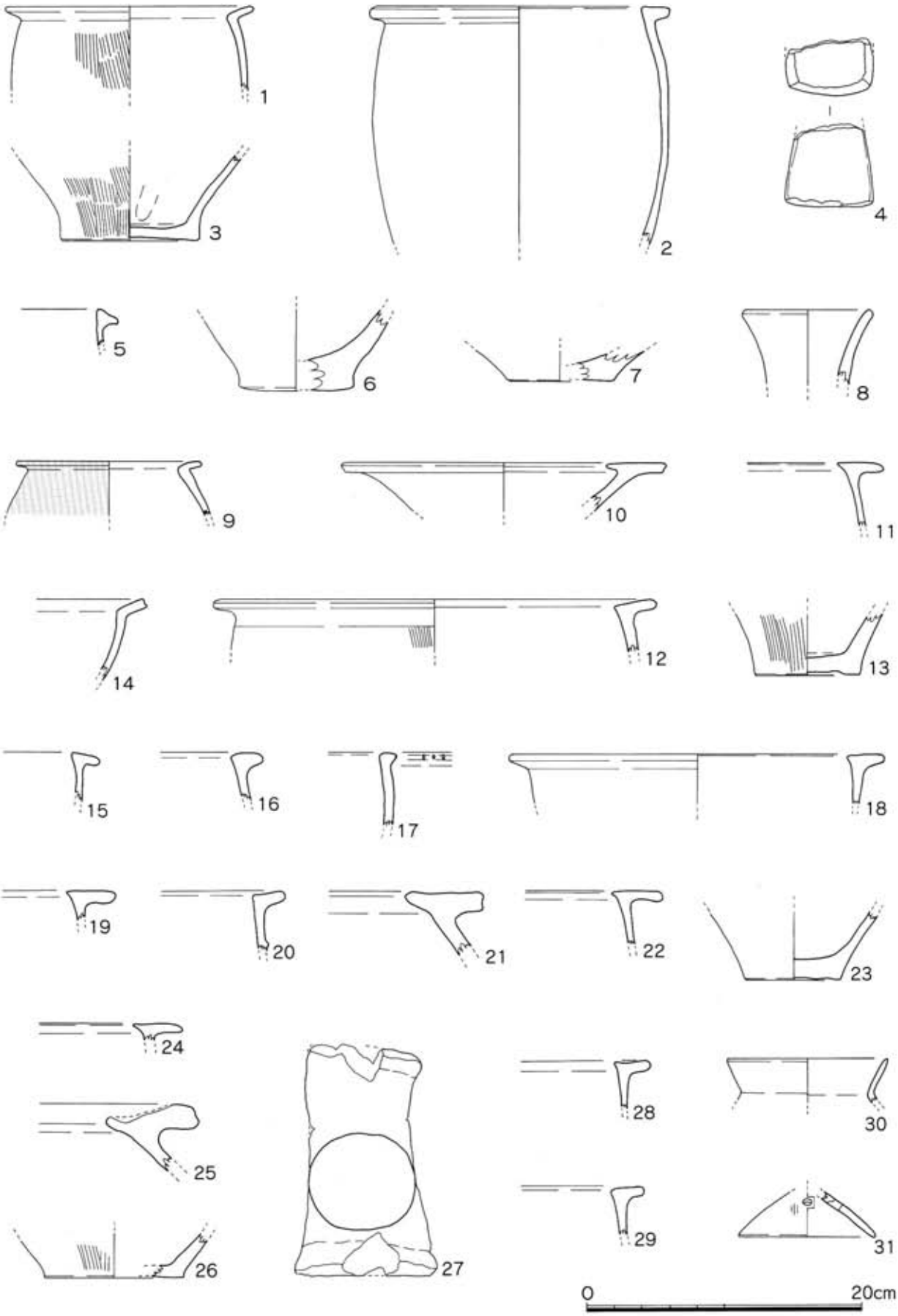


Fig.49 田手二本黒木地区Ⅲ区 第323調査区出土遺物実測図（4）

辺約７ｍと比較的大型で、南西隅にベッド状遺構が確認された。土坑はほとんどが中期前半の貯蔵穴と考えられる。

古墳時代の遺構としては、調査区のほぼ中央で直角に屈曲する溝跡１条がある。SD0481溝跡は断面逆台形で、幅1.3m、深さ約0.2mである。７世紀のものと考えられる須恵器大甕が廃棄された状態で出土した。この溝跡からは土製勾玉も出土しており、方墳など古墳の周溝であった可能性もある。中世の遺構としては、調査区北端に位置するSD0461溝跡と南端に位置するSD0495溝跡の２条の溝跡や、掘立柱建物あるいは柵と考えられる柱穴群などがある。

第343調査区（Fig.50）は、南部の一部は田手一本黒木地区Ｉ区であるが、弥生時代の竪穴住居跡１基（SH1609）、土坑墓２基、土坑７基以上、小穴多数と、古墳時代から中世にかけての土坑４基以上や溝跡、小穴などが確認された。田手一本黒木地区に位置する調査区南端部分からは、掘立柱建物の柱穴と考えられる柱穴や小規模な溝跡などを確認したが、全体規模を把握するには至らなかった。弥生時代のSH1609竪穴住居跡は、平面円形の住居跡で、弥生時代中期初頭の土器を出土した。

第354～357調査区（Fig.53）では、弥生時代から中世にかけての遺構が確認された。これらの調査区は、現代の畑地造成や作物栽培・施肥による攪乱が多かったため、遺構の損傷が進んでいた。第354調査区では、弥生時代中期前半から中頃と考えられる平面円形で径６ｍ前後のSH1529竪穴住居跡、後期の竪穴住居跡１基（SH1539）、古墳時代の竪穴住居跡１基（SH1510）、中世の溝跡１条などが確認された。その他、弥生時代から中弥生時代から中世の土坑17基なども確認された。SK1516・1519・1523・1524・1540土坑からは弥生時代中頃にかけての甕や壺・鉢・高杯などが出土した。第355調査区では弥生時代中期の溝（壕）跡１条（SD1533）と小児用甕棺墓１基（SJ1534）、中世の溝跡２条（SD1501など）が、第356調査区では弥生時代の（SK1541・1542など）や弥生時代から中世にかけての小穴多数が、第357調査区では弥生時代の土坑３基（SK1511など）などが確認された。これら弥生時代中期前半から中頃にかけての土坑は、第354調査区で確認されたような平面円形竪穴住居に付属して存在する貯蔵穴と考えられる。

遺物（Fig.46～49、51・52・54・55・61・62、PL.27・28）

遺物には弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、支脚・瓦などの土製品（Fig.46～49、51・52・54・55）、石器（Fig.61・62）がある。

第323調査区（Fig.46～49）では、SD0465溝跡出土の遺物（Fig.46）として、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての深鉢・甕（１～12）や壺（13・14）・高杯（15・16）がある。13の大型壺には頸部から肩部にかけて赤色顔料による三角文を主体とする文様が施されている。SD0492溝跡出土の遺物（Fig.46）としては、弥生時代中期中頃の甕（18～20）と蓋（17）がある。

SD0481溝跡出土の遺物（Fig.47）として、土師器の杯（１）や甕の底部と考えられるもの（２）、須恵器の大甕（３）がある。SD0461溝跡出土の遺物には、土師器の杯（４・５）、土鍋（７～９）、瓦器の椀（６）や火鉢（19）、須恵器の捏鉢（擂鉢）（10～12）、白磁の皿（14）や椀（13）青磁の椀（15）、陶器の甕底部（16）、瓦（17・18）、流れ込みの石包丁（Fig.61-16）がある。SD0495溝跡出土の遺物には、土師器の小皿（20）や土鍋（21）、瓦器の椀（22）や擂鉢（26）・火鉢（28）、口禿げ白磁の皿（24）や壺（25）、備前陶器の甕（27）、瓦（29・30）、流れ込みの太形蛤刃石斧（Fig.62-5）がある。

SH0466竪穴住居跡出土遺物（Fig.48）には、弥生土器の甕（１～５）、壺（７）、鉢（８・９）、高坏（６）、石包丁（Fig.61-14）がある。中期後半から後期前半にかけてのものである。SH0470竪穴住居跡出土遺物には、弥生土器の甕（10～12）と器台（13）がある。中期前半のものに混じって後期のものと考えられる器台（13）がある。SH0474竪穴住居跡出土遺物には、弥生土器の甕（18～21）と縄文土器片（22）がある。縄文土器は、深鉢の一部と見られる組織痕土器であり混入品と考えられる。他は中期初頭から前半にかけてのものである。SH0475竪穴住居跡出土遺物には、紡錘車片（Fig.63-18）がある。SH0480竪穴住居跡出土遺物には、土師器の甕（23～26・30・31）と壺（27）、高坏（28・29）、石包丁・太形蛤刃石斧がある。27の壺は山陰か畿内系壺

の破片と考えられる。SH0486竪穴住居跡出土遺物には、弥生時代中期中頃の高坏（34）と筒形器台（35）がある。SH0491竪穴住居跡出土遺物には、弥生時代中期中頃の甕（36・37）と高坏（38）がある。SK0483土坑出土遺物には、弥生時代の甕（33）と鉢（32）がある。

SK0463土坑出土遺物（Fig.49）には、弥生時代中期後半の甕（1・3）と中期前半の甕（2）と支脚（4）がある。SK0464土坑出土遺物には、弥生時代中期前半の甕（5・6）や壺（7）、器台（8）、柱状片刃石斧（Fig.61-26）がある。SK0463土坑出土遺物には、弥生時代中期前半から後半にかけての甕（11～13）や壺（9）、鉢（14）、高坏（10）がある。SK0468土坑出土遺物には、弥生時代中期初頭から前半にかけての甕（15～17）がある。SK0471土坑出土遺物には、中期前半の甕（18）がある。SK0476土坑出土遺物には、弥生時代中期中頃の甕（19～23）がある。SK0482土坑出土遺物には、弥生時代中期中頃から後半にかけての甕（24～26）がある。SK0484土坑出土遺物には、支脚（27）がある。SK0494土坑出土遺物には、弥生時代中期前半の甕（28・29）がある。P-4小穴出土遺物には古墳時代初頭の壺（30）が、P-44小穴出土遺物には古墳時代初頭の器台（31）がある。

第343調査区（Fig.52）では、SH1609竪穴住居跡出土遺物として弥生時代中期初頭の甕（1～4）や壺（5）、扁平片刃石斧や太形蛤刃石斧、磨り叩き石などが、SK1610土坑出土遺物として弥生時代中期後半から後期終末期にかけての甕（6・8）や壺（7）、高杯（9）が、SK1611土坑出土遺物として後期後半から終末期と考えられる甕（10・11）や石包丁（Fig.62-14）が、SK1615土坑出土遺物として弥生時代中期前半から中頃にかけての甕（15・16）が、SK1616土坑出土遺物として弥生時代中期中頃の甕（17）が、SX1617不明遺構出土遺物として中期前半の甕（18）がある。その他、SK1612土坑出土遺物として磨製石剣片（Fig.61-21）や磨石が、SD0292溝跡出土遺物として太形蛤刃石斧（Fig.62-6）がある。

第354調査区（Fig.52・54・61）では、SH1510竪穴住居跡出土遺物（Fig.52）として古墳時代初頭の甕（19）と高坏（20）や流れ込みの柱状片刃石斧片が、SH1526竪穴住居跡出土遺物として弥生時代後期前半と後期終末期の甕（21・22）と銅矛内型（鋳型）状の土製品（23）が、SH1529竪穴住居跡出土遺物として古墳時代初頭の甕（24）、高坏（26・27）、混入と考えられる弥生時代後期後半の壺（25）が、SH1539竪穴住居跡出土遺物として弥生時代中期末から後期初頭の甕（28・29）や壺（30）、混入と考えられる越州窯青磁椀（31）が、SK1516土坑出土遺物として弥生時代中期前半の甕（Fig.52-33、Fig.54-1・2）、壺（Fig.52-32）、砥石などが、SK1519土坑出土遺物（Fig.54）として弥生時代中期中頃の甕（5）、壺（4）、高坏（3）が、SK1523土坑出土遺物には弥生時代中期中頃の甕（7～9）や高坏（10）が、SK1524土坑出土遺物には弥生時代中期前半の甕（6）が、SK1540土坑出土遺物には弥生時代中期の鉢（11）が、SK1546土坑出土遺物には弥生時代中期中頃の甕（12）がある。また、検出面の遺物として石包丁（Fig.61-11）がある。

第355調査区（Fig.54・55）では、SD1501溝跡出土遺物（Fig.54・61）として中世に属する土師器の小皿（Fig.54-13・14）、杯（15・16）、土鍋（19）、瓦器椀（20）、白磁の椀（21）と皿（23）、青磁椀（22）、瓦（24・25）、太形蛤刃石斧片や砥石片2点などが、SD1536溝跡出土遺物として平安時代と考えられる土師器杯（26）が、SD1533溝跡出土遺物（Fig.55）として弥生時代中期中頃の甕（1～3・5）、高坏（4）、器台（6）、土弾（Fig.63-7）ががある。他に検出面から出土した中国産青磁皿（Fig.54-27）がある。その他検出面から石包丁（Fig.61-10）や紡錘車（Fig.61-20）がある。

第356調査区（Fig.55）では、SK1502土坑出土の弥生時代中期中頃の鉢（7）が、包含層出土遺物として中世の瓦器皿（8）がある。**第357調査区**（Fig.55）では、SK1511土坑出土遺物として弥生時代中期初頭と考えられる甕（9）や、検出面や包含層出土遺物として弥生時代中期初頭から前半にかけての甕（10）や高坏（11）がある。その他の遺物として、石鏃3点（Fig.61-1・2）・柱状片刃石斧2点・扁平片刃石斧2点（Fig.61-22・24）・磨製石斧2点（Fig.62-3・4）・砥石（Fig.62-7）などの石器・石製品がある。

②Ⅲ区 第345・347調査区

遺構（Fig.50、PL.15・16）

Fig.50　田手二本黒木地区Ⅲ区 第343・345・347調査区遺構分布図、溝跡断面地層図

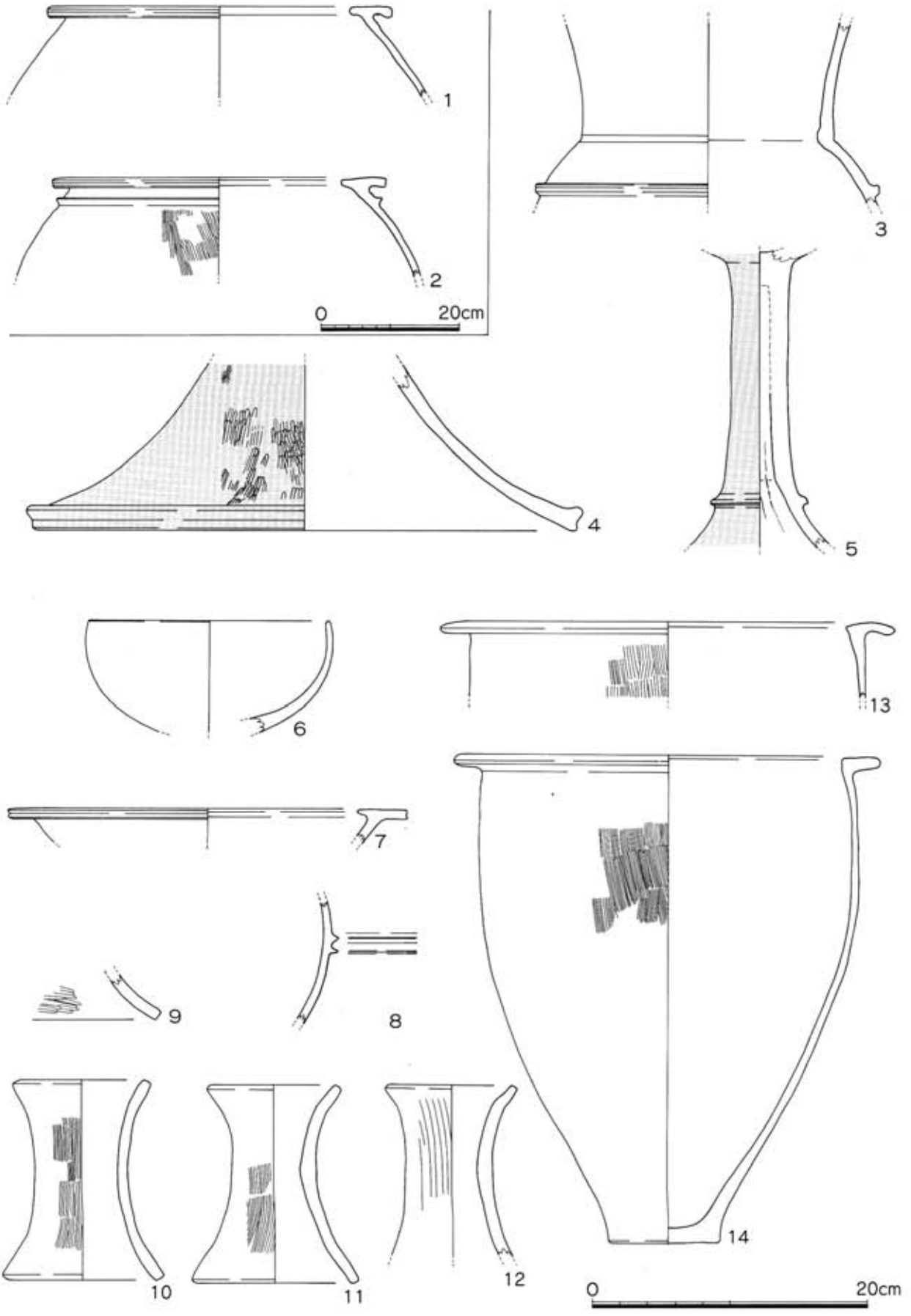


Fig.51 田手二本黒木地区Ⅲ区 第345・347調査区出土遺物実測図

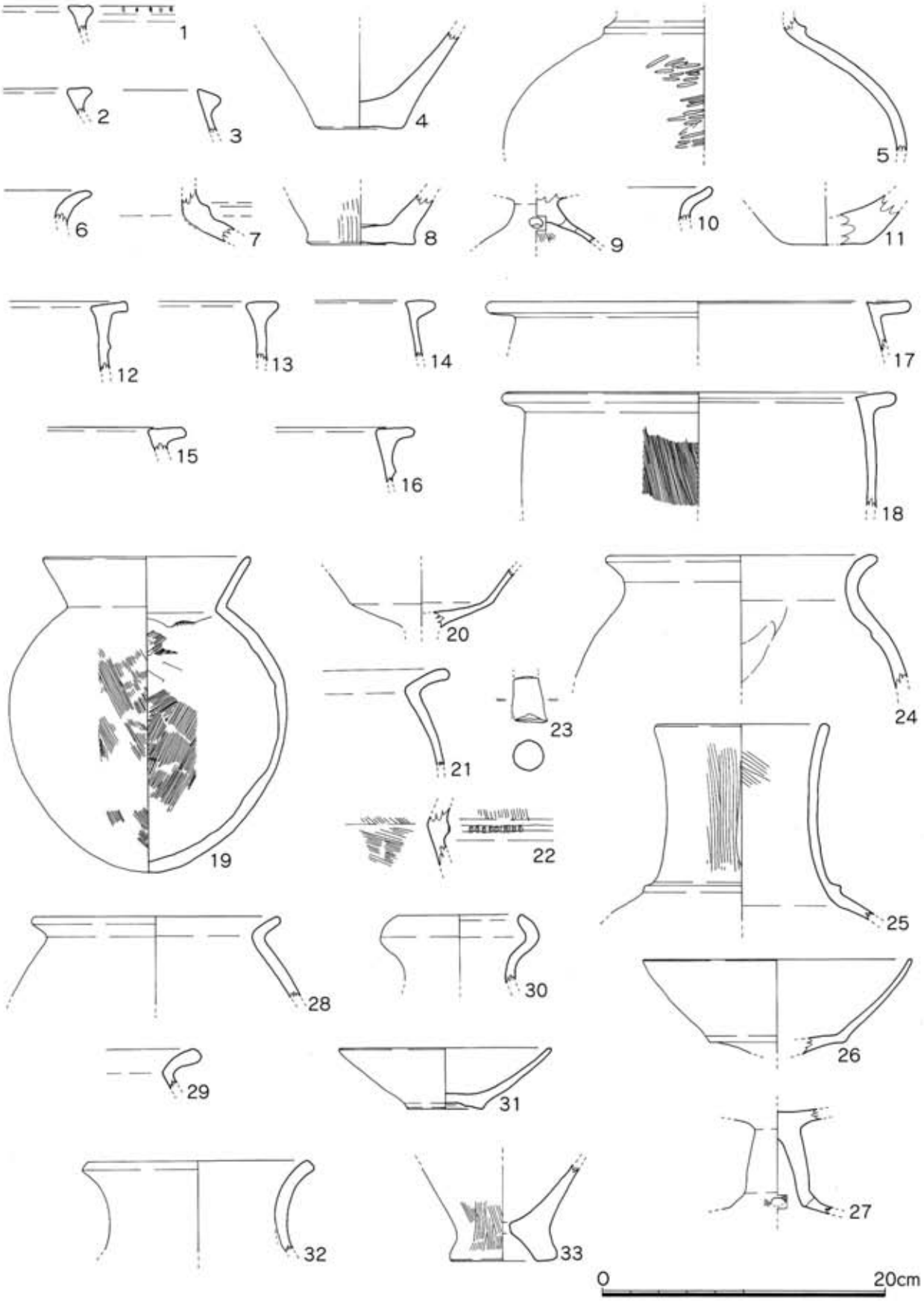


Fig.52 田手二本黒木地区Ⅲ区 第343・354調査区出土遺物実測図

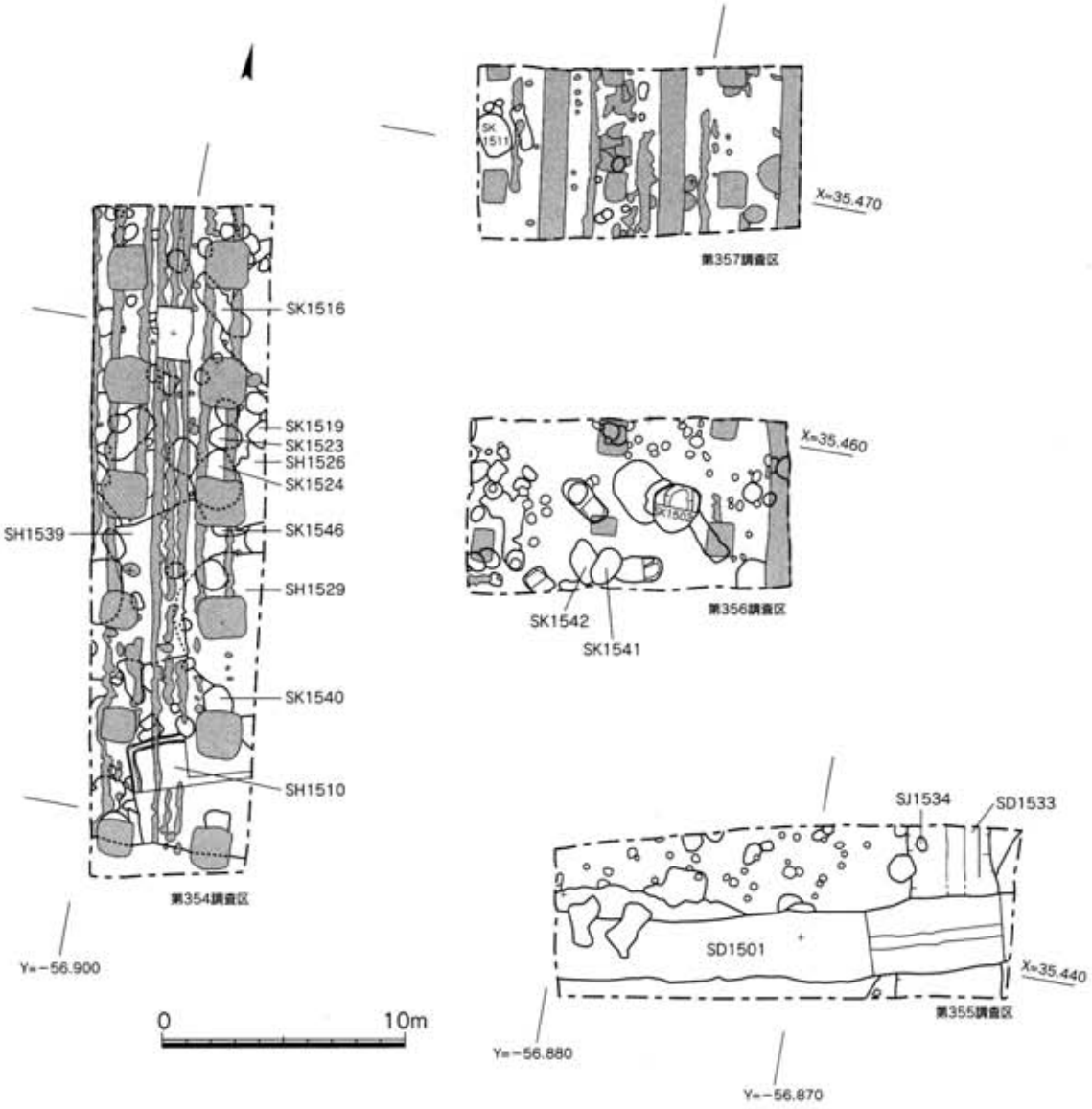


Fig.53　田手二本黒木地区Ⅲ区 第354～357調査区位置図、遺構分布図

第345調査区では、弥生時代前期の大規模な環壕跡１条と、弥生時代中期の竪穴住居跡１基、土坑数基、弥生時代後期終末期～古墳時代初頭の土坑１基、中世の溝（壕）跡３条などが確認された。SD0336環壕跡は、西方で昭和63年度の工業団地計画に伴う発掘調査（西方約100m）や、平成12・13年度に補助事業として実施した田手二本黒木地区Ⅲ区第318調査区（西方約10m）で検出された環壕跡の東への連続部分で、表面調査の検出のみを行った。幅は約5.50mであり、弥生時代前期末前後の土器片が出土した。調査区東部に位置するSH0808竪穴住居跡は平面方形基調のもので、出土土器から弥生時代中期中頃のものと考えられる。土坑は平面楕円形・長方形基調のもので、弥生時代中期中頃のSK0801・0818・0819土坑などがある。調査区中央西寄りに位置する中世に属するSD0784溝跡は、幅2.17mの断面V字形に近い逆台形で、調査区東部に位置するSD0823溝跡も南北方向の溝跡で、元来幅３m前後の溝跡の東端に沿って、新たに幅0.90mの断面U字形の溝跡が存在する。

第345調査区の東に設けた**第347調査区**では、現代の畑によって多数の遺構が破壊されていたが、SK0809土坑など弥生時代中期の土坑数基と、掘立柱建物跡３基以上を確認した。

なお、園内乗り物用園路の路線計画が、弥生時代前期の環壕跡直上に当たることが調査によって判明したため、その部分を避け、南の位置に設計変更した。

遺物（Fig.51・55・61・63、PL.25・29・30）

遺物には、弥生土器や中世の土師器・陶磁器（Fig.55）、石器（Fig.61）や土製品（Fig.63）がある。

第345調査区では、SH0808竪穴住居跡出土遺物として甕（12～14）、高坏（15）があり、SK0801土坑出土遺物として弥生時代中期中頃の甕（16～18）と高坏（19）、土弾（Fig.63-9）が、SK0818土坑出土遺物として

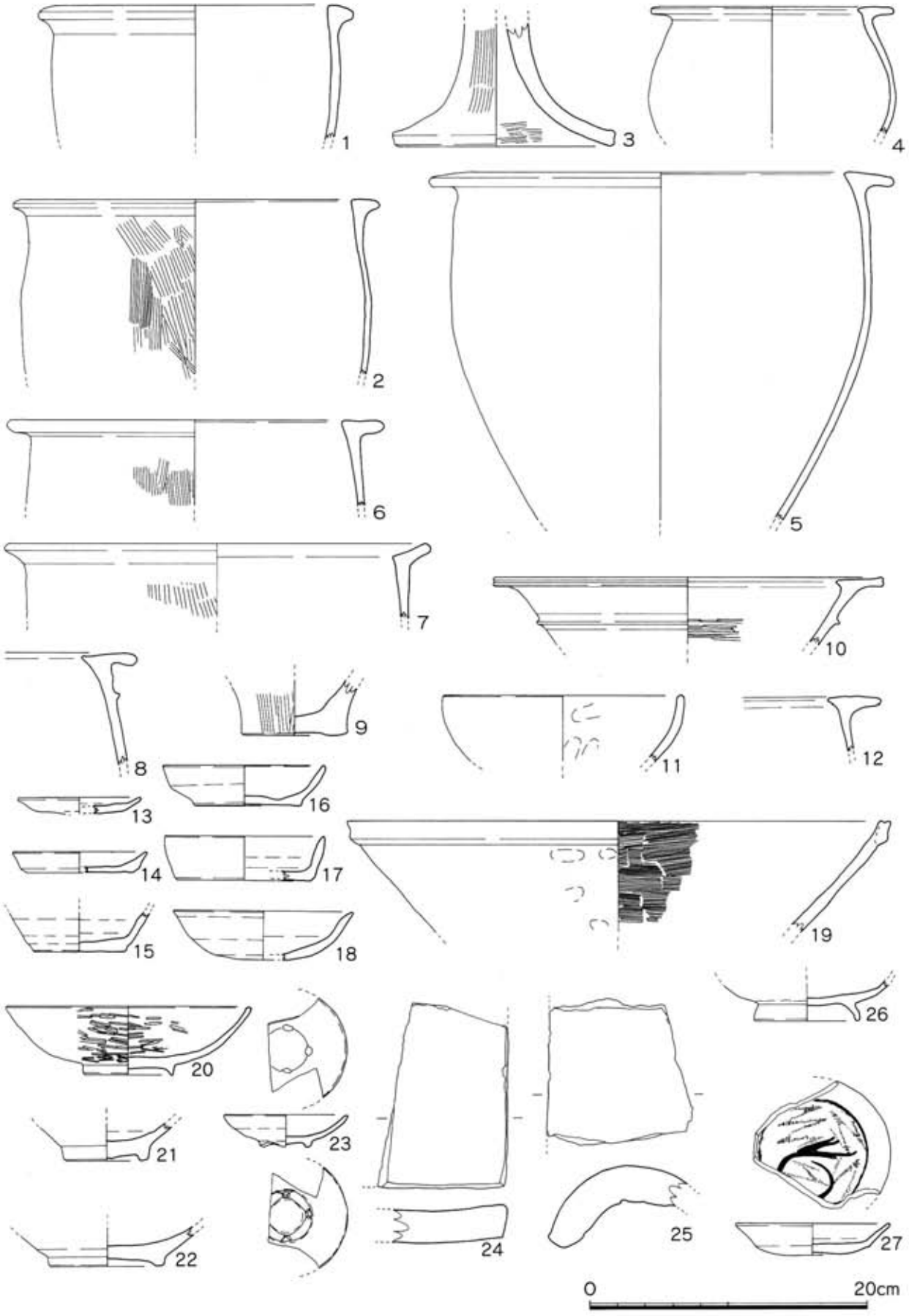


Fig.54 田手二本黒木地区Ⅲ区 第354・355調査区出土遺物実測図

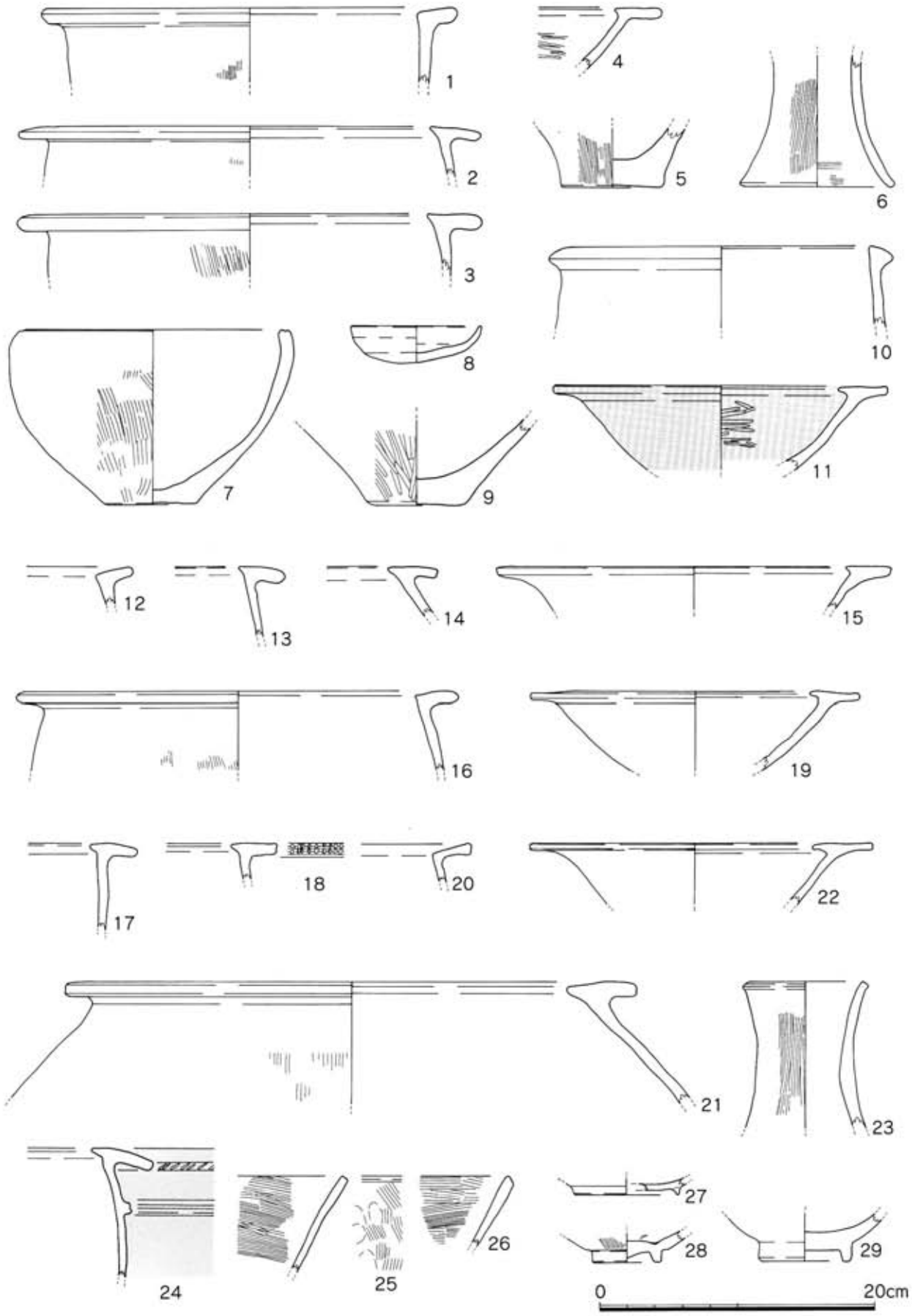


Fig.55 田手二本黒木地区Ⅲ区 第355・356・357・345調査区出土遺物実測図

弥生時代中期中頃の甕（20・21）、高坏（22）、器台（23）が、SK0819土坑出土遺物として弥生時代中期中頃の甕（24）が、SD0784溝跡出土遺物として中世の土師器杯（27）や鍋（25・26）、流れ込みの石包丁（Fig.61-5）が、SD0823溝跡出土遺物として中国産青磁椀（28・29）がある。28は同安窯系、29は龍泉窯系で、それぞれ12世紀、15～16世紀の所産と考えられる。SK1608土坑出土遺物（Fig.51）として弥生時代中期の甕（1・2）、（3）、高坏（5）、筒形器台（4）があるが、器種構成や丹塗りの痕跡があることなどから、祭祀に用いられたものと考えられる。また、SD0336環壕跡出土遺物として石包丁や石製紡錘車の未製品（Fig.61-19）、土弾3点（Fig.63-8・10・11）や、図示しなかったが、朝鮮半島系無文土器壺の牛角把手片がある。その他、検出面出土遺物として石鏃2点（Fig.61-3・4）や石包丁2点（Fig.61-15）・柱状片刃石斧2点（Fig.61-25）・太形蛤刃石斧3点・砥石4点・叩石1点など多くの石器・石製品がある。

第347調査区では、SK0809土坑出土遺物（Fig.51）として、弥生時代中期中頃の甕（13・14）、壺（8）、鉢（6）、高坏（7・9）、器台（10～12）があり、検出面出土遺物として土弾（Fig.63-12・13）などがある。

③Ⅲ区 第327・328調査区

遺構（Fig.56、PL.16）

両調査区で弥生時代から中世にかけての小穴群が確認されたが、明確な遺構としては、第327調査区の東部に位置する中世の南北方向のSD0441溝跡と、それに切られて存在する東へ向かって開く弥生時代中期の谷か溝（SX0442不明遺構）、第328調査区中央に位置する東へ向かって開く弥生時代中期の溝と考えられるもの（SD0443溝跡）が確認された。なお、第328調査区のSD0443溝跡は、平成13年（2001）にその東約10mの位置に設けられた三田川町教育委員会が確認調査を実施したトレンチでも確認されている。

遺物（Fig.56）

遺物には弥生土器と中世の土器片があ る。第327調査区では、中世のSD0441溝跡出土遺物として混入したと見られる弥生時代中期中頃の甕（1～3）がある。中世に属する小破片もあるが全体の形を窺うことができない。SX0442溝状遺構出土遺物として弥生時代中期の甕（5）と筒形器台（4）がある。第328調査区では、SD0443溝跡出土遺物として弥生時代中期中頃から後期前半にかけての甕（6～14）、壺（15）、器台（16）がある。

（3） 田手一本黒木地区の調査

①Ⅰ区 第325・344調査区

遺構（Fig.57、PL.16・17）

第325調査区では、弥生時代の溝跡1条や、中世の溝跡1条、土坑1基などが確認された。SD0133溝跡は、断面逆台形からU字形で、幅1.0m～1.5m、深さ0.3m～0.7mであった。15.5m区間を確認したが、さらに南北へ延びているものと考えられる。出土した土器からこの溝跡は弥生時代終末期のものと考えられ、北西に位置する盛土遺構（祭壇）との関係も考える必要がある。中世に属するSK0132土坑は、約2.50m×3.30m規模の平面隅丸長方形で、土師器や瓦器、須恵器、瓦など中世前半期の遺物多数を出土した。

第344調査区では、西に位置する盛土遺構（祭壇）の北と西・南の三方が溝によって囲まれていることが過去の確認調査で確認されていたため、将来の整備のための情報を得るために、その東側にトレンチを設けて調査した。その結果、盛土遺構のすぐ東側には南北方向に延びる幅約6.60mの中世から近世にかけて存在していたと考えられる大規模なSD0293溝（壕）跡が存在していたことが判明し、弥生時代の溝跡の確認には至らなかった。ほかに弥生時代の土坑2基（SK0294・SK0296）や不明遺構1基（SX0295）などが確認された。弥生時代のSK0294土坑からは中期中頃の土器が、SD0293溝跡からは中・近世の瓦器や染付磁器などが出土した。

遺物（Fig.58・59・61、PL.28）

遺物には、弥生土器や中世の土師器・須恵器・瓦器・瓦など（Fig.58・59）、石器・石製品（Fig.61）がある。

第325調査区（Fig.58）では、SD0131溝跡出土遺物として、弥生時代後期終末期の甕（2～4）、壺（1）、

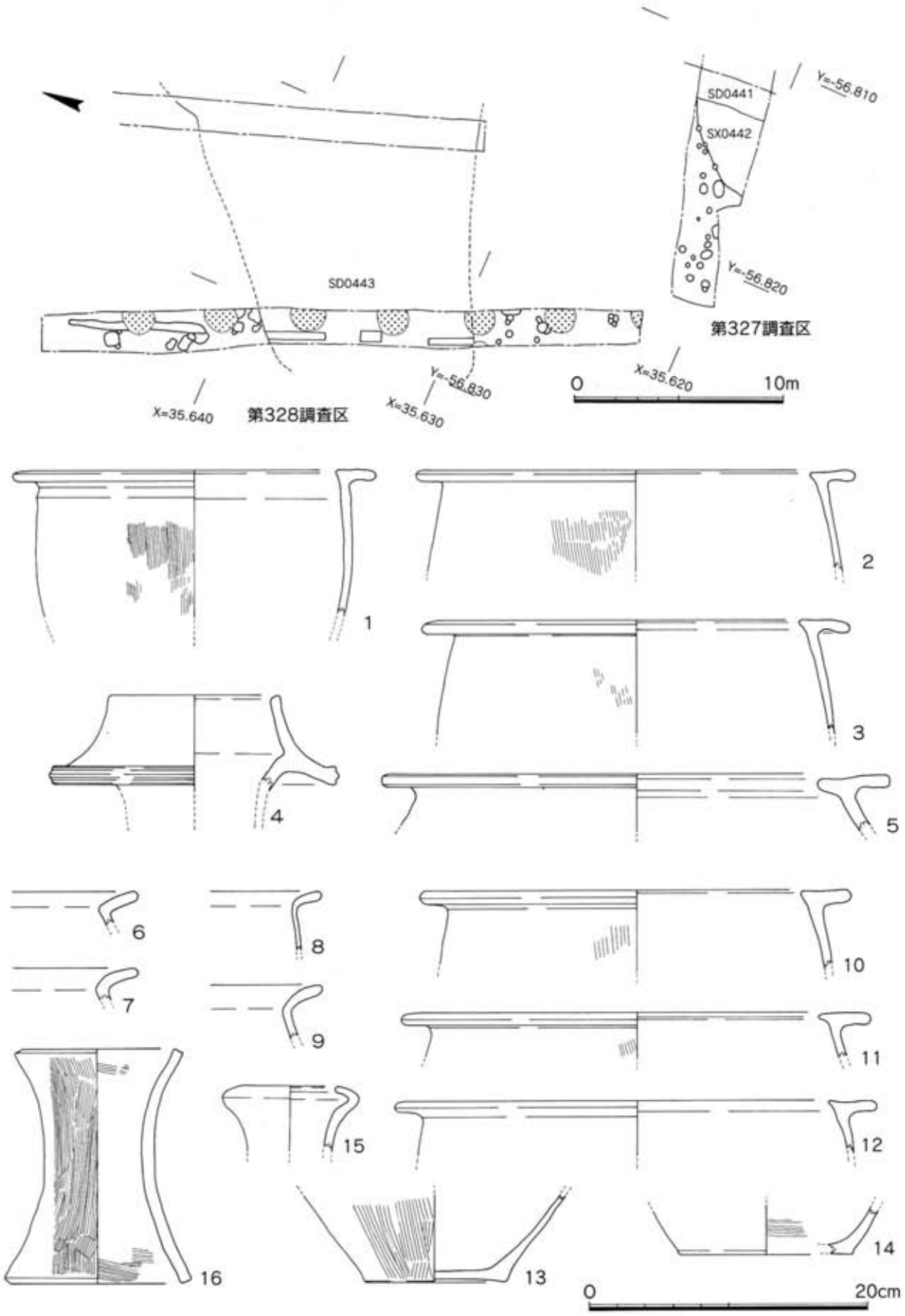


Fig.56 田手二本黒木地区Ⅲ区 第327・328調査区遺構分布図、出土遺物実測図

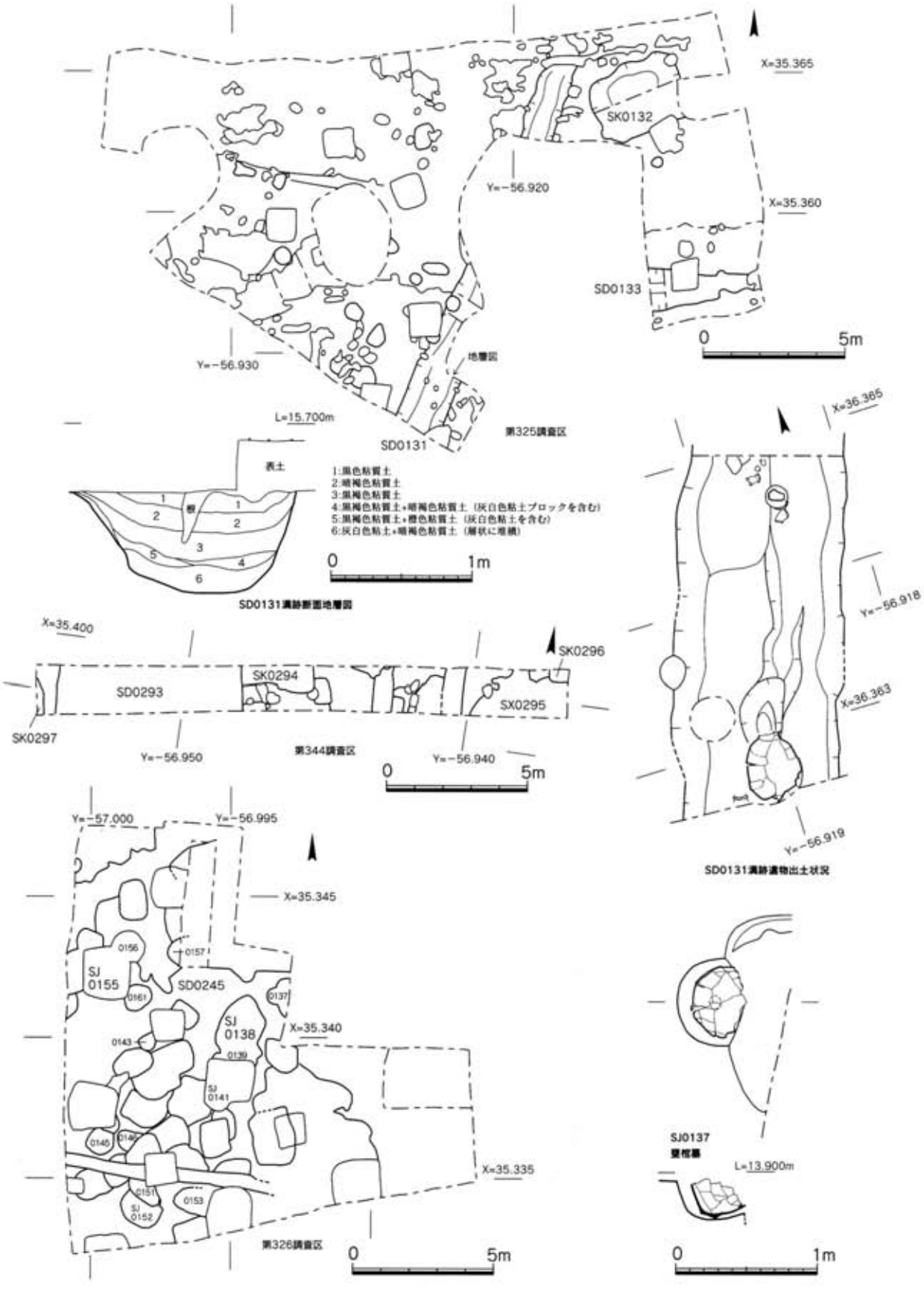


Fig.57 田手一本黒木地区Ⅰ区 第325・344・326調査区遺構分布図、遺構実測図

器台（6）、支脚（5）、石包丁（Fig.61-7）や砥石が、SD0133溝跡出土遺物として中世の土師器羽釜（19）、瓦（18）が、SK0132土坑出土遺物として中世の土師器小皿（7）と杯（8～11）、土鍋（15）、須恵器の壺口縁部（16）と大甕（17）、瓦器椀（12～14）、砥石などがある。

第344調査区で（Fig.59）は、SK0294土坑出土遺物として弥生時代中期中頃の甕（1～5）や石包丁（Fig.61-9・18）が、SX0295遺構出土遺物として弥生時代中期中頃の蓋（6）や器台（7）が、SK0296土坑出土遺物として弥生時代中期前半の甕（9）や壺（8）が、SK0297土坑出土遺物として弥生時代中期中頃の甕（10）が、SD0293溝跡出土遺物として近世の瓦器火鉢（11）や、香炉と考えられる肥前の染付磁器（12）などがある。

②Ⅰ区 第326調査区

遺構（Fig.57、PL.17・18）

弥生時代の遺構としては、溝（壕）跡1条、甕棺墓27基、祭祀土坑と考えられる土坑1基、中世の遺構として溝跡1条が確認された。調査は遺構を検出した段階で終了したため、遺構の詳細については不明であるが、SD0245溝跡は、平成10年度に調査を行った東の第304調査区南端で確認された弥生時代前期初頭の環壕跡の西への延長部分と考えられる。甕棺墓は弥生時代中期初頭から前半のものがほとんどであった。

弥生時代中期前半以降には甕棺墓群は丘陵各地の尾根上に営まれるようになるが、前期末から中期初頭に埋葬を開始された墓地が南端部存在していることが判明し、第324調査区で確認された細形銅剣を副葬した中期初頭の甕棺墓との関連にも興味が持たれる。

遺物（Fig.60）

遺物には、縄文土器や弥生土器、埋葬用土器である甕棺がある。第304調査区南部のSD0245溝跡の延長部分からの出土遺物として縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての深鉢・甕（1～5・7～9）と壺（6・10）、石包丁がある。その他の遺物として砥石もある。

甕棺墓群の調査はほとんどが平面観察に限ったので、落ち込んでいた口縁部などの破片を取り上げたに過ぎない。甕棺墓群の各甕棺の破片（11～30）がある。甕棺の大半は甕形土器であるがSJ0143甕棺下甕と考えられるもの（12）は壺であった。時期的には弥生時代中期初頭から中期前半に属するものであるが、17は前期末まで遡る可能性がある。

3．石器・石製品、土製品

（1） 石器・石製品（Fig.61・62、PL.29・30、Tab.2）

弥生時代の溝跡や土坑、竪穴住居跡などを中心とする遺構から、石鏃や石包丁、石斧、石剣、砥石など多数の石器・石製品が出土した。今回報告をおこなう石器は計79点である。そのうち、残存状況が比較的良好な42点について図化を行った。その他の図面未掲載資料については一覧表（Tab.2）にまとめて記載した。弥生時代以外の遺構や遺構検出面出土のものが多いため、石器・石製品が製作・使用された明確な時期を判断することは困難であるが、全体的に弥生時代前期から中期にかけての様相を示している。石材鑑定は主に報告者の肉眼観察によるものである。石材名称は前年度刊行の報告書（佐賀県教育委員会2005）を基本的に踏襲しているが、粘板岩ホルンフェルスを堇青石ホルンフェルスに、赤紫色泥岩を輝緑凝灰岩に変更した。

〔Fig.61〕

1：打製石鏃。第356調査区検出面から出土した。石材はサヌカイトである。無茎凹基式で、先端部と片脚端部を欠損する。抉りは深く明瞭に入れられており、刃部は表裏両面からの調整剥離により鋸刃状を呈する。

2：打製石鏃。第356調査区撹乱検出面から出土した。石材は黒曜石である。先端部と両脚端部を欠損する。抉りは浅く、刃部両側辺は僅かに膨らむ形状をなす。調整剥離は全体的に粗い。

3：打製石鏃。第345調査区検出面から出土した。石材は黒曜石である。無茎凹基式で、先端部と片脚端部を僅かに欠損する。抉りはやや浅く広く、刃部両側辺は僅かに膨らむ形状をなす。片面は体部中央に高まりを持ち、僅かに自然面を残存している。

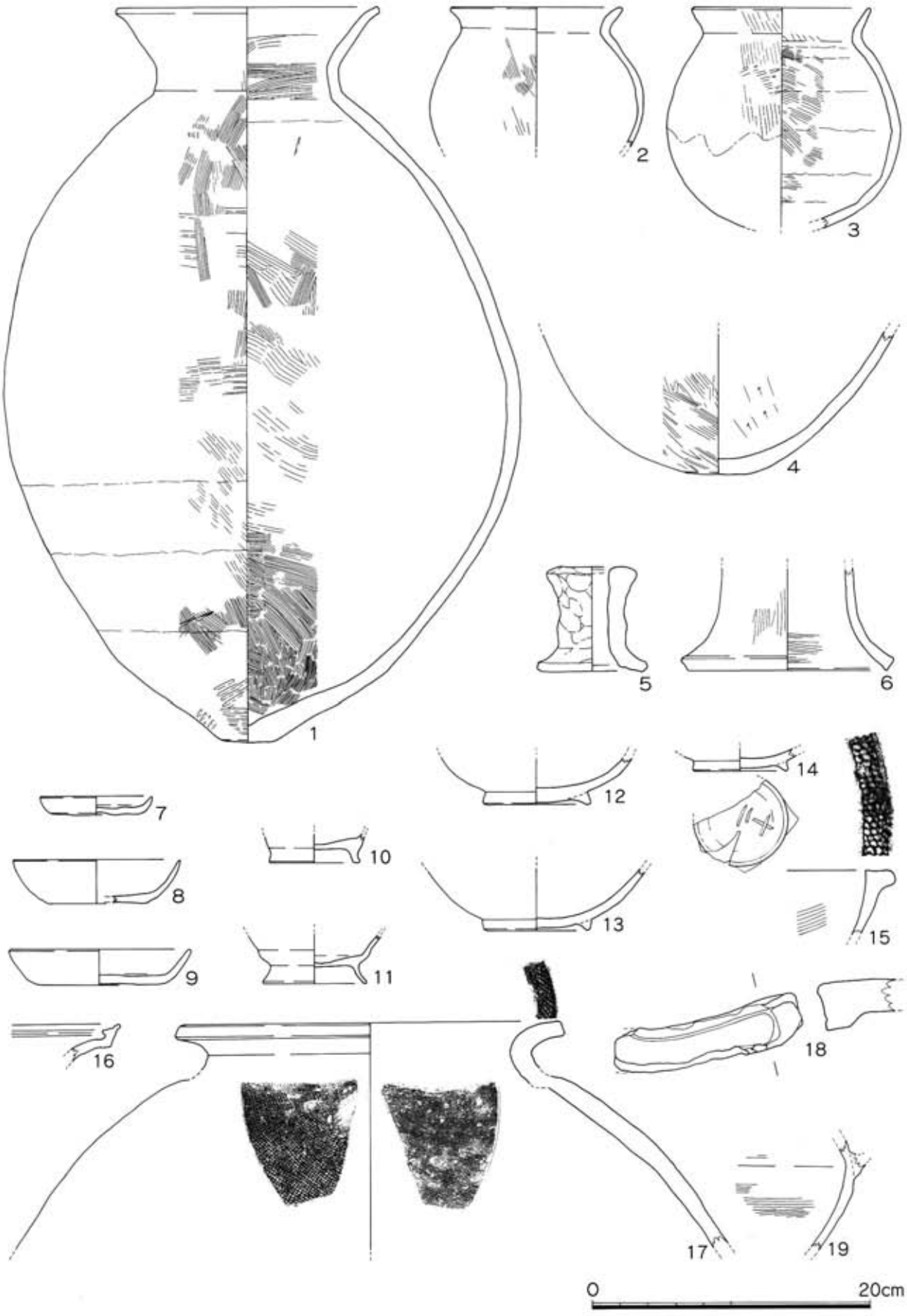


Fig.58 田手一本黒木地区Ⅰ区 第325調査区出土遺物実測図

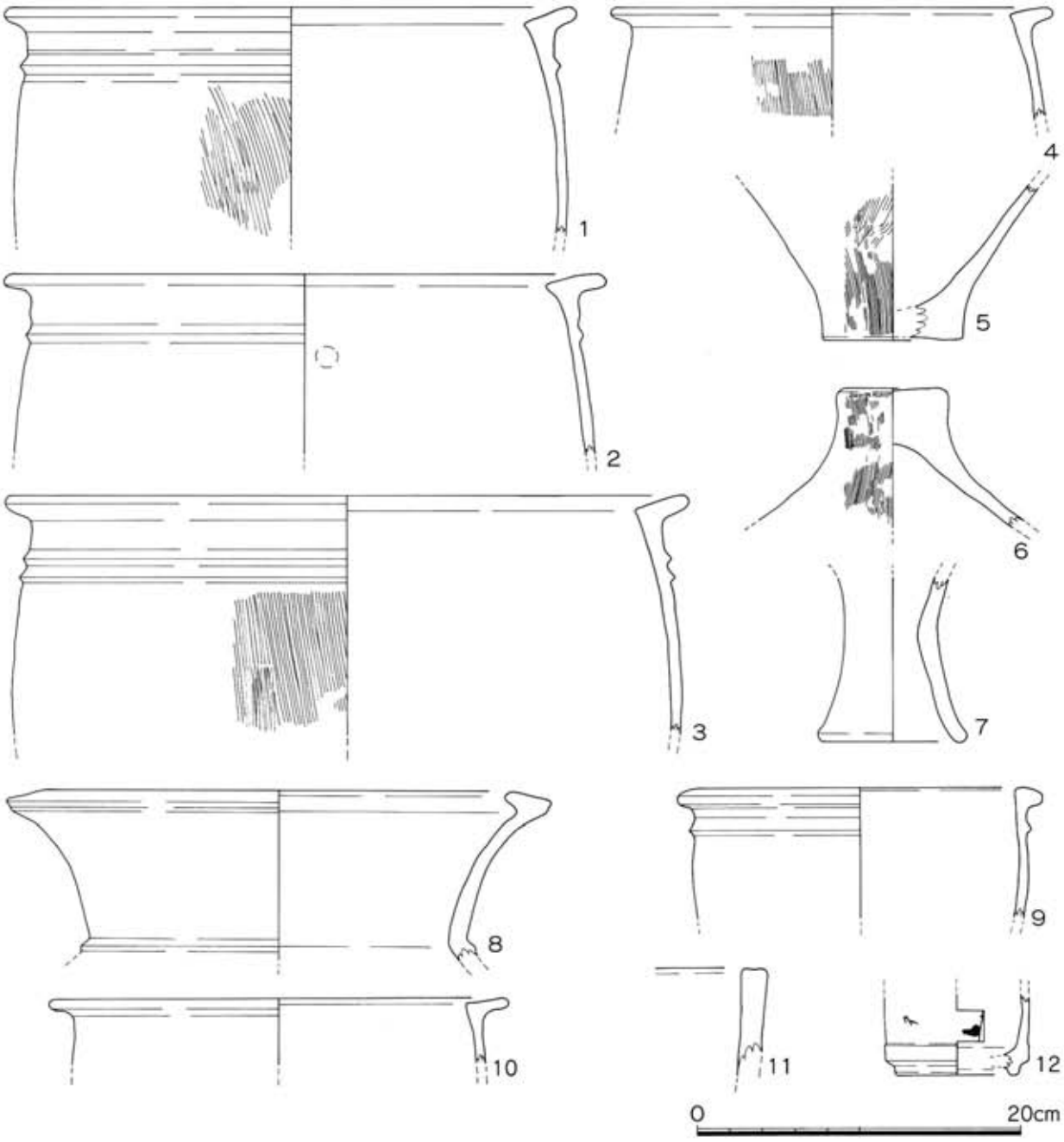


Fig.59　田手一本黒木地区Ⅰ区 第344調査区出土遺物実測図

4：打製石鏃。第345調査区検出面から出土した。石材はサヌカイトである。無茎凹基式で、先端部と片脚端部を僅かに欠損する。抉りはやや浅く広く入れられ、刃部両側辺はほぼ直線的である。全体的に風化が激しい。

5：石庖丁。第345調査区SD0784下層から出土した。石材は砂岩質 で、平面形は直背の外湾刃半月形である。端部片側の破片で、孔部分を通って折損している。背部断面は丸みを帯びており、刃部は左右対称の両刃である。研磨は全体的に丁寧に施されている。

6：石庖丁。第321調査区SD2176から出土した。石材は片岩で、平面形は直背の外湾刃半月形である。端部片側の破片で、孔部分を通って折損している。孔は両側からの回転穿孔によるが、表裏でやや位置がずれている。背部断面は研磨による稜を持ち、刃部は左右非対称の両刃である。

7：石庖丁。第325調査区SD0131から出土した。石材は緑凝灰岩で、平面形は直背の外湾刃半月形である。

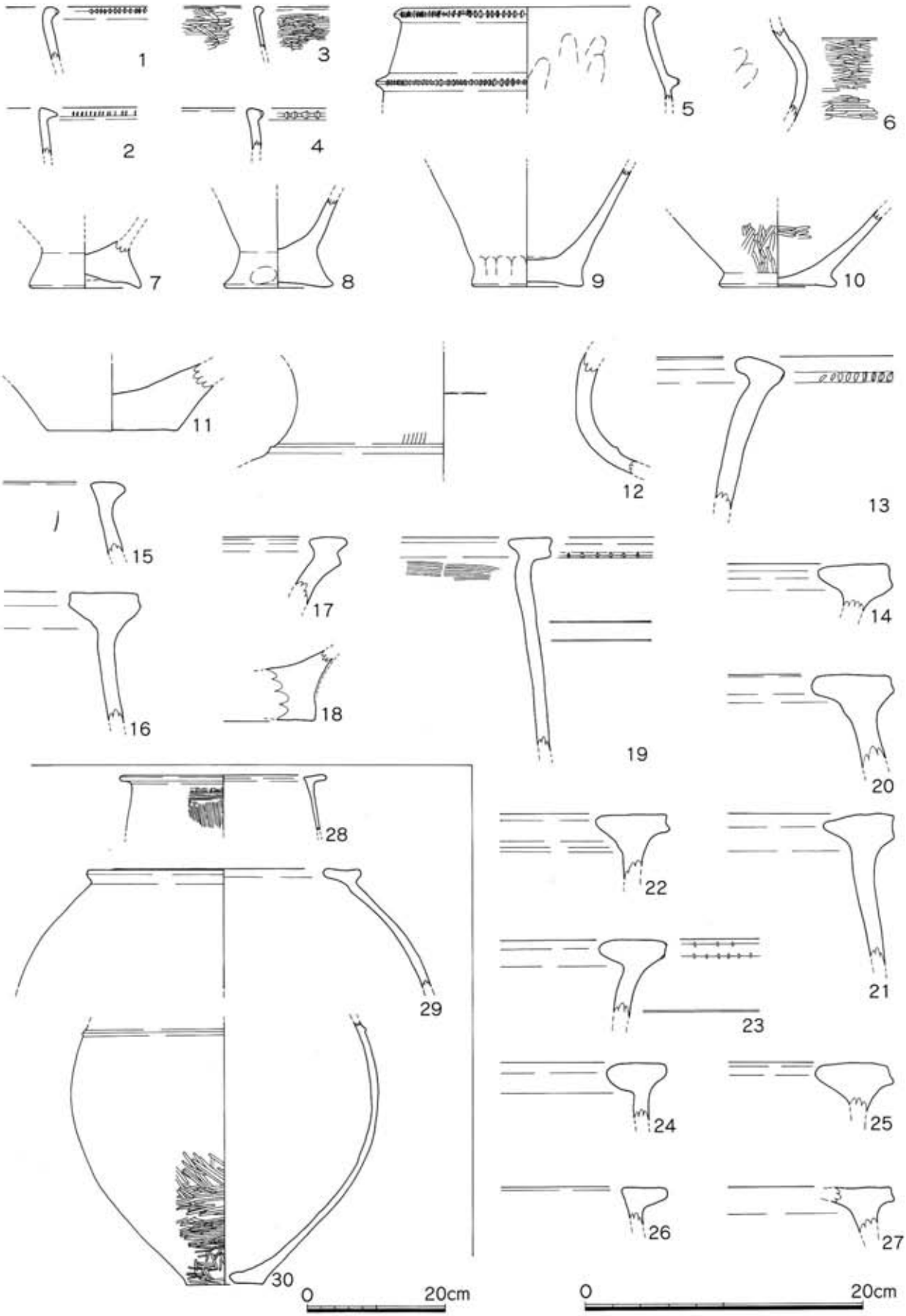


Fig.60 田手一本黒木地区Ⅰ区 第326調査区出土遺物実測図

端部片側の小破片である。背部断面は研磨による稜を持ち、刃部は左右ほぼ対称の両刃である。全体的に粗い研磨痕が明瞭に認められる。

8：石庖丁。第331調査区SK1418から出土した。石材は石英玄武岩である。平面形は直背の外湾刃半月形で、全体の約半分程度を残存している。孔は両側からの回転穿孔で、刃部は鏑を持たず左右対称である。研磨は全体的に丁寧に施されている。

9：石庖丁。第344調査区SK0294から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルス で、平面形は直背の三角形状を呈する。端部片側の破片で孔部分を通って折損している。刃部は左右非対称の両刃である。全体的に風化が激しく、研磨痕は不明瞭である。

10：石庖丁。第355調査区から出土した。石材は輝緑凝灰岩で、平面形は直背の外湾刃半月形である。端部片側の破片で孔部分を通って折損している。刃部は左右対称の両刃で、背部断面は研磨による平坦面を持つ。研磨は丁寧に施され、研磨痕の単位と方向が明瞭に認められる。

11：石庖丁。第354調査区検出面から出土した。石材は砂岩質である。二孔を残す中央部分の破片で、両端とも孔部分で欠損する。背部直線で刃部は左右対称の両刃である。研磨は全体的に非常に丁寧に施されている。

12：石庖丁。第321調査区SD2176上層（検出面）から出土した。石材は輝緑凝灰岩で、背部から孔を通り刃縁の一部を残存する。孔は敲打後両側からの回転穿孔による。刃部は左右対称の両刃で、両面とも明瞭な鏑を持つ。

13：石庖丁。第304調査区SD0245から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスで、背部を除く全体の約３分の１程度を残存している。平面形は三角形で、刃部はやや膨らむ形状を呈する。厚さは全体的に均一で、刃刃部は左右対称の両刃である。孔は本来大型の一孔のみであったが、後に敲打と回転によって再び穿孔されている。研磨は刃部を中心に施され、体部には素材面を残している。

14：石庖丁。第323調査区SH0466から出土した。石材は 蛍青石ホルンフェルス で、背部から孔部分にかけて残存する。孔は敲打後両側からの回転穿孔による。背部は直線で研磨によって平坦に整形されている。

15：石庖丁。第345調査区検出面から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスである。端部片側の破片で孔部分から折損する。右側の小孔は二次的な穿孔とみられる。刃縁は端部に向かって角張る形状をなし、左右非対称の両刃である。刃部平面形は石鎌の刃先と類似している。全体的に風化が激しく、研磨痕は不明瞭である。

16：石庖丁。第323調査区SD0461から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスで、背部から孔の一部にかけて残存する。全体的に風化が激しく、研磨痕は認められない。

17：石庖丁。第323調査区撹乱SK0463・0464周辺から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスで、背部から孔部分にかけての小片である。孔は三箇所に穿たれている。全体的に風化が激しく、研磨痕は不明瞭である。

18：石庖丁。第344調査区SK0294から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスである。大形で、背部から孔にかけて残存する。孔は両側からの回転穿孔による。全体的に風化が激しく、研磨痕は不明瞭である。

19：紡錘車（未製品）。第345調査区SD0336上層から出土した。石材は片岩である。未穿孔で、片面中央部に穿孔途中の痕跡が認められることから未製品と考えられる。両面とも粗い整形で、表面に凹凸を多く残している。

20：紡錘車。第355調査区ピット（番号不明）から出土した。石材は片岩である。厚さは全体的にほぼ均一で、側面部は研磨による面取り整形がなされている。表面は風化のため一部剥落している。

21：磨製石剣。第343調査区SK1612から出土した。石材は蛍青石ホルンフェルスである。有茎式の茎部片で、刃部と茎部下端を欠損する。横断面は凸レンズ形をなす。全体的に風化している。

22：扁平片刃石斧。第356調査区中包含層から出土した。石材は層灰岩で、小型のほぼ完形品である。両側縁はやや膨らむ形状をなし、中央部分が僅かに厚手である。刃部は後主面が強く内傾し、前主面は薄い鏑を持つ。研磨は全体的に丁寧に施されている。

23：小形方柱状片刃石斧。第323調査区P-43から出土した。石材は層灰岩である。いわゆるノミ形石斧の刃部

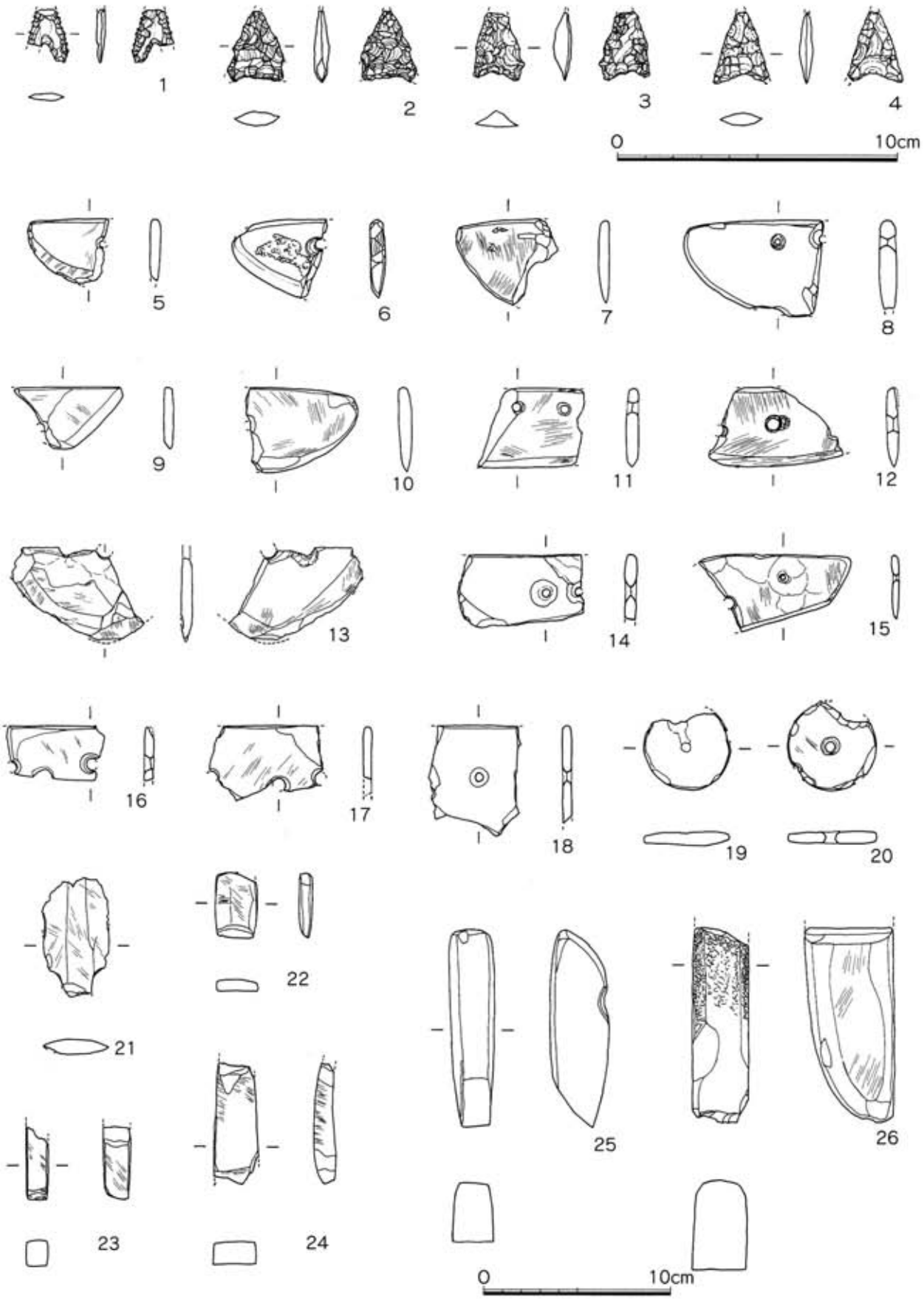


Fig.61　各地区出土石器実測図（1）

片である。刃先が鈍く、刃縁が未形成であることから刃部再加工途中のものとみられる。研磨は全体的に丁寧に施されている。

24：扁平片刃石斧。第356調査区SK1542から出土した。石材は細粒砂岩質である。基部端と刃部を欠損している。四面とも丁寧な研磨によって面取り整形されているが、全体的に不定形的である。表面には白い斑点状のものが認められるが、石質の特徴と思われる。

25：柱状片刃石斧。第345調査区検出面から出土した。石材は層灰岩で、葉理が縦方向に認められる。小型の完形品であるが、このサイズで抉りが入る形態は比較的珍しい。基部は斜基で、刃部後主面形は刃先に向かって内傾し、前主面の刃部は鏑を持ち曲刃を呈する。胴部幅に比べ刃幅がやや狭まる形状を呈するが、使用に伴う再加工によるものか、もしくは風化による剥落と思われる。研磨は全体的に丁寧に施されているが、風化のため研磨痕は不明瞭である。また、下條信行氏の分類ではC型式に相当し（下條1994）、弥生時代前期末～中期前半にかけてみられるものである。

26：柱状片刃石斧。第323調査区SK0464から出土した。石材は層灰岩で、葉理が縦方向に認められる。大型のものの刃部片とみられるが、刃縁は欠損している。刃部に鏑は無く、前主面の体部には粗い敲打痕を残している。未製品である可能性もある。

〔Fig.62〕

1：柱状片刃石斧。第330調査区のSP1411と切り合うSK1412から出土した。石材は層灰岩で、刃縁を僅かに欠損するが完形品である。抉りは無いが着柄痕とみられる端部の摩滅が観察される。刃部は後主面が強く内傾し、前主面は明瞭な鏑を持つ形状を呈する。横断面形は方形をなす。全面に丁寧な研磨整形が施されているが、全体に風化が激しい。

2：扁平片刃石斧。1と同じくSP1411と切り合うSK1412から出土した。石材は層灰岩で、大形の完形品である。刃部は後主面が僅かに内傾し、前主面は明瞭な鏑を持つ形状を呈する。基部側がやや厚手で、刃部に向かって薄身になる。全面に丁寧な研磨整形が施されているが、全体的に風化が激しい。

3：蛤刃石斧。第356調査区中包含層から出土した。石材は黒色の細粒砂岩で風化は比較的少ない。刃部を一部欠損しているがほぼ完形である。基部は窄まり全体的に扁平身薄な形状を呈する。刃部は両面丁寧に研磨されているが、基部と両側縁には粗い敲打痕を残している。

4：蛤刃石斧。第356調査区中包含層から出土した。石材は5と同じ黒色の細粒砂岩で、比較的風化が少ない。完形品で、全体的に扁平身薄な形状を呈する。裏面は刃部のみ研磨が施され、基部は剥離調整痕を残している。研磨は非常に丁寧に施され、研磨痕が明瞭に観察される。

5：蛤刃石斧。第323調査区SD0495から出土した。石材は玄武岩で、今山産太形蛤刃石斧の基部片である。両側縁はほぼ平行し、側縁端部が角張る形状を呈し、基部は平基で一部平坦面を持つ。全体的に風化している。

6：蛤刃石斧。第343調査区SD0292から出土した。石材は変安山岩質角礫凝灰岩（北九州市立自然史・歴史博物館の藤井厚志氏、北九州市芸術文化振興財団の梅崎恵司氏教示）である。刃部片で、非常に激しい風化のため表面は剥落している。石材の色調は風化により黄緑色を呈しており、その特徴等から北九州市の高槻・高津尾遺跡等で製作された「高槻型石斧」（梅崎1996ほか）とみられる。高槻型石斧は主に北九州市域を中心に分布しており、吉野ヶ里遺跡からの出土は初である。また、遺跡内の別の調査区からもう一点表採されており、今後の石器整理の過程においてまた新たに確認される可能性がある。

7：砥石。第356調査区SK0541から出土した。石材は細粒砂岩で、大型柱状の定型砥石の完形品である。砥面は上下端を除く四面で、全ての面が使用により浅く窪んでいる。仕上げ砥とみられる。

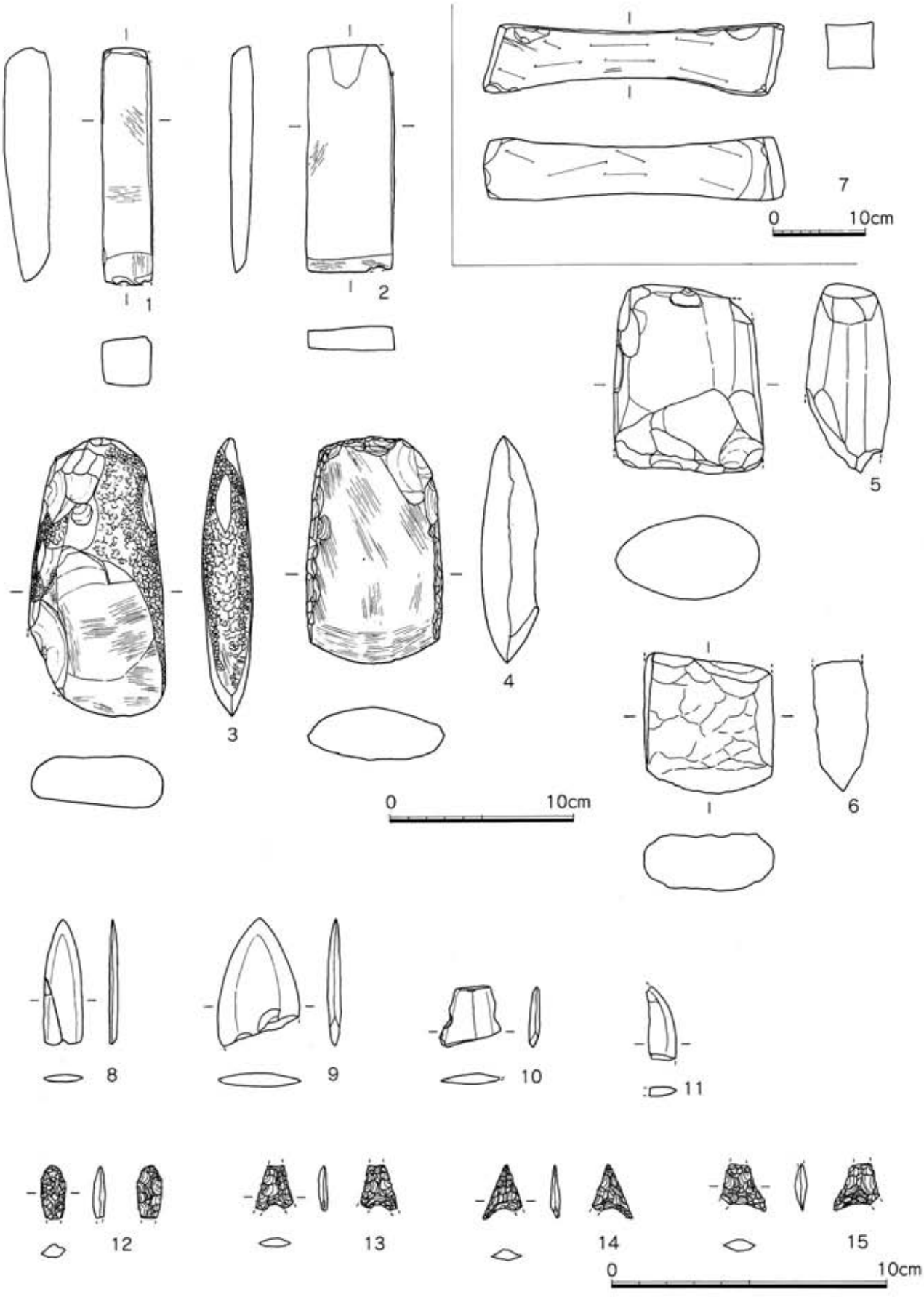


Fig.62　各地区出土石器実測図（2）

吉野ヶ里地区Ⅱ区第330調査区出土の石器には、SP1411土坑墓棺内の床面から若干浮いた位置で出土した石鏃5点と石剣片3点の計8点の石器がある。

8．磨製石鏃。石材は蛍青石ホルンフェルスで、無茎平基式の完形品である。基端部は一部破損している。体部に鎬は無く全体的に扁平身薄な形状である。全体的に風化が激しく、研磨痕は認められない。

9．磨製石剣。石材は蛍青石ホルンフェルスで、切先部の破片である。両側辺は膨らむ形状をなし、体部に鎬を持たない。全体的に風化が激しく、研磨痕は認められない。

10．磨製石剣。石材は蛍青石ホルンフェルスである。切先近くの破片で先端を欠損している。体部には鎬が一部認められる。裏面は風化のため剥落している。

11．磨製石剣。石材は蛍青石ホルンフェルスである。切先近くの側縁部の小片とみられる。全体的に風化が激しい。

12．打製石鏃。石材はサヌカイトである。凸基無茎式とみられるが基端部を欠損している。刃部両側辺は膨らみ、先端部は丸みを帯びる形状をなす。調整剥離はやや粗く、全体的に風化している。

13．打製石鏃。石材はサヌカイトである。無茎凹基式で先端部と両脚端部を欠損している。抉りは深く明瞭に入れられており、刃部両側辺はほぼ直線的である。調整剥離はやや粗く、全体的に風化している。

14．打製石鏃。石材はサヌカイトである。無茎凹基式で片脚端部を欠損している。抉りは深く明瞭に入れられており、刃部両側辺はほぼ直線的である。調整剥離はやや粗く、全体的に風化している。

15．打製石鏃。石材はサヌカイトである。無茎凹基式で先端部と片脚端部を欠損する。抉りは浅く広く入れられている。調整剥離はやや粗く、全体的に風化している。

参考文献

梅崎恵司1996「東北部九州の弥生時代高槻型石斧身の生産」『北九州市教育文化事業団埋蔵文化財研究所紀要』第10号　北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

佐賀県教育委員会2005『吉野ヶ里遺跡―田手二本黒木地区弥生時代前期環濠出土の土器と石器―』佐賀県文化財調査報告書第163集

下條信行1994『弥生時代・大陸系磨製石器の編年網の作成と地域間の比較研究』平成5年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書

（2） 土製品（Fig.63、PL.30、Tab.2）

土製品には、弥生時代の土弾（1～13）と舌状土製品（14）、紡錘車（15～18）、中世に属すると考えられる土鈴（22・23）のほか、時期不明の土錘（19・20）や鞴羽口（21）がある。

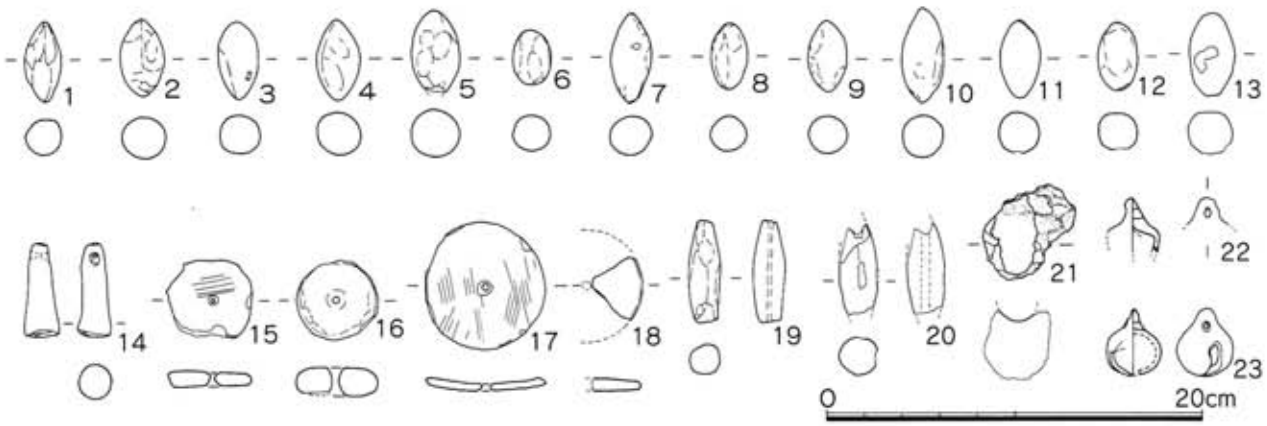


Fig.63　各地区出土土製品実測図

土弾は田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区や田手二本黒木地区Ⅲ区第345・347・355調査区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309・321調査区などから出土した。弥生時代中期前半前後のものと考えられるが、長さ3.1cm～5.1cm（一部を欠く５を除いた平均値4.03cm）、幅1.9cm～2.5cm以上（平均値2.18cm）、重さ10.1gr～22.5gr以上（平均値16.25gr）である。田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区P-44小穴出土の舌状土製品は、長さ5.0cm、最大径1.8cm、重さ12.4grの円柱状のもので細くなった先端に１孔がある。紡錘車は径4.3cm～6.7cmで、15は土器片を再利用したものと考えられる。15と17は土器の破片を再利用したもので、表面の片側に刷毛目痕跡が残っている。鞴羽口は4.9cm×5.0cm程度の小片であるが、出土した田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区のSX0255遺構からは、弥生時代後期後半前後と考えられる器台片が出土している。一帯からは前期末から中期前半にかけての青銅器関連遺構や遺物が出土しており、この羽口もこの時期に遡る可能性がある。

第４章 まとめ

平成10～15年度にかけて実施した国営吉野ヶ里歴史公園区域内の発掘調査は、調査区が小面積ではあったものの、遺跡南部に濃密に分布する弥生時代前期から中期にかけての集落跡や墓地跡の内容や広がり、中世の集落跡の様相を知るための情報を多く手にいれることができた。弥生時代については、弥生時代開始期の環壕と考えられる３箇所の溝跡（田手一本黒木地区Ⅰ区第304・326調査区・田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区）や、中期初頭の首長墓と考えられる細形銅剣を副葬した甕棺墓（田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区）、後期後半から終末期にかけての祭壇と目される盛土遺構を囲むと考えられる溝跡（田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区）などが確認されたこと、また、後期前半から終末期、さらには古墳時代初頭にかけての遺物が堆積した大規模環壕跡の地層別の土器様相が明らかになったこと（吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区）などを、成果として挙げることができる。中世については、妙法寺に関する遺構や遺物（田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区）や、大規模建物跡群（吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区）が確認されたことなどである。

これら成果の詳細については、一帯で実施され、現在調査記録や出土遺物の整理分析を進めている補助事業の成果と合わせ、近い将来にその詳細について報告する予定である。ここでは、その概要について簡単にまとめておきたい。

１．弥生時代に関する成果について

弥生時代に関する成果については、縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての環壕と目される溝跡が確認されたことである。田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区南部から第326調査区にかけての部分、田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区北端で確認されたものであるが、補助事業によって確認された同時期・同形態の溝跡の存在などから、溝の規模こそ小さいものの、広い範囲を囲んでいた可能性を示した。今回この溝跡が確認された各調査区の間を調査して一連のものかどうかを検証する必要がある。縄文時代晩期の夜臼式土器を出土する遺跡は、東約１kmに位置する吉野ヶ里町田手二本松遺跡など、周辺にいくつか存在しており、農業開始期にそれら周辺の集落群の上にたつ溝によって囲まれた集落が存在していたらしいことが明らかになった。

また、北方に位置する中期前半末から中期中頃までの首長が埋葬された墳丘墓より以前の首長墓の存在や位置については不明であったが、田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区で発見されたSJ0100甕棺墓は、この問題を考えるための重要な情報をもたらしたと言える。遺跡南部の丘陵上に縄文時代晩期から弥生時代前期・中期の集落拠点が存在していたことは今回の発掘調査や、一帯を対象とした補助事業による確認調査によって明らかになったが、首長墓らしい墳墓が初めて確認されたことは注目される。甕棺墓などの墳墓が塊状に分布する中期前半までの家族墓と考えられる墓地が、本調査区や田手一本黒木地区Ⅰ区第326調査区など丘陵南部にも数箇所存在している。中期初頭の甕棺墓の墓坑とては格段に広い墓坑に納められ、絹布らしい布片が付着した細形銅剣を副葬したSJ0100甕棺墓の被葬者は首長クラスの人物であった可能性がつよい。丘陵西の麓の「宝剣社」と呼ばれる祠の

神体となっていた細形銅剣(県重要文化財)も過去に一帯で出土したものと考えられることなどから、吉野ヶ里集落の初期の歴代首長は、南部に点在するそれぞれの家族墓に葬られた可能性がつよい。

田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区で確認された弥生時代後期後半から終末期にかけての溝跡については、すぐ北側に存在する祭壇と目される大規模な盛土遺構との関連で注目すべきである。SD0242溝跡は、調査区西端では北方向に緩やかに屈曲し盛土遺構を囲むかのようである。盛土遺構北側の田手二本黒木地区Ⅲ区第268調査区（平成９・10年度実施）では、盛土遺構の北から西にかけて屈曲した同様な溝跡が確認されており、このSD0242溝跡も盛土遺構を囲む一連の溝であった可能性が高い。後期後半から終末期にかけて、40haを越すとみられる大規模環壕集落の内部では、北内郭や南内郭、高床倉庫群など、環壕や溝によって囲まれた特別な空間が営まれたが、中期前半に築造された盛土を後期後半以降に新たに溝によって取り囲む行為も、これら一連の動きの中で行われたものと考えられ、盛土遺構の性格、ひいては集落内部の各施設の性格を考えていく上で重要である。弥生時代後期後半から終末期にかけて、環壕集落内の施設を整備していく中で、中期に築造された墳墓である集落北端に位置する墳丘墓や、集落南端に位置する祭壇と目される盛土施設についても、両施設の中期以来の性格をより際立たせているかのようである。

弥生時代後期の集落全体を取り囲む大規模環壕(外環壕)跡については、これまでの調査で、約600m区間の発掘調査を終えたことになる。この一連の環壕跡は、場所または後世の開墾などによる削平度合いによって、遺存状態に差があり、出土する土器についても時期的に様相を違えていた。環壕内部で盛んに生活が営まれている場所では土器の出土量が多く、墳丘墓一帯など生活感が乏しい場所では土器の出土数が極めて少ないし、極端に削平され場所では環壕上層から後期前半から後期後半にかけての土器が出土するなどしていた。吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区の調査によって、この大規模環壕の掘削時期と埋没時期についての情報を凡そ知ることができた。Ⅴ字形環壕の最下部の縦掘り部分からの土器の出土はほとんどなかったものの、下層部分からは後期前半期の土器が多く、上層からは弥生時代終末期の土器の出土が多く出土したが、部分的には上層から古墳時代初頭の土師器も出土した。これらのことから、掘削時期については後期前半のある時期と考えてよく、終末期の土器群が中下層など下層に近い位置まで出土することから、埋没時期については、終末期の遅い時期から、部分的には古墳時代初頭頃と考えられる。

２．中世に関する成果について

中世に関しても多くの情報を得ることができた。これまでの調査で、特に遺跡南部の丘陵上に多数の南北方向の溝跡や掘立柱建物跡のものとみられる柱穴などが確認され、国産の土師器や国産や中国製の陶磁器なども多数出土していたが、平成10～15年度にかけて実施した国営吉野ヶ里歴史公園区域内の発掘調査によって、さらに当時の状況が明らかになってきたと言える。

田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区一帯は、重要文化財に指定されている「東妙寺并妙法寺境内絵図・東妙寺文書」の境内絵図によると、妙法寺の伽藍の一部（北西部辺りか）と考えられる場所で、平成７年度に補助事業として実施した第220調査区では溝跡20条や掘立柱建物跡７基、柵７条、土坑30基、井戸跡１基などが確認され、土師器や瓦器、常滑の片口捏鉢や備前の擂鉢などの国産陶器、奈良火鉢と呼ばれる瓦質火鉢とともに中国製の青磁や白磁などが出土していた。

境内絵図には、田手川の左岸に東妙寺が、右岸に妙法寺の伽藍などが描かれている。東妙寺が描かれている場所には現在の東妙寺が存在するが、右岸一帯は畑地や住宅地、JR長崎本線の鉄道敷地となっている。妙法寺は正嘉年間(1257～1259)創建と伝えられる尼寺で、絵図によれば七堂伽藍を備えており、元亀元年(1570)に大友軍の兵火で焼失したとされている。中世の妙法寺や東妙寺に関連した古記録は、「東妙寺文書」を中心として多く残っている。当時の政権など中央とのかかわりを示すものとして、以下の記録がある。

・ 永仁６年(1298)　東妙寺・妙法寺領内殺生以下狼藉を停止する旨の官宣旨・巻頭御教書・鎮西探題御教書
・ 元弘元年(1331)　後醍醐天皇祈願所の東妙寺に晩年の宝祚を祈らせる

Fig.64　吉野ヶ里遺跡南部の各調査区位置図

・元弘３年(1333)　西大寺末寺東妙寺に対して武士等の乱妨を停止する旨の綸旨
・建武元年(1334)　東妙寺・妙法寺の寺領安堵の綸旨
・延元元年(1336)　足利尊氏 東妙寺に武運長久を祈らせる
・興国元年(1340)　足利直義 東妙・妙法寺を祈願所となす
・正平５年(1350)　足利直冬 妙法寺に狼藉停止の制札を掲げる
・正平６年(1351)　懐良親王 妙法寺領内での狼藉停止の令旨
・正平13年(1358)　後村上天皇 東妙・妙法両寺の寺領安堵の綸旨
・応永２年(1395)　足利義満 東妙寺を祈願所とする

今回その南に接して第324調査区を設け調査を実施したが、第220調査区から連続する溝跡や井戸跡などが確認され、土器や陶磁器などを出土したが、SD0025溝跡から一括して出土した14世紀の多数の土師器杯・小皿と

ベトナム白磁鉢・中国宋代の銅銭は注目される。多数出土した小皿の平均法量は口径8.96cm、底径6.70cm、器高1.82cm、杯は口径14.21cm、底径8.89cm、器高3.63cmであり、神埼市姉川城跡での土師器編年(神埼町教育委員会1996『姉川城跡』神埼町文化財調査報告書第50集)や大宰府における編年(大宰府市史1992『大宰府市史　考古資料編』大宰府市など)などによると14世紀中頃前後の所産と考えられるが、前半に属するものか後半に属するものかは判断しがたい。これらの土師器、宋銭を主体とした中国銭、獣骨などと共伴して出土したベトナム産白磁鉢は出土例が極めて稀なもので、入手経路についても興味が持たれる。このSD0025溝跡の一箇所からこれらの遺物が一括して出土したことは、近辺あるいはその場所で何らかの祭祀行為が行われたことを示していると考えられるが、上記の古記録が伝える内容がその契機となった可能性がある。

また、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区から多数の大規模な掘立柱建物跡が確認されたことも注目される。一帯では、補助事業による過去の確認調査で中世の建物跡などの遺構や遺物が確認されていたが、特に鉄滓の出土数が多く、東妙寺・妙法寺と関連の製鉄関連施設が存在したのではないかと考えられていた。今回の調査によって、取瓶と考えられる土製品が数多く出土したことは、鉄製品の生産拠点であったことを裏付けるが、規模が大きい建物群多数がまとまって確認されたことは、東妙寺・妙法寺のみならず、その後の山城としての性格を含めた中世の吉野ケ里遺跡を考える重要な資料となるものである。

Tab. 1　出土遺物（土器）一覧表

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備　考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.5	1	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕	19.6*	9.7+			明黄褐色	明黄褐色	00002719
	2	TDI-I	304	サブトレ SD0245	弥生土器	甕	24.0*	9.7+			暗褐色	暗褐色	00002714
	3	TDI-I	304	サブトレ 竪穴墓拡内	弥生土器	甕		5.6+			黒褐色	暗褐色	00002715
	4	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		3.5+			淡褐色	淡褐色	00002720
	5	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		5.0+			明黄褐色	明黄褐色	00002721
	6	TDI-I	304	SD0245　Aトレ	弥生土器	甕		3.6+			明黄褐色	明黄褐色	00002718
	7	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		10.35+			暗褐色	黒褐色	00002725
	8	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		4.05+			淡褐色	淡褐色	00002723
	9	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		3.45+			暗褐色	明黄褐色	00002724
	10	TDI-I	304	SD0245　Aトレ	弥生土器	甕		2.9+			淡褐色	淡褐色	00002717
	11	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		5.9+	7.1		明黄褐色	暗褐色	00002728
	12	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		3.4+	8.2*		暗褐色	暗褐色	00002729
	13	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	甕		2.8+	9.4*		明黄褐色	明黄褐色	00002730
	14	TDI-I	304	サブトレ 竪穴墓拡内	弥生土器	壺	11.5*	33.0+			淡褐色	淡褐色	00002716
	15	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	壺		4.7+			暗褐色	明黄褐色	00002727
	16	TDI-I	304	SD0245　Bトレ	弥生土器	壺		4.0+			淡褐色	黒褐色	00002726
	17	TDI-I	304	SD0242 No.1	弥生土器	壺	6.2*	6.9+			淡褐色	淡褐色	00002744
	18	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	壺		9.0+			淡褐色	淡褐色	00002742
	19	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	壺	9.6*	10.2+			明黄褐色	明黄褐色	00002741
	20	TDI-I	304	SD0242 1段下げ	弥生土器	甕	27.0*	6.7+			明黄褐色	明黄褐色	00002736
	21	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	甕		3.3+	6.5*		明黄褐色	明黄褐色	00002743
	22	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	甕		5.3+	13.4*	台付	明黄褐色	明黄褐色	00002739
	23	TDI-I	304	SD0242	弥生土器	高杯		4.4+	16.1	穿孔4個	淡褐色	淡褐色	00002738
	24	TDI-I	304	SD0242 1段下げ	弥生土器	高杯	15.2*	4.0+			明黄褐色	明黄褐色	00002735
	25	TDI-I	304	SD0242 1段下げ	弥生土器	器台	12.5	16.6	13.65*		明黄褐色	明黄褐色	00002732
	26	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	器台		18.8+	21.0*		淡褐色	淡褐色	00002731
	27	TDI-I	304	SD0242 Aトレ 下層	弥生土器	蓋		4.7+			明褐色	暗褐色	00002733
	28	TDI-I	304	SD0241　トレンチ	土師器	小皿	7.6*	1.9		糸切	明黄褐色	明黄褐色	00002746
	29	TDI-I	304	SD0241 1段下げ	須恵器	提瓶		3.6+			灰褐色	灰褐色	00002745
	30	TDI-I	304	SD0241 1段下げ	土師器	鍋	44.8*	12.5+			淡褐色	淡褐色	00002747
Fig.6	1	TDI-I	304	SK0248　No.20	弥生土器	甕	25.4*	19.65+			明黄褐色	明黄褐色	00002794
	2	TDI-I	304	SK0248　No.21	弥生土器	甕	26.0	14.45+			明黄褐色	明黄褐色	00002795
	3	TDI-I	304	SK0248　No.16	弥生土器	甕	27.4*	14.6+			褐色	褐色	00002791
	4	TDI-I	304	SK0248　No.5	弥生土器	甕	29.7*	7.2+			暗褐色	暗褐色	00002785
	5	TDI-I	304	SK0248　No.6	弥生土器	甕		8.2+	7.3*		明黄褐色	明黄褐色	00002789
	6	TDI-I	304	SK0248　No.18	弥生土器	甕		11.6+	5.3		明黄褐色	暗褐色	00002793
	7	TDI-I	304	SK0252 下層	弥生土器	甕		6.4+			淡褐色	淡褐色	00002806
	8	TDI-I	304	SK0252 下層	弥生土器	甕		7.9+	8.5		明黄褐色	淡褐色	00002807
	9	TDI-I	304	SK0259	弥生土器	甕	29.1*	8.1+			明黄褐色	明黄褐色	00002810
	10	TDI-I	304	SJ0261	弥生土器	甕	内24.6* 外30.3*	10.5+			褐色	褐色	00002797
	11	TDI-I	304	SX0255 トレンチ	弥生土器	器台	14.6*	7.2+			明褐色	明褐色	00002778
	12	TDI-I	304	SX0260　No.3	弥生土器	甕	29.4*	16.55+			明黄褐色	明黄褐色	00002813
	13	TDI-I	304	SX0260　No.2	弥生土器	壺	9.1	4.6+		外面：丹塗	明黄褐色	明黄褐色	00002812
	14	TDI-I	304	SD0245　検	縄文土器	深鉢		6.6+			暗褐色	暗赤褐色	01000900
	15	TDI-I	304	SD0245　検	縄文土器	深鉢		5.9+			暗褐色	暗赤褐色	01000901
	16	TDI-I	304	SD0245　1段下げ	縄文土器	深鉢		5.25+			暗褐色	暗褐色	01000902
Fig.8	1	YGK-V	305	SD1013　西壁	弥生土器	壺	8.5*	11.8	5.0		明黄褐色	明黄褐色	00001408
	2	YGK-V	305	SD1013　西壁　No.3	弥生土器	壺	18.2*	7.2+			明黄褐色	明黄褐色	00001406
	3	YGK-V	305	SD1013　東壁　No.2	弥生土器	壺	9.2	10.5			淡明褐色	淡明褐色	00001411
	4	YGK-V	305	SD1013　西壁　No.3	弥生土器	高杯	29.7*	4.0+			明黄褐色	明黄褐色	00001405
	5	YGK-V	305	SD1013　西壁　No.1	弥生土器	甕	16.7	6.0+		外面：煤付着	明黄褐色	明黄褐色	00001402
	6	YGK-V	305	SD1013　西壁　No.5	弥生土器	壺	17.5	21.2	7.8		淡褐色	明黄褐色	00001407
	7	YGK-V	305	SD1013　西壁　No.2	弥生土器	壺	18.5*	28.5	6.4		淡褐色	淡褐色	00001403
	8	YGK-V	305	SD1013　東壁　No.4	弥生土器	甕	28.8	44.7			明褐色	明褐色	00001409
	9	YGK-V	305	SD1013　東壁　No.1	弥生土器	大甕	47.0*	38.7+			明褐色	明褐色	00001410
Fig.12	1	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	鉢	18.2*	11.5			明黄褐色	茶褐色	01005455
	2	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	鉢		4.7+			暗褐色	明黄褐色	01005461
	3	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	鉢	30.0*	5.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005422
	4	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	鉢	31.0*	8.4+			明黄褐色	明黄褐色	01005424
	5	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	高杯	33.3*	5.4+			明黄褐色	明黄褐色	01005468
	6	YNG-V	308	SD0925　6アゼ南部上層	弥生土器	高杯		11+			明黄褐色	明黄褐色	01005425

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.12	7	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	器台	13.6*	10+			淡褐色	淡褐色	01005458
	8	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部	弥生土器	支脚	—	10.2	11.0		淡褐色	淡褐色	01005439
	9	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	甕	20.2*	6.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005470
	10	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	甕	22.5*	8.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005472
	11	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	甕	19.5*	9.6+			明黄褐色	明黄褐色	01005473
	12	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	甕	26.0*	16.7+			茶褐色	茶褐色	01005456
	13	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部上層	弥生土器	甕		5.0+	3.1		淡褐色	暗褐色	01005479
	14	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部上層	弥生土器	甕		3.4+	3.0		明褐色	明褐色	01005478
	15	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	甕		9.5+	13.5*	台付	淡褐色	淡褐色	01005428
	16	YNG-V	308	SD0925 6アゼ南部上層	弥生土器	壺	23.6*	9.0+			淡褐色	淡褐色	01005457
	17	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部	弥生土器	壺	19.0*	11.0+			淡褐色	淡褐色	01005444
	18	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部	弥生土器	壺	11.0*	7.5+			淡褐色	淡褐色	01005441
	19	YNG-V	308	SD0925 6アゼ北部	弥生土器	壺	16.0*	29.5			明褐色	明褐色	01005445
Fig.13	1	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	甕	10.0*	5.5+			淡褐色	淡褐色	01005411
	2	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	甕	31.5*	8.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005414
	3	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	甕	30.0*	11.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005413
	4	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	甕		6.0+	7.5		明黄褐色	明黄褐色	01005418
	5	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	鉢	6.7	高5.4 低4.0	4.3	手捏	淡褐色	淡褐色	01005420
	6	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	壺	24.0*	6.3+			明黄褐色	明黄褐色	01005417
	7	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	壺	22.0*	16.0+			淡褐色	淡褐色	01005429
	8	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	高杯	19.0*	5.0+			明黄褐色	明黄褐色	01005410
	9	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	高杯		6.0+		穿孔 3個	明黄褐色	明黄褐色	01005419
	10	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層	弥生土器	高杯		15.0+	15.5*	穿孔 2個	明黄褐色	明黄褐色	01005412
	11	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	壺	13.4*	10.1+			淡褐色	淡褐色	01005453
	12	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	壺	22.8*	8.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005390
	13	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	壺		14.0+			淡褐色	淡褐色	01005454
	14	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	壺	20.6*	5.1+			淡褐色	淡褐色	01005391
	15	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	壺	10.8*	5.4+			明黄褐色	明黄褐色	01005392
	16	YNG-V	308	SD0925 6アゼ上層下部	弥生土器	器台	14.0*	8.0+			淡褐色	淡褐色	01005407
	17	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	鉢	8.1*	4.0	4.0	手捏	淡褐色	淡褐色	01005399
	18	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	甕	15.6*	14.4+			明黄褐色	暗褐色	01005449
	19	YNG-V	308	SD0925 6アゼ中上層	弥生土器	甕	27.7*	8.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005446
Fig.14	1	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	壺	17.0*	4.7+			淡褐色	淡褐色	01005467
	2	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	鉢		6.9	5.0*		淡褐色	淡褐色	01005464
	3	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	鉢	22.7*	14.8+			淡褐色	淡褐色	01005465
	4	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	甕		9.7+	7.5		淡褐色	淡褐色	01005462
	5	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	甕		6.2+	11.6*		淡褐色	淡褐色	01005463
	6	YNG-V	308	SD0925 6アゼ下層	弥生土器	甕	46.2*	6.1+			明黄褐色	明黄褐色	01005466
	7	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	鉢	7.1*	3.7		手捏	淡褐色	淡褐色	01005498
	8	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	鉢	9.6*	5.3	2.9	手捏	暗褐色	暗褐色	01005497
	9	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	壺	10.9*	8.0			淡褐色	淡褐色	01005495
	10	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	壺		5.4+			明黄褐色	明黄褐色	01005496
	11	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	高杯		6.2+	11.9*	穿孔 4個	淡褐色	淡褐色	01005499
	12	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	支脚	—	10.3	11.0		明黄褐色	明黄褐色	01005504
	13	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	支脚	—	11.7	14.4*		淡褐色	淡褐色	01005505
	14	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	甕	16.2*	7.8+			淡褐色	淡褐色	01005500
	15	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	甕	23.0*	8.4+			明黄褐色	明黄褐色	01005501
	16	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	壺	23.0*	13.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005503
	17	YNG-V	308	SD0925 7アゼ上層	弥生土器	壺	51.6*	8.6+			明黄褐色	明黄褐色	01005502
Fig.15	1	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	壺	13.4*	7.8+			淡褐色	暗褐色	01005507
	2	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	壺	24.3*	9.3+			明黄褐色	明黄褐色	01005514
	3	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	壺	48.0	22.0	10.0		明黄褐色	明黄褐色	01005506
	4	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	鉢	7.9	3.7		手捏	明黄褐色	明黄褐色	01005517
	5	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	甕	24.3*	11.3+			明黄褐色	明黄褐色	01005512
	6	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	甕	37.3*	8.0+			明黄褐色	明黄褐色	01005513
	7	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	甕	18.0*	7.1+			淡褐色	淡褐色	01005508
	8	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	甕	16.8*	9.4+			淡褐色	淡褐色	01005510
	9	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	甕	20.0*	6.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005509
	10	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	器台	14.6	18.1	17.2		明黄褐色	明黄褐色	01005516
	11	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	支脚	—	10.4	12.9		淡褐色	淡褐色	01005518
	12	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中上層	弥生土器	支脚	6.1	12.1	9.7		淡褐色	淡褐色	01005519

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.16	1	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	甕	26.0*	5.9+			淡褐色	淡褐色	01005488
	2	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	甕	27.0*	16.4+			淡褐色	淡褐色	01005485
	3	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	甕	27.5*	7.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005482
	4	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	甕	28.0*	9.3+			明黄褐色	明黄褐色	01005490
	5	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	壺	8.4*	12.5	5.4		淡褐色	淡褐色	01005486
	6	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	壺	13.3*	8.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005489
	7	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	壺		4.4+			明黄褐色	暗褐色	01005491
	8	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	壺	内17.2 外27.3	41.4+	7.6		淡褐色	淡褐色	01005492
	9	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	支脚	—	10.0	10.5		明黄褐色	明黄褐色	01005483
	10	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	支脚	—	8.1	9.1*		明黄褐色	明黄褐色	01005484
	11	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	器台	13.0	16.2	14.9		明黄褐色	明黄褐色	01005481
	12	YNG-V	308	SD0925 7アゼ中下層下部	弥生土器	器台	12.9*	18.6	16.8*		淡褐色	淡褐色	01005480
	13	YNG-V	308	SD0925 7アゼ下層	弥生土器	甕	29.6*	6.2+			淡褐色	暗褐色	01005493
Fig.17	1	YNG-V	308	SD0925 8アゼ上層	弥生土器	壺	19.2*	6.1+			明黄褐色	明黄褐色	01005546
	2	YNG-V	308	SD0925 8アゼ上層	弥生土器	壺	21.2*	5.7+			淡褐色	淡褐色	01005547
	3	YNG-V	308	SD0925 8アゼ上層	弥生土器	甕	19.3*	7.2+			淡褐色	淡褐色	01005544
	4	YNG-V	308	SD0925 8アゼ上層	弥生土器	甕		5.6+	4.9		淡褐色	淡褐色	01005545
	5	YNG-V	308	SD0925 8アゼ上層	弥生土器	甕		3.3+	7.5		明黄褐色	明黄褐色	01005548
	6	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中上層	弥生土器	甕		5.8+	9.3*		明黄褐色	明黄褐色	01005539
	7	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺		11.6+	4.0		明黄褐色	明黄褐色	01005521
	8	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺	11.6*	11.9	5.5*		明黄褐色	明黄褐色	01005522
	9	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺	14.0*	17.0	5.8		明黄褐色	明黄褐色	01005520
	10	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺	17.5*	9.0+	-		明黄褐色	明黄褐色	01005523
	11	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺	22.8*	9.1+			明黄褐色	明黄褐色	01005526
	12	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	壺	25.6*	12.3+			淡褐色	淡褐色	01005540
	13	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	鉢	18.3	10.9	5.8		明黄褐色	明黄褐色	01005524
	14	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	鉢	8.2*	4.2		手焙	明黄褐色	明黄褐色	01005525
	15	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	甕	25.2*	17.5+			淡褐色	淡褐色	01005543
	16	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層	弥生土器	甕	24.2	31.2	8.2		明黄褐色	明黄褐色	01005527
Fig.18	1	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	壺	19.4*	10.1+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	01005529
	2	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	壺	18.0*	20.9+			淡褐色	淡褐色	01005528
	3	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	支脚	—	9.6	10.4		淡褐色	淡褐色	01005538
	4	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	器台	11.4	15.8	12.3		淡褐色	淡褐色	01005537
	5	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	器台	13.6	20.0	16.0		明黄褐色	明黄褐色	01005536
	6	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕		7.9+	7.5		明褐色	明褐色	01005535
	7	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕		8.8+	10.0		明黄褐色	暗褐色	01005530
	8	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕	20.5*	11.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005534
	9	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕	26.6*	7.4+			淡褐色	暗褐色	01005533
	10	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕	32.2*	5.3+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	01005532
	11	YNG-V	308	SD0925 8アゼ中下層下部	弥生土器	甕	49.0*	21.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005531
Fig.19	1	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	甕	15.0*	3.7+			明黄褐色	淡褐色	01005555
	2	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	甕	14.0*	6.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005552
	3	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	甕	16.6*	6.1+			淡褐色	淡褐色	01005554
	4	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	壺	13.6*	6.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005553
	5	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	壺		6.9+	4.7		明黄褐色	明黄褐色	01005561
	6	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	土師器	高杯		5.0+		穿孔 2個	明黄褐色	明黄褐色	01005559
	7	YNG-V	308	SD0925 9アゼ上層	弥生土器	高杯		5.1+		穿孔 4個	明黄褐色	明黄褐色	01005560
	8	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	甕	24.5*	6.6+			明黄褐色	明黄褐色	01005600
	9	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	甕	24.0*	8.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005550
	10	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	甕	28.2*	8.4+			淡褐色	淡褐色	01005599
	11	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	甕	37.0*	14.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005594
	12	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	甕	46.4*	10.5+			茶褐色	茶褐色	01005593
	13	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	壺	19.7	7.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005549
	14	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	壺	21.6*	7.7+			淡褐色	淡褐色	01005604
	15	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	壺		25.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005551
	16	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中上層	弥生土器	高杯		5.7+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	01005603
Fig.20	1	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	鉢	8.6*	4.4	2.9	手焙	淡褐色	淡褐色	01005568
	2	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	鉢	14.0*	7.6	5.3		明黄褐色	明黄褐色	01005570
	3	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	高杯	35.6*	5.9+			淡褐色	淡褐色	01005569
	4	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	支脚	—	12.5	12.1		明黄褐色	明黄褐色	01005567
	5	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	壺	16.6*	7.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005576

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.20	6	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	壺	11.2*	5.2+			明黄褐色	淡褐色	01005573
	7	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	壺	14.5*	4.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005571
	8	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	甕	17.6*	10.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005578
	9	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	甕	24.9*	10.1+			明黄褐色	明黄褐色	01005585
	10	YNG-V	308	SD0925 9アゼ中下層	弥生土器	甕	39.8*	7.6+			明黄褐色	明黄褐色	01005581
	11	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	壺	17.5*	14.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005566
	12	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	壺	18.3*	14.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005564
	13	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	鉢	22.0*	7.0+			淡褐色	淡褐色	01005590
	14	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	鉢	15.2	8.4	5.5		明黄褐色	明黄褐色	01005563
	15	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	鉢	17.0*	13.0	6.0		明黄褐色	明黄褐色	01005562
	16	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	甕	26.6*	7.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005587
	17	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	甕	27.0*	8.3+			明黄褐色	明黄褐色	01005588
	18	YNG-V	308	SD0925 9アゼ下層	弥生土器	甕	27.0*	6.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005589
Fig.21	1	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	17.5*	4.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005638
	2	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	17.3*	6.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005635
	3	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	15.4	5.6+			淡褐色	淡褐色	01005616
	4	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	17.2*	6.4+			淡褐色	淡褐色	01005646
	5	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	器台	7.1*	5.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005639
	6	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	高杯	27.7*	6.0+			淡褐色	淡褐色	01005640
	7	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	高杯		6.4+		穿孔 4個	明黄褐色	明黄褐色	01005619
	8	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	15.0	14.8+			淡褐色	淡褐色	01005644
	9	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	14.3*	13.4+			淡褐色	淡褐色	01005647
	10	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	32.9*	9.7+			明黄褐色	明黄褐色	01005614
	11	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	甕	63.2*	33.9+			明黄褐色	明黄褐色	01005643
	12	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	壺	13.5*	11.1+			淡褐色	淡褐色	01005617
	13	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	壺	16.8*	13.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005615
	14	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層	弥生土器	壺	14.8*	21.1+			明黄褐色	明褐色	01005618
	15	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上層上中上層	弥生土器	壺	21.3*	21.2+			淡褐色	淡褐色	01005649
Fig.22	1	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	壺	20.0*	7.5+			明黄褐色	明黄褐色	01005629
	2	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	壺	19.2*	10.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005624
	3	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部・中下層	弥生土器	壺	13.5*	26.0	6.7		明黄褐色	明黄褐色	01005641
	4	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	支脚	—	10.2	11.4		淡明褐色	淡明褐色	01005621
	5	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	鉢	28.2*	13.0	6.5		黒褐色	淡明褐色	01005622
	6	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	高杯	20.6	14.5	14.5*	穿孔 1個	明黄褐色	明黄褐色	01005620
	7	YNG-V	308	SD0925 10アゼ上中上層下部	弥生土器	甕	29.6*	15.1+			淡褐色	淡褐色	01005623
	8	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中上層下部	弥生土器	甕	40.8*	13+			明黄褐色	明黄褐色	01005648
	9	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	鉢	8.2	4.3		手捏	淡褐色	淡褐色	01005609
	10	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	鉢	8.6*	4.8	4.5	手捏	淡褐色	淡褐色	01005610
	11	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	支脚	—	11.1	12.4		明黄褐色	明黄褐色	01005607
	12	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	高杯		9.1+	12.2		淡褐色	淡褐色	01005608
	13	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	甕	29.7*	9.3+			淡褐色	淡褐色	01005611
	14	YNG-V	308	SD0925 10アゼ中下層	弥生土器	甕	32.6*	16.3+			淡褐色	淡褐色	01005613
Fig.23	1	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	高杯	29.5*	5.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005655
	2	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	土師器	高杯	25.0	8.3+			淡褐色	淡褐色	01005654
	3	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	高杯		8.7+	22.3	穿孔 3個	明黄褐色	明黄褐色	01005659
	4	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	高杯		9.0+	14.0*	穿孔 4個	明黄褐色	明黄褐色	01005652
	5	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	土師器	高杯		9.3+	14.7*		明黄褐色	明黄褐色	01005653
	6	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	土師器	高杯		11.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005651
	7	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	鉢	18.5*	10.2+			明黄褐色	明黄褐色	01005656
	8	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	壺	17.9	11.9+			淡褐色	淡褐色	01005658
	9	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	壺		15.8+			明黄褐色	明黄褐色	01005662
	10	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	壺		16.9+			淡褐色	淡褐色	01005661
	11	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	壺	18.1	33.2			淡褐色	淡褐色	01005650
	12	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	壺	11.7*	8.6+			明黄褐色	明黄褐色	01005657
	13	YNG-V	308	SD0925 12アゼ南部上層	弥生土器	器台		19.6+	16.1		明黄褐色	明黄褐色	01005660
Fig.30	1	TD8-I	324	SD0025 No.98	土師器	小皿	8.9	1.6	6.9	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000547
	2	TD8-I	324	SD0025 No.110	土師器	小皿	8.9	4.6	7.1	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000554
	3	TD8-I	324	SD0025 No.100	土師器	小皿	9.1	1.7	6.9	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000550
	4	TD8-I	324	SD0025 No.114	土師器	小皿	9.6	1.6	7.6	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000556
	5	TD8-I	324	SD0025 No.26	土師器	小皿	9.3	1.8	7.5		明黄褐色	明黄褐色	07000514
	6	TD8-I	324	SD0025 No.22	土師器	小皿	8.4	1.4	6.1	糸切（右回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000510

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.30	7	TDI-I	324	SD0025 No.38	土師器	小皿	10.1	1.7	7.4	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000519
	8	TDI-I	324	SD0025 No.91	土師器	小皿	8.8	1.8	6.9	糸切（左回り）	淡明褐色	淡明褐色	07000543
	9	TDI-I	324	SD0025 No.49	土師器	小皿	8.9	1.7	7.0	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000525
	10	TDI-I	324	SD0025 No.34	土師器	小皿	9.4	1.9	7.0		明黄褐色	明黄褐色	07000518
	11	TDI-I	324	SD0025 No.95	土師器	小皿	9.7	2.0	7.3	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000545
	12	TDI-I	324	SD0025 No.33/34下	土師器	小皿	9.3	2.0	6.9	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000517
	13	TDI-I	324	SD0025 No.33	土師器	小皿	9.4	1.6	6.8		明黄褐色	明黄褐色	07000516
	14	TDI-I	324	SD0025 No.107	土師器	小皿	9.1	1.6	6.8	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000552
	15	TDI-I	324	SD0025 No.14	土師器	小皿	8.2	1.6	6.2		明黄褐色	明黄褐色	07000506
	16	TDI-I	324	SD0025 No.75	土師器	小皿	8.9	2.2	6.9	糸切（左回り）	暗褐色	暗褐色	07000537
	17	TDI-I	324	SD0025 No.97	土師器	小皿	9.1	1.9	6.9	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000546
	18	TDI-I	324	SD0025 No.21	土師器	小皿	8.8	1.8	6.7	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000509
	19	TDI-I	324	SD0025 No.56	土師器	小皿	9.4	1.9	6.8		明黄褐色	明黄褐色	07000529
	20	TDI-I	324	SD0025 No.51	土師器	小皿	9.2	1.8	6.7	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000526
	21	TDI-I	324	SD0025 No.99下	土師器	小皿	9.2	1.7	6.6	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000549
	22	TDI-I	324	SD0025 No.15	土師器	小皿	8.2	1.7	6.1	糸切（右回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000507
	23	TDI-I	324	SD0025 No.73	土師器	小皿	8.7	2.0	6.6	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000536
	24	TDI-I	324	SD0025 No.112	土師器	小皿	9.0	1.9	6.6	糸切（左回り） 煤付着	明黄褐色	明黄褐色	07000555
	25	TDI-I	324	SD0025 No.25	土師器	小皿	9.1	2.0	6.7	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000513
	26	TDI-I	324	SD0025 No.84	土師器	小皿	9.5	1.7	6.6	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000541
	27	TDI-I	324	SD0025 No.48	土師器	小皿	9.0	1.8	6.5	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000524
	28	TDI-I	324	SD0025 No.45	土師器	小皿	9.1	1.8	6.6		明黄褐色	明黄褐色	07000523
	29	TDI-I	324	SD0025 No.28	土師器	小皿	9.1	2.0	6.7	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000515
	30	TDI-I	324	SD0025 No.99	土師器	小皿	9.3	1.9	6.8	糸切（左回り） 煤付着	淡褐色	淡褐色	07000548
	31	TDI-I	324	SD0025 No.57	土師器	小皿	8.5	2.0	6.3	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000530
	32	TDI-I	324	SD0025 No.53	土師器	小皿	8.1	2.2	6.5	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	07000528
	33	TDI-I	324	SD0025 No.41	土師器	小皿	9.0	2.1	6.5	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000521
	34	TDI-I	324	SD0025 No.101	土師器	小皿	9.1	2.0	6.3	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000551
	35	TDI-I	324	SD0025 No.82	土師器	杯	14.0	3.2	10.4	糸切（左回り）	暗褐色	暗褐色	07000540
	36	TDI-I	324	SD0025 No.94	土師器	杯	14.1	3.1	10.5	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000544
	37	TDI-I	324	SD0025 No.78	土師器	杯	14.0	3.6	10.5	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000539
	38	TDI-I	324	SD0025 No.24	土師器	杯	13.5	3.3	10.1	糸切（左回り）	暗褐色	暗褐色	07000512
	39	TDI-I	324	SD0025 No.77	土師器	杯	13.3	3.5	9.9	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000538
	40	TDI-I	324	SD0025 No.40	土師器	杯	14.4	3.6	10.3	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000520
	41	TDI-I	324	SD0025 No.52	土師器	杯	14.7	3.6	10.2		明黄褐色	明黄褐色	07000527
	42	TDI-I	324	SD0025 No.87	土師器	杯	14.4	3.4	10.3		淡褐色	淡褐色	07000542
	43	TDI-I	324	SD0025 No.23	土師器	杯	13.8	3.3	9.7	糸切（左回り）	暗褐色	暗褐色	07000511
	44	TDI-I	324	SD0025 No.44	土師器	杯	13.9	3.5	9.1	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000522
	45	TDI-I	324	SD0025 No.72	土師器	杯	14.1	3.5	8.1	糸切（左回り）	淡明褐色	淡明褐色	07000535
	46	TDI-I	324	SD0025 No.11	土師器	杯	14.1	3.5	8.1		明黄褐色	明黄褐色	07000505
	47	TDI-I	324	SD0025 No.69	土師器	杯	14.1	3.3	7.6		淡明褐色	淡明褐色	07000532
	48	TDI-I	324	SD0025 No.10	土師器	杯	14.6	3.9	8.1	糸切（右回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000504
	49	TDI-I	324	SD0025 No.70	土師器	杯	14.7	3.4	7.6	糸切（左回り）	淡明褐色	淡明褐色	07000533
	50	TDI-I	324	SD0025 No.17	土師器	杯	13.5	3.4	6.0	糸切（右回り）	暗褐色	暗褐色	07000508
	51	TDI-I	324	SD0025 白磁鉢内	土師器	小皿	9.2*	1.8	6.8*		暗淡褐色	暗淡褐色	07000491
	52	TDI-I	324	SD0025 白磁鉢内	土師器	杯	14.3*	2.7	9.9*		淡褐色	淡褐色	07000489
	53	TDI-I	324	SD0025 白磁鉢内	土師器	杯	13.8*	3.8	9.5	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	07000488
	54	TDI-I	324	SD0025	白磁	鉢	16.0	6.2	7.4	ベトナム産 内面：目跡	灰白色（釉）	-	01000893
	55	TDI-I	324	SD0025 Cトレ	土師器	小皿	7.5*	1.3	5.1	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	07000483
	56	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	土師器	小皿	7.2*	2.4	6.0*		浅黄橙色	浅黄橙色	07000499
	57	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	土師器	小皿	8.2*	2.0	6.4*	糸切（右回り）	にぶい橙色	にぶい橙色	07000497
	58	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	土師器	小皿	8.8*	2.1	6.8*	糸切（右回り）	浅黄橙色	浅黄橙色	07000495
	59	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	土師器	小皿	9.2*	2.4	7.0	糸切（右回り）	浅黄橙色	浅黄橙色	07000496
	60	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	土師器	杯	14.6	3.1	10.9	糸切（右回り）	浅黄橙色	浅黄橙色	07000494
	61	TDI-I	324	SD0025 Aトレ	土師器	杯	13.9	3.7	9.5	糸切（右回り）	明黄褐色	明黄褐色	07000481
	62	TDI-I	324	SD0025 Bトレ下層	土師器	鍋		5.0+		外面：煤付着	浅黄黄色	淡明褐色	07000502
	63	TDI-I	324	SD0025 Cトレ	土師器	鍋		6.6+		外面：煤付着	淡褐色	淡褐色	07000485
	64	TDI-I	324	SD0025 I段下げ	白磁	壺	12.6*	7.1+			灰オリーブ色（釉）	灰白色（胎）	07000487
	65	TDI-I	324	SD0025 Bトレ下層	青磁	碗	15.2*	5.4+		龍泉窯系	灰オリーブ色（釉）	灰白色（胎）	07000503
	66	TDI-I	324	SD0025 Cトレ	青磁	碗		2.4+	6.3	龍泉窯系	オリーブ黄色（釉）	浅黄橙色（胎）	07000558
	67	TDI-I	324	SD0025 集中部上部	青磁	碗		3.7+	7.2*		灰オリーブ色（釉）	灰色（胎）	07000557

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.30	68	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	陶器	甕		7.5+		常滑	赤褐色（釉）	褐灰色（胎）	07000492
	69	TDI-I	324	SD0025 Bトレ上層	陶器	甕		8.5+	10.8*		黒（自然釉）	灰色（胎）	07000493
Fig.31	1	TDI-I	324	SD0003 トレンチ	須恵器	捏鉢		5.3+		灰かぶり有	灰色	灰色	07000460
	2	TDI-I	324	SD0003 トレンチ	陶器	碗		1.6+	4.1	朝鮮陶器	灰色(釉)	明黄褐色（胎）	07000461
	3	TDI-I	324	SD0028 Bトレ下	土師器	小皿		1.0+	5.0*		浅褐色	浅褐色	07000466
	4	TDI-I	324	SD0028 Bトレ下	土師器	小皿		1.7+	6.7*		浅褐色	浅褐色	07000465
	5	TDI-I	324	SD0028 Bトレ下	土師器	小皿		1.7+	6.4*		浅褐色	浅褐色	07000464
	6	TDI-I	324	SD0028 Aトレ上	瓦器	碗		2.0+	6.7*		黒褐色	灰白色	07000469
	7	TDI-I	324	SD0028 1段下げ	白磁	碗		2.4+			灰オリーブ色	灰白色（釉）	07000463
	8	TDI-I	324	SD0028 Bトレ上	白磁	皿		2.2+			乳白色（釉）	浅褐色（胎）	07000470
	9	TDI-I	324	SD0028 Aトレ上	須恵器	捏鉢		3.1+		灰かぶり有	灰色	灰色	07000467
	10	TDI-I	324	SD0028 Aトレ下	須恵器	捏鉢	21.6*	3.6+			灰色	灰色	07000468
	11	TDI-I	324	SE0092	陶器	甕		6.5+		常滑	オリーブ灰色（釉）	赤灰色（胎）	07000559
	12	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	土師器	杯	8.6*	4.6+			浅褐色	浅褐色	07000474
	13	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	土師器	鍋		4.1+			浅褐色	浅褐色	07000472
	14	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	土師器	鍋		4.5+			明黄褐色	明黄褐色	07000473
	15	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	瓦器	碗		1.2+	7.2*		灰白色	灰色	07000475
	16	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	青磁	碗		2.0+	10.5*	越州窯系、内面：目跡	オリーブ黄色（釉）	灰色（胎）	07000476
	17	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	陶器	皿	9.6*	2.1+		朝鮮陶器	灰色（釉）	灰色（胎）	07000477
	18	TDI-I	324	SD0093 1段下げ	瓦器	瓦	幅21.6 厚2.4	長14.9			灰色	灰色	07000478
	19	TDI-I	324	SD0095周辺検 1段下げ	土師器	鍋		2.5+			明黄褐色	明黄褐色	07000480
	20	TDI-I	324	SD0095 Bトレ	瓦器	鍋		6.7+			灰色	灰色	07000479
	21	TDI-I	324	P15	弥生土器	甕	25.4*	3.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000561
	22	TDI-I	324	P15	弥生土器	甕	28.8*	3.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000562
	23	TDI-I	324	P15	弥生土器	甕		5.6+			明黄褐色	明黄褐色	07000560
	24	TDI-I	324	P15	弥生土器	甕		10.2+	6.7	台付	浅褐色	明黄褐色	07000564
	25	TDI-I	324	P15	弥生土器	甕	13.7*	12.4	4.4	穿孔 1個	暗灰褐色	暗灰褐色	07000565
	26	TDI-I	324	P15	弥生土器	壺	13.4*	5.1+			暗灰褐色	暗灰褐色	07000563
Fig.34	1	YNG-III	331	SH1417 No.2	弥生土器	鉢	7.8	4.4		手捏	浅褐色	浅褐色	02004861
	2	YNG-III	331	SH1417 No.4	弥生土器	鉢	13.0	10.3+	5.1*		暗褐色	暗褐色	02004862
	3	YNG-III	331	SH1417 No.6	弥生土器	鉢		8.0+			浅褐色	浅褐色	02004863
	4	YNG-III	331	SH1417 No.1	土製品	杓子	2.8~3.2			長10.7	明黄褐色	明黄褐色	02004860
	5	YNG-III	331	SH1417 壁穴	弥生土器	器台		6.3+	11.9*		明黄褐色	明黄褐色	02004866
	6	YNG-III	331	SH1417 No.7	弥生土器	壺	9.9	25.2	8.0		浅褐色	浅褐色	01005223
	7	YNG-III	331	SH1417 壁穴	弥生土器	壺		4.3+			明黄褐色	暗褐色	02004879
	8	YNG-III	331	SH1417	弥生土器	高杯	28.8	14.0+			黄褐色	黄褐色	02004864
	9	YNG-III	331	SH1417 No.8	弥生土器	甕	19.8*	7.05+			浅褐色	浅褐色	02004868
	10	YNG-III	331	SH1417 No.10	弥生土器	甕	18.3*	7.35+			浅褐色	浅褐色	02004870
	11	YNG-III	331	SH1417 No.9	弥生土器	甕	24.2*	4.0+			浅褐色	浅褐色	02004869
	12	YNG-III	331	SH1417 No.3	弥生土器	甕	21.8	25.7	10.0		明黄褐色	明黄褐色	01005222
	13	YNG-III	331	SH1417 No.10	弥生土器	甕		5.6+	7.9*		浅褐色	浅褐色	02004871
	14	YNG-III	331	SH1417 P25	弥生土器	甕		3.4+	13.4*		明黄褐色	明黄褐色	02004872
Fig.35	1	YNG-III	330	SP1411	弥生土器	甕		0.9+			浅褐色	浅褐色	02004838
	2	YNG-III	330	SP1411	弥生土器	甕		7.6+			明黄褐色	明黄褐色	02004840
	3	YNG-III	330	SP1411	弥生土器	壺		7.5+			明黄褐色	明黄褐色	02004839
	4	YNG-III	330	SK1412	弥生土器	甕		1.1+			浅褐色	浅褐色	02004857
	5	YNG-III	330	SK1412	弥生土器	甕		1.3+			浅褐色	浅褐色	02004841
	6	YNG-III	330	SK1412	弥生土器	壺		4.75+			明黄褐色	明黄褐色	02004843
	7	YNG-III	330	SK1413	弥生土器	甕		7.9+			浅褐色	浅褐色	02004846
	8	YNG-III	330	SK1413	弥生土器	甕		2.05+			明黄褐色	明黄褐色	02004844
	9	YNG-III	330	SP1416	弥生土器	甕		1.8+			明黄褐色	明黄褐色	02004853
	10	YNG-III	330	SP1416	弥生土器	甕		1.35+			明黄褐色	明黄褐色	02004854
	11	YNG-III	330	SP1416	弥生土器	甕		3.05+			浅褐色	浅褐色	02004852
	12	YNG-III	330	P4	弥生土器	甕		2.9+			灰白色	灰白色	02004836
	13	YNG-III	330	P23	弥生土器	壺		2.3+			浅褐色	浅褐色	02004837
	14	YNG-III	330	SK1415	須恵器	蓋		1.2+			暗灰色	暗灰色	02004848
	15	YNG-III	330	SK1415	須恵器	高		3.0+			灰色	灰色	02004851
	16	YNG-III	330	SK1415	須恵器	蓋	22.8	3.1+			灰色	灰色	02004849
	17	YNG-III	330	SK1415	須恵器	杯		7.45+			灰色	灰色	02004850
	18	YNG-III	331	SK1418	須恵器	蓋		1.35+			暗灰色	暗灰色	02004901
	19	YNG-III	331	SK1418	須恵器	蓋		1.55+			赤褐色	赤褐色	02004900

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.35	20	YNG-Ⅲ	331	SK1418	須恵器	杯		1.45+	8.8*		灰色	灰色	02004898
	21	YNG-Ⅲ	331	P6	須恵器	高杯		1.7+			暗灰色	灰色	02004893
	22	YNG-Ⅲ	331	P6	土師器	甕	18.2*	7.75+			暗褐色	暗褐色	02004892
	23	YNG-Ⅲ	331	P13	須恵器	蓋		1.4+			灰色	灰色	02004894
	24	YNG-Ⅲ	331	P19	須恵器	蓋		3.2+			灰色	灰色	02004895
	25	YNG-Ⅲ	331	P19	須恵器	杯	12.6*	2.3+			灰色	灰色	02004896
	26	YNG-Ⅲ	331	検	須恵器	蓋		1.4+			灰色	灰色	02004883
	27	YNG-Ⅲ	331	検	須恵器	蓋		1.4+			灰色	灰色	02004882
	28	YNG-Ⅲ	331	検	須恵器	皿		1.8+		ヘラ切痕	灰色	灰色	02004880
	29	YNG-Ⅲ	331	検	土師器	杯		1.6+	9.8*		明黄褐色	明黄褐色	02004885
	30	YNG-Ⅲ	333	SH1419 No.5	須恵器	蓋	13.5	4.3		内面：天井部ヘラ記号	暗灰色	灰色	02004911
	31	YNG-Ⅲ	333	SH1419	須恵器	蓋	11.4*	2.6+			灰色	灰色	02004907
	32	YNG-Ⅲ	333	SH1419	須恵器	杯	12.5*	4.1+			灰色	灰色	02004909
	33	YNG-Ⅲ	333	SH1419	須恵器	杯		2.3+			灰色	灰色	02004908
	34	YNG-Ⅲ	333	SH1419 No.4	土師器	杯		2.2+			淡褐色	淡褐色	02004910
	35	YNG-Ⅲ	333	SH1419	土師器	甕		3.6+			明褐色	明褐色	02004906
	36	YNG-Ⅲ	333	P15	須恵器	杯		0.9+	7.6*		灰白色	灰白色	02004905
	37	YNG-Ⅲ	333	P15	土師器	杯		1.6+	7.6*		褐色	褐色	02004904
	38	YNG-Ⅲ	333	P3	須恵器	杯		1.9+	9.6*		灰白色	灰白色	02004902
	39	YNG-Ⅲ	337	SK1469 No.1	須恵器	杯	13.9*	2.7+			灰色	灰色	02004912
	40	YNG-Ⅲ	337	SK1469	須恵器	杯		4.0+			灰色	灰色	02004913
	41	YNG-Ⅲ	337	SK1469	土師器	甕		2.4+			明黄褐色	明黄褐色	02004917
	42	YNG-Ⅲ	337	SH1424	弥生土器	甕		3.5+			明黄褐色	明黄褐色	02004916
	43	YNG-Ⅲ	337	SH1424 No.3	弥生土器	壺		2.3+	6.4		明黄褐色	明黄褐色	02004914
Fig.37	1	YGK-Ⅷ	309	SK2145	土師器	小皿	6.4*	1.7	3.4*	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	00003452
	2	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	土師器	小皿	5.9	1.3	3.1	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003469
	3	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	土師器	小皿	6.5*	2.1	4.2		白褐色	白褐色	00003466
	4	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	土師器	小皿	6.8	1.7	3.8		白褐色	白褐色	00003468
	5	YGK-Ⅷ	309	SD2150	土師器	杯	11.5	3.3	3.9	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003471
	6	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	土師器	杯	10.9	3.4	4.4	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003472
	7	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	土師器	杯	11.6	3.0	4.5	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003473
	8	YGK-Ⅷ	309	SD2150 幾	瓦器	鍋		3.6+			褐灰色	灰白色	00003477
	9	YGK-Ⅷ	309	SK2151	土師器	蓋	つまみ径 3.2	1.8+			淡褐色	淡褐色	00003455
	10	YGK-Ⅷ	309	SK2151	須恵器	蓋	13.8*	1.4+			灰色	灰色	00003458
	11	YGK-Ⅷ	309	SK2151	須恵器	蓋	14.2	2.8			灰色	灰色	00003459
	12	YGK-Ⅷ	309	SK2151	須恵器	皿	15.0*	2.0+			褐灰色	褐灰色	00003457
	13	YGK-Ⅷ	309	SK2151	土師器	甕	18.2*	8.85+			明黄褐色	明黄褐色	00003454
	14	YGK-Ⅷ	309	SK2151	土師器	甕	21.4*	5.3+			暗褐色	暗褐色	00003453
	15	YGK-Ⅷ	309	SK2151	土師器	甑	28.5*	8.0+			明黄褐色	明黄褐色	00003456
	16	YGK-Ⅷ	309	SK2152	陶器	皿	11.2*	3.2	5.3*	唐津、内面：目跡	灰オリーブ色（釉）	灰白色（釉）	00003463
	17	YGK-Ⅷ	309	SK2152	白磁	不明		2.15+			灰白色（釉）	灰白色（釉）	00003465
	18	YGK-Ⅷ	309	SK2152	青磁	碗		2.1+			オリーブ灰色（釉）	灰白色（釉）	00003462
	19	YGK-Ⅷ	309	SK2152	陶器	不明		3.7+	12.0*		灰白色（釉）	茶褐色（釉）	00003464
	20	YGK-Ⅷ	309	SK2152	土師器	擂鉢		5.0+			灰褐色	灰褐色	00003460
	21	YGK-Ⅷ	309	P6	青磁	碗		3.5+			灰オリーブ色（釉）	灰白色（釉）	00003562
	22	YGK-Ⅷ	309	P31	土師器	小皿	6.8	2.3	3.5	糸切（左回り）	淡褐色	淡褐色	00003565
	23	YGK-Ⅷ	309	P32	土師器	小皿	5.9*	1.5	3.1*		淡褐色	淡褐色	00003571
	24	YGK-Ⅷ	309	P32	土師器	小皿	6.2	1.8	3.0	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	00003570
	25	YGK-Ⅷ	309	P48	須恵器	擂鉢		2.6+			灰色	灰色	00003567
	26	YGK-Ⅷ	309	P50	土師器	小皿	7.35*	1.8	4.6*	糸切（左回り）	淡明褐色	淡明褐色	00003568
	27	YGK-Ⅷ	309	P52	土師器	小皿	6.1	1.9	4.2	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	00003569
	28	YGK-Ⅷ	309	P70	土師器	小皿	5.5*	1.8	3.1*		淡褐色	淡褐色	00003572
	29	YGK-Ⅷ	309	P70	土師器	小皿	6.8	1.7	4.3		淡明褐色	淡明褐色	00003574
	30	YGK-Ⅷ	309	P70	土師器	小皿	9.6*	2.5	4.0*	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	00003573
	31	YGK-Ⅷ	309	P78	土師器	小皿		1.1+	3.2		淡褐色	淡褐色	00003575
	32	YGK-Ⅷ	309	P83	土師器	小皿		2.1+	5.2		淡褐色	淡褐色	00003576
	33	YGK-Ⅷ	309	P93	土師器	杯	12.6*	3.8	7.0		淡褐色	淡褐色	00003577
	34	YGK-Ⅷ	309	P93	土師器	杯	13.1*	3.5	7.6*		淡褐色	淡褐色	00003578
	35	YGK-Ⅷ	309	P111	土師器	杯		3.0+	7.6*		淡褐色	淡褐色	00003579
	36	YGK-Ⅷ	309	P152	土師器	小皿	6.8	2.2	4.1		明黄褐色	明黄褐色	00003581
	37	YGK-Ⅷ	309	P153	土師器	杯		1.1+	5.0	底部に穿孔 2個	淡褐色	淡褐色	00003582

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
	38	YGK-Ⅷ	309	P11	瓦器	火鉢		4.6+	22.2*		黒色	黒色	00003564
	39	YGK-Ⅷ	309	P36	瓦器	擂鉢	29.2*	7.4+			灰色	灰色	00003566
Fig.37	40	YGK-Ⅷ	309	P151	土師器	杯	10.9*	2.2	4.3*	糸切（左回り）	明黄褐色	明黄褐色	00003580
	41	YGK-Ⅷ	309	P154	土師器	鍋		14.9+			浅褐色	浅褐色	00003585
	42	YGK-Ⅷ	309	P155	須恵器	壺	4.1	6.7	5.1		灰色	灰色	00003584
	43	YGK-Ⅷ	309	P156	磁器（染付）	杯	11.75*	2.3+		草花絵	明緑灰色（釉）	灰白色（釉）	00003583
	1	YGK-Ⅷ	309	Bトレ 上層	須恵器	蓋	15.2*	1.1+			灰色	灰色	00003479
	2	YGK-Ⅷ	309	Bトレ 上層	須恵器	杯		3.5+	7.4*		灰色	灰色	00003478
	3	YGK-Ⅷ	309	Bトレ 上層	土師器	杯		2.1+	4.9*	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003480
	4	YGK-Ⅷ	309	Bトレ 中層	弥生土器	甕	30.0*	6.1+			明黄褐色	明黄褐色	00003483
	5	YGK-Ⅷ	309	Bトレ 下層	弥生土器	甕	30.0*	7.7+			明黄褐色	明黄褐色	00003487
	6	YGK-Ⅷ	309	Cトレ 4層	弥生土器	甕	29.6*	5.4+			明黄褐色	明黄褐色	00003497
	7	YGK-Ⅷ	309	Cトレ 4層	弥生土器	器台	10.0	4.8+			明黄褐色	明黄褐色	00003492
	8	YGK-Ⅷ	309	Dトレ 4層	土師器	壺	17.6	13.5+			浅褐色	黒褐色	00003509
	9	YGK-Ⅷ	309	Eトレ 上層	弥生土器	甕	内35.1* 外32.0*	4.5+			浅褐色	浅褐色	00003512
	10	YGK-Ⅷ	309	Eトレ 中層	弥生土器	甕	29.6*	5.1+			浅褐色	明黄褐色	00003513
	11	YGK-Ⅷ	309	Eトレ 中層	弥生土器	器台	9.4*	14.2	12.0*		明褐色	明褐色	00003519
	12	YGK-Ⅷ	309	Eトレ 中層	弥生土器	甕		5.6+			淡茶褐色	浅褐色	00003518
	13	YGK-Ⅷ	309	Eトレ 上層	土師器	杯	12.0*	3.3+			浅褐色	浅褐色	00003510
	14	YGK-Ⅷ	309	Fトレ	青磁	碗		2.0+	6.2*	龍泉窯系	灰オリーブ色（釉）	灰白色（釉）	00003521
	15	YGK-Ⅷ	309	Fトレ	陶器	大甕		6.6+			赤褐色（釉）	にぶい褐色（釉）	00003522
	16	YGK-Ⅷ	309	JKトレ 検	土師器	杯	14.2*	3.1	8.2*		浅褐色	明黄褐色	00003533
	17	YGK-Ⅷ	309	JKトレ 検	土師器	杯		3.9+	8.8*		明黄褐色	明黄褐色	00003535
	18	YGK-Ⅷ	309	Kトレ	須恵器	杯	14.2*	3.4	10.2*		灰色	灰色	00003528
Fig.38	19	YGK-Ⅷ	309	JKトレ 検	須恵器	杯	14.4*	3.8	10.0*		灰色	灰色	00003531
	20	YGK-Ⅷ	309	検	無文土器	壺		4.4+		牛角把手	黒褐色	黒褐色	04001464
	21	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	5.9*	1.4	3.5*	糸切（右回り）	明褐色	明褐色	00003545
	22	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.0	1.3	2.8	糸切（左回り）	浅褐色	浅褐色	00003541
	23	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.6	1.3	3.2		浅褐色	浅褐色	00003540
	24	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	5.8*	1.7	3.0	糸切（右回り）	浅褐色	浅褐色	00003539
	25	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.4*	1.6	3.6	糸切（右回り）	浅褐色	浅褐色	00003548
	26	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	5.6*	1.6	3.6*		茶褐色	茶褐色	00003546
	27	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.4*	1.8	4.0*	糸切（右回り）	浅褐色	浅褐色	00003543
	28	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.5*	1.9	3.8*	糸切（左回り）	浅褐色	浅褐色	00003542
	29	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.6	2.2	4.2	糸切（左回り）	浅褐色	浅褐色	00003549
	30	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	小皿	6.6*	2.1	3.6	糸切（左回り）	浅褐色	浅褐色	00003547
	31	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	杯	10.4*	2.4	4.2		浅褐色	浅褐色	00003553
	32	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	杯	11.0*	3.1	4.7*	糸切（左回り）	浅褐色	浅褐色	00003552
	33	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	杯	11.6*	3.2	4.1	糸切（右回り）	白褐色	白褐色	00003551
	34	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	杯	9.9*	3.9	7.1*		明黄褐色	明黄褐色	00003525
	35	YGK-Ⅷ	309	検	土師器	茶釜	17.9*	10.5+			褐色	褐色	00003555
	36	YGK-Ⅷ	309	検	白磁	紅皿	4.75*	1.5	1.3*		灰白色（釉）	灰白色（釉）	01000891
	37	YGK-Ⅷ	309	検	白磁	紅皿	5.75*	1.5	2.8*		灰白色（釉）	灰白色（釉）	01000892
	38	YGK-Ⅷ	309	検	磁器（染付）	皿	10.3*	2.7	5.6	福建	明オリーブ灰色（釉）	灰白色（釉）	01000905
	1	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	蓋	16.9	4.1		穿孔 2孔1対	明黄褐色	明黄褐色	00003655
	2	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	高杯	内25.4* 外30.8*	1.9+			浅褐色	浅褐色	00003651
	3	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	高杯	内22.6* 外28.0*	4.8+			明黄褐色	明黄褐色	00003650
	4	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	甕	内24.4* 外30.7*	3.2+			浅褐色	浅褐色	00003647
	5	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	甕	内27.2* 外36.6*	2.9+			浅褐色	浅褐色	00003646
	6	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	甕		4.1+	7.4*		浅褐色	暗褐色	00003654
	7	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	甕		5.9+	7.4*		茶褐色	暗褐色	00003653
Fig.40	8	YGK-Ⅷ	315	SH2100	弥生土器	甕		4.7+	8.0		浅褐色	浅褐色	00003652
	9	YGK-Ⅷ	314	SK2090	弥生土器	壺	14.4*	3.15+			明黄褐色	明黄褐色	00003638
	10	YGK-Ⅷ	315	SK2092	弥生土器	蓋	つまみ部 6.1	7.7+			明黄褐色	明黄褐色	00003637
	11	YGK-Ⅷ	315	SK2092	弥生土器	甕	24.2*	6.5+			明黄褐色	明黄褐色	00003639
	12	YGK-Ⅷ	315	SK2093	瓦器	火鉢		5.65+			灰色	灰色	00003640
	13	YGK-Ⅷ	315	SK2095	瓦器	鉢		4.35+			灰色	灰色	00003643
	14	YGK-Ⅷ	315	SK2097	土師器	小皿	6.4*	1.7	4.0*		浅褐色	浅褐色	00003644
	15	YGK-Ⅷ	315	SK2094	青磁	陰花皿		1.85+	6.4*	陰花	オリーブ灰色（釉）	灰白色（釉）	00003641
	16	YGK-Ⅷ	315	SK2094	陶器	碗		2.1+	4.2*	唐津、外面：目跡	オリーブ灰色（釉）	灰色（胎）	00003642
	17	YGK-Ⅷ	315	SD2098	青磁	碗	16.0*	6.0+		龍泉窯系	オリーブ灰色（釉）	灰色（胎）	00003645

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.41	1	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	甕		2.5+			淡褐色	淡褐色	07000016
	2	YGK-Ⅷ	320	SH2162	弥生土器	甕		4.7+			淡褐色	淡褐色	07000002
	3	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	甕		2.8+			淡褐色	淡褐色	07000017
	4	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	壺		3.0+			淡褐色	淡褐色	07000018
	5	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	鉢	10.9*	5.6+			淡褐色	淡明黄褐色	07000020
	6	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	甕	22.0*	16.9+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000019
	7	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	蓋	つまみ径 5.6	7.4+			淡褐色	淡褐色	07000023
	8	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	壺	頸部径 11.9	6.1+			明黄褐色	暗褐色	07000022
	9	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	甕	14.6*	5.3+			明黄褐色	明黄褐色	07000021
	10	YGK-Ⅷ	320	SH2162	弥生土器	壺		7.3+			明黄褐色	明黄褐色	07000004
	11	YGK-Ⅷ	320	SH2168	弥生土器	甕		4.0+			黒褐色	黒褐色	07000015
	12	YGK-Ⅷ	320	SH2162	弥生土器	甕		2.5+			淡褐色	淡褐色	07000003
	13	YGK-Ⅷ	320	SH2165	土師器	杯		1.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000012
	14	YGK-Ⅷ	320	SH2162	弥生土器	甕		2.9+	8.0*		明黄褐色	明黄褐色	07000005
	15	YGK-Ⅷ	320	SK2166	土師器	小皿	8.6*	1.6	3.6*	糸切	淡褐色	淡褐色	07000029
	16	YGK-Ⅷ	320	SK2166 最	陶器	皿		1.7+	6.9*	唐津	乳白色（釉）	淡褐色（釉）	07000030
	17	YGK-Ⅷ	320	SK2166	瓦質土器	不明	14.2*	4.4+			白灰色	白灰色	07000025
	18	YGK-Ⅷ	320	SK2166	瓦質土器	鍋		3.6+			黒褐色	黒褐色	07000027
	19	YGK-Ⅷ	320	SK2166	瓦質土器	鍋		5.7+			黒褐色	暗褐色	07000028
	20	YGK-Ⅷ	320	SK2166	瓦質土器	擂鉢		4.8+		外面：煤付着	灰色	灰色	07000026
	21	YGK-Ⅷ	320	SK2171	弥生土器	甕		2.65+			明黄褐色	明黄褐色	07000033
	22	YGK-Ⅷ	320	SK2171	弥生土器	甕		3.0+			暗淡褐色	暗淡褐色	07000036
	23	YGK-Ⅷ	320	SK2171	弥生土器	甕		5.2+			明黄褐色	暗褐色	07000034
	24	YGK-Ⅷ	320	SK2171	弥生土器	甕		4.9+	6.0*		暗褐色	暗褐色	07000038
	25	YGK-Ⅷ	320	SK2171	弥生土器	鉢	12.6	6.7	4.6		明黄褐色	明黄褐色	07000031
	26	YGK-Ⅷ	320	SK2173	弥生土器	甕	13.8*	2.4+			淡褐色	淡褐色	07000040
	27	YGK-Ⅷ	320	SK2173	弥生土器	甕		2.7+			明黄褐色	明黄褐色	07000042
	28	YGK-Ⅷ	320	SK2173	弥生土器	甕		3.55+	7.8*		明黄褐色	暗褐色	07000044
	29	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	小皿	5.8*	1.3	3.6		淡褐色	淡褐色	07000098
	30	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	小皿		0.7+	3.5*	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	07000097
	31	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	小皿	8.4*	1.65+			淡褐色	淡褐色	07000096
	32	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	鍋		4.4+			淡褐色	淡褐色	07000099
	33	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦器	鍋		4.1+		外面：煤付着	灰色	灰色	07000106
	34	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦質土器	鍋		4.7+			灰褐色	灰褐色	07000105
	35	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦質土器	鍋		2.6+			灰色	灰色	07000103
	36	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	鍋		2.2+			淡褐色	淡褐色	07000101
	37	YGK-Ⅷ	320	SX2098	土師器	鍋		3.1+			淡褐色	淡褐色	07000100
	38	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦器	不明		3.7+			灰色	灰色	07000110
	39	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦器	羽釜		2.8+			灰色	灰色	07000109
	40	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦器	擂鉢		4.4+			灰色	灰色	07000107
	41	YGK-Ⅷ	320	SX2098	瓦器	擂鉢		3.3+			暗淡褐色	暗淡褐色	07000108
	42	YGK-Ⅷ	320	SX2098	須恵器	杯		2.0+	9.6*		灰色	灰色	07000112
	43	YGK-Ⅷ	320	SX2098	陶器	碗	10.2*	4.3	3.7	唐津	灰オリーブ色（釉）	灰白色（釉）	07000113
	44	YGK-Ⅷ	320	SX2098	陶器	皿		1.55+	4.6	唐津	灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000114
	45	YGK-Ⅷ	320	SX2098	陶器	皿		2.05+			オリーブ黄色（釉）	灰白色（釉）	07000117
	46	YGK-Ⅷ	320	SX2098	陶器	皿		1.5+	4.8*	唐津	黄灰色（釉）	褐灰色（釉）	07000116
	47	YGK-Ⅷ	320	SX2098	陶器	皿		1.2+	4.9	唐津	灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000115
	48	YGK-Ⅷ	320	SX2098	白磁	皿		1.2+			明オリーブ灰色（釉）	灰白色（釉）	07000120
	49	YGK-Ⅷ	320	SX2098	白磁	碗		4.8+			灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000119
	50	YGK-Ⅷ	320	SX2098	磁器（染付）	皿	9.6*	2.3	4.0*		明青灰色（釉）	白灰色（釉）	07000121
	51	YGK-Ⅷ	320	SX2098	青磁	碗		2.15+	6.2*	龍泉窯系	オリーブ灰色（釉）	灰色（釉）	07000118
Fig.42	1	YGK-Ⅷ	320	SX2160	弥生土器	甕		3.3+			淡褐色	淡褐色	07000059
	2	YGK-Ⅷ	320	SX2160	弥生土器	壺		5.6+			白褐色	白褐色	07000060
	3	YGK-Ⅷ	320	SX2160	弥生土器	鉢	16.0*	4.8			明褐色	明褐色	07000058
	4	YGK-Ⅷ	320	SX2173（下段）	土師器	小皿	7.9*	1.9+			淡褐色	淡褐色	07000062
	5	YGK-Ⅷ	320	SX2173	土師器	小皿	10.0*	2.3	5.9*	糸切	淡褐色	淡褐色	07000068
	6	YGK-Ⅷ	320	SX2173	土師器	小皿		1.8+	5.9	糸切（右回り）	淡褐色	淡褐色	07000069
	7	YGK-Ⅷ	320	SX2173	瓦器	羽釜		4.1+			灰褐色	灰褐色	07000079
	8	YGK-Ⅷ	320	SX2173	土師器	羽釜		5.7+			明褐色	明褐色	07000078
	9	YGK-Ⅷ	320	SX2173 下段	瓦器	羽釜		7.0+			灰色	灰色	07000064
	10	YGK-Ⅷ	320	SX2173	瓦器	鍋		6.1+		煤付着	灰褐色	灰褐色	07000082

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.42	11	YGK-Ⅶ	320	SX2173 下段	土師器	鍋		8.1+			淡褐色	灰褐色	07000063
	12	YGK-Ⅶ	320	SX2173（下段）	土師器	鍋		3.4+			明淡褐色	明淡褐色	07000061
	13	YGK-Ⅶ	320	SX2173	瓦器	擂鉢		3.1+			白褐色	白褐色	07000085
	14	YGK-Ⅶ	320	SX2173	瓦器	擂鉢		8.1+			灰褐色	白褐色	07000086
	15	YGK-Ⅶ	320	SX2173	瓦器	擂鉢		5.7+			淡灰褐色	淡灰褐色	07000084
	16	YGK-Ⅶ	320	SX2173 下段	瓦器	火鉢		5.3+			灰褐色	灰褐色	07000065
	17	YGK-Ⅶ	320	SX2173	瓦器	火鉢		5.0			灰褐色	灰褐色	07000080
	18	YGK-Ⅶ	320	SX2173	土製品	取瓶	6.4	3.0			灰褐色	灰褐色	07000094
	19	YGK-Ⅶ	320	SX2173	土製品	取瓶	7.0*	3.8			灰褐色	灰褐色	07000095
	20	YGK-Ⅶ	320	SX2173	磁器	皿	10.9	3.1	4.0	内面：目跡	灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000089
	21	YGK-Ⅶ	320	SX2173	磁器（染付）	皿		2.6+			灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000090
	22	YGK-Ⅶ	320	SX2173	陶器	碗		2.9+	4.2*	唐津	オリーブ黄色（釉）	灰（釉）	07000092
	23	YGK-Ⅶ	320	SX2173	磁器（染付）	皿		1.7+	4.5*		灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000091
	24	YGK-Ⅶ	320	SX2173	陶器	皿	11.5*	3.7	4.5	唐津、目跡	灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000088
	25	YGK-Ⅶ	320	P3	陶器	碗		2.4+	2.2	唐津、内面・外面：目跡3ヶ所	灰白色（釉）	にぶい褐色（釉）	07000133
	26	YGK-Ⅶ	320	P4	弥生土器	鉢	8.6*	4.7	4.3*	手捏	灰白色	灰白色	07000134
	27	YGK-Ⅶ	320	P14/SH2160 同検	陶器	皿		1.9+	4.2*	唐津、目跡	灰色（釉）	にぶい黄橙色（釉）	07000145
	28	YGK-Ⅶ	320	P19	土師器	小皿	5.7	2.0	3.3	糸切	淡褐色	淡褐色	07000151
	29	YGK-Ⅶ	320	P45	白磁	皿		0.8+	6.2*		灰白色（釉）	乳白色（釉）	07000167
	30	YGK-Ⅶ	320	P32	磁器（染付）	皿		1.2+	6.3*	景徳鎮	灰白色（釉）	明青灰色（釉）	07000155
	31	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土師器	杯	8.0*	2.4+			淡白褐色	淡白褐色	07000045
	32	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土師器	小皿		1.0+	4.6*	糸切	淡褐色	淡褐色	07000047
	33	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土師器	小皿		1.0+	4.6*	糸切	淡褐色	淡褐色	07000046
	34	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土師器	杯		2.0+	4.7	糸切	褐色	褐色	07000048
	35	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土製品	取瓶	7.0*	2.2+			灰褐色	灰褐色	07000055
	36	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土製品	取瓶	8.0*	3.4+			灰白色	灰白色	07000054
	37	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	土製品	取瓶		3.3+			灰褐色	灰褐色	07000056
	38	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	陶器	皿	11.4*	2.4+		唐津	明緑色（釉）	灰白色（釉）	07000050
	39	YGK-Ⅶ	320	検	白磁	碗		2.4+			灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000129
	40	YGK-Ⅶ	320	中段 検	白磁	碗		1.7+	4.9		淡灰緑色（釉）	灰白色（釉）	07000123
	41	YGK-Ⅶ	320	中段 検	陶器	皿		3.3+	4.0	唐津	乳白色（釉）	茶褐色（釉）	07000124
	42	YGK-Ⅶ	320	検	磁器（染付）	皿		2.6+			透明（釉）	乳白色（釉）	07000125
	43	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	磁器（染付）	皿		2.4+		景徳鎮	青白色（釉）	乳白色（釉）	07000052
	44	YGK-Ⅶ	320	検	磁器（染付）	皿		1.1+			灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000128
	45	YGK-Ⅶ	320	検	磁器（染付）	皿		1.1+	4.0		透明（釉）	浅黄橙色（釉）	07000126
	46	YGK-Ⅶ	320	SK2166/SK2167周検	白磁	水注		2.4+			黒褐色（釉）	灰褐色（釉）	07000053
Fig.44	1	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ	弥生土器	甕		9.9+			淡褐色	淡褐色	07000180
	2	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ	弥生土器	甕		3.8+			淡褐色	淡褐色	07000182
	3	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ最下層	弥生土器	甕		4.5+			淡褐色	淡褐色	07000171
	4	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ最下層	弥生土器	甕	16.5*	3.3+			にぶい黄橙色	褐灰色	07000170
	5	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ最下層	弥生土器	壺	18.9*	6.2+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000179
	6	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ最下層	弥生土器	甕		1.9+	5.9		淡褐色	灰褐色（釉）	07000175
	7	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Aトレ最下層	弥生土器	甕		7.5+	6.2		明褐色	明褐色	07000176
	8	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ上層	弥生土器	甕		4.5+			明淡褐色	淡褐色	07000187
	9	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ上層	弥生土器	甕		2.8+			淡明褐色	にぶい褐色	07000188
	10	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ上層	弥生土器	壺		4.05+			明黄褐色	淡褐色	07000189
	11	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ上層	弥生土器	壺		7.5+			明黄褐色	淡褐色	07000190
	12	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	甕		3.7+			淡褐色	淡褐色	07000194
	13	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	甕		3.3+			淡褐色	淡褐色	07000193
	14	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	甕		4.3+			明黄褐色	明黄褐色	07000195
	15	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	鉢		8.7+	6.6	コップ状	明黄褐色	明黄褐色	07000200
	16	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	鉢	12.4*	5.7+			明黄褐色	明黄褐色	07000199
	17	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	器台		8.3+	18.6*		明黄褐色	明黄褐色	07000201
	18	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	支脚		10.9	12.5		明褐色	明褐色	07000203
	19	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	甕	26.0*	9.8+			褐色	明褐色	07000197
	20	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ中層	弥生土器	甕	28.2*	7.0+			淡褐色	淡褐色	07000196
	21	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	鉢	9.7*	5.0		手捏	明黄褐色	明黄褐色	07000212
	22	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	壺		4.6+			淡明褐色	淡明褐色	07000209
	23	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	壺	17.0*	4.2+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000208
	24	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	壺		5.0+			淡明褐色	淡明褐色	07000210
	25	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	甕		4.9+			淡褐色	淡褐色	07000204

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.44	26	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	甕	12.9*	6.8+			淡褐色	淡褐色	07000206
	27	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	甕	19.5*	7.1+			淡明褐色	淡明褐色	07000205
	28	YGK-Ⅶ	321	SD2176 Bトレ下層	弥生土器	甕		7.0+	7.6		淡褐色	黒褐色	07000207
	29	YGK-Ⅶ	322	SD2176 Bトレ	弥生土器	鉢	7.4*	4.1	3.8*	手捏	淡褐色	淡褐色	07000236
	30	YGK-Ⅶ	322	SD2176 Bトレ	弥生土器	甕		8.3+			明黄褐色	明黄褐色	07000234
	31	YGK-Ⅶ	322	SD2176 検	弥生土器	甕	29.0*	7.6+			赤淡褐色	赤淡褐色	07000232
Fig.46	1	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	甕		6.0+			明黄褐色	明黄褐色	07000352
	2	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	甕		6.6+			褐色	明黄褐色	07000354
	3	TDN-Ⅲ	323	SD0465	弥生土器	甕		5.7+			褐色	淡明褐色	07000365
	4	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	甕		8.4+			暗褐色	明黄褐色	07000353
	5	TDN-Ⅲ	323	SD0465 中層	弥生土器	甕	19.6*	18.0+			褐色	明黄褐色	07000370
	6	TDN-Ⅲ	323	SD0465	弥生土器	甕		5.4+			褐灰色	褐灰色	07000366
	7	TDN-Ⅲ	323	SD0465 1段下げ	弥生土器	甕		5.6+			褐色	明褐色	07000363
	8	TDN-Ⅲ	323	SD0465	弥生土器	甕		3.5+			明褐色	淡明褐色	07000375
	9	TDN-Ⅲ	323	SD0465	弥生土器	甕		4.7+			明黄褐色	淡明黄褐色	07000374
	10	TDN-Ⅲ	323	SD0465 中層	弥生土器	甕		2.1+	8.4*		明褐色	明褐色	07000368
	11	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	甕		3.1+	7.2		明褐色	明褐色	07000357
	12	TDN-Ⅲ	323	SD0465 中層	弥生土器	甕		3.2+	7.8*		淡明褐色	淡明褐色	07000367
	13	TDN-Ⅲ	323	SD0465 下層	弥生土器	壺		16.3+		外面：丹塗	淡明褐色	淡明褐色	07000377
	14	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	壺		1.5+	8.2*		灰白色	灰白色	07000359
	15	TDN-Ⅲ	323	SD0465 下層	弥生土器	高杯		4.3+	14.8*		黒褐色	黒褐色	07000376
	16	TDN-Ⅲ	323	SD0465 上層	弥生土器	高杯		4.6+			淡明褐色	淡明褐色	07000361
	17	TDN-Ⅲ	323	SD0492	弥生土器	蓋	36.7*	6.2+			淡褐色	淡褐色	07000388
	18	TDN-Ⅲ	323	SD0492	弥生土器	甕	32.3*	10.2+			明黄褐色	淡褐色	07000387
	19	TDN-Ⅲ	323	SD0492	弥生土器	甕	35.1*	11.0+			明黄褐色	明黄褐色	07000386
	20	TDN-Ⅲ	323	SD0492	弥生土器	甕		7.0+	9.2*		淡褐色	淡褐色	07000389
Fig.47	1	TDN-Ⅲ	323	SD0481 B区	土師器	杯	16.8*	4.5+			淡明褐色	淡明褐色	07000383
	2	TDN-Ⅲ	323	SD0481 B区	土師器	甕		3.2+	13.5*		淡明褐色	褐色	07000382
	3	TDN-Ⅲ	323	SD0481	須恵器	甕	40.4	87.8+			灰色	灰色	07000351
	4	TDN-Ⅲ	323	SD0461	土師器	杯		1.0+	6.6*		淡褐色	淡褐色	07000334
	5	TDN-Ⅲ	323	SD0461	土師器	杯		1.2+	9.5*		淡褐色	淡褐色	07000335
	6	TDN-Ⅲ	323	SD0461	瓦器	椀		3.4+	6.4*		灰色	灰白色	07000339
	7	TDN-Ⅲ	323	SD0461	土師器	鍋		4.0+			暗褐色	暗褐色	07000332
	8	TDN-Ⅲ	323	SD0461	土師器	鍋		4.5+		外面：煤付着	暗淡褐色	淡褐色	07000333
	9	TDN-Ⅲ	323	SD0461 トレンチ	土師器	鍋		3.6+		外面：煤付着	淡褐色	淡褐色	07000343
	10	TDN-Ⅲ	323	SD0461	須恵器	壺鉢		3.2+		灰かぶり有	灰色	灰色	07000337
	11	TDN-Ⅲ	323	SD0461 1段下げ	須恵器	壺鉢		3.0+		灰かぶり有	灰色	灰色	07000342
	12	TDN-Ⅲ	323	SD0461	須恵器	壺鉢		4.7+		灰かぶり有	灰色	灰色	07000336
	13	TDN-Ⅲ	323	SD0461 トレンチ	白磁	椀		2.0+	7.0*		灰白色（釉）	灰白色（胎）	07000346
	14	TDN-Ⅲ	323	SD0461	青磁	皿		1.6+	5.4*		灰オリーブ色（釉）	灰オリーブ色（胎）	07000338
	15	TDN-Ⅲ	323	SD0461 トレンチ	青磁	椀		3.3+	5.1	龍泉窯系	明緑灰色（釉）	灰白色（胎）	07000347
	16	TDN-Ⅲ	323	SD0461 トレンチ	陶器	壺鉢		2.2+	8.9*		—	灰色（胎）	07000345
	17	TDN-Ⅲ	323	SD0461	瓦器	瓦	幅7.1		厚3.3+		灰白色	灰白色	07000340
	18	TDN-Ⅲ	323	SD0461 1段下げ	瓦器	瓦	幅11.3	長10.3	厚3.2+		灰白色		07000341
	19	TDN-Ⅲ	323	SD0461 トレンチ	瓦器	火鉢		11.3+			灰色	灰白色	07000349
	20	TDN-Ⅲ	323	SD0495	土師器	小皿	7.8	2.1	5.9		淡褐色	淡褐色	07000406
	21	TDN-Ⅲ	323	SD0495	土師器	鍋		4.0+			淡褐色	淡褐色	07000405
	22	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	椀		4.2+			黒褐色	白褐色	07000404
	23	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	椀		2.0+	6.4*		灰色	灰色	07000400
	24	TDN-Ⅲ	323	SD0495	白磁	皿	11.7*	3.0	6.3*		灰白色（釉）	灰白色（胎）	07000398
	25	TDN-Ⅲ	323	SD0495	白磁	壺		4.0+		水注か	明オリーブ灰色（釉）	灰白色（胎）	07000397
	26	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	擂鉢		4.4+	10.0*		淡褐色	淡褐色	07000394
	27	TDN-Ⅲ	323	SD0495	陶器	甕		4.9+		備前 灰かぶり有	赤褐色	赤褐色	07000396
	28	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	火鉢		6.4+	25.2*		灰白色	黒褐色	07000395
	29	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	瓦	幅11.6	長19.4	厚2.5+		灰白色	灰白色	07000391
	30	TDN-Ⅲ	323	SD0495	瓦器	瓦	幅7.6	長9.0	厚1.6+		灰色	灰色	07000393
Fig.48	1	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	甕		3.8+			淡褐色	淡褐色	07000243
	2	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	甕		4.1+			明褐色	明褐色	07000242
	3	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	甕		3.4+			淡褐色	淡褐色	07000244
	4	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	甕		3.0+			淡褐色	淡褐色	07000245
	5	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	甕		5.7+	8.5		明黄褐色	明黄褐色	07000247

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.48	6	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	高杯		7.1+			明褐色	明褐色	07000249
	7	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	壺		6.6+			褐色	褐色	07000248
	8	TDN-Ⅲ	323	SH0466 床直	弥生土器	鉢	14.1*	3.4+			淡褐色	淡褐色	07000259
	9	TDN-Ⅲ	323	SH0466	弥生土器	鉢	13.0*	4.9+			淡明褐色	淡明褐色	07000250
	10	TDN-Ⅲ	323	SH0470	弥生土器	甕		4.7+			明褐色	明褐色	07000253
	11	TDN-Ⅲ	323	SH0470	弥生土器	甕		4.3+			明褐色	明褐色	07000254
	12	TDN-Ⅲ	323	SH0470	弥生土器	甕		4.4+	6.5		明褐色	明褐色	07000256
	13	TDN-Ⅲ	323	SH0470	弥生土器	器台	14.1*	6.0+			明褐色	明褐色	07000258
	14	TDN-Ⅲ	323	SH0474	弥生土器	甕		3.8+			淡褐色	淡褐色	07000260
	15	TDN-Ⅲ	323	SH0474	弥生土器	甕		4.1+			明褐色	明褐色	07000262
	16	TDN-Ⅲ	323	SH0474	弥生土器	甕		3.4+	10.2*		淡褐色	淡褐色	07000265
	17	TDN-Ⅲ	323	SH0474	弥生土器	器台		4.9+	10.2*		明褐色	明褐色	07000266
	18	TDN-Ⅲ	323	SH0475	弥生土器	甕		3.0+			淡褐色	淡褐色	07000267
	19	TDN-Ⅲ	323	SH0475	弥生土器	甕		1.7+			明褐色	明褐色	07000269
	20	TDN-Ⅲ	323	SH0475	弥生土器	甕		4.1+			明褐色	明褐色	07000268
	21	TDN-Ⅲ	323	SH0475	弥生土器	甕		5.7+	6.1*		明褐色	明褐色	07000270
	22	TDN-Ⅲ	323	SH0475	縄文土器	不明		3.3+		組織痕	褐色	褐色	07000271
	23	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕	10.2*	3.8+			淡褐色	淡褐色	07000277
	24	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕	11.6*	4.5+			淡褐色	淡褐色	07000278
	25	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕		7.5+			淡褐色	淡褐色	07000275
	26	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕		4.6+			淡褐色	淡褐色	07000276
	27	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	壺		5.5+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000282
	28	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	高杯		5.0+			淡褐色	淡褐色	07000284
	29	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	高杯		5.2+			明黄褐色	明黄褐色	07000283
	30	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕		3.25+	3.2		淡褐色	淡褐色	07000280
	31	TDN-Ⅲ	323	SH0480	土師器	甕		2.5+	2.4		明黄褐色	淡褐色	07000281
	32	TDN-Ⅲ	323	SK0483 検	弥生土器	鉢	14.2*	6.7	5.4		灰褐色	灰褐色	07000328
	33	TDN-Ⅲ	323	SK0483 北	弥生土器	甕	13.5*	11.8	6.8		淡褐色	淡褐色	07000327
	34	TDN-Ⅲ	323	SH0486 1段下げ	弥生土器	高杯		3.4+			明黄褐色	明黄褐色	07000288
	35	TDN-Ⅲ	323	SH0486 1段下げ	弥生土器	器台		6.7+		外面：丹塗 すかし推定4個	明黄褐色	明黄褐色	07000289
	36	TDN-Ⅲ	323	SH0491 床直	弥生土器	甕		4.4+			淡褐色	淡褐色	07000293
	37	TDN-Ⅲ	323	SH0491	弥生土器	甕		4.8+		穿孔あり	淡褐色	淡褐色	07000290
	38	TDN-Ⅲ	323	SH0491 床直	弥生土器	高杯		14.9+	19.1*	外面：丹塗	淡褐色	淡褐色	07000292
Fig.49	1	TDN-Ⅲ	323	SK0463	弥生土器	甕	17.9*	6.1+			褐灰色	にぶい褐色	07000296
	2	TDN-Ⅲ	323	SK0463	弥生土器	甕	21.7	17.1+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000295
	3	TDN-Ⅲ	323	SK0463	弥生土器	甕		6.1+	10.0*		淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000299
	4	TDN-Ⅲ	323	SK0463	弥生土器	支脚		6.0+			淡明褐色	淡明褐色	07000300
	5	TDN-Ⅲ	323	SK0464	弥生土器	甕		2.6+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000303
	6	TDN-Ⅲ	323	SK0464	弥生土器	甕		5.9+	8.2*		明赤褐色	明赤褐色	07000301
	7	TDN-Ⅲ	323	SK0464	弥生土器	壺		2.2+	7.7*		淡褐色	明黄褐色	07000302
	8	TDN-Ⅲ	323	SK0464	弥生土器	器台	9.5*	5.4+			淡明褐色	淡明褐色	07000304
	9	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	壺	13.1*	3.9+		外面：丹塗	淡褐色	淡褐色	07000307
	10	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	高杯	23.4*	3.5+			明褐色	明褐色	07000305
	11	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	甕		4.6+			淡明黄褐色	淡褐色	07000310
	12	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	甕	31.8*	3.8+			明褐色	明褐色	07000309
	13	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	甕		4.4+	7.6		淡明褐色	淡明褐色	07000308
	14	TDN-Ⅲ	323	SK0467 周辺1段下げ	弥生土器	鉢		5.9+			淡明褐色	淡明褐色	07000306
	15	TDN-Ⅲ	323	SK0468	弥生土器	甕		3.5+			明黄褐色	明褐色	07000312
	16	TDN-Ⅲ	323	SK0468	弥生土器	甕		3.4+			明黄褐色	明褐色	07000313
	17	TDN-Ⅲ	323	SK0468	弥生土器	甕		3.2+			褐灰色	褐灰色	07000314
	18	TDN-Ⅲ	323	SK0471	弥生土器	甕	27.2*	3.6+			明褐色	明褐色	07000316
	19	TDN-Ⅲ	323	SK0476 1段下げ	弥生土器	甕		2.2+			淡褐色	淡褐色	07000319
	20	TDN-Ⅲ	323	SK0476 トレンチ掘り下げ	弥生土器	甕		4.3+			褐色	褐色	07000318
	21	TDN-Ⅲ	323	SK0476 1段下げ	弥生土器	甕		4.6+			明褐色	明褐色	07000317
	22	TDN-Ⅲ	323	SK0479	弥生土器	甕		3.7+			淡褐色	淡褐色	07000320
	23	TDN-Ⅲ	323	SK0479	弥生土器	甕		5.0+	7.0		明黄褐色	明黄褐色	07000321
	24	TDN-Ⅲ	323	SK0482	弥生土器	甕		1.8+			淡褐色	淡褐色	07000325
	25	TDN-Ⅲ	323	SK0482	弥生土器	甕		4.8+			淡褐色	淡褐色	07000323
	26	TDN-Ⅲ	323	SK0482	弥生土器	甕		3.2+	10.0*		淡褐色	淡褐色	07000324
	27	TDN-Ⅲ	323	SK0484 検	弥生土器	支脚		16.6+	10.2		灰褐色	灰褐色	07000329
	28	TDN-Ⅲ	323	SK0494	弥生土器	甕		3.4+			淡褐色	淡褐色	07000330

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.49	29	TDN-Ⅲ	323	SK0494	弥生土器	甕		3.4+			淡明褐色	淡明褐色	07000331
	30	TDN-Ⅲ	323	P41	土師器	壺	11.7*	3.2+			淡明褐色	淡明褐色	07000445
	31	TDN-Ⅲ	323	P44	土師器	器台		3.2+	9.9*	穿孔 1個	白褐色	白褐色	07000446
Fig.52	1	TDN-Ⅲ	343	SH1609 サブトレ埋土	弥生土器	甕		1.9+			淡褐色	淡褐色	07000653
	2	TDN-Ⅲ	343	SH1609 サブトレ埋土	弥生土器	甕		1.9+			淡褐色	淡褐色	07000654
	3	TDN-Ⅲ	343	SH1609 埋土（床面）	弥生土器	甕		3.1+			淡褐色	淡褐色	07000655
	4	TDN-Ⅲ	343	SH1609 No.2	弥生土器	甕		6.9+	3.2		明黄褐色	暗褐色	07000656
	5	TDN-Ⅲ	343	SH1609 No.3	弥生土器	壺		9.5+			暗褐色	暗褐色	07000657
	6	TDN-Ⅲ	343	SK1610 埋土	弥生土器	甕		2.5+			褐色	暗褐色	07000658
	7	TDN-Ⅲ	343	SK1610 埋土上層	弥生土器	壺		3.7+			淡褐色	淡褐色	07000659
	8	TDN-Ⅲ	343	SK1610 No.1	弥生土器	甕		3.6+	7.7*		淡褐色	淡褐色	07000660
	9	TDN-Ⅲ	343	SK1610 No.2	弥生土器	高杯		3.3+		穿孔 3個	暗淡褐色	暗褐色	07000661
	10	TDN-Ⅲ	343	SK1611 埋土	弥生土器	甕		2.4+			淡褐色	淡褐色	07000663
	11	TDN-Ⅲ	343	SK1611 埋土	弥生土器	甕		3.5+	6.5*		赤褐色	淡褐色	07000662
	12	TDN-Ⅲ	343	SK1613 埋土	弥生土器	甕		5.0+			明黄褐色	明黄褐色	07000664
	13	TDN-Ⅲ	343	SK1614 埋土	弥生土器	甕		4.2+			暗褐色	暗褐色	07000666
	14	TDN-Ⅲ	343	SK1614 埋土	弥生土器	甕		4.0+			淡褐色	淡褐色	07000665
	15	TDN-Ⅲ	343	SK1615 埋土	弥生土器	甕		1.7+			明黄褐色	明黄褐色	07000667
	16	TDN-Ⅲ	343	SK1615 埋土	弥生土器	甕		3.9+			明黄褐色	明黄褐色	07000668
	17	TDN-Ⅲ	343	SK1616 埋土	弥生土器	甕	29.8	3.6+			明黄褐色	明黄褐色	07000669
	18	TDN-Ⅲ	343	SX1617 No.1	弥生土器	甕	27.7*	8.1+			淡褐色	明黄褐色	07000672
	19	TDN-Ⅲ	354	SH1510	土師器	甕	14.6*	22.3			明黄褐色	明黄褐色	07000789
	20	TDN-Ⅲ	354	SH1510	土師器	高杯		4.2+			明黄褐色	明黄褐色	07000790
	21	TDN-Ⅲ	354	SH1526	弥生土器	甕		6.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000793
	22	TDN-Ⅲ	354	SH1526	弥生土器	甕		4.2+			淡褐色	暗褐色	07000792
	23	TDN-Ⅲ	354	SH1526 サブトレ	不明	不明	最大径2.3 最小径1.7	3.2+		鉢型（内型）	淡褐色	淡褐色	07000794
	24	TDN-Ⅲ	354	SH1529	土師器	甕	19.1*	9.5+			淡褐色	淡褐色	07000796
	25	TDN-Ⅲ	354	SH1529	弥生土器	壺	12.3	13.9+			淡褐色	淡褐色	07000795
	26	TDN-Ⅲ	354	SH1529 検出面	土師器	高杯	18.9*	6.7+			淡褐色	淡褐色	07000797
	27	TDN-Ⅲ	354	SH1529 検出面	土師器	高杯		7.4+		穿孔 2個	淡褐色	淡褐色	07000798
	28	TDN-Ⅲ	354	SH1539 1段下げ	弥生土器	甕	17.8*	6.3+			淡褐色	淡褐色	07000799
	29	TDN-Ⅲ	354	SH1539 1段下げ	弥生土器	甕		2.9+			暗淡褐色	暗淡褐色	07000800
	30	TDN-Ⅲ	354	SH1539 1段下げ	弥生土器	壺	8.6*	4.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000801
	31	TDN-Ⅲ	354	SH1539 製入か	青磁	碗	15.0*	4.3	5.5*		灰オリーブ（釉）	灰オリーブ（釉）	07000802
	32	TDN-Ⅲ	354	SK1516	弥生土器	壺	16.6*	6.5+			淡明褐色	淡明褐色	07000808
	33	TDN-Ⅲ	354	SK1516	弥生土器	甕		6.8+	7.4	底部に穿孔	明褐色	明褐灰色	07000806
Fig.54	1	TDN-Ⅲ	354	SK1516	弥生土器	甕	22.8*	9.7+			明褐色	明褐色	07000803
	2	TDN-Ⅲ	354	SK1516	弥生土器	甕	26.6*	12.6+			淡明褐色	淡明褐色	07000804
	3	TDN-Ⅲ	354	SK1519	弥生土器	高杯		8.9+	15.8*		明褐色	明褐色	07000810
	4	TDN-Ⅲ	354	SK1519	弥生土器	壺	17.4*	9.2+			明褐色	明褐色	07000811
	5	TDN-Ⅲ	354	SK1519	弥生土器	甕	33.4*	25.1+			褐色	明褐色	07000809
	6	TDN-Ⅲ	354	SK1524	弥生土器	甕	27.4*	6.2+			淡明褐色	明褐色	07000817
	7	TDN-Ⅲ	354	SK1523	弥生土器	甕	30.8*	5.4+			淡明褐色	淡明褐色	07000813
	8	TDN-Ⅲ	354	SK1523	弥生土器	甕		8.0+			淡褐色	淡褐色	07000814
	9	TDN-Ⅲ	354	SK1523	弥生土器	甕		4.0+	7.7		淡明褐色	明褐色	07000812
	10	TDN-Ⅲ	354	SK1523	弥生土器	高杯	28.0*	4.9+			明黄褐色	明黄褐色	07000816
	11	TDN-Ⅲ	354	SK1540	弥生土器	鉢	17.4*	4.8+			淡褐色	淡褐色	07000822
	12	TDN-Ⅲ	354	SK1546	弥生土器	甕		3.9+			明褐色	明褐色	07000823
	13	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ中層	土師器	小皿	9.0*	1.7+	6.0*		淡褐色	淡褐色	07000841
	14	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ下層	土師器	小皿	9.8*	1.5	8.0*		淡褐色	淡褐色	07000846
	15	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ上層	土師器	杯		2.9+	6.8*		淡褐色	淡褐色	07000831
	16	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ	土師器	杯	11.9	3.0	7.9		淡褐色	淡褐色	07000828
	17	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ下層	土師器	杯	11.6*	3.2	9.8*		淡褐色	淡褐色	07000845
	18	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ上層	土師器	杯	13.1*	3.5			淡褐色	淡褐色	07000836
	19	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ中層	土師器	鍋	38.2*	8.1+		外面：煤付着	褐色	淡褐色	07000839
	20	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ	瓦器	碗	17.9*	5.0	6.6		灰色	灰色	07000830
	21	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ	白磁	碗		2.8+	6.2		灰白色（釉）	灰白色（胎）	07000826
	22	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ中層	青磁	碗		2.9+	8.4*	越州窯系	浅黄色（釉）	浅黄色（胎）	07000837
	23	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ	白磁	皿	8.9*	2.3	3.5	内面・外面：目跡	灰白色（釉）	灰白色（胎）	07000827
	24	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ上層	瓦	平瓦	幅9.4	長13.3*			灰色	灰色	07000833
	25	TDN-Ⅲ	355	SD1501 トレンチ上層	瓦	丸瓦	幅10.5	長10.6*			暗灰色	暗灰色	07000834

掲載	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.54	26	TDN-Ⅲ	355	SD1536	土師器	杯		2.8+	7.6*		淡褐色	灰褐色	07000855
	27	TDN-Ⅲ	355	検出面	青磁	皿	11.1*	2.4	4.6	同安窯系	オリーブ黄色（釉）	灰白色（胎）	07000824
Fig.55	1	TDN-Ⅲ	355	SD1533 中層	弥生土器	甕	29.9*	5.5+			淡褐色	淡褐色	07000850
	2	TDN-Ⅲ	355	SD1533 中層	弥生土器	甕	33.2*	3.7+			淡褐色	淡褐色	07000851
	3	TDN-Ⅲ	355	SD1533 中層	弥生土器	甕	33.4*	4.5+			淡褐色	淡褐色	07000849
	4	TDN-Ⅲ	355	SD1533 中層	弥生土器	高杯		4.5+			明黄褐色	明黄褐色	07000853
	5	TDN-Ⅲ	355	SD1533	弥生土器	甕		4.3+	7.4		淡褐色	淡褐色	07000848
	6	TDN-Ⅲ	355	SD1533 中層	弥生土器	器台		9.6+	11.3*		暗淡褐色	暗淡褐色	07000854
	7	TDN-Ⅲ	356	SK1502/SX1508	弥生土器	鉢	19.5*	12.6	6.6		褐色	褐色	07000857
	8	TDN-Ⅲ	357	SK1511	弥生土器	甕		6.2+	7.2		明黄褐色	茶褐色	07000863
	9	TDN-Ⅲ	356	西包含層	灰器	小皿	9.4	2.7			灰白色	灰白色	07000861
	10	TDN-Ⅲ	357	検出面	弥生土器	甕	25.0*	5.9+			淡褐色	淡褐色	07000865
	11	TDN-Ⅲ	357	検出面	弥生土器	高杯	24.3*	6.1+		外面：丹塗	淡褐色	淡褐色	07000868
	12	TDN-Ⅲ	345	SH0808 埋土	弥生土器	甕		2.8+			淡褐色	明黄褐色	07000732
	13	TDN-Ⅲ	345	SH0808 埋土	弥生土器	甕		5.1+			淡褐色	淡褐色	07000731
	14	TDN-Ⅲ	345	SH0808 埋土	弥生土器	甕		3.6+			明黄褐色	明黄褐色	07000733
	15	TDN-Ⅲ	345	SH0808 検出面	弥生土器	高杯	28.6*	3.2+			明黄褐色	明黄褐色	07000736
	16	TDN-Ⅲ	345	SK0801	弥生土器	甕	31.7*	5.8+			淡褐色	淡褐色	07000712
	17	TDN-Ⅲ	345	SK0801	弥生土器	甕		6.3+			褐色	褐色	07000713
	18	TDN-Ⅲ	345	SK0801	弥生土器	甕		2.6+			褐色	褐色	07000714
	19	TDN-Ⅲ	345	SK0801	弥生土器	高杯	23.9*	5.7+			明褐色	明褐色	07000716
	20	TDN-Ⅲ	345	SK0818	弥生土器	甕		2.8+			淡明褐色	淡明褐色	07000719
	21	TDN-Ⅲ	345	SK0818	弥生土器	甕	41.0*	8.8+			明褐色	明褐色	07000718
	22	TDN-Ⅲ	345	SK0818	弥生土器	高杯	23.9*	5.7+			明褐色	明褐色	07000717
	23	TDN-Ⅲ	345	SK0818 西	弥生土器	器台	9.1*	10.6+			明黄褐色	明黄褐色	07000721
	24	TDN-Ⅲ	345	SK0819	弥生土器	甕		9.4+		外面：丹塗	淡褐色	淡褐色	07000722
	25	TDN-Ⅲ	345	SD0784 下層	土師器	鍋		7.0+		内面：煤付着	灰黄色	淡黄色	07000708
	26	TDN-Ⅲ	345	SD0784 下層	土師器	鍋		5.1+			灰黄色	灰黄色	07000709
	27	TDN-Ⅲ	345	SD0784 上層	土師器	杯		1.2+	7.4*		灰白色	灰白色	07000707
	28	TDN-Ⅲ	345	SD0823 内トレ	青磁	碗		2.2+	4.9	同安窯系	オリーブ灰色（釉）	灰白色（胎）	07000711
	29	TDN-Ⅲ	345	SD0823 内トレ	青磁	碗		3.5+	6.3		灰白色（釉）	明赤褐色（胎）	07000710
Fig.51	1	TDN-Ⅲ	345	SK1608	弥生土器	甕	49.2*	12.9+			明褐色	明褐色	07000727
	2	TDN-Ⅲ	345	SK1608	弥生土器	甕	47.6*	14.3+			淡褐色	淡褐色	07000726
	3	TDN-Ⅲ	345	SK1608	弥生土器	壺		13.2+			褐色	褐色	07000728
	4	TDN-Ⅲ	345	SK1608	弥生土器	器台		11.9+	40.0*	外面：丹塗	明褐色	明褐色	07000729
	5	TDN-Ⅲ	345	SK1608	弥生土器	高杯		21.3+		外面：丹塗	淡褐色	淡褐色	07000730
	6	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	鉢	17.4*	8.0+			明褐色	明褐色	07000759
	7	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	高杯	28.6*	2.5+			明褐色	明褐色	07000761
	8	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	壺		8.9+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000760
	9	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	高杯		2.3+			明褐色	明褐色	07000762
	10	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	器台	8.8*	14.2	11.5*		明黄褐色	明黄褐色	07000757
	11	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	器台	8.9	14.2	12.0*		淡明褐色	淡明褐色	07000756
	12	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	器台		12.3+	9.5		淡明褐色	淡明褐色	07000758
	13	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	甕	32.8*	5.4+			淡明褐色	淡明褐色	07000755
	14	TDN-Ⅲ	347	SK0809	弥生土器	甕	30.7	35.1	7.9		淡明褐色	淡明褐色	07000752
Fig.56	1	TDN-Ⅳ	327	SD0441	弥生土器	甕	25.7*	10.5+			淡褐色	淡褐色	07000618
	2	TDN-Ⅳ	327	SD0441	弥生土器	甕	31.4*	7.2+			明褐色	白灰色	07000620
	3	TDN-Ⅳ	327	SD0441	弥生土器	甕	30.6*	6.5+			淡褐色	明褐色	07000619
	4	TDN-Ⅳ	327	SX0442	弥生土器	器台	12.0*	6.8+			明褐色	明褐色	07000625
	5	TDN-Ⅳ	327	SX0442	弥生土器	甕	36.4*	4.0+			淡明褐色	淡明褐色	07000626
	6	TDN-Ⅳ	328	SD0443 南トレンチ	弥生土器	甕		2.5+			淡褐色	淡褐色	07000643
	7	TDN-Ⅳ	328	SD0443 南トレンチ	弥生土器	甕		2.4+			淡褐色	淡褐色	07000642
	8	TDN-Ⅳ	328	SD0443 北トレンチ	弥生土器	甕		4.3+			淡褐色	淡褐色	07000636
	9	TDN-Ⅳ	328	SD0443 南トレンチ	弥生土器	甕		4.0+			淡褐色	淡褐色	07000644
	10	TDN-Ⅳ	328	SD0443	弥生土器	甕	30.8*	5.8+			明褐色	明褐色	07000631
	11	TDN-Ⅳ	328	SD0443 中央トレンチ	弥生土器	甕	33.5*	3.3+			淡褐色	淡褐色	07000637
	12	TDN-Ⅳ	328	SD0443 南トレンチ	弥生土器	甕	34.4*	3.9+			淡褐色	淡褐色	07000641
	13	TDN-Ⅳ	328	SD0443 中央トレンチ	弥生土器	甕		6.3+	10.2		明黄褐色	明黄褐色	07000638
	14	TDN-Ⅳ	328	SD0443	弥生土器	甕		3.5+	12.5*		明黄褐色	明黄褐色	07000634
	15	TDN-Ⅳ	328	SD0443 南トレンチ	弥生土器	壺	6.8*	4.7+			茶褐色	茶褐色	07000645
	16	TDN-Ⅳ	328	SD0443	弥生土器	器台	11.9*	16.6	13.2		淡褐色	明褐色	07000632

挿図	遺物	地区	調査区	出土位置	種別	器種	寸法			備考	色調		登録番号
							口径	器高	底径		外面	内面	
Fig.58	1	TD6-I	325	SD0131	弥生土器	壺	19.0*	52.8	3.9		淡褐色	淡褐色	07000566
	2	TD6-I	325	SD0131 南トレ	土師器	甕	12.4	10.1+			淡褐色	淡褐色	07000571
	3	TD6-I	325	SD0131	弥生土器	甕	12.8	15.8+		外面：煤付着	明褐色	明褐色	07000567
	4	TD6-I	325	SD0131 南トレ	土師器	甕		10.3+	4.8		淡褐色	暗淡褐色	07000572
	5	TD6-I	325	SD0131	弥生土器	支脚	—	7.6	7.9*		明黄褐色	明黄褐色	07000569
	6	TD6-I	325	SD0131 南トレ	弥生土器	器台		7.4+	15.3*		明黄褐色	淡褐色	07000570
	7	TD6-I	325	SK0132	土師器	小皿	8.2*	1.3	6.6		浅黄橙色	浅黄橙色	07000577
	8	TD6-I	325	SK0132	土師器	杯	12.2*	3.1	7.2	糸切	浅黄橙色	浅黄橙色	07000576
	9	TD6-I	325	SK0132	土師器	杯	13.2*	2.6	8.8	糸切	にぶい褐色	にぶい褐色	07000575
	10	TD6-I	325	SK0132	土師器	杯		2.1+	6.6*		浅黄橙色	褐灰色	07000578
	11	TD6-I	325	SK0132	土師器	杯		4.5+	7.5*		灰白色	灰白色	07000579
	12	TD6-I	325	SK0132	瓦器	椀		3.4+	7.8*		灰白色	灰白色	07000584
	13	TD6-I	325	SK0132	瓦器	椀		4.5+	7.6*		灰白色	灰白色	07000585
	14	TD6-I	325	SK0132	瓦器	椀		1.6+	6.8*	外面：底部に墨書『十二』	灰白色	灰白色	07000586
	15	TD6-I	325	SK0132	土師器	鍋		4.7+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000580
	16	TD6-I	325	SK0132	須恵器	壺		2.7+			褐色	褐色	07000582
	17	TD6-I	325	SK0132	須恵器	甕	28.0*	16.4+			灰白色	灰白色	07000581
	18	TD6-I	325	SD0133	瓦器	瓦	幅13.0	長12.5	厚3.4		灰色	灰色	07000573
	19	TD6-I	325	SD0133	土師器	羽釜		8.1+		外面：煤付着	暗褐色	暗褐色	07000574
Fig.59	1	TD6-I	344	SK0294	弥生土器	甕	35.0*	14+			明黄褐色	明黄褐色	07000686
	2	TD6-I	344	SK0294	弥生土器	甕	36.8*	11.1+			明黄褐色	明黄褐色	07000687
	3	TD6-I	344	SK0294	弥生土器	甕	41.7*	14.7+			明黄褐色	明黄褐色	07000685
	4	TD6-I	344	SK0294	弥生土器	甕	27.2*	6.9+			明黄褐色	明黄褐色	07000684
	5	TD6-I	344	SK0294	弥生土器	甕		9.6+	8.7*		明黄褐色	明黄褐色	07000683
	6	TD6-I	344	SX0295	弥生土器	蓋	上端径6.8	8.6+			暗淡褐色	暗淡褐色	07000692
	7	TD6-I	344	SX0295	弥生土器	器台		10.2+	9.2		明黄褐色	明黄褐色	07000693
	8	TD6-I	344	SK0296	弥生土器	壺	33.2*	10.3+			明褐色	明褐色	07000689
	9	TD6-I	344	SK0296	弥生土器	甕	22.5*	8.0+			淡褐色	淡褐色	07000688
	10	TD6-I	344	SK0297	弥生土器	甕	28.0*	4.1+			明黄褐色	明黄褐色	07000690
	11	TD6-I	344	SD0293	瓦器	火鉢		6.6+			灰色	灰色	07000681
	12	TD6-I	344	SD0293	磁器（染付）	香炉		5.0+	7.4*		灰白色（釉）	灰白色（釉）	07000680
Fig.60	1	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		3.9+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000609
	2	TD6-I	326	SD0245	弥生土器	甕		3.5+			淡褐色	淡褐色	07000608
	3	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		3.2+			明黄褐色	淡明褐色	07000612
	4	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		3.0+			にぶい褐色	にぶい褐色	07000610
	5	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕	19.2*	6.8+			淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000607
	6	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	壺		6.8+			淡明褐色	淡明黄褐色	07000613
	7	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		3.4+	8.2*		明黄褐色	明黄褐色	07000614
	8	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		6.5+	8.0		明黄褐色	明褐色	07000616
	9	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	甕		8.6+	8.0		淡明黄褐色	淡明黄褐色	07000615
	10	TD6-I	326	SD0245 I段下げ	弥生土器	壺		5.6+	8.4*		淡明褐色	淡明褐色	07000617
	11	TD6-I	326	SJ0139	弥生土器	甕		4.9+	9.2*		茶褐色	茶褐色	07000588
	12	TD6-I	326	SJ0143下?	弥生土器	壺		8.9+			茶褐色	茶褐色	07000589
	13	TD6-I	326	SJ0145上	弥生土器	甕		11.0+			明黄褐色	明黄褐色	07000590
	14	TD6-I	326	SJ0145下?	弥生土器	甕		3.5+			明褐色	明褐色	07000591
	15	TD6-I	326	SJ0146	弥生土器	甕		5.2+			明黄褐色	明黄褐色	07000592
	16	TD6-I	326	SJ0149上	弥生土器	甕		9.4+			明黄褐色	淡褐色	07000593
	17	TD6-I	326	SJ0149下?	弥生土器	甕		5.0+			淡褐色	淡褐色	07000594
	18	TD6-I	326	SJ0149	弥生土器	甕		5.0+			明褐色	淡褐色	07000595
	19	TD6-I	326	SJ0151上?	弥生土器	甕		15.4+			明黄褐色	明黄褐色	07000596
	20	TD6-I	326	SJ0152上	弥生土器	甕		6.8+			淡褐色	淡褐色	07000597
	21	TD6-I	326	SJ0153上	弥生土器	甕		11.0+			明褐色	明褐色	07000599
	22	TD6-I	326	SJ0153下	弥生土器	甕		4.8+			明黄褐色	明黄褐色	07000598
	23	TD6-I	326	SJ0154	弥生土器	甕		5.7+			淡明褐色	淡明褐色	07000600
	24	TD6-I	326	SJ0155?	弥生土器	甕		4.2+			明褐色	明褐色	07000601
	25	TD6-I	326	SJ0155?	弥生土器	甕		3.6+			淡明褐色	黒褐色	07000602
	26	TD6-I	326	SJ0156周辺	弥生土器	甕		2.8+			明褐色	明褐色	07000604
	27	TD6-I	326	SJ0156周辺	弥生土器	甕		3.4+			淡明褐色	暗赤褐色	07000603
	28	TD6-I	326	SJ0161上	弥生土器	甕	30.0*	8.3+			明褐色	明褐色	07000605
	29	TD6-I	326	SJ0161下	弥生土器	甕	39.6*	17.3+			明褐色	明褐色	07000606
	30	TD6-I	326	SJ0137	弥生土器	甕		37.8+	10.8	底部に穿孔	淡褐色	淡褐色	07000587

Tab.2　出土遺物（石器・石製品、土製品）一覧表

番号		地区	調査区	出土位置	器種	備　考	法量				登録番号
挿図	遺物						長さ	幅	厚さ	重量	
Fig.61	13	TD6-I	304	SD0245　一段下げ一層	石鏃丁	重青石ホルンフェルス。三角形。	7.2+	5.0+	0.6	28.7+	07001835
		YGK-Ⅶ	321	SD2176　Bトレ上層	石鏃丁	細粒砂岩。約1/4程度残存。直脊外傾刃の両刃。	4.9+	4.22+	0.68	21.7+	
Fig.61	12	YGK-Ⅶ	321	SD2176　上層（検出面）	石鏃丁	輝緑凝灰岩	7.2+	4.31+	0.61	22.2+	07000888
		YGK-Ⅶ	321	SD2176　上層（検出面）	石鏃丁	石英玄武岩	2.77+	2.58+	0.64	6.0+	
Fig.61	6	YGK-Ⅶ	321	SD2176　Bトレ下層	石鏃丁	片岩	5.15+	4.25+	0.8	22.8+	07000889
Fig.61	14	TDN-Ⅲ	323	SH0466	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	6.7+	4.0+	0.65	33.0+	07000895
		TDN-Ⅲ	323	SH0480	石鏃丁か	重青石ホルンフェルス。大形石鏃丁の表面破片か。	7.0+	4.2+	0.65+	24.2+	
		TDN-Ⅲ	323	SH0480	太形蛤刃石斧	玄武岩。破片を再加工し小形両刃の石ノミに転用。	5.19	3.56	0.97	23.8	
Fig.61	26	TDN-Ⅲ	323	SK0464	柱状片刃石斧	砂岩質	10.55+	3.05	4.8	312.9+	07000905
Fig.61	17	TDN-Ⅲ	323	攪乱　SK0463・0464周辺	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	6.1+	4.0+	0.45	14.8+	07000910
Fig.62	5	TDN-Ⅲ	323	SD0495	太形蛤刃石斧	玄武岩	10.4+	8.15	4.55+	624.3+	07000904
Fig.61	23	TDN-Ⅲ	323	P-43	小型方柱状片刃石斧	層灰岩	3.9+	1.2	1.5	13.6+	07000906
Fig.61	16	TDN-Ⅲ	323	SD0461	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	5.4+	2.9+	0.5	20.1+	07000898
		TD6-I	324	SD0028　Bトレ下層	石鏃丁	重青石ホルンフェルス。刃縁の小破片。両刃。	2.61+	1.52+	0.44+	2.3+	
		TD6-I	324	SD0028　Aトレ上層	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	7.15+	4.05+	0.65	24.0+	
		TD6-I	324	SD0028　一段下げ	石鏃丁	輝緑凝灰岩。直脊で脊部は研磨による鞍を持つ。	4.06+	5.2+	0.81	18.8+	
		TD6-I	324	攪乱	柱状片刃石斧	重青石ホルンフェルス。刃先近くの小片。横断面トンネル形。	4.13+	3.28	2.9	61.0+	
Fig.61	7	TD6-I	325	SD0131　廃トレ	石鏃丁	輝緑凝灰岩	5.5+	4.65+	0.65	12.6+	07000891
		TD6-I	325	SD0131　Aトレ一段下げ	砥石	細粒砂岩。小形不定形。	4.44+	2.82+	1.24	22.0+	
		TD6-I	325	SK0132　上層　一段下げ	砥石	細粒砂岩。小形定型で砥面は五面。仕上げ砥。	6.7+	5.95+	3.98	167.8+	
		TD6-I	326	攪乱	砥石	細粒砂岩。角部分の破片。砥面は三面。	4.4+	4.32+	4.61+	64.9+	
		TD6-I	326	SD0245　一段下げ	石鏃丁	重青石ホルンフェルス。体部の小破片。	3.89+	2.47+	0.36+	5.5+	
Fig.62	2	YNG-Ⅱ	330	SK1412（SP1411切合）	扁平片刃石斧	層灰岩	12.5	4.7	1.4	159.5	02004855
Fig.62	1	YNG-Ⅱ	330	SK1412（SP1411切合）	柱状片刃石斧	層灰岩	13.0	2.7	2.6	192.5	02004856
Fig.62	8	YNG-Ⅱ	330	SP1411	磨製石鏃	重青石ホルンフェルス	4.56	1.43	0.28	1.9	07001827
Fig.62	12	YNG-Ⅱ	330	SP1411	打製石鏃	サヌカイト	1.9+	0.9	0.46	0.9+	07001831
Fig.62	11	YNG-Ⅱ	330	SP1411	磨製石鏃	重青石ホルンフェルス	2.72+	1.04+	0.42+	1.4+	07001830
Fig.62	15	YNG-Ⅱ	330	SP1411	打製石鏃	サヌカイト	1.5+	1.59+	0.43	0.9+	07001834
Fig.62	9	YNG-Ⅱ	330	SP1411	磨製石鏃	重青石ホルンフェルス	4.62+	3.03	0.5	7.8+	07001828
Fig.62	10	YNG-Ⅱ	330	SP1411	磨製石鏃	重青石ホルンフェルス	2.11+	2.17+	0.38+	1.8+	07001829
Fig.62	13	YNG-Ⅱ	330	SP1411	打製石鏃	サヌカイト	1.62+	1.37+	0.3	0.5+	07001832
Fig.62	14	YNG-Ⅱ	330	SP1411	打製石鏃	サヌカイト	1.95	1.44+	0.36	0.5+	07001833
Fig.61	8	YNG-Ⅱ	331	SK1418　壁際土坑	石鏃丁	石英玄武岩	7.5+	5.23	0.97	28.7+	02004891
		TDN-Ⅲ	343	SH1609　検出面	扁平片刃石斧	層灰岩。刃部の小破片。	3.58+	0.67+	0.99+	3.9+	
		TDN-Ⅲ	343	SH1609	剥り離き石	安山岩質。ほぼ定形。表裏に擦痕と敲打痕。側縁に敲打痕。	12.41	11.12+	5.16	1023.2+	
		TDN-Ⅲ	343	SH1609　埋土（床面）	太形蛤刃石斧	玄武岩。部位不明の小破片。	3.85+	1.65+	1.1+	4.8+	
Fig.62	6	TD6-I	343	SD0292	太形蛤刃石斧	変安山岩質角礫凝灰岩。扁平型石斧。	7.7+	7.1+	3.1+	193. 8+	07000903
		TDN-Ⅲ	343	SK1611　埋土	磨石	安山岩質。側縁部片。磨面の一部残存。	7.2+	2.95+	4.85+	159.4+	
		TDN-Ⅲ	343	SK1611	石鏃丁	輝緑凝灰岩	6.1+	3.6+	0.55	14.0+	
Fig.61	21	TDN-Ⅲ	343	SK1612	磨製石斧	重青石ホルンフェルス	6.5+	3.6+	0.8	26.5+	07000907
		TDN-Ⅲ	343	P-6	RF?	黒曜石。横長剥片。	2.15	1.3	0.34	0.8	
Fig.61	18	TD6-I	344	SK0294	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	4.9+	6.0+	0.5	26.3+	07000901
Fig.61	9	TD6-I	344	SK0294	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	6.0+	3.4+	0.5	13.4+	07000902
Fig.61	19	TDN-Ⅲ	345	SD0336　上層	前縁率（未製品）	片岩	4.7	4.7	0.75	20.5+	07000900
		TDN-Ⅲ	345	SD0336　上層	砥石	砂岩。不定形の置砥。	3.92+	4.47+	4.1+	61.5+	
Fig.61	5	TDN-Ⅲ	345	SD0784　下層	石鏃丁	砂岩質	4.5+	3.5+	0.55	13.3+	07000897
		TDN-Ⅲ	345	SD0784　下層	石鏃丁	重青石ホルンフェルス。刃縁部の小破片。両刃。	3.95+	2.55+	0.6	6.6+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面（上層）	砥石	砂岩。大形の不定形で砥面は二面。	9.1+	5.55+	5.15+	366.7+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	砥石	砂岩。不定形で砥面は四面。	8.55+	6.54+	3.83+	187.6+	
Fig.61	25	TDN-Ⅲ	345	検出面	柱状片刃石斧	層灰岩	12.7	2.95	3.2	148.5+	07000893
		TDN-Ⅲ	345	検出面	柱状片刃石斧	層灰岩。体部の小破片。	4.32+	2.09+	0.86+	11.4+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	太形蛤刃石斧	玄武岩。側縁部の小破片。	7.2+	2.65+	1.9+	28.9+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	太形蛤刃石斧	玄武岩。側縁部の小破片。側縁は角張り鞍を持つ。	6.25+	2.2+	2.55+	22.7+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	太形蛤刃石斧	玄武岩。体部の小破片。	3.45+	2.15+	3.4+	14.0+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	太形蛤刃石斧	玄武岩。刃部近くの小破片。	4.9+	4.1+	0.85+	20.7+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	石鏃丁	重青石ホルンフェルス。孔部の小破片。	4.98+	2.45+	0.4+	6.0+	
Fig.61	15	TDN-Ⅲ	345	検出面	石鏃丁	重青石ホルンフェルス	8.15+	4.15+	0.41	19.4+	07000892
Fig.61	4	TDN-Ⅲ	345	検出面	打製石鏃	サヌカイト	2.49+	1.96+	0.43	1.5+	07000918
Fig.61	3	TDN-Ⅲ	345	検出面	打製石鏃	黒曜石	2.45+	1.85+	0.6	2.0+	07000917
		TDN-Ⅲ	345	検出面	砥石	砂岩。砥面は三面。	7.71+	4.3+	2.0+	67.0+	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	砥石	砂岩。砥面は三面。	4.64+	3.48+	2.26+	34.9+	

番号		地区	調査区	出土位置	器種	備　考	法量				登録番号
挿図	遺物						長さ	幅	厚さ	重量	
		TDN-Ⅲ	345	検出面	敲石	安山岩質。片面中央部に凹み、側縁部分にも敲打痕。	8.76+	8.1+	3.85+	405.6+	
		TDN-Ⅲ	354	SH1510	柱状片刃石斧	頁岩。刃部の小破片。	5.8+	4.3+	1.1+	18.5+	
		TDN-Ⅲ	354	SK1516	砥石	砂岩。大形の不定形で砥面は四面。荒砥。	11.54+	9.55+	6.92+	774.9+	
Fig.61	11	TDN-Ⅲ	354	検出面	石庖丁	砂岩質	5.7+	4.3	0.65	20.9+	07000909
		TDN-Ⅲ	355	SD1501　トレンチ上層	太形蛤刃石斧	玄武岩。刃先近くの破部片。側縁を研磨面取り。	7.3+	3.08+	4.06+	100.0+	
		TDN-Ⅲ	355	SD1501　トレンチ上層	砥石	細粒砂岩。小形定型で砥面は四面。仕上げ砥。	9.11+	3.2	2.88	154.7+	
		TDN-Ⅲ	355	SD1501　トレンチ上層	砥石	細粒砂岩	7.11+	5.88+	2.8+	128.6+	
Fig.61	10	TDN-Ⅲ	355	検出面	石庖丁	輝緑凝灰岩	6.1+	4.6+	0.7	26.6+	07000908
Fig.61	20	TDN-Ⅲ	355	小穴	敲磨棒	片岩	4.7	4.7	0.7	23.5+	07000899
Fig.61	24	TDN-Ⅲ	356	SK1542	扁平片刃石斧	細粒砂岩	6.55+	2.4	1.6	33.9+	07000894
		TDN-Ⅲ	356	カクラン検出面	打製石鏃	サヌカイト。ほぼ定形。無茎凹基式で抉りは浅い。	2.45+	1.95+	0.4	1.4+	
Fig.61	2	TDN-Ⅲ	356	カクラン検出面	打製石鏃	黒曜石	2.55+	2.02+	0.55	2.4+	07000916
Fig.62	4	TDN-Ⅲ	356	中包含層	磨製石斧	細粒砂岩（黒色）	12.4	7.45	3.05	401.2	07000913
Fig.62	3	TDN-Ⅲ	356	中包含層	磨製石斧	細粒砂岩（黒色）	15.25	7.8	2.8	462.4+	07000914
		TDN-Ⅲ	356	東包含層　二段目	小型方柱状片刃石斧	頁岩。基端部の小破片。	1.77+	1.65	0.48+	2.7+	
		TDN-Ⅲ	356	中包含層　二段目	柱状片刃石斧	頁岩。刃部の小破片。	3.15+	1.4+	1.8+	11.7+	
Fig.61	22	TDN-Ⅲ	356	中包含層　四段目	扁平片刃石斧	頁岩	3.6	2.3	0.7	10.9	07000912
Fig.61	1	TDN-Ⅲ	356	検出面	打製石鏃	サヌカイト	1.9+	1.5+	0.3	0.6+	07000911
Fig.62	7	TDN-Ⅲ	356	SK0541	砥石	細粒砂岩	33.0	7.1	5.8	2447.6	07000919

Fig.63	1	TDI-Ⅰ	304	SD0241　一段下げ	土錘		4.3	1.9		12.7	07000871
Fig.63	2	TDI-Ⅰ	304	SK0252　一段下げ	土錘		4.1	2.3		17.1	07000870
Fig.63	3	TDI-Ⅰ	304	Dトレンチ	土錘		4.1	2.1		15.6	07000872
Fig.63	4	TDI-Ⅰ	304	カクラン	土錘		4.3	2.3		18.4	07000875
Fig.63	5	YGK-Ⅶ	309	JKトレンチ付近　検出面	土錘		4.3+	2.5		22.5+	07000878
Fig.63	6	YGK-Ⅶ	321	SD2176　Bトレ（中層）	土錘		2.9	2.0		10.1	07000879
Fig.63	7	TDN-Ⅲ	355	SD1533	土錘		4.7	2.2		18.9	07000887
Fig.63	8	TDN-Ⅲ	345	SD0336　上層	土錘		3.5	1.9		10.8	07000882
Fig.63	9	TDN-Ⅲ	345	SK0801	土錘		3.8	2.1		13.4	07000881
Fig.63	10	TDN-Ⅲ	345	SD0336	土錘		5.1	2.3		20.5	07000884
Fig.63	11	TDN-Ⅲ	345	SD0336	土錘		4.1	2.1		16.8	07000883
Fig.63	12	TDN-Ⅲ	347	検出面	土錘		3.1	2.1		14.5	07000885
Fig.63	13	TDN-Ⅲ	347	カクラン2合層	土錘		4.3	2.5		19.9	07000886
Fig.63	14	TDI-Ⅰ	304	P44	舌状		5.0	1.8		12.4	01000899
Fig.63	15	TDI-Ⅰ	304	SD0242　一段下げ	敲磨棒		4.5		1.35		00002734
Fig.63	16	TDI-Ⅰ	304	検出面	敲磨棒			4.3	1.5	26.6	07000873
Fig.63	17	YGK-Ⅶ	309	Cトレンチ　8層	敲磨棒		6.7		4.5		00003489
Fig.63	18	TDN-Ⅲ	323	SH0475	敲磨棒			6.0+	0.7+	5.0+	07000880
Fig.63	19	YGK-Ⅶ	309	検出面	土錘		5.5	1.7		11.8	07000877
Fig.63	20	YGK-Ⅶ	309	検出面	土錘		4.7+	2.0		15.9+	07000876
Fig.63	21	TDI-Ⅰ	304	SX0255	ふいごの羽口		5.0	4.9			01000898
Fig.63	22	YGK-Ⅶ	309	検出面	鈴		2.9+	2.8+			0003556
Fig.63	23	YGK-Ⅶ	309	P70	鈴		3.6	3.0			01000917

図　版

田手一本黒木地区Ⅰ区第304調査区全景

SD0245地層

SK0248土坑（検出状況）

SK0248土坑

AトレンチP-1

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区全景（東から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区全景（西から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区全景（北から）

SD1013環壕跡東壕東壁地層

同西壕遺物出土状況（西から）

同西壕遺物出土状況（東から）

吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡 6畦南部遺物出土状況

同６畦北部遺物出土状況

同７畦上層遺物出土状況

同７畦中下層遺物出土状況

７畦巴形銅器鋳型片出土状況

同７畦中下層下部遺物出土状況

８畦中下層遺物出土状況

８畦中下層下部遺物出土状況

吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区９畦中層遺物出土状況

同９畦中下層遺物出土状況

９畦鉄斧出土状況

10畦上層遺物出土状況

10畦上層鉄器出土状況

南部環壕跡検出状況・遺物出土状況（西から）

南部北半部環壕跡検出状況・遺物出土状況（西から）

南部環壕跡検出状況・遺物出土状況

田手一本黒木地区Ⅰ区第324調査区全景

SJ0100甕棺墓（東から）

SJ0100甕棺墓銅剣出土状況

SD0025溝跡土師器出土状況

同銅銭出土状況

吉野ヶ里地区II区第330調査区全景（北から）

同SK1412土坑・SP1411土坑墓

SB1421・1422掘立柱建物跡

第331調査区全景（北から）

同SH1417竪穴住居跡（南から）

同遺物出土状況（北西から）

第332調査区全景

第333調査区全景（西から）

吉野ヶ里地区II区第334調査区全景（北から）

同第334調査区全景

第336調査区全景

第337調査区全景（北から）

吉野ヶ里丘陵地区VII区第309調査区全景（北から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第309調査区全景

同南部

同北部

同SK2151土坑（東から）

同Dトレンチ土器出土状況

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第312調査区SH2088竪穴住居跡（西から）

同SJ2087甕棺墓

第313調査区（南から）

第314調査区全景（北西から）

同SX2091遺構土師器出土状況

第315調査区全景（南から）

同SH2099竪穴住居跡土器出土状況（北から）

同SH2100竪穴住居跡

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区全景（北から）

同東部（南西から）

同SH2161・2162・2164竪穴住居跡（北から）

同SH2165竪穴住居跡

同SH2168・2169・2170竪穴住居跡（北東から）

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区SX2173遺構

第321調査区全景（東から）

同SD2176溝跡断面（北西から）

第322調査区全景

田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SH0466竪穴住居跡（北東から）

同SH0470竪穴住居跡（南東から）

同SH0480竪穴住居跡（北から）

同SH0491竪穴住居跡（北から）

田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SK0484土坑周辺（北から）

同SK0471・0472・0473土坑（東から）

同SD0465溝跡断面

同SD0481溝跡須恵器大甕出土状況

田手二本黒木地区Ⅲ区第343調査区全景（南から）

田手二本黒木地区Ⅲ区第343調査区全景（北から）

同SK1610・1611土坑

同SK1612土坑

田手二本黒木地区Ⅲ区第354～357調査区全景（南から）

同全景（上から、上が西）

田手二本黒木地区Ⅲ区第354調査区SH1510竪穴住居跡（南から）

同土器出土状況（南から）

同SH1526竪穴住居跡（南西から）

同SK1519土坑（西から）

第355調査区SD1501溝跡（東から）

同SJ1534甕棺墓（東から）

第356調査区SX1508不明遺構遺物出土状況

第357調査区SK1511土坑（北から）

田手二本黒木地区Ⅲ区第345・347調査区全景（左は第346調査区）（西から）

第345調査区西部（西から）

同東部（西から）

同SH0808竪穴住居跡

同SD0784溝跡

田手二本黒木地区Ⅲ区第347調査区（東から）

同SK0809土坑遺物出土状況（南から）

田手二本黒木地区Ⅲ区第327調査区（東から）

同第328調査区（北から）

田手一本黒木地区Ⅰ区第325調査区全景

田手一本黒木地区Ⅰ区第325調査区SD0131溝跡

SD0131溝跡遺物出土状況

同第344調査区全景（東から）

同SK0294土坑

同SK0296土坑

同第326調査区SJ0138・0139・0141甕棺墓（北から）

同SJ0137甕棺墓

同SJ0143甕棺墓（北から）

田手一本黒木地区Ⅰ区第326調査区SJ0145甕棺墓（北から）

同SJ0146甕棺墓（北から）

同SJ0151・0152甕棺墓（北から）

同SJ0153甕棺墓（北から）

同SJ0155甕棺墓（西から）

同SJ0156甕棺墓（北から）

同SJ0157甕棺墓

同SJ0161甕棺墓（北から）

田手一本黒木地区Ⅰ区 第304調査区SD0245溝跡出土土器

同第304調査区出土陶磁器

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区第305調査区SD1013環壕跡出土土器

吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡７畦出土土器

第308調査区SD0925環壕跡８畦出土土器

同10畦出土土器

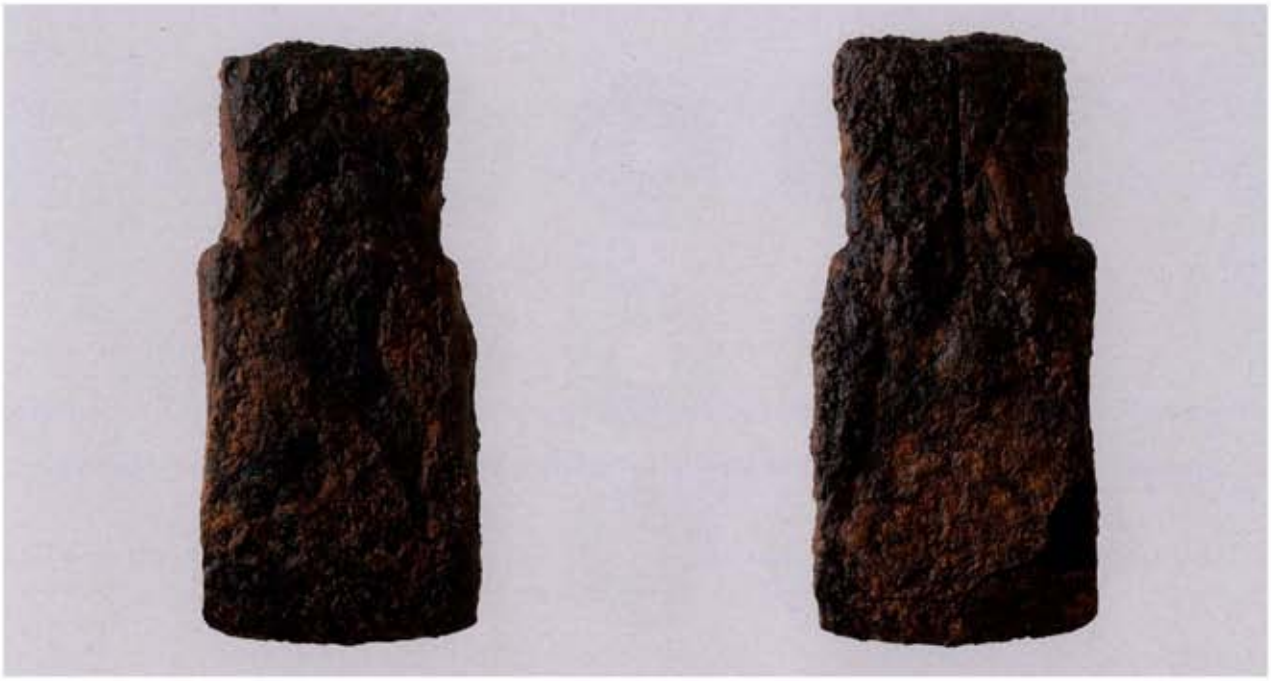
第308調査区SD0925環壕跡６畦出土土器

同９畦出土土器

同南部出土土器

同９畦・10畦出土鉄鎌（上が９畦出土）

同７畦出土巴形銅器鋳型片



吉野ヶ里地区Ⅴ区第308調査区SD0925環壕跡９畦出土鉄斧

田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区SJ0100甕棺墓甕棺（左：上甕、右：下甕）

同甕棺墓出土細形銅剣に付着した布片

第324調査区SD0025溝跡出土の中国銅銭

同溝跡出土土師器・ベトナム産白磁

田手一本黒木地区Ⅰ区 第324調査区SD0025溝跡出土ベトナム産白磁の見込と底部

同溝跡出土陶磁器

同調査区出土陶磁器

同P-15小穴出土土器

田手二本黒木地区Ⅲ区第345調査区出土磁器

吉野ヶ里地区II区第331調査区SH1417竪穴住居跡出土土器

吉野ヶ里丘陵地区VII区第309調査区遺構出土陶磁器

同トレンチ・検出面出土陶磁器

同第315調査区出土弥生土器

同陶磁器

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区第320調査区出土陶磁器

田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区SD0465溝跡出土土器

田手二本黒木地区Ⅲ区第323調査区
SD0481溝跡出土須恵器大甕

同調査区出土陶磁器

第354調査区SH1510竪穴住居跡出土土師器・
第356調査区出土弥生土器

第354調査区出土越州窯青磁椀

第355調査区出土陶磁器

田手一本黒木地区Ⅰ区
第325調査区SD0131出土弥生土器

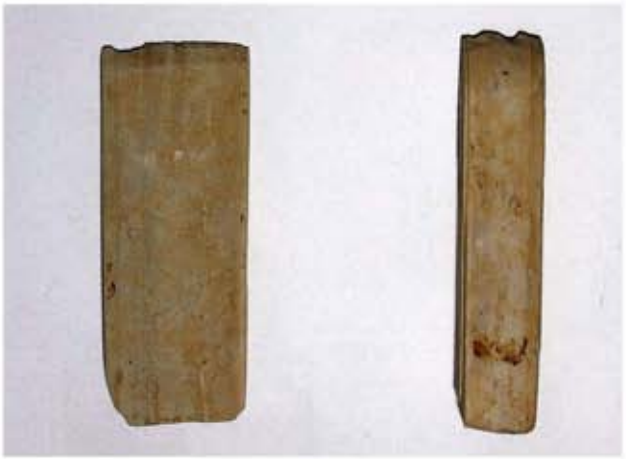
石包丁

石鏃

砥石・石斧

石製紡錘車・片刃石斧類・石剣

吉野ヶ里地区II区第330調査区SP1411土坑墓出土石鏃・石剣片



同調査区SK1412土坑出土片刃石斧

土弾

土製紡錘車・舌状土製品・土錘

土鈴

報告書抄録

ふりがな	よしのがりいせき―こくえいよしのがりれきしこうえんせいびにともなうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ に―
書名	吉野ヶ里遺跡―国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書２―
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第173集
編著者名	編者：七田忠昭　　著者：七田忠昭・渋谷格・渡部芳久
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840-8570　佐賀県佐賀市城内一丁目１-59
発行年月日	2007(平成19)年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査対象面積	調査原因
吉野ヶ里遺跡 田手一本 黒木地区(Ⅰ区)	佐賀県神埼郡 吉野ヶ里町 田手	413132	2017 5003	33°19′06″	130°22′36″	19980401 ～ 20040331	7,840 ㎡	国営吉野ヶ里歴史公園建設、または公園設計資料を得るため
田手二本 黒木地区(Ⅲ区)		413132	1002 2015 3015	33°19′12″	130°22′32″			
吉野ヶ里 丘陵地区 (Ⅴ区・Ⅶ区)		413132	1001 2014 3013	33°19′24″	130°22′40″			
吉野ヶ里地区 (Ⅱ区・Ⅴ区)	佐賀県神埼市 神埼町鶴	413216	1031 2081 3079	33°19′16″	130°22′32″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野ヶ里遺跡 田手一本 黒木地区Ⅰ区	集落跡・墓地	弥生時代、中世	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、甕棺墓、溝跡	細形銅剣、絹布、ベトナム白磁鉢、唐～北宋の銅銭、輸入陶磁器、国産陶磁器	最古の環壕跡、最古の首長墓、祭壇を囲む溝跡、妙法寺を画する溝跡
田手二本 黒木地区Ⅲ区	集落跡・墓地	弥生時代・中世	竪穴住居跡、環壕跡	輸入陶磁器、国産陶磁器	大規模環壕跡
吉野ヶ里丘陵地区 Ⅴ区・Ⅶ区	集落跡・墓地 生産跡	弥生時代・中世	環壕跡・環壕出入口跡、掘立柱建物跡	輸入陶磁器、国産陶磁器	外環壕最大の出入口、中世の製鉄跡と館跡
吉野ヶ里地区Ⅱ区	集落跡・墓地	弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑墓	石鏃・石剣片一括	犠牲者の墳墓
吉野ヶ里地区Ⅴ区	集落跡・墓地	弥生時代・古墳時代	環壕跡	巴形銅器鋳型、弥生時代後期～古墳時代の在地系土器・外来系土器、鉄器	大規模環壕跡

佐賀県文化財調査報告書第173集

吉野ヶ里遺跡

－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書2－

平成19年３月26日印刷

平成19年３月30日発行

編集　佐賀県教育委員会

発行　佐賀市城内一丁目１番地59号

印刷　（株）三光

佐賀県伊万里市大坪町乙4161-1

PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は「大豆油インキ」を使用しています。
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています